（2）2022 年度第 2 クォーター　掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部　キリスト教学科・・・・・・・・・・・・・・107
人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・111
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・116
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・119
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・122
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・127
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・129
外国語学部　ドイツ学科・・・・・・・・・・・・・・130
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・132
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・134
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・143
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・151
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・155
理工学部　ソフトウェア工学科・・・・・・・・・・160
理工学部　データサイエンス学科・・・・・・・・・161
理工学部　電子情報工学科・・・・・・・・・・・・・163
理工学部　機械システム工学科・・・・・・・・・・165
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・166
法務研究科　法務専攻(専門職学位課程)・・・・・・171
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・173
外国語教育センター・・・・・・・・・・・・・・・174
体育教育センター・・・・・・・・・・・・・・・・181

非常勤教員

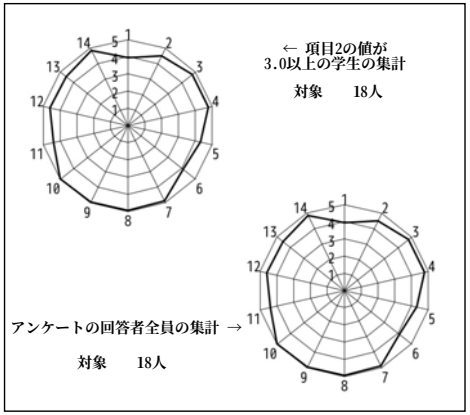
【所属】

人文学部　キリスト教学科・・・・・・・・・・・・・181
人文学部　人類文化学科・・・・・・・・・・・・・・182
人文学部　心理人間学科・・・・・・・・・・・・・・184
人文学部　日本文化学科・・・・・・・・・・・・・・185
外国語学部　英米学科・・・・・・・・・・・・・・・188
外国語学部　スペイン・ラテンアメリカ学科・・・・190
外国語学部　フランス学科・・・・・・・・・・・・・191
外国語学部　アジア学科・・・・・・・・・・・・・・191
経済学部　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・192
経営学部　経営学科・・・・・・・・・・・・・・・・195
法学部　　法律学科・・・・・・・・・・・・・・・・196
総合政策学部　総合政策学科・・・・・・・・・・・197
国際教養学部　国際教養学科・・・・・・・・・・・198
共通教育　仏語・・・・・・・・・・・・・・・・・・198
共通教育　西語・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
共通教育　中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・200
共通教育　日本語・・・・・・・・・・・・・・・・・201
共通教育　共通・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
共通教育　韓国朝鮮語・・・・・・・・・・・・・・・212
教職センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214

人文学部 キリスト教学科
井上　淳　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語II[HC]
授業コード	11J10-001
教員名	井上　淳
教員コード	100301
登録人数	24
回答数	18
回答率	75.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の到達目標にはほぼ到達できた。授業は高評価を受けていて喜ばしい。設問7は4.89、設問8は4.94、設問9は4.94、設問10は5.00、設問11は4.39、設問12は4.61、設問13は4.56、最後の設問14（全体的な満足度）は4.83であった。今年度のQ2の最終レポート課題（ラテン語の日本語訳）にはビンゲンのヒルデガルトの『自然学』からSpelta（英語ではSpelt）を選んだ。内容は次のとおり。

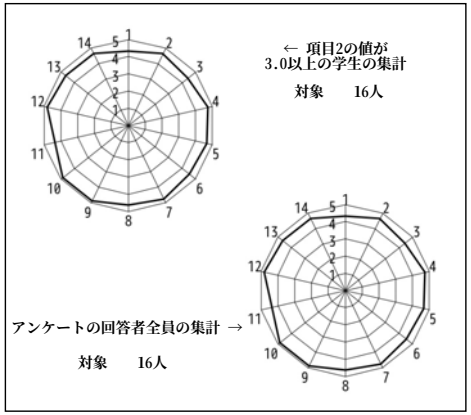
1．スペルタ小麦は最良の穀粒です。それは温性であり、栄養豊富で効能も高く、他の穀粒よりも味が良い。
2．それを食べていることによって、スペルタ小麦は肉体を正常にし、血液も正常にします。
3．その上、人の心の中に、うれしい気持ちと喜びをもたらします。
4．パンにおいてであれ、あるいは他の食物においてであれ、どんなふうに食べても、体に良く、そして美味しいです。
5．また、もし誰かが体力がなくて食べることができないほど病身であるならば、スペルタ小麦の穀粒を丸ごと受け取り、それを水で煮なさい。
6．ラードあるいは卵の黄身を加えると、より良い風味のゆえに、喜んで食され得るようになります。
7．そしてそれを、その病身の人に食べるために与えなさい。それは健康的な良い軟膏のように、その人を内側から治すのです。

これからも、より分かりやすく、ラテン語にさらに興味がそそられるような授業を目指したい。

人文学部 キリスト教学科
松根　伸治　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語II＜全＞
授業コード	11J10-002
教員名	松根　伸治
教員コード	101833
登録人数	31
回答数	16
回答率	51.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

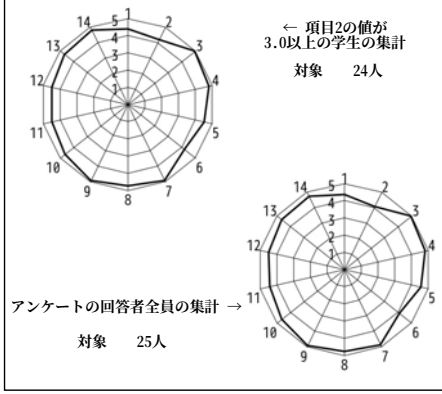
シラバスに示した二つの到達目標「ラテン語文法の骨格を身につけている」「辞書を的確に引くことができる」について、設問5、設問6、設問13の回答に3以下はなく、受講生の自己評価は比較的高かった。授業中のやり取りと提出課題、期末試験の答案からも、大部分の人が今期の目標を達成できたと判断できる。履修者が例年よりも多く、意欲と学力のバラつきを感じたので、辞書の引き方などの勉強法と文法の基礎知識について繰り返し確認するよう意識した。この成果は、設問4、設問9、設問12の数値に表われたのではないか（順に、4.75、4.88、4.81）。自由記述にも説明と質問対応の丁寧さを評価する意見が見られた。

Q1の「ラテン語I」に引き続きQ2も教室での対面授業であった。印刷教材を配って板書する従来のスタイルで行なったが、教材はすべて講義資料ページにも載せてデータとして活用できるようにした。復習のために練習問題の解答や解説を電子的にも提供してほしいという自由記述が複数あったので、秋学期はその方向で進めたい。板書に加えてモニター画面での説明も併用したが、後者は文字の見やすさなどの点でさらに改善の余地がある。

人文学部 キリスト教学科
HERA, Marianus Pale　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	聖書時代史
授業コード	21C02-001
教員名	HERA, Marianus Pale
教員コード	102689
登録人数	28
回答数	25
回答率	89.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はキリスト教学科の学科科目で、１年生が履修できる入門科目です。前年度は１年生の必修科目と重なっていたため、履修者が少なかったが、今年度からこの授業をQ2に移動することによって１年生のほとんどが受講することができました。ただ、３限目いという時間帯は教えている自分にとっても、受講する学生にとっても辛い時間帯でした（学生のコメントにも取り上げられています）。

14回の授業を振り返り、また学生の授業評価の結果をみると、この授業は全体として目標に達成できたと思います。学生の評価の良かったところには、「聖書についての知識がない人にも分かりやすい授業となっていた」、「パワーポイントだけでなく、映像や写真が一緒に提示され、より理解を深められた」、「毎回プリントに沿って授業を進めてくれるので、家に帰って簡単に復習することが出来る点が良かった」など、授業で用いている資料が学習効果を高めることが確認できました。ただ、前年度の小人数クラスと比べると、今回は学生の意見などを引き出す機会が少なかったことは、今後の課題にしたいと思っています。

人文学部 キリスト教学科
岡嵜　隆哲　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	初期キリスト教思想A
授業コード	21C30-001
教員名	岡嵜　隆哲
教員コード	103614
登録人数	10
回答数	4
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標として、一つ目の「人類の精神史上における古代イスラエルの宗教の画期的な性格について理解している」について、前半の比較宗教学的な内容の講義をとおし、また啓示、古代イスラエル民族、預言者、契約と律法等々の古代イスラエルの宗教を形成するのキーワードにあたる内容についての説明をとおして、一定の明確な理解に至ってもらえたと考える。二つ目の「ユダヤ教からキリスト教への移行において、継承されたものと継承されなかったもの、および新しくもたらされたものについて理解している」について、前半からの後半にかけて、キリスト教の前身であるユダヤ教思想の成り立ちとその基本的な性格をおさえ、そのうえでキリスト教の成立、初期キリスト教思想の確立までの展開をたどる仕方で講義を進めていったことで、おおよその概観が得られることになったものと考える。三つ目の「初期キリスト教において確立されたキリスト教神学の基本教理について理解している」について、三位一体論、キリスト両性論という中心教理について、それらが当時のいかなる異端思想との折衝をとおして確立されるに至ったかなどの説明により、基本的な内容が学べたことと考える。

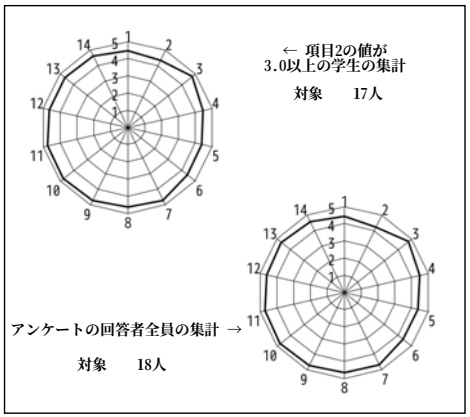
数値データおよび自由記述共、回答者数は少ないながら肯定的な結果を示してもらっており特別な過失はなかったかと考える。

次クォーター・学期以降に向けて、より近年の研究者たちの研究成果などもできるだけ取り入れて講義に生かすようにしたい。

人文学部 キリスト教学科
南　翔一朗　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教思想B
授業コード	21C33-001
教員名	南　翔一朗
教員コード	104627
登録人数	31
回答数	18
回答率	58.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修生が自ら問いを発し、思考することを講義全体の目標として設定し、授業を設計した。また、かなり詳細なレポート採点基準を作成し、それを初回の授業で公表・解説する中で、レポートの準備の進め方、書き方についてもレクチャーし、レポートを最終目標地点として一回一回の授業を受講するよう履修生に促した。授業評価の結果を見る限り、履修生の側ではある程度手応えがあり、一定程度満足してもらっているようであるが、レポートの出来栄えなどを踏まえて総合的に考えると、少なくとも、履修生全体が、私が授業開始前に思い描いたレベルにまで到達したとは言い難いように思われる。このような結果になった理由としては、授業者自指針が着年初年度であるため、学生の知識レベルや学問に対する意欲など、もろもろの必要情報が欠落していたこともあって、履修生にアジャストした授業を提供できなかったことが挙げられる。

上記を踏まえ、今後の改善点としては、授業難易度の調整とレポート採点基準（ルーブリック）の洗練の二点が挙げられる。

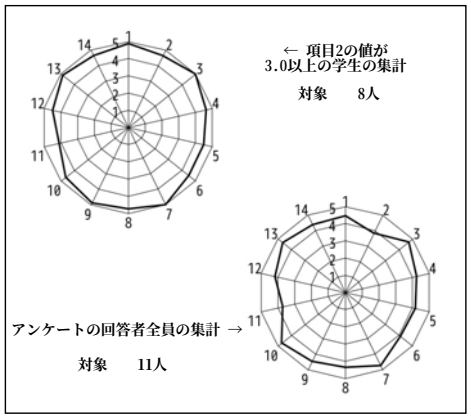
まず一点目については、今後の授業における学生との関わりを通して、本学の学生の知識レベルや学問に対する意欲などを把握することで、簡単すぎず、かと言って難しすぎることもないような難易度を設定する必要がある。

また二点目については、レポート採点基準の内容を部分的に修正する必要があり（すでに修正箇所は把握済み）、レポートの採点基準をしっかりと理解し、それに基づいて努力した学生が、ハイクオリティのレポートを執筆して提出できるようにしたいと考えている。ただし、レポートや論文の執筆能力については、学生の日頃の読書量や初年次教育の充実具合なども関係してくるため、一教員の一講義で飛躍的に改善することは難しく、個人的に改善の努力をしつつも、同時に大学・学部・学科といった単位で教員全体が一チームとして改善に尽力できるような体制が必要であると思われる。

人文学部 キリスト教学科
VARGHESE, Rejimon　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織神学(秘跡論B)
授業コード	21C45-001
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	13
回答数	11
回答率	84.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度Q2に組織神学（秘跡論B）を教え、学生によるこの科目の評価に対して私の評価報告は次のようである。

①この科目の内容は、「ゆるしと和解の秘跡」、「病者の塗油の秘跡」、「叙階の秘跡」、「結婚の秘跡」であった。この４つの秘跡の歴史的・体系的（神学的）考察と発展を取り上げて説明した。さらに、それぞれの秘跡を構成する「ことば」、「モノ」、「作動」などの機能を説明した。したがって、学生の評価からいえば、この授業を受けた学生は秘跡における恵みとは何であるかと、それぞれの秘跡の意味内容を理解できると目指した点に到達したと思う。

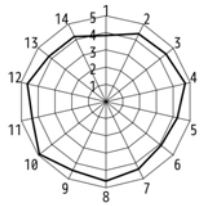
②数値データによれば、項目1から14の平均4.34で、項目3から14の平均は4.37である。悪くはないと思う。学生の自由記述等によれば、「雑学も多く教えてくださったこと」、「パワーポイントを使い、要点をまとめて説明していたとこがとても良かった」、「分かりやすい資料が用意されていたおかげで内容が理解しやすかった」などのコメントがあるということは学生さんは満足しているように思われるであろう。

③多くの学生が授業を受講して改善したほうがよいと感じた点は特にないが、私として、そして一人の学生が指摘したように、講義資料を少し早めに学生に配布するようにと、内容をもう少し絞って講義するようにしたいと思う。

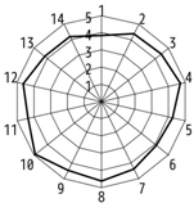
人文学部 キリスト教学科
守屋　友江　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教史I
授業コード　21C57-001
教員名　守屋　友江
教員コード　104474
登録人数　42
回答数　11
回答率　26.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　11人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　11人

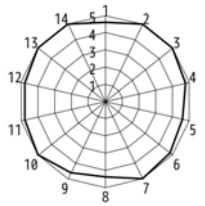
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生は全般に学習意欲が高く授業内容をよく理解し、授業終了後の質問でも深い問題意識を持って授業に臨んでいた。受講生のリアクションペーパーおよび定期試験に書かれた考察から教えられることも多く、こちらとしては大いに感謝したい。
①開講当初の設定目標に対し、ほぼ目標に到達できたと思われる。
②数値データについては、授業理解度が高く内容を踏まえた考察に優れており、妥当な数値である。授業中に換気をする都合上、窓を開けていたが、エアコン温度の調整が遅れ気味で暑くなってしまったのは申し訳なかった。受講生も積極的に動いてくれたが、今後はこちらから早めに対応したい。
③現状では教室での座学であるが、コロナ感染状況が改善すれば、東海地域の宗教史に関連するフィールド調査も行ってみたい。

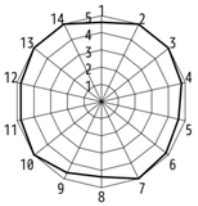
人文学部 キリスト教学科
MCMULLEN, Matthew　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教史II
授業コード　21C58-001
教員名　MCMULLEN, Matthew
教員コード　103838
登録人数　9
回答数　5
回答率　55.6%
休講回数　2 回
補講回数　1 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　5人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　5人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

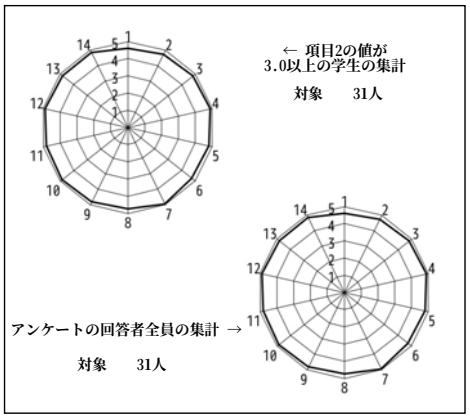
This was the fifth time teaching this course, but the first time in person since 2019. The students were very good and did excellent work with their presentations, especially since many of them have not give in-class presentations in several years.

Due to Covid, I had to cancel classes twice and moved the final week of classes online. The students were very considerate about the situation.

人文学部 人類文化学科
奥田　太郎　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生命と倫理問題1
授業コード　13A03-001
教員名　奥田　太郎
教員コード　100642
登録人数　60
回答数　31
回答率　51.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



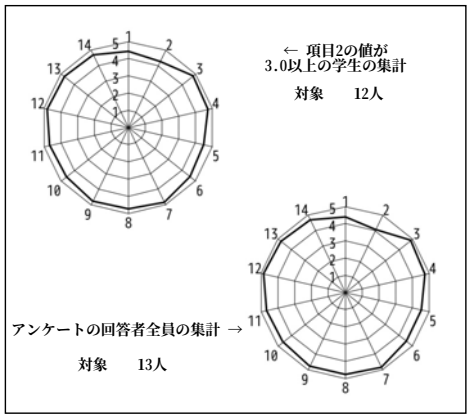
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）開講当初設定した目標は、1）われわれが生活する日常の中に重要な問題が潜んでいることを知り、考える力を身につける、2）他の人々がどのような考えをもっているのかを聴く力を身につける、3）自分の考えを他の人々に伝わる形で言葉にする力を身につける、の3点であった。今回の授業を経て、受講者の多くは、これら3点を継続的に達成する入り口に立てたのではないかと判断する。
（2）授業内容について、数値データおよび自由記述回答ともに、受講者から良好な評価を得た。特に、受講者の主体的な参加を促す内容であった点について、高い評価を得た。
（3）個別のコメントとして、板書の文字を太く大きくしてほしい、というコメントがあったので、次年度は、太く大きく書くよう心がけたい。また、授業時間の配分に関する要望コメントもいくつか見られたが、授業の狙いに即する形で改善を試みたい。

人文学部 人類文化学科
斎藤　喬　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　思想・文化をめぐって1
授業コード　13A06-001
教員名　斎藤　喬
教員コード　103192
登録人数　41
回答数　13
回答率　31.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



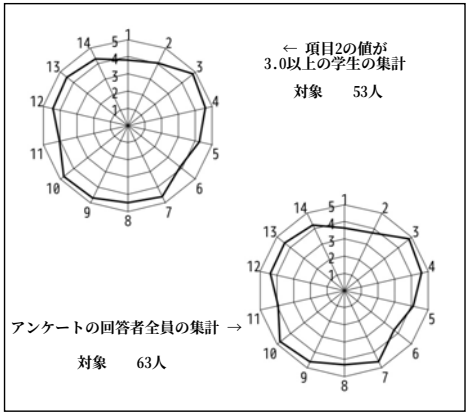
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①毎回のミニテストおよび期末レポートの記述から、受講者の授業への取り組みや理解度について、開講当初に設定していた目標に対して８０％ほどの到達度であった。
②数値データによれば、学際科目における設問1-14の平均値が4.43で設問3-14の平均値が4.46であるが、当該科目の設問1-14の平均値が4.65で設問3-14の平均値が4.72であったので、前者については0.22ポイント、こうしゃについては0.26ポイント上回る結果となった。また、科目登録者数別集計で見ると、31～60名では設問1-14の平均値が4.48で設問3-14の平均値が4.52であるので、当該科目は前者について0.13ポイント、後者については0.20ポイント上回ったことになる。自由記述回答では授業内容や配布資料に対して評価する意見が多かった。以上の点を踏まえて、シラバスで設定した到達目標はおおむね達成されたものと考えられる。
③次クォーターにおいてもこれまでのやり方を踏襲し、受講者に対しては授業への積極的な参加を促していきたい。

人文学部 人類文化学科
浅石　卓真　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報サービス論
授業コード	15P03-001
教員名	浅石　卓真
教員コード	103263
登録人数	77
回答数	63
回答率	81.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初の目標として「図書館における情報サービスの概要を説明できる」「情報サービスで使われる情報源（参考図書、データベース）について理解できる」「二次資料を作成・評価できる」を設定した。今期で提出されたレポートを見る限り、概ねいずれの目標も達成できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データの結果は例年通りであり、特に大きな問題点は見当たらない。

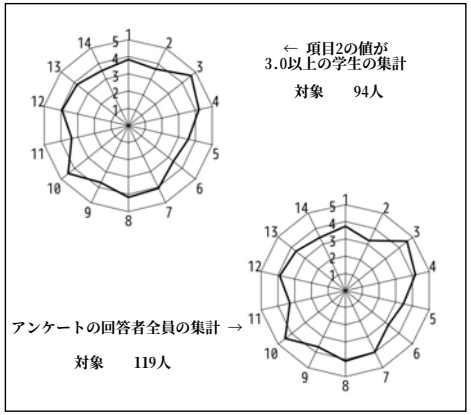
強いて言えば「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」と「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」の平均がやや低いので、改善の余地がある。自由記述では、演習や動画が多いことが評価されていた一方で、話すスピードや板書の丁寧さに関しては改善の余地が伺えた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
現在、研究の一環として、司書課程の履修者向けの語彙テストを開発している。これはウェブアプリケーションとして実装され、その場で回答者の語彙量が推定される。授業の初回と最終回で同じ語彙テストを受けてもらい、どのくらい当該科目の知識が着いたかを実感させることを考えている。

人文学部 人類文化学科
谷口　佳津宏　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学概論
授業コード	22B02-001
教員名	谷口　佳津宏
教員コード	016550
登録人数	177
回答数	119
回答率	67.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



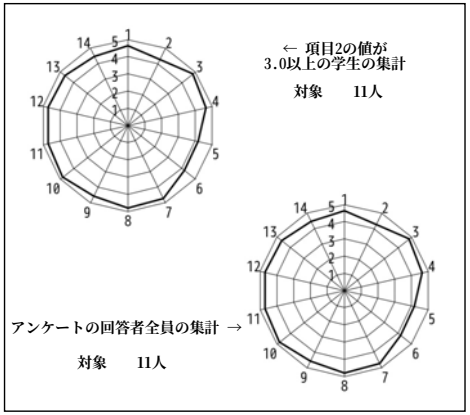
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目的は「1.「哲学とは何か」と人から尋ねられたとき、下を向かずに堂々と答えることができる。2.哲学と隣接諸学問の共通点並びに違いを理解している。3.代表的な哲学者の名前を挙げることができる。4.日本で哲学を学ぶということの意味を知っている。」の四つであるが，最終試験の成績から判断するかぎりでは達成率は47%であった。受験者総数151名中，A+が33名，Fが67名であり，明らかに二極化の傾向がみられるが，そのことは，自由記述の内容からもうかがえる。「声が聞きやすく、分かりにくいところはできるだけ丁寧に話してくださったので良かったです」という声がある一方で，「声質が原因で、こもり気味になって聞こえなかったり、眠くなってしまうので、もっと上がり下がりがあったらいいと思う。」とか「声が小さいうえに滑舌が悪く聞き取りにくい。」といった声も寄せられた。また，パワポの資料に関しては「人物の写真や土地の写真などビジュアルを示してあったことで、イメージしやすくなった」とか「スライドが見やすかった」という声がある一方で，「スライドを送るスピードが速い」とか「スライドにもう少し内容を書いて欲しい」といった声も寄せられた。人によって受け止め方はさまざまであることを改めて確認したうえで，今後，少しでも多くの受講生に興味をもってもらえるような授業にしていくために地道な努力を続けていきたい。

人文学部 人類文化学科
坂下　浩司　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　応用哲学B
授業コード　22C20-001
教員名　坂下　浩司
教員コード　100471
登録人数　19
回答数　11
回答率　57.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



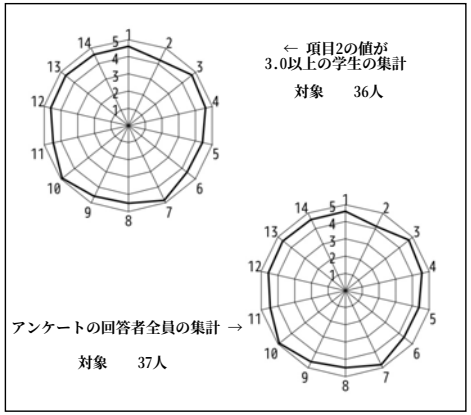
授業評価結果を踏まえた点検・評価

（１）開講当初に設定していた目標は「アリストテレスの形而上学の基本方針が分かっている」と「現代形而上学の基礎と個別分野が分かっている」であった。これに関連する質問項目５と６が平均値4.18、質問項目13が平均値4.64であること、授業中のこちらの質問に対する答えや、授業後の感想や質問の程度の高さ、期末レポートの内容からして、目標は達成されていると判断した。（２）数値データは前項で触れたので、この項は自由記述を挙げる。・授業の進行速度と教材の種類に関して：「資料を丁寧に読み進めるため抽象的な概念も自分の中で整理し理解しやすかった」、「100分の中で１つの資料を読むのではなく、複数の資料を同時進行で【教員のコメント：授業全体を「前半・中盤・後半」に分けていた】進めていた点が、集中力が切れずにいれてよかった」。提供した資料に関して：「様々な資料の提供があったこと」、「ビデオ教材のチョイスがとても面白い【教員のコメント：中盤に日本の形而上学者の紹介として西田幾多郎の評伝のビデオと、アリストテレスの「能力・可能性」の概念の倫理的な含意を理解するためサンデルさんの「アリストテレスは死んでいない」というビデオを観て解説し討論した】。・自分の研究の現場を見せたこと：「研究のリアル（言葉の訳し方や緻密な考察）が見られたのが面白かった」。（３）次年度は、古代ギリシア語の用語の分かりにくさを解消したい。

人文学部 人類文化学科
青山　幹哉　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化史B
授業コード　22C42-001
教員名　青山　幹哉
教員コード　019323
登録人数　57
回答数　37
回答率　64.9%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



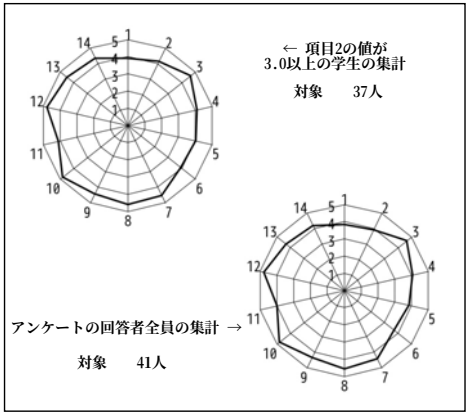
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標は、(1)歴史認識の形成過程を文化史的に考えることができる　(2)歴史叙述の内容について、複数の視点から分析することができる、の2点であった。設問6の平均値は4.38であったので、受講生はおおむね目標を達成したと満足したようである。ただ、成績評価においてB以上の者は受験者の6割に止まった。残念ながら本年度も他学部2年生の成績が芳しくなかった。
②この科目は、2021年度Q3学期における学生評価の対象であった。設問1～14の回答平均値を比較したところ、今回すべての設問の各平均値が昨年度より上昇した。昨年度はオンライン（後半はハイブリッド）授業で受講生が100名超であったのに対し、本年度は対面授業で受講生50名程であった。そのため、学生の関心と授業内容とのミスマッチが少なかったであろうし、また、教員としても学生の顔を見て質問ができたことがよかったと考える。なお、今回の授業では、WebClass に「質問コーナー」の掲示板を立ち上げ、そこで学生の質問に答えており、また、対面授業であったので授業終了後に学生の質問も受け付けていた（設問12の平均値は4.57）。しかし、学生1名が当該項目を「1」と評価し、自由記述欄において「授業中にこまめに疑問点はないかなどを聞く時間を作ると良い」との意見を提示してきた。
③前項での学生からの指摘については、授業内容（の削減）にもつながる問題なので、今後どうするか熟慮したい。

人文学部 人類文化学科
宮沢　千尋　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(東南アジア)
授業コード	22C43-001
教員名	宮沢　千尋
教員コード	019562
登録人数	68
回答数	41
回答率	60.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



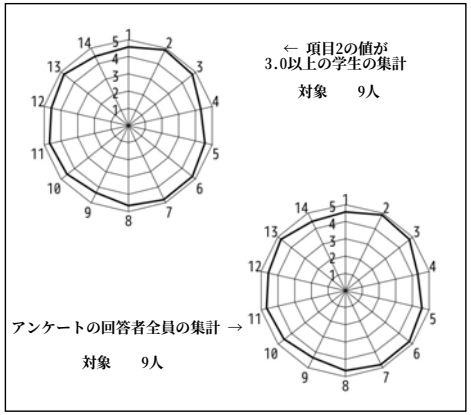
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①コロナ禍以後、初めての対面授業の評価なので結果を心配していたが、項目1-14の平均、項目3-14の平均、設問13、14がいずれも4点台であったので一応安心した。試験問題は、持込可ではあるが授業に出席して内容を理解していないと解答できないもので、本試験受験者の79%がB以上の成績となっているので、目標と到達の程度は達成されたのではないか。
②設問5（3.88）、設問6（3.73）が学科平均並みであるが3点台となっており、設問13、14とのギャップがある。試験結果から見ても、履修者が「理解できていない」「力がついていない」ということはないと思うが、今後は復習課題を課すなど、学生が達成感・到達感を得られるように工夫したい。自由記述では「資料が詳しくてわかりやすい」「留学体験を話したり、教科書（原文ママ）やwebに載っていない知識を与えてくれた」「時代の流れがわかった」と評価された。
③一方で、設問4が学科平均よりも0.3低い。近年「高校レベルの基礎知識を説明・復習してほしい」という要望が、この科目に限らずごく少数の学生からだが出るようになった。入学者の高校レベルが下がっており、学生間の学力の格差も大きいので、適宜、高校世界史の復習を取り入れたい。「授業内容がむずかしいので、テストでなくレポートにしてほしい」との要望もあったが、この科目に関してはネット情報などが玉石混交なので難しい。

人文学部 人類文化学科
ANTONY SUSAIRAJ　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化コミュニケーション＜国際科目群＞
授業コード	22C53-901
教員名	ANTONY SUSAIRAJ
教員コード	103820
登録人数	9
回答数	9
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



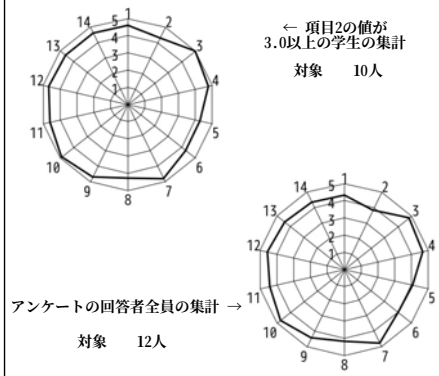
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Goals set for the Course and the Achievement
The aim of this course is to learn how to understand the people of other cultures. It is focused to make a study on the culture of Indians living in Japan.They learnt the basic culture of Indians through lectures. They have understood the different aspects of Indians living in Japan through self-reading of the materials on Indian Migrants in Japan. They made presentations on Indian Migrants in Japan. The students were given orientation to develop their own research on their areas of interests on Indian migrants. There were presentations on their own topics. Then ,based on their knowledge on Indian Migrants, they were helped to make questionnaire for the filed research in Japanese, and then translated into English. They have achieved certain extent the socio-economic situation of Indian Migrants in Japan. The field work in the month of August may help them to have a first hand experience and make their understanding of the life of Indian migrants deeper.
2. Overall Assessment 4/5
3. Follow the similar methodology.

人文学部 人類文化学科
渡部　森哉　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(新大陸の考古学)
授業コード	22C69-001
教員名	渡部　森哉
教員コード	101237
登録人数	25
回答数	12
回答率	48.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ほぼシラバス通りに授業を進めた。ただし足のけがのため、前半は許可を得てオンライン開講とした。

後半に受講生による発表の回を3回予定していたが、希望者が少なかったこともあり、2回にした。

登録者25名中12名がアンケートに回答した。アンケートの結果を見ると目標は概ね達成できたと思われる。ただしアンケートに回答していない学生の中には、最初からあるいは途中から授業に来なくなった学生もいるので、興味ある学生とそうではない学生に大きく二極化していると思われる。

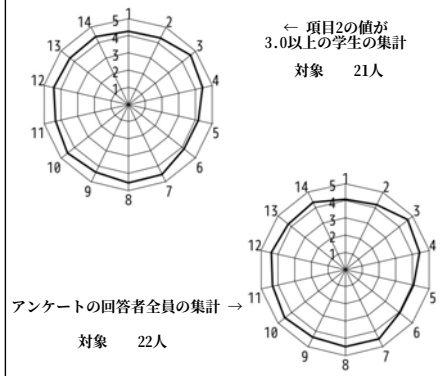
設問2の数値が低いが、これは期末レポート作成前にアンケートをしていることも一因かと思われる。

自由記述欄では、小レポートの設定がちょうど良かった、授業の内容が興味ある分野で良かった、という好意的な意見があった。一方、オンライン開講にしてほしかった、PPT資料をダウンロードサーバにアップロードしてほしいという意見もあった。今後、対面授業を基本としていくので、配付資料を充実させるなどの改善策を考えていきたい。

人文学部 人類文化学科
宮脇　千絵　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(物質文化論)
授業コード	22C74-001
教員名	宮脇　千絵
教員コード	152580
登録人数	80
回答数	22
回答率	27.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①講義形式でおこない、①文化人類学における物質文化研究の視座を得ている、②人とモノとの関係について、自分の言葉で説明できるようになっている、③研究論文を作成するための基礎的知識を得ているという目標を設定したが、毎回のリアクションペーパーやレポートの記述などから、概ね達成できていたと思う。

毎回リアクションペーパーへのコメント返しをおこなっていたので、それをきちんと読んでいる人は、理解力や記述力も高まったと思う。

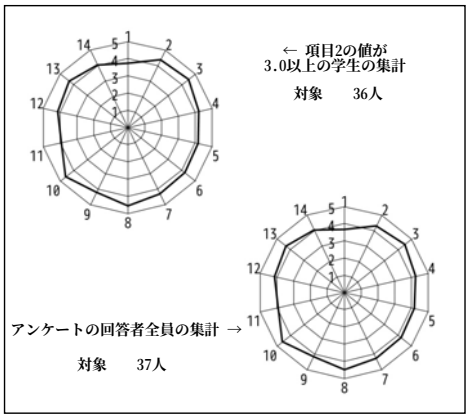
②自由記述の改善点として、リアクションペーパーの提出期限や字数についての要望が3件あった。この授業では毎回400字程度のリアクションペーパーをWebclassから提出するよう求めていたが、授業時間内に15分の記述時間を設け、提出時間も余裕をもたせていたつもりであった。授業内でも「15分で書ける内容のものでよい」と伝えており、実際にほとんどの人が時間内に提出できていた。ただオンライン授業の影響もあって、より余裕をもってきちんとしたものを書きたいと考える学生が増えたように思う。それ自体は悪いことではないが、オンライン授業を導入する前は授業時間内に提出してもらっていたことや、学生にとっても授業終了後にも締切を気にするほうがストレスになるのではないかと考えると、対面授業での落としどころをどうするかは引き続き考えたいと思う。

③授業内容についてポジティブな意見は引き続き活かし、リアクションペーパーの字数や執筆時間については改善をおこないたい。

人文学部 心理人間学科
林　雅代　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IB
授業コード	23A05-001
教員名	林　雅代
教員コード	018796
登録人数	42
回答数	37
回答率	88.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



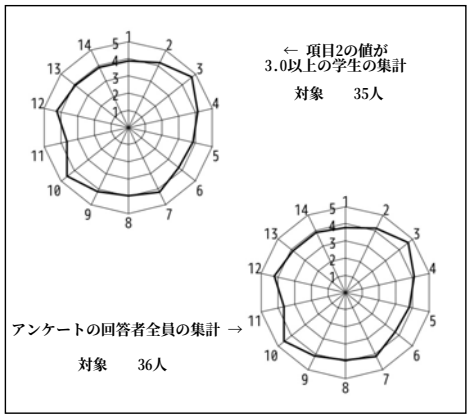
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的な満足度に関する質問項目14の評価は4.03となっており、受講生は概ねこの授業に満足しているものと思われる。この演習科目は、１年生対象のアカデミックスキルを学ぶための初年次教育科目であるため、課される課題が多い反面、知的好奇心を満たす要素が少ない科目である。そういう中で、課題に取り組む時間を授業内で設けたり、最終レポートに向かうステップとして位置付けたりするといった形で、課題を無理なく行うための工夫や、講読文献をなるべく読みやすく受講生の興味の持てそうなトピックのものとするなどの工夫を行なってきた。そうした工夫によって、ある程度受講生のモチベーションを維持することに成功しているように思われる。しかし、課題の分量に関しては、受講生の負荷だけでなく、課題をチェックして受講生にフィードバックするという教員の負担についても考慮する必要がある。この点で、担当教員としては課題を有効に教育に活かせていないと感じている。また、講読論文のレジュメを作成してクリティークを行うということを２回繰り返すことで、レジュメ作成のスキルが上がる側面もあるが、やや受講生がダレる感じもあった。今の授業内容は、コロナ禍でオンライン授業となって以降の構成であるが、対面授業に戻った現在であれば、もう少しグループワークを活用した内容が加えられると良いのではないかと思われる。

人文学部 心理人間学科
高橋　亜希子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IB
授業コード	23A05-002
教員名	高橋　亜希子
教員コード	103582
登録人数	43
回答数	36
回答率	83.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



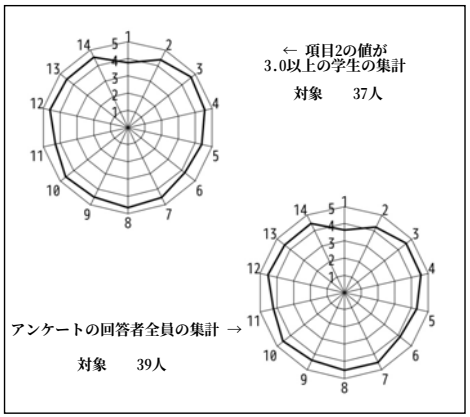
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、基礎演習ＩBの運営についてのアンケートについて、評価に協力いただきありがとうございました
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：質的・量的な研究論文の理解を中心とした授業ですが、授業の内容で、十分に理解できないところがあったとのこと、失礼しました。論文の解説が抽象的だったとの指摘も理解でき、量的な分析について自分自身もより理解した上で説明すべきだったと思います、
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：Zoomでの3クラスでの共有に時間がかかったこと、ネットワークを用いた解説が十分に理解できなかったとのこと、機器の設定の確認を3名で改善を図っていきたいと思います。また、選定論文について、1年生に何を伝え、理解・解説するか十分に検討し、解説を行いたいと考えております

人文学部 心理人間学科
池田　満　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IB
授業コード	23A05-003
教員名	池田　満
教員コード	103141
登録人数	42
回答数	39
回答率	92.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
自由記述回答を見る限りは，目標は達成されたと判断できる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」という項目の得点が他の項目の得点と比べて目立って低かった。選択の余地のない必修科目，かつ心理人間学科の専門科目ではなく文献をクリティカルに読む方法を取り扱う授業なので，事前に興味を持たせることは困難かつ（必要性は感じてほしいが）興味を持つ必要も必ずしもあるわけではないだろう。

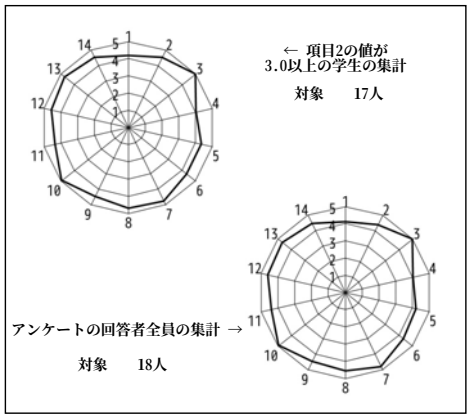
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
回答は例年と大きく変わっていないため，引き続き同じ方針で進めていきたい。ただし，コロナ対応でいつでもオンラインに切り替えられる運営であったため，対面で実施するには若干，冗長だったことは3名の担当教員も感じている。コロナの先行きが見通せないため，可能な範囲で改善を試みたい。

学生のコメントにもあったが，エアコンの効きづらく，暑さについては，Q2後半は早い猛暑や梅雨時期と重なるため，熱中症気味になっている学生もいた・また，向かいの教室からの音楽によって授業が妨げられることがあった。コロナのために換気をする必要性は理解しているが，他の教室から聞こえてくる音楽（ほぼ毎週）については，教室配置の工夫で改善可能なものであるため，検討をお願いしたい。

人文学部 心理人間学科
浦上　昌則　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理調査法II
授業コード	23C48-001
教員名	浦上　昌則
教員コード	018788
登録人数	34
回答数	18
回答率	52.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理調査法Iとこの授業では，心理測定およびデータ分析についての理解を実践的に深めるとともに，質問紙調査について演習を通して理解することを目的としている。この授業では得られたデータを分析し，論文執筆までを行う。Rを用いてデータを適切に分析できるようになること。論文，研究要旨として適切に研究をまとめられるようになることを到達目標としている。

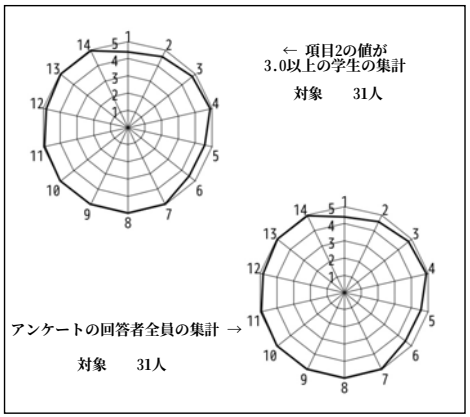
授業評価の回答は，概ね平均値が4以上であり，まずまずの評価を得られたと考える。良かった点として「Rの使い方が、以前より理解できた。」「実際に自分たちで研究したいことを考え、質問紙などを作成し、論文を書くという一連の流れを体験できたこと。」といった意見があったのは，授業目標との対応から評価できる成果といえよう。

改善点として，2つの意見が提示された。「授業時間外にやらなければならないことが多く、その説明もあまりなくて非常に困った。2コマにしてほしい。」：WebClass等でも説明はしたつもりであるが（説明不足の指摘はこの1件だけで），授業外の活動は非常に多くなる。コマ数を増やすことは容易にはできないため，授業開始時に一層の説明を加えておくべきかもしれない。もう１つは評価に関して，グループで提出する課題に対して，グループ全員が同じ評価なのはおかしいという意見があったが（心情は理解できないでもないが），評価のポイントについては当面は変更しない予定である。

人文学部 心理人間学科
川浦　佐知子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	質的研究法I
授業コード	23C49-001
教員名	川浦　佐知子
教員コード	055855
登録人数	34
回答数	31
回答率	91.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、１）質的研究の特徴及び理念の理解、２）質的研究の手法の理解、３）研究実施に関わる倫理的問題の理解であった。GTAによるデータ分析の演習を通して、データからボトムアップで仮説を立てる質的研究の特徴を理解する機会とした。併せて、データ収集の手法であるインタビューのロールプレイ実習を通して、研究者と研究対象者との相互の関わりの中で「語り」が生み出される様を体験的に理解できるようにした。質的研究の基盤となる社会構成主義の考え方を自分のものとして落とし込むことに苦戦する学生が多いので、今年度は授業冒頭でその理念を概説するだけでなく、データ収集・分析の演習の中でも「相互関係の中で現れる社会的現実」について具体的に説明した。

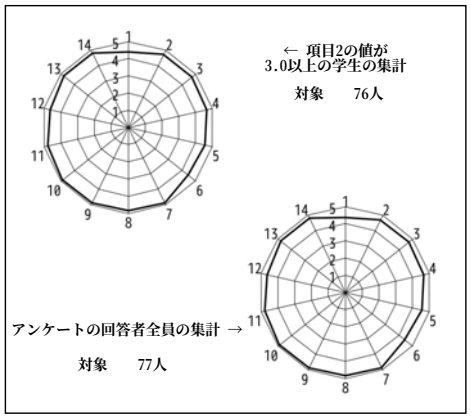
学生は毎週課題に取り組み、提出週の授業において他の学生とペアになって互いにフィードバックを交わした後、教員に課題を提出。教員は課題にコメントを付して翌週返却し、授業内でいくつかの提出課題をケースとして取り上げ、優れた点、改善点などを示した。

設問1の平均は4.39で、授業内容への当初の興味は非常に高いとは言えないものの、設問13の平均は4.97で、授業を通して新しい知識を得、理解が深まったと感じている様が伺えた。学生からは、「提出課題にコメントや評価がされて返却されるので、振り返りができたし、やる気が出た」、「ワークシートや課題を他の学生と分かち合うことで、自分の考えを見直すことができ、新しい発見があった」、「一つ一つのトピックにしっかり時間が取られていて、じっくり考えることができた」といったコメントが寄せられた。改善点として、学生の授業の到達目標への理解度を高めることを意識したい。

人文学部 心理人間学科
解良　優基　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育・学校心理学
授業コード	23C66-001
教員名	解良　優基
教員コード	103910
登録人数	83
回答数	77
回答率	92.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
学生による「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目への回答については，4.43と高い値が得られた。また，毎週課題が出る点でそれなりに負荷の高い授業であったと思われるが，授業の出席率や課題の提出率は高かった。学生は毎回の授業に真剣に取り組んでいた様子がみてとれ，その結果として本授業の目標は一定程度達成できたものと考えられる。

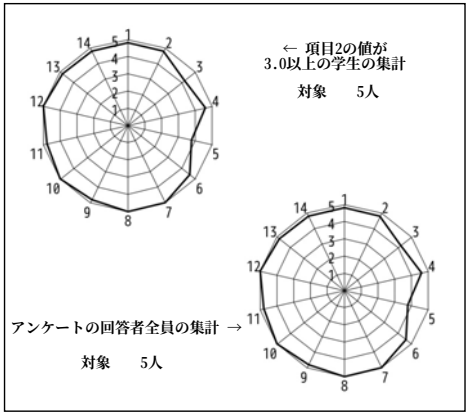
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価数値
データからは，全体的に学生は授業に対してポジティブに評価している様子が伺えた。
特に，「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という質問項目に対しては4.78と高い値が得られた。
例年に比べて自由記述の数も多く，またポジティブな内容が多くみられた。その中でも，授業の形式・進め方や映像教材に対するコメントが多く見受けられた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
全体的に学生の授業への取り組みは意欲的であったものの，特に上級生の一部で欠席や課題の未提出が繰り返される傾向があった。
グループで学ぶ授業ということもあり，個人の取り組みはグループでの学びにも影響する。
そのため，来年度は個別の学生への働きかけをより意識する必要があるだろう。

人文学部 心理人間学科
藤田　知加子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　心理学実験演習II
授業コード　23C84-001
教員名　藤田　知加子
教員コード　100382
登録人数　6
回答数　5
回答率　83.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



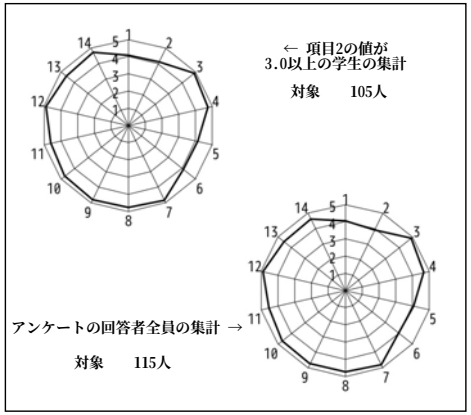
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業の目標は
１）実験法による学術論文を、検索、読むことができるようにする。
２）実験計画の立案ができるようにする。
３）推測統計の基礎を理解する。
４）実証的研究論文の書き方を習得する。
の4点であった。学生自身の評価では3.80と辛口の自己評価であったが，受講生の課題に対する取り組みの成果を見ると，おおむね到達できているように思える。
②少人数の演習科目ということもあり，全体的に評価数値は高かった。この授業内容をクオーターで行うのは，かなりの困難が教員にも受講生にも伴うが，そのような困難な環境の中でおおむね目標とした学習は見込めたと考える。
③今後の抱負としては，学生の自由記述欄にあった「生徒主体であり、教員が生徒間での話し合いの軌道修正を行ったり、手厚い支援をしてくださった点」が好評であったことを踏まえ，学生主体の取り組みの中で，十全な成果を上げられるよう教材の工夫等を行っていく。

人文学部 日本文化学科
平子　達也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語学概論
授業コード　24C04-001
教員名　平子　達也
教員コード　104112
登録人数　155
回答数　115
回答率　74.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



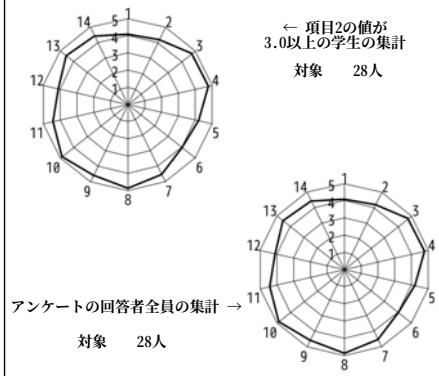
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度から，学生の質問を中心に授業を組み立てる形をとっており，授業の前半に簡単な講義，後半は予習及び授業内容を踏まえての学生からの質問とそれに対する回答によって授業を進めた。概ね，その形に学生は良い印象を持っているようであるが，これが開講当初に設定していた目標である「日本語に関する言語学的研究のための基本的な知識と基礎的な力を身に付けている」の到達につながったかは分からない。むしろ，学生アンケートでは「6．あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の値が相対的に低く，全体としては目標に到達できていない印象がある。また，学生別の結果から分析すると6の数値は「2．受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」とも相関しているようである。これは，「自ら考え，疑問に思ったこと，知りたいと思ったことを言葉にして表現できる」という本授業のもう一つの目標とも関連しており，学生からの質問を中心にした授業を標榜しながら，その実，多くの学生は自ら積極的に質問することがなかったことを示すものと考える。実際に，授業中に出た質問は受講者数からすれば少ないように思われた。教科書も一部の学生にとっては難度が高すぎたようである。教材の選定，予習の際の手当，質問を促すような仕掛けなどについて，今後の授業において改善をしたいと考える。

人文学部 日本文化学科
森田　貴之　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本文学史A
授業コード　24C29-001
教員名　森田　貴之
教員コード　102286
登録人数　35
回答数　28
回答率　80.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

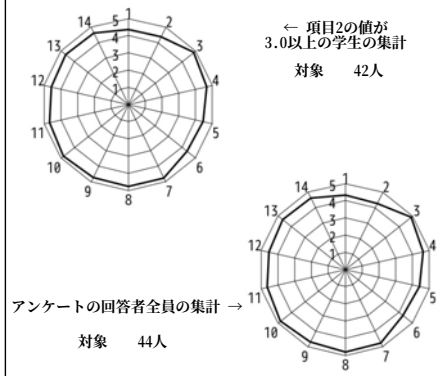
設問1の授業開始前の興味が4.07であるのに対して、設問14の満足度も4.43であり、当初の講義目標はおおむね達成されたと考えている。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、日本文学史のうち、学生にはあまりなじみがないものの含まれる中世文学史のを扱っており、専門性の高い内容をあつかっている。そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。また他の時代への広がりなど、多角的にとらえることを目指した。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思う。毎回授業後コメントへの回答を抜萃ではあるが行ったことも理解度の向上につながったとの意見が得られた。

次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。 全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収数は28だが、常時出席していた学生の多くが回答をしてくれた。授業時間においてきちんと回答時間を設け、回答を呼びかけたことが回答率向上につながったと思う。

人文学部 日本文化学科
岸川　俊太郎　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　近現代文学研究
授業コード　24C35-001
教員名　岸川　俊太郎
教員コード　103907
登録人数　128
回答数　44
回答率　34.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5で4.43という評価を得たことからも確かめられる。

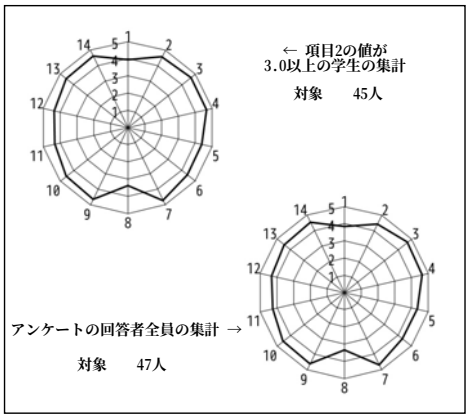
次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問1-14および設問3-14の平均値（全体）を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.64、4.59という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価が低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。具体的には、予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

人文学部 日本文化学科
西岡　淳　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	漢文学
授業コード	24C44-001
教員名	西岡　淳
教員コード	019315
登録人数	59
回答数	47
回答率	79.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



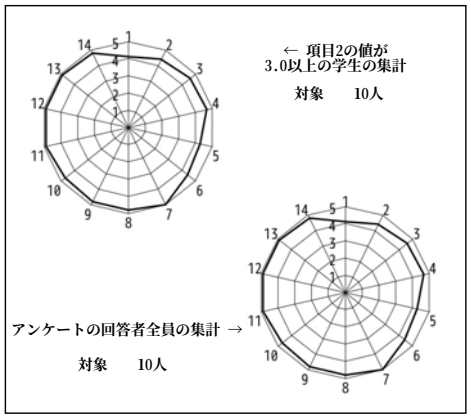
授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引いて、返り点を施した漢詩を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を準備し、漢詩を印刷した教材の日本語訳（余裕があれば書き下し文も）を授業時間内に作成する。授業の後半に担当者が読解・解説し、各受講者が自分で添削した答案を毎回提出、これを担当者が閲覧し必要な部分に修正を加え、次回までに返却する形式である。全評価項目の平均値は4.36で、提出物の出来具合からも、受講生は授業を経て漢詩が着実に読めるようになっており、授業目標はほぼ達成されたと考えられる。項目の中では、8「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」が平均値3.36と目立って低い。自由記述を見ても、「広い教室（S72）だったのでマイクを使ってほしかった」「先生の声が低いので聞き取りにくいことがあった」という記述が複数見られることから、今後は改善したい。評価できる点としては、「解説がわかりやすく、進行速度も適切であること」「自分で考える時間が設けられているから、ただ説明を聞くだけの授業より力がついたと思う」、「パワポでの説明が分かりやすかった」「添削をして頂けることがとてもありがたい」等の記述があった。

人文学部 日本文化学科
岩崎　典子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語の口頭能力研究
授業コード	24C68-001
教員名	岩崎　典子
教員コード	103983
登録人数	15
回答数	10
回答率	66.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



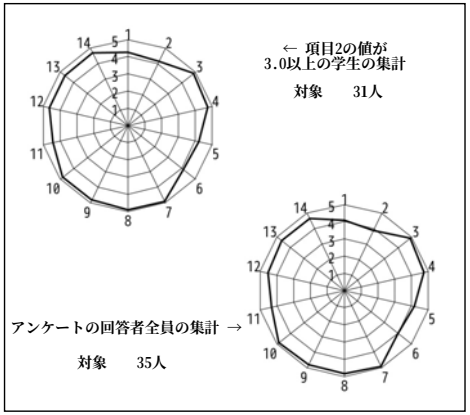
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目を担当するのは２回目であるが、１回目は第４クォーターに開講したが、３・４年次生のみ履修し半数が４年次生であるこの科目の開講時期として第２クォーターに変更したのは妥当であった。前回より学生が課題を適切に遂行していた。２０人の定員を設けていたが、実際に授業に出席したのは１２名ほどで、一人ずつの興味や関心に気配りしながら授業を進めることができたことも、比較的高い評価を得たことに繋がったと思われる。最も低かったのは「授業履修前にこの授業の内容に興味を持っていたか」で、4.10であった。この科目は、「日本語教員養成プログラム」で履修すべき36単位のうち4単位の履修が必要なカテゴリーの３科目のうち１つであることから、興味がなく単に日本語教員養成プログラムの修了証の取得目的で履修する学生もいることを示しているようである。最も学生から指摘の多かったのは、対面免除のオンラインの学生のための環境整備である。確かに、こちらが音声のインプット・アウトプットの方法を誤解していたり、不注意なことがあったので、以後ハイブリッド授業を開講する際にはこれまで以上に注意を払う意向である。ただし、対面免除の承認の際、オンラインで授業を受ける学生に、自分自身のインターネットとディバイスを整えることも要件にしていただきたい。本人のマイク、カメラ、インターネット環境が整っていないために、グループワークやペアワークに不都合な点も多々あった。

外国語学部 英米学科
鈴木　達也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A1
授業コード	31B04-001
教員名	鈴木　達也
教員コード	017871
登録人数	46
回答数	35
回答率	76.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、国際研究に関わる基本的な概念と最近の問題について理解することであった。履修前に興味を持っていたかどうかの評価が4.09であるのに対して、新しい知識を得たり理解が深まったかどうかの評価と授業に対する満足度はいずれも4.63という高評価を得ていることに加え、項目1から14の平均が4.52、項目3から14の平均も4.61であることから、授業としては成功していると判断する。すべての項目の中で、評価が4.0を割っているのは、受講生自身の授業に対する姿勢を問う項目2だけである。（3.89）

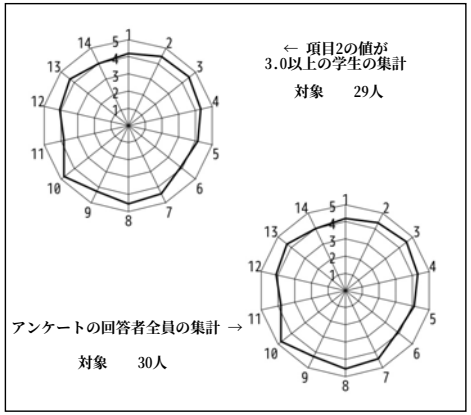
自由記述欄を読むと、動画を多く取り入れ、さらにその内容について受講生同士でディスカッションする機会を多くした本講義のスタイルが高評価を得ている主な要因であることが分かる。Special Topics in Englishは、英語で専門的な内容についてディスカッションする能力を高める授業であるが、受講生が積極的に英語を話す機会を確保したことが成功へと結びついたと考える。

一方、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかを問う項目6の評価が4.00にとどまっている点はやや気になっている。期末試験の結果を見ると、例年よりも平均点がかなり高いことを考えれば、理解度は深まっているはずであるが、そのことを受講生自身が実感できていないようである。次年度に向けて、さらに工夫を凝らしていきたい。

外国語学部 英米学科
金　慧昇　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies B3＜2021生用＞
授業コード	31B05-003
教員名	金　慧昇
教員コード	104504
登録人数	33
回答数	30
回答率	90.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



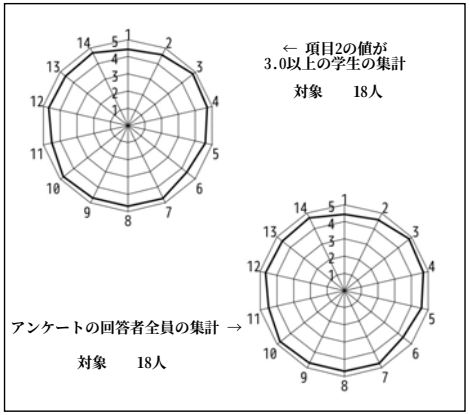
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、ジェンダーの観点からイギリス歴史を学び、女性の社会的地位がどのように変化してきたのかを考えることでした。そのために、毎回の授業の前半ではイギリスのジェンダー史について講義し、後半では講義の内容に基づいて過去と現在のジェンダー問題を討論する時間を設けました。本授業を通じて、多くの学生がジェンダーに関する問題について学び、英語でのグループ・ディスカッションを通じて自ら考える機会を得られたと思われます。毎回、討論のための資料を自ら探して課題を提出したことで、各テーマに関する理解度が高まる効果をもたらしました。また、討論の際に、できるだけ日本語を使わず、英語で発言するように指導したことが、項目10の点数に反映されたかと思われます。ただし、討論のための質問に関しては、異なるテーマでも答えられるような大きな問いを設けていたことが、討論の時間を多少難しく感じられた学生がいたようです。この点に関しては、より詳細で具体的な質問を提示するように改善する必要があるということに気づきました。なお、講義の速さや資料の構成についても、より分かりやすくする工夫をした方が、学生たちの理解を深められると思われます。

外国語学部 英米学科
TEE, Ve-Yin　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture D＜国際科目群＞2（英米学科生用）
授業コード	31C09-903
教員名	TEE, Ve-Yin
教員コード	101626
登録人数	30
回答数	18
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



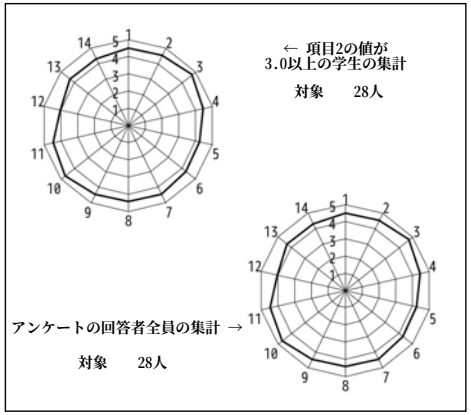
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals of the course was to teach students how to read poems from the Romantic period, as well as communicate the importance of understanding the cultural and historical context. To facilitate this, students had to give three short presentations on the poems they've read to a small group rather than the whole class. This meant that they not only received much more feedback from their peers, but also had to be prepared to give more in return. From the quality of the work that I have seen I would say that these objectives have largely been achieved. I have also received positive comments on the interesting content and the numerous opportunities I have provided in class for discussion. One student did wish I would upload the materials to WebClass sooner: it's a point that I will take on board for all my future lessons.

外国語学部 英米学科
RYAN, Anthony　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外国語教育の基礎
授業コード	31D03-001
教員名	RYAN, Anthony
教員コード	104650
登録人数	75
回答数	28
回答率	37.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



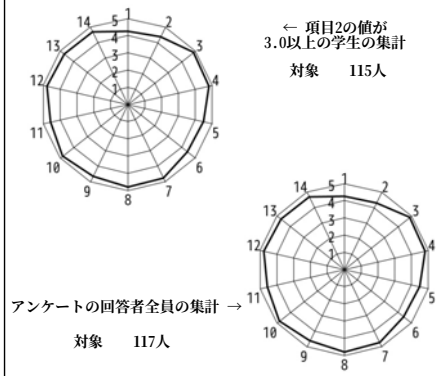
授業評価結果を踏まえた点検・評価

By and large the goals for the course were achieved. They were to acquaint the students with both the structure of and the processes involved in constructing the English education curriculum in Japan from its conception in regards to MEXT, through to approaches, methods, syllabus formation, lesson types and techniques. One of the major goals was for the students to identify the origins of the major techniques their teachers used when they were learning English in school. Based on the positivity of the comments of those that responded, I am happy that the course was interesting yet at the same time informative. Two back-to-back sessions totaling 200 minutes meant it was difficult for both the instructor and students to maintain concentration and stay on-task, so it was imperative that I get the students up and about occasionally and doing some practical activities in pairs and groups so as to maintain active participation. I was happy that this was commented upon by the students that responded to the survey. That said, there were some good points made that I will consider for the next time I do this course (a) namely the extensive use of devices and the lack of power points and extension cords meant there were occasions when devices ran out of power (b) their preference to use WebClass to take attendance, and (c) being more clear about submission deadlines for quizzes and reports. It is hoped that the course can be shifted into the WebClass forum in future.

外国語学部 英米学科
森山　貴仁　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治研究の基礎（アメリカ）
授業コード 31D06-001
教員名　森山　貴仁
教員コード 104589
登録人数　323
回答数　117
回答率　36.2%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「政治研究の基礎（アメリカ）」はアメリカ合衆国の政治を理解するための基礎的知識を提供することが目的だった。受講者は1年生から4年生まで幅広く、歴史や社会の知識に違いのある学生に対して、わかりやすくアメリカ政治を説明し、さらに講義内容をもとに一人一人が自分なりに社会問題について考えてもらうことを目指した。また、本講義はオンライン（リアルタイム）形式で行われ、いかに学生の集中力を維持させるかが課題だった。そのため各講義は以下の流れで実施した。

①40～50分の講義、②質疑応答、③課題への取り組み

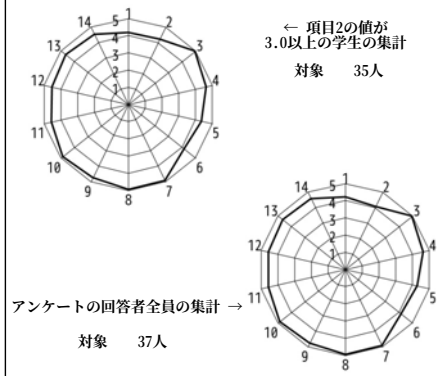
講義自体は授業全体の半分ほどにして、残りの時間は学生からの質問コメントへの返答や、講義内容をもとにした課題に取り組む時間とした。学生にとっては、100分ずっと講義を聞き続けるよりも集中しやすく、主体的に勉強する時間を持ち、質疑応答を通して双方向性のある授業になるよう心がけた。また、病気で授業に参加できなかったり講義中に聞き漏らしがあったりした場合のため、録画したzoom講義を一週間のあいだ視聴できるようにした。そのかわり、講義で使用したスライドは配布していない。

学生による自由記述をみると、授業の狙いはある程度達成されたといえる。講義スライドを見たいという声もあるので、利便性と緊張感のバランスをどうとるか今後検討したい。

外国語学部 英米学科
大井　由紀　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　アメリカの社会2
授業コード 31E02-002
教員名　大井　由紀
教員コード 101888
登録人数　47
回答数　37
回答率　78.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



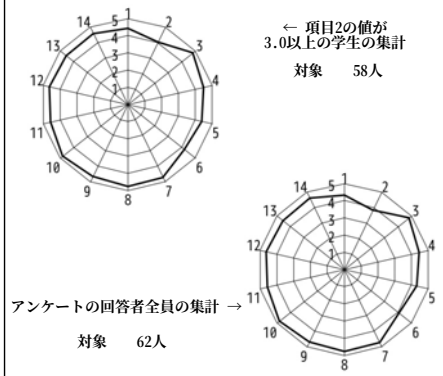
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①講義の目標は、1.)移民研究の基礎知識を学習する、2.)移民が国民国家や社会にもたらしている変化を理解する、3.)移民を分析する視角・方法を学習する、でした。講義でほぼ毎回行ったディスカッションや期末課題を通して、多くの学生さんが達成されたと感じます。
②本講義だけでなく、他の講義でもディスカッションを行えてよかったという意見が多く聞かれています。昨年度、別の講義に関する授業評価において、ディスカッションの発表に時間を割きすぎという指摘があり、私自身も改善の余地があると考えていました。その点について、全グループに発表させるのではなく、挙手制の発表に今年度から切り替えました。それにより、時間短縮につながるだけでなく、意欲のあるグループ・個人が積極的に発言できる刺激的な時間になったのではないかと思います。
マスクについて指摘がありましたが、マスクをしたまま110分話し続けると、息切れ・眩暈・立ち眩みがするため、教壇から数列座席が空席で、学生さんからかなり距離が確保できている場合は外して講義を行いました。距離が確保できない場面では授業中マスクを着用しました。
③ディスカッションをより活発化させるために、問題設定や資料をいっそう工夫したいと思います。また、考えたことが期末レポートに反映されるようガイドをしたいと思います。

外国語学部 英米学科
花木　亨　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　メディアとコミュニケーション
授業コード 31E12-001
教員名　花木　亨
教員コード 101269
登録人数　145
回答数　62
回答率　42.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、各種メディアの特徴を理解すること、アメリカ合衆国や日本のような民主主義社会におけるメディアの役割を理解すること、メディアリテラシーを高めることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

項目3から14の平均値は4.59だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.38を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

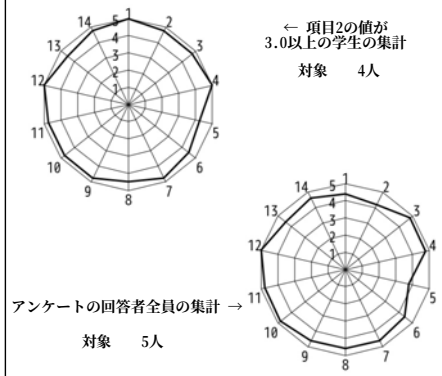
自由記述欄を読むと、教員の説明が丁寧でわかりやすかったこと、配布資料がわかりやすかったこと、視聴覚資料を多く使ったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、学生たちの意見を匿名で紹介することで一定の対話性を確保したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、学生たちの意見を紹介する時間が長すぎる、教員の説明が冗長であると感じた学生たちもいたようだ。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介するなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

外国語学部 英米学科
川島　正樹　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英米歴史特殊研究A＜国際科目群＞
授業コード 31E24-901
教員名　川島　正樹
教員コード 048116
登録人数　23
回答数　5
回答率　21.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



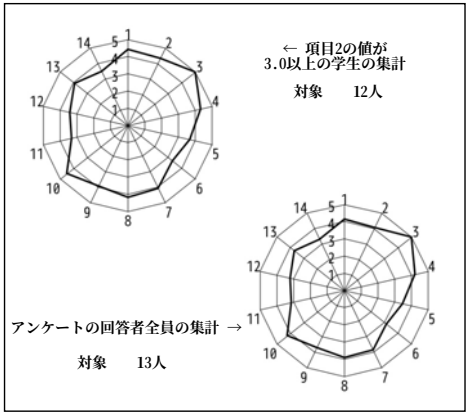
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度：本授業は国際科目群に登録される、基本的に教材や説明および質疑応答とほぼ毎回のWebClassを使用しての宿題の提出やそれへの担当教員のコメントでの反応において英語を使用する授業である。そのせいもあってか、受講生は24名の小規模クラスで、全員が英米学科の学生である。担当教員の特例にもかかわらず、わずか5名しか授業評価に応じてくれなかった。授業への全般的満足度を問う項目14において4.60をいただいたが、授業の到達目標の理解度を問う項目5が3.80にとどまったことは大いに反省をすべきであると痛感している。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：授業担当者が英国系出版社より英語で出版した書籍を教科書とし、授業中の説明や受講生からの質疑および教員の回答も全て英語のみを使用して行う授業である。毎年難しさを痛感してきたが、すでに5年以上経過しているが、なかなか思った通りの授業が展開できていない。毎回の授業では教科書の内容で回答可能な質問形式のハンドアウトを用意し、分かりやすい説明文を用意した。また映画も二本見せて受講生の心に訴えかける工夫も試みた。しかしながら、そもそも後半の2週においてコロナ罹患者が4，5名となり、ハイブリッド授業となったこととも相俟って、受講生の集中度は切れてしまったようだ。それでも最後の授業にはエクストラの催し（担当教員による音楽パーフォーマンスを取り入れた市民権運動史とビートルズの関わりの説明）は大変に好評だったことが、WebClassへの宿題の記述から確認できた。
③③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：英語のみでの授業展開をする授業においては何といっても入念な準備が功を奏することが改めて確認できた。今後もさらに準備に努めたい。

外国語学部 英米学科
原田　健二朗　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英米歴史特殊研究B
授業コード	31E25-001
教員名	原田　健二朗
教員コード	104468
登録人数	34
回答数	13
回答率	38.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、指定教科書を用いて第二次世界大戦後のイギリスにおける社会と文化の関わりを考察するものだった。授業の到達目標は、1．戦後イギリスに関する基本的知識（重要な人物、社会事件、文化作品など）を身につけること、2．イギリスの人々・社会・地域の多様性を知り、それを歴史的に位置づけること、3．イギリスにおける今日的事象を多角的かつ批判的に解釈すること、である。

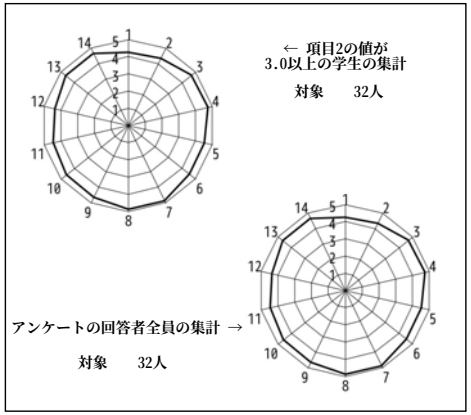
目標到達度については、試験答案を見る限り、授業への出席と予復習をしっかりと行ったと思われる者については、高いレベルで達したと考えられる。逆に、そうでないと思われる者については、答案がしっかりと書けておらず、単位取得に至らない場合も多かった。

担当者は、イギリス史分野に関する学生の知識量を増やすことを目指し、講義中心の構成にしたが、受講者の受け止めについてはまちまちのようである。3-4年次の特殊研究科目であるため、この程度の教科書はマスターしてもらいたいと判断したが、やはり難しいととらえる学生はそれなりにいた。各回・各章には相互に重なる主題や用語もあり、十分習得可能と思われたが、今後同じ教科書を使う場合には内容を絞ることも検討したい。

外国語学部 英米学科
手塚　沙織　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際関係特殊研究A
授業コード	31E32-001
教員名	手塚　沙織
教員コード	103911
登録人数	48
回答数	32
回答率	66.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



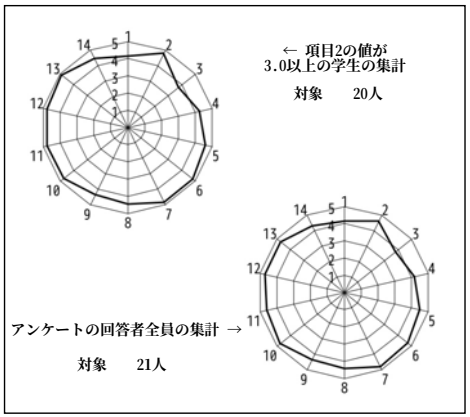
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、三つの目標を立て、初回の授業で学生に確認させ、最終授業でも三つの目標を改めて確認させている。三つの目標は、１）国際関係の基礎が身につく、２）社会と経済と政治の関係を把握できる、３）ある事象に対する多角的な見方を養える、である。これらの三つを達成するため、授業では、私が一方的に話す講義だけでなく、学生が授業を理解しやすいように厳選した関連ドキュメンタリーや映画を鑑賞させている。さらに、講義内容の理解を深めさせ、学生自身に主体的に考える力と、専門知識を使い論理的に書く力を養わせるため、毎回リアクションペーパーを提出させている。学生が書いたリアペは全て読み、次の授業でリアペで書かれた学生の意見を匿名で一部紹介したり、添削を入れた状態で改善点を指摘したりすることで、学生が授業内容を十分に理解した上で、自分の意見を専門知識を使い論理的に考え、他人に説明させる能力の向上を図っている。リアペの使用により、学生からの主体的な学びに繋がっていると感じている。学生の自由記述から、上述した点を評価してくれているようで、このスタイルで来学期以降も授業を進めていきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
淺香　幸枝　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎演習2
授業コード	32A07-002
教員名	淺香　幸枝
教員コード	000165
登録人数	22
回答数	21
回答率	95.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均値は4.48であり、項目3～14の平均値は4.49であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、8項目に亘っている。一番高い4.81は、授業に取り組む教員の姿勢に誠実さ、真剣さを感じたと回答している。2番目に高い4.76は授業の妨げになる行為に対して適切な対処がされていたである。3番目に高い4.71は3項目に亘っている。授業の到達目標に向けて力がつき、さらに質問や相談の機会が十分に設けられ、指導が十分であり、この授業を通して、新しい知識を得て理解が深まったとしている。4番目に高い4.62は2項目あり、学生は予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、理解しようと努力をし、教員は学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供があったと回答している。

一番低い項目は平均値3.81であり、授業の開始と終了の時間が守られていたである。どんなに学生の意見が良いものが出ても次回に回す勇気があってもよかったかもしれない。

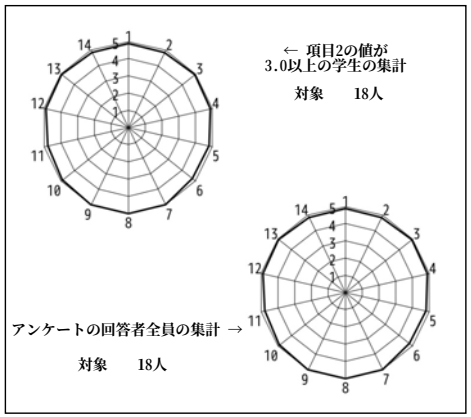
自由記述欄では、参加型の授業で考えるものが多く、全体で意見交換できることから、自分では見ることのできない視点から物事を捉えることができ充実していたとか、これを通じて新たな思考回路が開けたと回答している。また、『交差する眼差し』という本一冊に対して深く考えることができ、ラテンアメリカと日本の繋がりだけでなく、資料の集め方など今後の生活で役立つことまで学ぶことが出来たと答えている。

今後もこの双方向の方法で学生の力を伸ばしていきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
泉水　浩隆　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IIC1
授業コード	32A15-001
教員名	泉水　浩隆
教員コード	102114
登録人数	45
回答数	18
回答率	40.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価においては、項目3～14の平均値が4.89、全項目の平均も4.90という評価になり、レーダーチャートもおおよそ外周に沿うような形となりました。したがって、この授業で目標として設定していた内容はほぼ達成されたと考えられます。スペイン語文法の基礎を作る最終段階にあたる部分で、内容的に理解が難しいこともあり、Q1 で説明が不足した部分を補う必要もあったため、進度は予定より遅れましたが、ほぼ問題のないところまで到達できたと考えます。

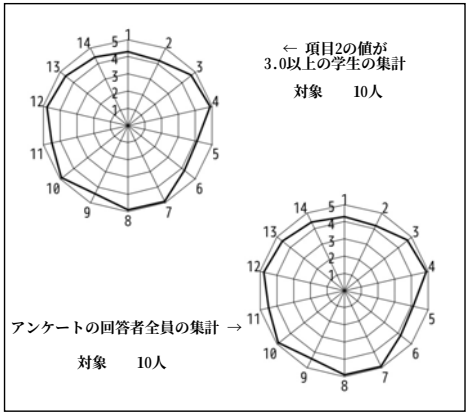
項目6と項目11を除き、いずれの項目も4.8以上となっているため、授業運営上、全体として概ね問題はなかったと思われます。項目6については、上記のように内容的に難しい部分があることもあり、理解できたと自覚した度合いが若干低くなっている受講生がいる可能性があることがその原因の一つとして考えられます。また、項目11については、前回のアンケートの際も書きましたが、メールアドレス等を公開しており、質問が寄せられれば、その都度回答はしていますので、その機会を十分活用してほしいと思います。

自由記述欄には、いつもより多くの感想があげられており、スペースの都合上、そのすべてをここでご紹介することはできないため、いくつか例を挙げます。項目15では、「解説→予習→授業→復習の形式で学習できること」、「スペイン語力がついてきていることを最も感じられる授業だと思うこと」、「毎回丁寧に文法を説明してもらえて理解しやすい」、「進み方が適切だった」などの意見がありました。一方、項目16では、「訳が少し早くて聞き取れない時があった」という意見がありましたので、今後配慮したいと考えます。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
永田　智成　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペインの政治
授業コード	32C05-001
教員名	永田　智成
教員コード	103900
登録人数	16
回答数	10
回答率	62.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



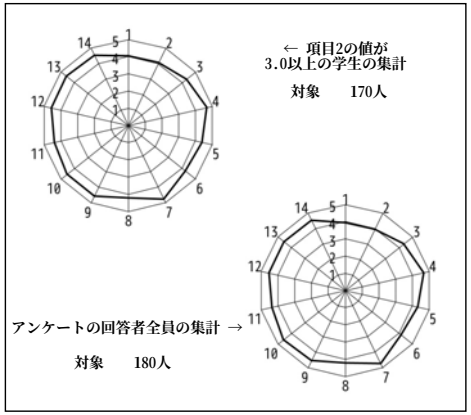
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標は、政治学の基礎を学び、その理論的な理解をもとにスペインの事例を考察するということで、授業担当者としては概ね達成できたと考えているが、到達目標の理解に関する数値が4.10ということで全回答項目の中で一番低かったことから、そこは反省しないといけないと感じた。
授業担当者の授業評価の数値は概ね低水準であることが多いが、今回は疑わしいほどに評価が高くなっており、疑心暗鬼に陥ってしまうレベルである。自由記述欄で講義主体の授業ではなく、グループディスカッションをもっと取り入れた方がよいというアドバイスを頂いたが、グループディスカッションの時間をゼロにしたわけではなく、可能な限りそのような時間を設けた。この講義は、政治学初学者を対象としているため、知識や前提条件のない討論はかえって混乱を招くと考えていることから、これ以上討論の時間を割くことは難しいと考える。そこまで多くの人が不満に思っているわけではないということが、数値から見て取れると考える。
受講した学生からは政治に対する見方が変わったという意見もあったので、もう少し受講者が増えるとありがたい。初回の授業で取りやめた者が半分ほどいるので、うまく伝えられるように努力していきたい。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
牛田　千鶴　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカの文化と社会A
授業コード	32C23-001
教員名	牛田　千鶴
教員コード	100657
登録人数	258
回答数	180
回答率	69.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



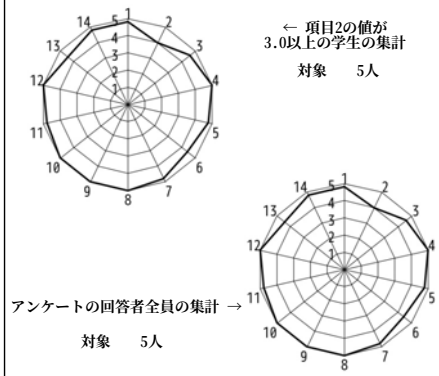
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標については、折に触れて確認しながら授業を進めたため、方向性を見失うことなく学生たちにも受講してもらえたのではないかと思う。設問5・6が到達目標に関する項目であったが、評価の数値（4.32／4.16）からもそのことが窺われる。
授業に対する教員の誠実さと真剣さを問う設問7の評価が4.73で、14項目中最も高かったことも喜ばしいことであった。開講時限を繰り上げたことが影響したのか、今年度はこれまでにない多人数クラス（履修登録者258名）となり、ハイブリッド授業の実施を余儀なくされたが、対面受講者からもオンライン受講者からも大きな問題点の指摘はなく、なんとか同等のクオリティを保ちながら授業を進めることができた。これもひとえに、毎回機器等のサポートに来てくださったスタッフの皆さんのおかげであり、この場をお借りし改めて感謝申し上げたい。
最後に、自由記載欄に記されていた内容についても言及しておきたい。エビデンスとなるデータの提示や実情を映像資料で確認できたことなどに関する高評価が目立った。他大学からの講師を招いての講演会や、担当教員の実体験に基づく補足説明に対する好意的なコメントも多かった。スペイン・ラテンアメリカ学科生を主な対象に想定していた授業であったものの、今回は外国語学部を含む６つの学部から履修者があり、専門の異なる学生たちに同様に満足してもらう授業とすることが課題であったが、全体的な満足度を問う設問14が4.51であったことから、概ねその課題も達成できたと考えている。

外国語学部 フランス学科
茂木　良治　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語科指導法A
授業コード　15B65-001
教員名　茂木　良治
教員コード　102698
登録人数　6
回答数　5
回答率　83.3%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



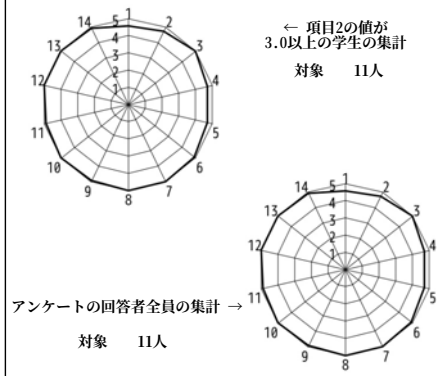
授業評価結果を踏まえた点検・評価

フランス語の指導法、学習法を中心に演習形式で行われる授業である。教職課程向けの授業であり、履修者は少人数であった。設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」で5.00点、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」で5.00点と高い数値を得られたことからも授業運営は適切であったと考えられる。設問3～14の平均点が4.80点と高い得点であることからも、学生にとって満足度の高い授業となったと伺える。自由記述欄で、「生徒の理解度を確認しながら進められていた点」「指導法について、現状の教育をもとに様々なアプローチから考えることができました。」というコメントがあったように、少人数の授業を活かし、学習者のニーズに合わせつつ、個別に適宜フィードバックしたことが評価されていた。学生たちからは改善希望は特になかったが、学生たちの模擬授業の時間配分やコメントする時間などが充分には設けることができなかったという反省がある。今後はこの点を改善していきつつ、効果的な授業運営を行っていきたい。

外国語学部 フランス学科
小林　純子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　時事フランス語
授業コード　33C15-001
教員名　小林　純子
教員コード　102488
登録人数　24
回答数　11
回答率　45.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

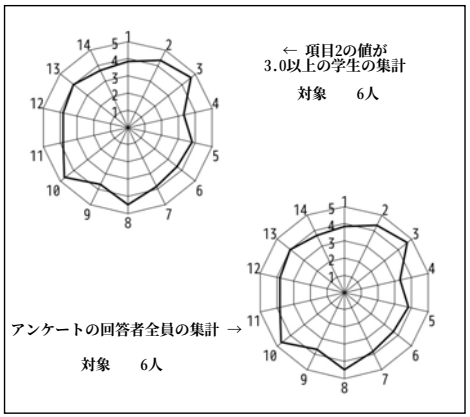
この授業では、フランス語の情報誌の読解や報道の聞き取りを通じて、現代のフランスでは何がどのように伝えられているのかを理解したうえで、時事フランス語のキーワードや表現を習得しつつ、自らの見解を述べたり論を発展させたりすることができるような情報の収集と分析を行うという目標と到達の程度を設定している。

アンケートの結果をふまえると、項目１の「履修前に授業に興味があったかどうか」をたずねるものが他項目に比べて低いため、次学期以降はよりわかりやすい記述にあらためるなどシラバスの書き方を工夫したい。また自由記述の結果から、資料や質問への対応が評価されていることがわかったため、資料の選定や自身の知識のアップデートに関して次学期以降も引き続き工夫を重ねたい。さらにディスカッションが理解の深まりに影響を与えていることがわかったため、この実践が１つの授業の中で効果的になるのはどのような条件なのかを考えていきたい。

外国語学部 ドイツ学科
麻生　陽子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献講読（ドイツ語圏の文化）
授業コード	34A23-001
教員名	麻生　陽子
教員コード	104628
登録人数	34
回答数	6
回答率	17.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



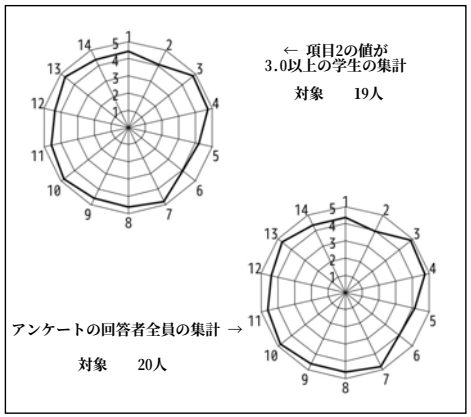
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：自由記述や授業後のコメントを見る限りでは、ドイツの文化を幅広く知ってもらうという目標は達成できたと思われる。
②：項目14の全体の満足度を見ると、回答者により差がある。本授業では、ある意味学生にとって馴染みのない事項が扱われており、そうした新たな知識を得ることに伴う困難を各自がどう捉えたのかという点と授業評価は関係があるように思われる。
③：自由記述回答にもあったように、取り上げた文献が学生には難しいと感じられたようである。その一番の要因として考えられるのは、わたしが本年度着任ということもあり、本学の3年生のドイツ語を含む能力をただしく把握できていなかったからだと思われる。この授業の目標および内容は、ドイツ語の文献を正確に読むという点、そして書かれている内容を理解し、知見を深めるという点にあった。自由記述回答には「文献を読む際に必要な予備知識等は予習前に周知させておかないと、予習もままならない状態に陥ってしまうと思う」という声があった。「予備知識」がドイツ語を読む際のものなのか、内容面にかんするものなのかは不明である。受講者自身も教員から言われたことだけを予習として行うのではなく、自ら世界史にかんする本を読んで調べるなど、できることは十分にあったはずである。授業時間内に、予習のための全ての予備知識を周知させることは難しい。今後は、少し易しめのテクストを選定することで対応する。

外国語学部 ドイツ学科
畑野　小百合　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語圏の文化・芸術
授業コード	34A28-001
教員名	畑野　小百合
教員コード	104422
登録人数	45
回答数	20
回答率	44.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



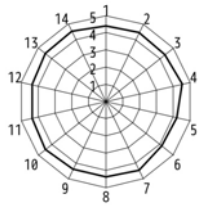
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、「ブラームスをめぐるさまざまな音楽史的視座」という副題のもと、ヨハネス・ブラームス（1833～1897年）の作品と活動についての知識を深めるとともに、それらに対して異なる立脚点からさまざまな評価が与えられてきたことを理解することに主眼を置いて講義を行いました。到達目標としては、
（１）音楽史的文脈の中で、あるいはそれぞれのジャンル史の枠組みの中で、作品を評価することができる。
（２）19世紀後半のドイツ語圏の音楽生活について具体的なイメージをもっている。
（３）音楽（史）研究が、それが生み出された社会の状況や書き手が継承する伝統や文化を反映していることを理解している。
の３点を掲げていました。これらは概ね達成されたことと思います。
評価の数値から、多くの方が授業内容に満足してくださったことがわかり、安堵しています。また、自由記述の回答からは、卒業論文に活かせそうな情報や考え方が得られたこと、音楽を聴き比べる楽しさが感じられたこと、講義とはいえ学生同士の話し合いの場を多く設けたことで理解が深まったことなどがわかりました。
履修してくださった皆さんはご存知の通り、この授業では、授業内の活動で必要になる資料を配布してきました。それに加えて「レジュメを作成して配布してほしい」とのご要望がありましたが、今後検討する余地は残しつつも、私はあまりそれについて積極的ではありません。なぜなら、話の内容がどのようなものであったかを構成する能力は、学生の皆さんが講義の体験を通して育成すべき能力であると考えるからです。

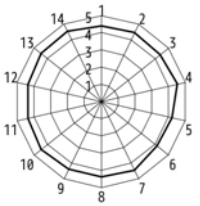
外国語学部 ドイツ学科
BAYERLEIN, Oliver　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ語圏を知る
授業コード　34B02-001
教員名　BAYERLEIN, Oliver
教員コード　100842
登録人数　57
回答数　13
回答率　22.8%
休講回数　1 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　13人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　13人

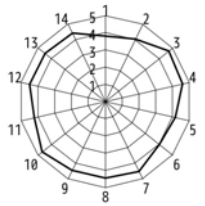
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was set up as a substitute for a study trip to Germany, as students could not travel to Germany during the Corona Pandemic. The topic was, therefore "A virtual study trip to German-speaking countries". For this, the students were to create a website in groups on topics they could choose independently from a pool. Unfortunately, the number of students in the course was so large that it was not possible for me to talk to every group in every lesson. I had intended to do this to support the groups linguistically. Regrettably, some students also took advantage of this to make as little effort as possible during lesson time. Instead, they also let the other group members work for them.
Nevertheless, the student's overall assessment of the teaching is very satisfactory.
I will, therefore - with modifications to improve - continue teaching in the same way if that will be necessary due to the circumstances of the pandemic.

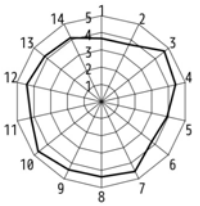
外国語学部 ドイツ学科
齋藤　敬之　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ドイツ歴史研究
授業コード　34D10-001
教員名　齋藤　敬之
教員コード　104487
登録人数　73
回答数　42
回答率　57.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　35人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　42人

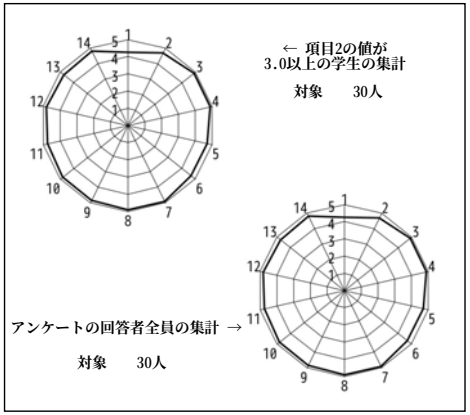
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では「ドイツ史の知識の再整理」や「歴史研究の動向やテーマに関する知見を深めること」を目標に掲げていた。しかし、過年度以上に他学部・他学科の履修者が多く、ドイツ史に関する知識が豊富でない履修者も少なくなかったこともあり、教員の目標設定や授業内容との間に隔たりが大きかった。この点が授業内容や到達目標に関する設問項目の評価が伸びなかった一因と考えられる（設問1・設問2・設問5・設問6）。加えて、履修者にとってやや高度な内容を授業全体を通じて多く盛り込んだことにより、各授業回内での時間配分がタイトになり受講生に負担を強いたと思われる（設問16）。今後に向けては、科目の性質上内容のレベルを下げることは適切ではないと考えるが、履修者の予備知識を再確認・再獲得させるような内容も盛り込むこと、情報過多にならないような時間配分とすること、などを改善点とする。
教員の姿勢や授業運営についてはおおむね好意的な評価を得られた（設問7・設問8・設問10）。また、各授業回にWebClass上で授業内容に関する課題を出し、その回答内容を次回の授業で共有する形式を採用した。これは、履修者の理解度の向上や履修者同士の意見の比較に役立たせることを意図したものだったが、設問9・設問12・設問15での評価に鑑みて、こちらの意図が実現できたと判断している。このような実践は今後も継続したい。

外国語学部 アジア学科
宮原　佳昭　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア文献講読A
授業コード	35C19-001
教員名	宮原　佳昭
教員コード	102232
登録人数	39
回答数	30
回答率	76.9%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①卒業論文で分析対象とするレベルの中国語資料を読解できるようになる。②中国語資料の文章を、一字一句の意味をおろそかにせずに全て日本語訳できるようになる。③中国語資料にあらわれるキーワードとその意味を、辞書やインターネットを駆使して把握できるようになる。

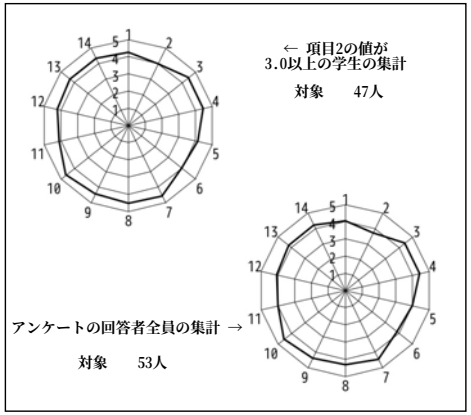
上記の目標を達成するために工夫したことは、次の5点である。①オンライン中国語辞書や百度百科など、中国語読解に有益なツールを学生に示した。②中国語はあくまで外国語であるため、教員にも分からない語句があるということを示した。③予習範囲の日本語訳および調べた語句を授業前に全員に提出させた。④授業中は学生全員を1回ずつ指名して日本語訳させ、一字一句の意味を細かく確認した。⑤学生の日本語訳に誤りがあった場合、それがどのような点で誤っているのか、どのようにすれば適切な訳を導き出せるのかを具体的に示した。以上4点をふまえて授業を進めるにつれ、学生の能力が高まっていることが目に見えて分かり、また学生の自由記述欄を見る限りは好評であったことから、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

反省点は、毎回の進度設定と復習テストの分量設定である。いずれも教員にとっては適切な分量と考えて設定したものの、学生にとってはやや負担となっているようで、やや消化不良の感が見られた。次回はより適切な設定を心がけたい。

外国語学部 アジア学科
張　玉玲　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	華人文化研究
授業コード	35C21-001
教員名	張　玉玲
教員コード	101049
登録人数	85
回答数	53
回答率	62.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



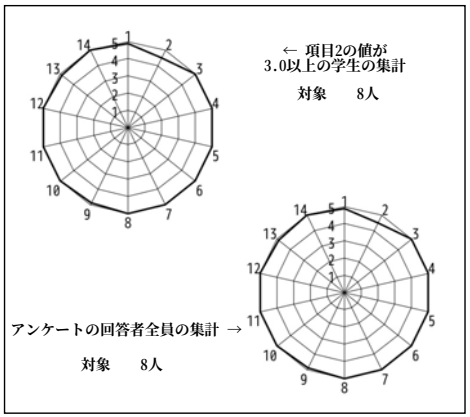
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.開講当初に設定していた目標は以下の三つである、すなわち①「華人文化」について中国大陸や香港、台湾などの「中華文化」と異なるカテゴリーから理解することができること、②華人文化は中国的でありながら、居住地の文化要素を持っていることが理解できること、③華人文化の継承と華人アイデンティティとの関連性について自分の見解を述べることができること、である。2.数値データおよび自由記述からは、概ね開講当初の目標が達成できたように思われる。しかし一方、今年度は初めての二コマ連続の形式ということもあり、写真や図及び動画を多用しても、やはり3時間の講義に耐えられない学生がいるようなので、自由記述にある「学生参加型」の授業形式の導入なども課題として浮上している。また、欠席の三分の一ルールの不適用によって、授業に欠席している受講生は講義資料のみでリアクションペーパーなどを提出するケースが多い。授業中の指示を聞いていないため講義資料は期間限定でアップされているようなことを知らないのも当然のことである。③今後、受講生の授業への参加意欲や問題の発見・解決能力を向上させるために、学生参加型の授業形式を試みるなど、様々な改善・工夫をしていきたいと考える。

外国語学部 アジア学科
MANGGA, Stephanus　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級インドネシア語会話A
授業コード	35D05-001
教員名	MANGGA, Stephanus
教員コード	103578
登録人数	8
回答数	8
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



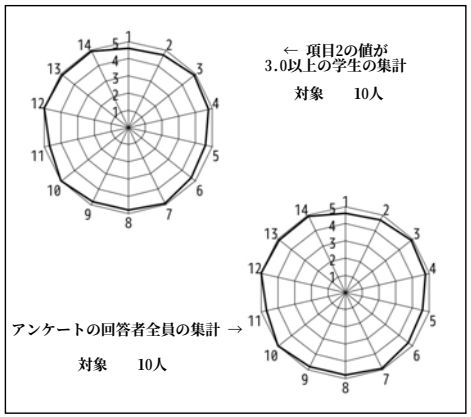
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は講義および実習形式で行われる。学生は様々な文脈に基づいてインドネシア語を話す訓練を受けることになる。話すことのほか、授業では読む、書く、聞くことについてもあつかう。さらに、インドネシア文化も紹介する。本授業の主な到達目標は学生が状況に応じて適切にコミュニケーションできることである。学生人数は８名しかいなかったが、皆は積極的に参加してくれた。平均値が高い（5.00）項目はいくつかある。それは①この授業の到達目標を理解すること、②授業の到達目標に向けて力がついてきていること、③担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができたこと、④学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はあったこと、⑤授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされたこと、⑥学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はあったこと、⑦質問や相談の機会が十分に設けられていたこと、⑧全体として、学生はこの授業に満足したことである。その以外の項目の平均値も悪くないと思う。それは第二項目（4.50）、第一項目、第九項目、第十三項目（それぞれ4.88）である。全体的にクラスは順調だったと言えるのではないかと思う。今回の学生の評価に基づいて、次クォーターの授業をもより良い雰囲気でしたいと思う。

外国語学部 アジア学科
間瀬　朋子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	インドネシア社会研究
授業コード	35D11-001
教員名	間瀬　朋子
教員コード	103607
登録人数	17
回答数	10
回答率	58.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



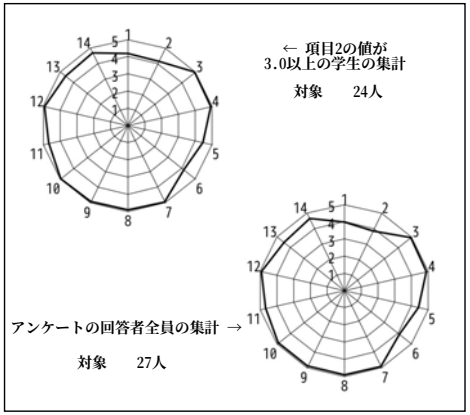
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ジャワ社会に対する基礎的理解があること、ジャワ社会への考察を通じてインドネシアにおける開発の諸相を理解していることの２つの目標を掲げて、講義と論文輪読を組み合わせた授業を実施した。各受講生がしっかりと輪読論文の予習や報告準備に取り組んできたため、授業ではつねに活気にあふれるディスカッションが実現した。それにより、目標は十分に達成できた、と判断している。
②発言が不得手で、受動的な学生が多いと感じてきたが、本授業では少し違ったようすがみられた。輪読論文の丁寧な予習により自信をもって授業に参加した受講生たちが、ほかの受講生や教員とのディスカッションを積極的に楽しみ、ジャワ社会やインドネシアへの理解を得たと実感できていることは、たいへん喜ばしい。
③ワンクォーターという限られた期間に少しでも多く・深くインドネシアを理解するための適切な切り口の設定、受講生が関心をもって取り組めそうなトピックの選定、適切な難易度やボリュームの輪読論文の選定、充実したディスカッションを導くための工夫等にあらためて留意し、さらなる改善を心がけたい。

外国語学部 アジア学科
稲垣　和也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	インドネシア言語研究
授業コード	35D13-001
教員名	稲垣　和也
教員コード	103887
登録人数	28
回答数	27
回答率	96.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初設定の目標と到達程度
（１）インドネシア語を分析できるようになる、（２）そのための方法論を身に付ける、は設定していた目標におおむね到達。（３）インドネシア語に見られる言語現象を問題化できるようになる、は設定目標に部分的に到達。

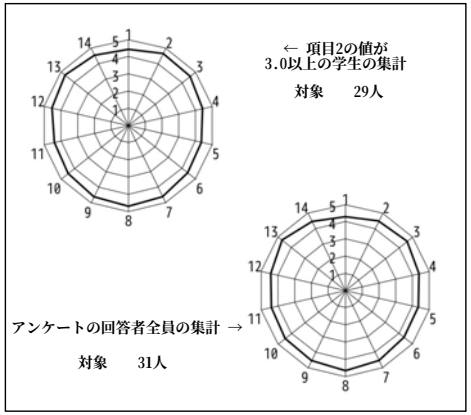
②数値データおよび自由記述等を踏まえた担当科目の総合的自己点検・評価
回答数は２７件（←２０２１年度８件）。前節①の評価は、第５・６項の到達目標・習熟のスコア（各々４．４４と４．１１）に部分的に基づく。「毎回の授業で到達目標を意識」させたが、授業内容の専門性の高さからか、第１・２項を除くと第６項が最低スコア。第９項の理解配慮・資料活用（４．８９←４．７５、自由記述「対面授業ならではの板書での説明があったり、図を使用した解説等が充実して」いた）、第１１項の学習促進・指導（４．６７←４．５０、「学んだ内容は他の言語にも活かされるように感じた」、「これからのより効率的な言語の勉強に生かしていきたい」）、第１４項の全体的満足（４．６３←４．５０、「普段は考えないような細かい知識を得ることができた」）に軽微な改善あり。第１２項の質問・相談機会（４．９３←５．００、「質問しやすい」４件）の自由記述が多く、授業評価において教員－学生間のやり取りに一定の着目あり。第１３項の知識獲得（４．４８←４．６３、「専門的で内容が難しいと感じる」「授業の内容について復習する時間を作ってほしい」）は、第６項「習熟」と合わせ、改善の余地あり。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
到達目標（３）に関し、より主体的に現象を問題化できるようさらなる工夫が課題。言語分析プロセスの客観的解説をさらに追加したい。これにより、前節②において指摘した第６項および第１３項の改善にもつながると期待できる。

経済学部 経済学科
川本　真哉　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門7
授業コード	40B03-007
教員名	川本　真哉
教員コード	103865
登録人数	47
回答数	31
回答率	66.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



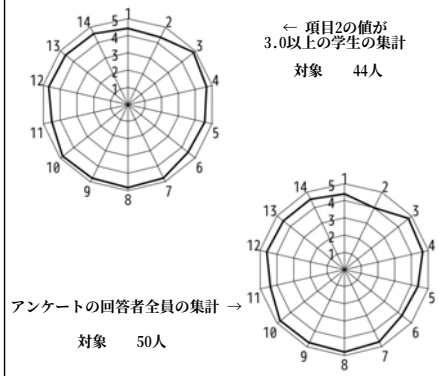
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について
　この授業の目標として、①論文やレポート作成に役立つ日本語ワープロの基礎の学習、②現実の経済データを利用して統計的データ分析の初歩的手法の学習、③データの加工手法について表計算ソフトを用いて学習、④プレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用方法の学習、などがあった。当初予定していたトピックについて解説をすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと理解している。
②総合的な自己点検・評価
　質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.45ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、授業のペースが適度で、配布資料について事前に閲覧できて予習復習に役立ったとの声があった。また、項目3、項目7、項目8、項目9が4.5を超えており、時間管理、声の通りやすさ、授業に臨む姿勢が重要であることがわかった。なお、4ポイントを切った項目はなかった。
③今後の抱負、方針
　受講生の声からは、作業状況を注意深く確認し、必要があればこちらから声をかけ、修正方法について助言することが重要であることが確認できた。また、授業の進行スピードが適度であったとの評価もあったので、これも意識して継続していきたいと考えている。

経済学部 経済学科
林　順子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本経済史入門
授業コード　40D03-001
教員名　林　順子
教員コード　101007
登録人数　96
回答数　50
回答率　52.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



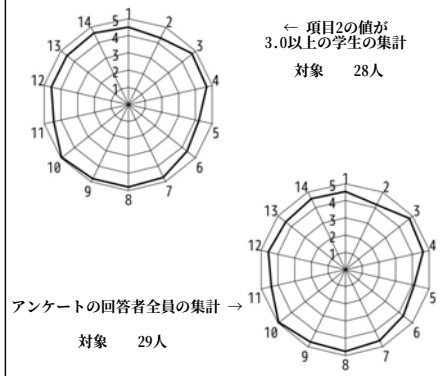
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価の数値データはいずれも平均以上であった。自由記述欄では、これまで講義で取り入れてきた毎回の習得度チェックや質問に対して丁寧に解説を加えたこと、高校時代の日本史未履修者にも配慮したこと、スライドの一部をアニメ化したこと、講義ノートを全て講義資料サイトにアップしたこと、講義内で時々学生に問いかけをしたことなどについて、プラス評価がされている。
一方、「オンライン講義でも良かった」とする意見も複数寄せられた。また、出席率もかなり悪かった。第14回講義の10分程度の時間、その場の全員にアンケートに記入するようお願いしたが、それでも回答率が50%程度であった。試験の結果をみても、当初の目標に十分到達している学生がいる一方、全く到達していない学生も少なくなく（特に1年生に集中していることから、同日に必修科目の試験があったのかもしれない）、その中には欠席が多い学生が多く含まれていた。当然、講義に出ずにノートをみるだけでは講義内容を理解をすることはできないわけで、学生にはまず、その説明を講義開始時にしておきたい。また、対面でのアクティブ・ラーニングについての参考図書から有効な方策がないか検討したい。

経済学部 経済学科
大鐘　雄太　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　計量経済学A
授業コード　40D11-001
教員名　大鐘　雄太
教員コード　103641
登録人数　45
回答数　29
回答率　64.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業では、「正しいデータ分析の初歩的・基礎的な考え方について理解できる」ことを目標とした。授業の到達目標を理解することができたかどうかに関する項目（項目5）は4.10にとどまっているが、定期試験の成績は良好であったため、上記の目標は到達できたと考えている。

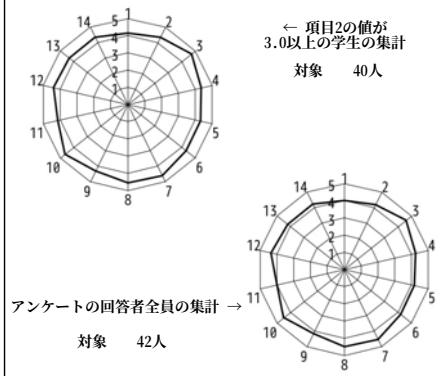
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　(1)すべての項目が4点台であったこと、（2）項目3から14の平均値が4.50を超えていたこと、(3)今年度から新たに取り入れた「Excelを用いた実習」がおおむね好評であったこと、の3点から判断して、総合的にはよくできたと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　履修生の到達目標に関する項目（項目5、6）は、他の項目と比べて平均値が相対的に低く、改善の余地が大きいため、次回開講時にはこれらをさらに改善することにより、全体の満足度のさらなる向上を図る予定である。

経済学部 経済学科
井上　知子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　理論経済学A
授業コード　40D15-001
教員名　井上　知子
教員コード　019166
登録人数　79
回答数　42
回答率　53.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問１～設問12については、学部平均とほぼ同じであり、特にどの項目が高い、低いということはなかった。

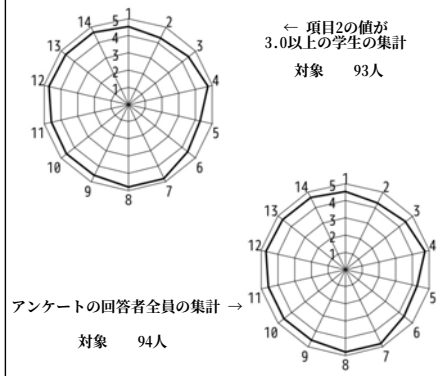
改善した方が良い点に書かれていたことは3点であり、「カーソルが示している位置がよくわからない」、「スライドの送りが早い」、「重要なところに時間を使って欲しい」である。カーソルの位置については、ペンで書き込みをしながらの説明に加えて、注目してもらいたい場所を同じ色のペンではなく、別の色のマーカーなどで囲うなどすると改善されるかもしれないと思った。普段から授業でスライドを次に送る際にはそのつど、次に進んでよいかを学生に尋ねている。次の話題に進んでほしくない場合ははずかしがらずに、「次のスライドに進むのを待って欲しい」と意思表示をして欲しいと受講生に丁寧にお願いすることで改善したい。3つ目の指摘については、本人が重要と考える個所がどこなのかが私にはわからないので、わからないことがあれば授業後に担当者に直接質問するよう誘導するしかないと思う。

よかった点については、「毎回の課題(確認テスト)がよい復習になった」、「レジュメが分かりやすかった」、「説明が分かりやすかった」、「数学を使う授業であり、経済学を学んでいるという気持ちになった」という記述があった。

経済学部 経済学科
小林　佳世子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報経済学B
授業コード　40D18-001
教員名　小林　佳世子
教員コード　100487
登録人数　176
回答数　94
回答率　53.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次生以上向けの専門科目です。主として経済学部の学生さんを対象としていますが、他学部の学生さんも参加してくれていました。評価はほぼすべての項目で学部平均を上回り、高い評価となったことを素直に嬉しく思います。

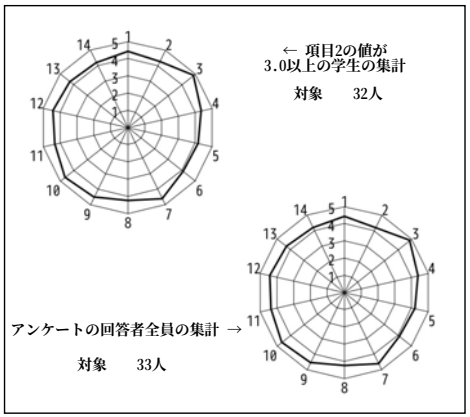
自由記述欄を見ると、具体例の多さと分かりやすさを、評価する声がとても高いように思います。また、途中何度か出したクイズと、学生さんを巻き込んで考える形にしたことで、受け身にならずに参加できたと言った評価の声もたくさんありました。また、体験談を交えながらの話がとても良かったという声や、最先端の研究でやっていることが分かって学問の楽しさが分かったという声も多々ありました。

改善点としては、小声でしゃべり続けている学生さんへの対応と、機材トラブルを上げている学生さんが複数いました。授業中のおしゃべりは注意をしていたつもりではありましたが、気が付いていないケースがあったようです。対面での授業でしたが、人数に比してより広い教室での講義となったことで、学生さんの様子に気配りしきれなかったことがあったかもしれません。今後、よりきめ細かに見ていきたいと思っています。

経済学部 経済学科
吉根　勝美　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析B
授業コード	40D20-001
教員名	吉根　勝美
教員コード	018358
登録人数	69
回答数	33
回答率	47.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業で開講当初に設定していた目標は、表計算ソフトウェアによる経済統計データの分析手法のいくつかを理解させることであった。定期試験レポートからは、およそ半数の学生が十分理解している一方、１割程度の学生は理解が十分ではないと判断した。

アンケートの数値データについては、どの設問についてもネガティブ（２または１）な回答者は最大でも３名（回答者の９％）であり、特に問題はないと思われる。ただし、回答者数が登録者数の４８％、定期試験レポート提出者の５４％にとどまっている。授業の出席率がおよそ６～７割であったことから、出席しているがアンケートに回答しなかった学生は少なからずおり、授業評価を実施する意義が一部の学生には伝わらなかったようである。

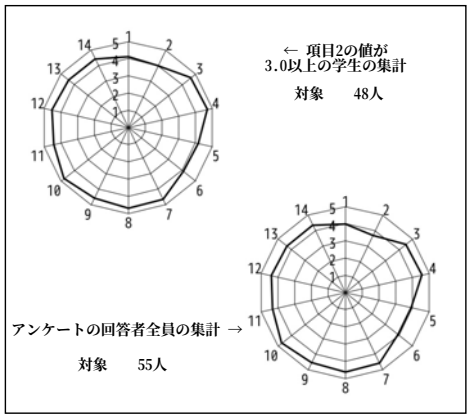
アンケートの自由記述では、回答者の２７％にあたる９名が授業の良かった点を挙げてくれた一方、３名の回答者が改善すべき点を指摘してくれた。なかでも、授業の問題点を長文で指摘してくれた回答は、大学生に対する授業のあり方について大いに考えさせる貴重な意見であった。

今後の授業では、学生は自ら学ぶおとなの学習者であるとして、授業時間のうち説明や演習にかける回数・時間を適切に設定していく。また、モチベーションが必ずしも高くない学生に対して、自発的な学習を促すような動機付けを持続的に与えていくために、授業で使用する資料や教材データを整備していく。

経済学部 経済学科
太田代　幸雄　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マクロ経済学特論
授業コード	40D22-001
教員名	太田代　幸雄
教員コード	100347
登録人数	101
回答数	55
回答率	54.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

この科目は，経済学科1年次生以上向けの選択科目であり，Q1における必修科目「マクロ経済学」の内容を1歩進め他の学科選択科目の基礎固めを行うために設定された科目である。今回の講義も，ここ数年の状況と同様に，学生同志の教室におけるソーシャル・ディスタンスのような状況も併せて，進度・聞こえやすさ・スライドの見易さ等に十分に注意しながら進めたつもりである。

数値データで見ると，全設問の平均値4.32（設問3－設問14の平均値4.40）ということで，ほぼ学科科目の平均値に等しく，より理論的な科目にしては充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。

【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

データとしては，回収率が全受講生中約54.5%と，ここ数年で見て平均的な値であったことが挙げられる。ただし，依然として回収率が低いことは確かであるので，この点は改善して行かなくてはならないと考えている。

また，アンケート結果として，設問1，2，3，5，6，13で学科平均値を下回る結果となった。設問1が平均値4を下回っていたことを考えると，そもそも，必ずしもこの科目には興味を持っていなかった学生が多かったことが示唆されていると言えるであろう。このような学生に興味関心を持ってもらうべく，工夫することが課題であると考える。

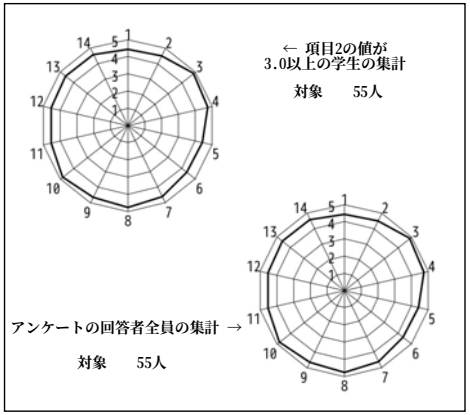
【次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など】

自由記述欄を見ると，スライドが判り易かったという反応が多く，今回の講義で気を付けてきた点で効果が出てきたことが分かり，非常に安堵している。今後，さらに受講生の理解が進むよう，更なる修正を試みたいと考えている。

経済学部 経済学科
西森　晃　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財政学A
授業コード	40D26-001
教員名	西森　晃
教員コード	100624
登録人数	142
回答数	55
回答率	38.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の評価の平均値が4.60，問14の平均値が4.58ということで，概ね高い評価をしてもらえたのではないかと思う。自由記述欄にも好意的な評価が多く，改善点を指摘するものはほとんどなかった。そういう意味では，それなりの授業をしたと考えても良いだろう。

しかし，期末試験の解答を見ると，あまりのできの悪さにやや呆然としている。経済学のツールを使って政府のあり方を考え，政策の評価が出来るようになるというのが授業の大きな目標であるが，それが実現できているとはとても言いがたい。今までこれほどできなかったことはなかったので，かなり戸惑っているというのが本音である。

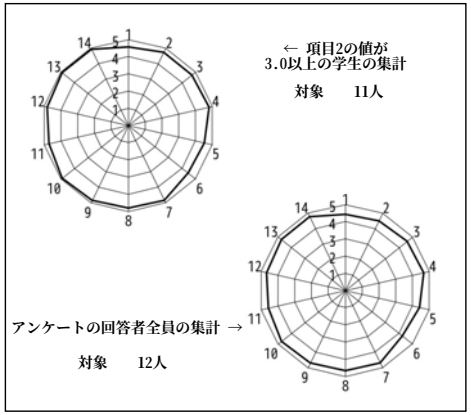
実のところ，授業をしていてもほとんど手応えがないという感覚はあった。今回はオンライン講義だったのだが，学生が悪い意味でオンラインの授業になれてというか，手を抜いて授業を受けている様子が所々感じられた。また，学生同士の交流が減ったせいか，こちらが授業で伝えた内容がほとんど共有されていないようである（ここは必ずテストに出すから覚えておけよと授業中に繰り返し言ったところですら期末試験ではできていない）。

オンライン授業が導入された当初は教員・学生の双方にそれなりの緊張感があったが，オンライン講義も3年目となってその緊張感がかなり緩んでいるのではないかと思う。良いか悪いかは別にして，それはある意味必然的に起こることと考えた上で，どのように授業を進行するのかもう一度考えたい。

経済学部 経済学科
焼田　党　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	公共経済学B
授業コード	40D33-001
教員名	焼田　党
教員コード	102065
登録人数	29
回答数	12
回答率	41.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



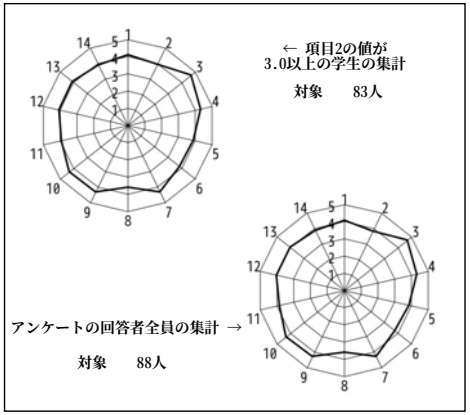
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の目標は達成できたと判断している。試験前の質問でも、かなり内容を理解していると思われた。逆に、本年度は理解が早く、これまでだと再説明をするところでも、すんなり授業を進めることができた。その意味では、逆に追加的な議論を紹介しなければならないほどであった。②授業の説明にうなずいたり、板書の間違いを指摘したりしてくれ、こちらもかなり自由に授業時間を過ごすことができた。授業内容については、受講生というよりは出席してくれている学生の理解が、先述のようにかなり進むようなので、中級から大学院の授業内容に近いレベルまで引き上げることで、かなり、学術的に興味がないときついかなというところまで行った。出席学生数が多くないので、学生の反応を見ながらではあったが。広く浅くではなく、深く課税の問題や環境の問題を扱えたのでよかったと考える。③改善点としては、板書の字や書き方について、授業評価対象だからと、言い訳をしながら気を付ける様にはした（場合によっては開き直りもあった）が、今後もさらに気を付けたい。

経済学部 経済学科
岸野　悦朗　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	租税論A
授業コード	40D34-001
教員名	岸野　悦朗
教員コード	103035
登録人数	242
回答数	88
回答率	36.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



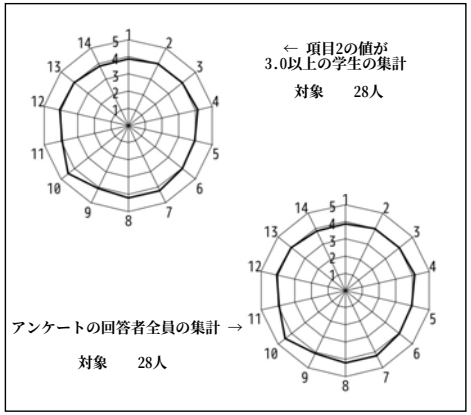
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　この授業は、我国の租税制度全般及び所得税並びに相続税といった個人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。
　授業に際しては、久しぶりの対面授業で、学生にも理解できるようにパワーポイント資料を見直す等改善に努めた。評価方法は、以前のとおり定期試験のみとした。試験結果はまずまずであったが、授業に参加している学生とそうでない学生で成績に差がみられたと感じている。これまで２年間講義直後に５回の課題テストによる評価であったが、一度の試験であったので、集中力が持続できなかったのでは考えることから、今後授業期間中により問題を数多く出題する等対応したい。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
　数値データはやや低下した。自由記述欄ではパワーポイント資料に対する評価があったが、一方で特に対面授業のせいか声が小さい旨の意見があった。自分としてはそれなりの声で講義しているつもりであるが、後方で聞いている学生が多く、より前方に来るよう促したい。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
　次学期以降、各科目について充実した内容となるよう上記評価を踏まえて取り組んでまいりたい。

経済学部 経済学科
神野　真敏　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会保障論A
授業コード	40D38-001
教員名	神野　真敏
教員コード	103880
登録人数	61
回答数	28
回答率	45.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、なぜ社会保険制度が必要なのか、そもそも社会保障とはどのような制度なのかなど、実際のデータを用いつつ理論的に社会保障の重要性・問題点などについて講義した。その際、１．社会保障を経済学的視点から分析できるようになる、２．社会保障の存在意義と問題点を理解し、自らの言葉で説明できるようになる、３．望ましい社会保障制度を経済学的視点のもと、自ら考えられるようになるの3つの目的を掲げた。

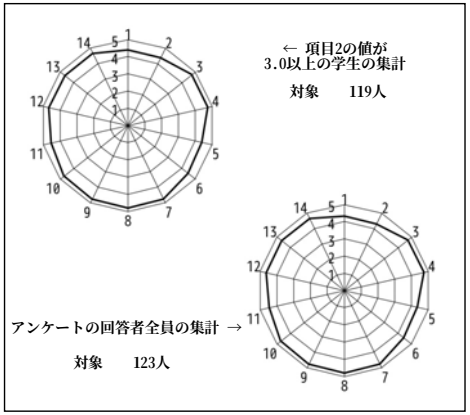
しかしながら、授業に対する評価は、それほど高くなく、いずれも平均を下回る結果であった。とても残念である。

特に、設問15に関する、「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」に対して、「ない」と答えている学生がおり、そのように書くに至った心境等を考えると、とても申し訳なく思っている。講義の中では、社会保障の意義、現状抱える問題点、その一方で、若年世代が特に気にしている年金制度において多くの改善がなされている点など伝えるなど、学生側に立った視点で講義をしていたつもりだが、まだまだ不十分な講義しかできなかったととても反省している。

経済学部 経済学科
稲垣　一之　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際金融論B
授業コード	40D49-001
教員名	稲垣　一之
教員コード	104110
登録人数	249
回答数	123
回答率	49.4%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
授業評価アンケートの回答として、講義内容が分かりやすいというコメントが多数寄せられているため、この講義で扱ったトピックスを受講生は十分に理解できたと判断されます。また、講義中に配布した練習問題について多くの受講生が解答し、その内容が正しいかどうかを確認するために講義後に質問に来ましたが、講義内容を非常に良く理解したうえで解答できていました。

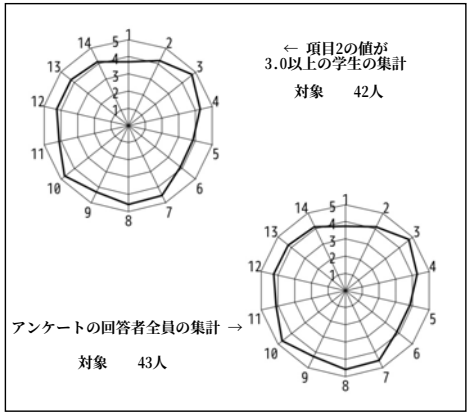
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
自由記述からは、「講義内容が分かりやすい」「難しい内容でも説明が丁寧であるため問題なく受講できた」といった趣旨のコメントが多数寄せられました。また、設問項目番号の13や14は、学部平均を大きく上回っています。そのため、多くの学生にとって有益な講義を提供できたように感じています。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
特に問題なく講義を進めることが出来たと感じています。次回以降も、この調子を維持できるように精進いたします。

経済学部 経済学科
林　尚志　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア経済論B
授業コード	40D55-001
教員名	林　尚志
教員コード	017897
登録人数	102
回答数	43
回答率	42.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、「IT分野を中心に急速な技術革新が進む中、“日本企業の従来の強み”はどう変化しつつあるのか」、「台湾企業や中国企業の競争力、さらには中国のイノベーション能力は、近年なぜ＆どのように高まりつつあるのか」といった疑問に注目しながら、日本とアジア各国との間の“新たな分業関係”のあり方への理解や関心を深めることを目標とした。また、「さぐるべき一連の疑問」を列挙した“教材プリント”および“関連資料”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これら疑問に対する解答を探った。

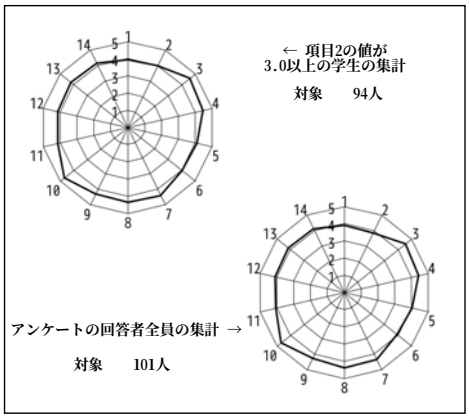
この目標の到達度については、「参考資料が多く、図やグラフを使った説明がわかりやすかった」、「担当教員のアジアへの熱意が伝わってきた」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（９）と関連し、「授業スピードがちょうどよかった」、「授業がスムーズに受けられた」等の指摘がある一方、「スクリーンに映し出された画面の移り変わりや拡大・縮小のタイミングが早すぎて、板書を書き写すのに苦労した」等の指摘もみられたため、「講義内容を深めつつ前者学生の割合を高める」ことができるよう、内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけたい。また、設問（１１）と関連し、さらに「関連文献や資料等の紹介」で工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

経済学部 経済学科
阪本　俊生　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	消費社会論A
授業コード	40D68-001
教員名	阪本　俊生
教員コード	017020
登録人数	221
回答数	101
回答率	45.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



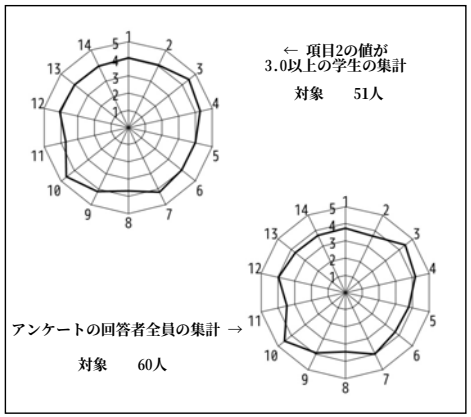
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初、設定していた目標は概ね達成できたと考えるが、最終のまとめの講義で映像の音声が出ず、スタッフの方に来ていいただいたが設定に時間がかかったため、結局は学生に見せることができなかった。この映像とのセットの講義を準備していたので、その締めくくりができずとても残念であった。到達目標の点ではこれが心残りである。数値データはいつも通りで、ほぼ4以上のまずまずの結果である。とりわけ今回は、時間を守っているという部分と構成や進行速度の評価が高かった。音声が聞き取りやすいと言うところの評価も高いが、なぜか自由記述のところに聞き取りにくいと言った指摘もあり、たしかに全体で2度ほどハウリングも起きたことを指摘する学生もいた。ちなみに講義レジュメに関しては、わかりやすいという評価が多い一方、わかりにくいと指摘する学生もいた。学生も多様というしかない。わかりやすさを心がけている。改善点としては、現在の消費についてさらにアップデートをしていく必要性を感じており、そのあたりを改善したい。

経済学部 経済学科
丸山　雅章　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本経済論A
授業コード	40D74-001
教員名	丸山　雅章
教員コード	104492
登録人数	198
回答数	60
回答率	30.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初の目標（日本経済に関する主要なデータ、日本経済の現状・課題について理解できるようになる）については、受講者においておおむね達成されているものと推量している。

② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

昨年度の評価を踏まえ、日本経済の主要な側面について、最新のデータを示すだけでなく、その動きの特徴をわかりやすく解説するとともに、異なる分野相互の関連が理解できるよう説明した。さらに、重要な事項は、全体を通じて繰り返し言及した。説明の内容や分量も見直し、技術的に細かすぎる点は省略した。しかしながら、引き続き説明が単調、強弱がないとの指摘を受けている。

また、B31教室でピンマイクを使用していたが、音声が小さく聞き取れないとの指摘を多く受けた（サポート・スタッフの助言にしたがって操作パネルの音量を上げたことにより一時改善したが、その後再び音声が小さくなった）。そのほか、パソコン画面のスクリーンへの投影がたびたび途切れることがあった。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

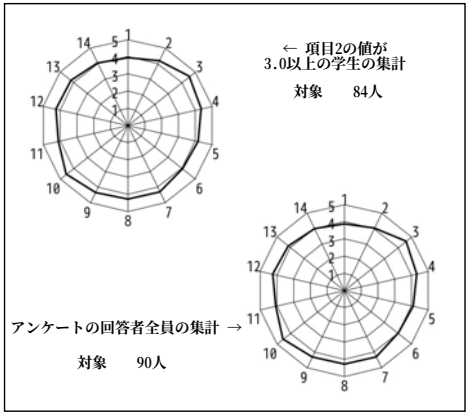
今後の授業では、講義資料の説明の方法、ポイントの強調のしかたを工夫するなどして、さらにメリハリのきいた説明をするよう努めたい。講義資料についてもこうした点を考慮して作成するようにしたい。

また、教室でのマイクの音量、パソコン画面のスクリーンへの投影について、講義の最初にそれらの状況の確認を行い、不調があれば早めに改善措置を取り、受講者にとって聞きやすく見やすい環境を整えるようにしたい。

経済学部 経済学科
岸　智子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	仕事とキャリアの形成
授業コード	40E01-001
教員名	岸　智子
教員コード	100346
登録人数	284
回答数	90
回答率	31.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



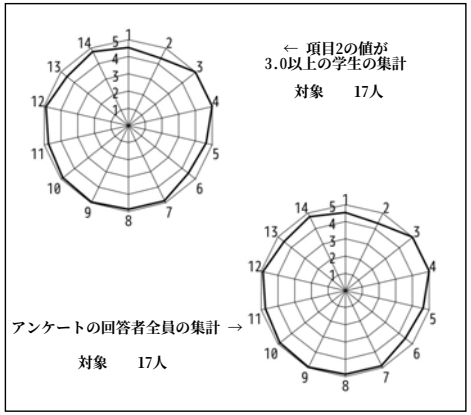
授業評価結果を踏まえた点検・評価

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
＝＞評点は、4を少し上回っており、悪いとはいえない。
　しかし、経済学部の平均点よりは低く、「特にすばらしい授業」とはいえないことを表している。
　ほかの先生がどのような工夫をしているのか、知りたいといつも思っている。
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
＝＞練習問題の答えを丁寧に解説したことが、自由記述で評価されたことが嬉しかった。
　就職に向けた、役に立つ話をもっと取り入れたいと思っている。
　キャリア支援室との連携による、講演会の情報がなかなか伝わらず、参加できなくなった学生が少数ながらいた。
　情報を徹底させる方法について、いろいろと考えている。

経済学部 経済学科
WOOD, Joseph　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション1
授業コード	42G03-001
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	17
回答数	17
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



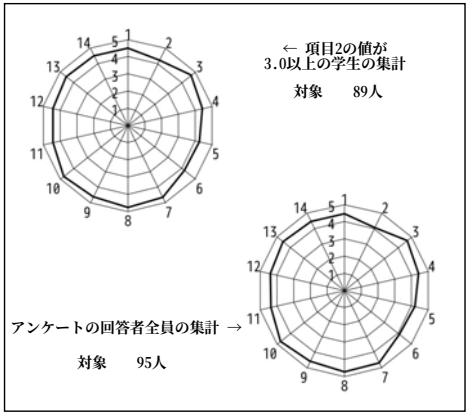
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am very happy to learn that my students are enjoy their Business English Communication course and that they feel they are getting a lot of opportunities to use English in class. I tried many new things this year with the course in order to improve it and I believe they are working. My goal this year was to maximize the amount of time in class for speaking activities and to have students use more English during discussions. I have also created more listening activities for class and am helping students to improve their listening skills in the language. For quarters three and four I will continues to create more time in class for students to actively use English in practical ways that will help them to become better speakers in English. My goal is to get students to become more interested in English and during the final class before summer vacation I gave them several ideas for how they can use English over there summer vacation. I will continue to improve the course and help my students develop their English speaking skills.

経営学部 経営学科
山下　忠康　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相7
授業コード	13C06-007
教員名	山下　忠康
教員コード	101152
登録人数	254
回答数	95
回答率	37.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



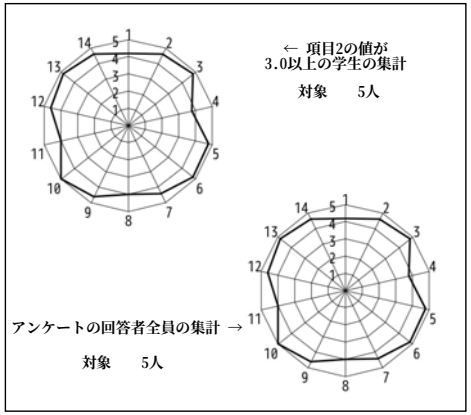
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
今年度も「金融・経済の基本的な仕組みを理解している」、「ライフプランニングと資金計画が作成できる」、「リスクマネジメントの基本を理解している」、「金融資産運用の基本を理解している」、「FP３級試験に合格できる」の５つを到達目標として掲げていたが、筆記試験の状況から判断しておおむねその目標をクリアできたと考えている。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データに関しては、ほぼ平均であり、特にコメントはない。自由記述については、多くの学生からは前向きの感想を頂けていることに関しては担当教員としても嬉しい限りである。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
第３クォーターでも同じ内容で行うが、新型コロナウィルスの関係で対面授業になるのか、オンライン授業になるのか、現状分からないが、学生にとって教育効果が最大になるような形を大学としては選択すべきであると思う。この科目については、いわゆる教員からの知識提供型なので、対面よりもむしろオンライン方式が適合していると、担当教員としては認識している。また、学生からの質問も、対面よりもオンラインの方が圧倒的に多くあり、学生にとっては疑問点をその場で解決できるメリットは大きいと考えている。

経営学部 経営学科
長谷川　高則　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報機器の操作2
授業コード	14D02-002
教員名	長谷川　高則
教員コード	000162
登録人数	9
回答数	5
回答率	55.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



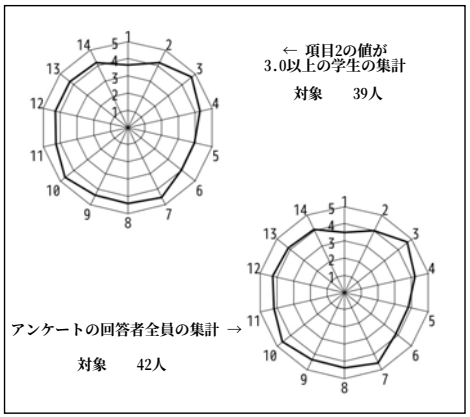
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．授業目標
　この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回は受講者数が少ないクラスであったが、MacBookで受講する学生からの質問に時間が掛かり、授業後に後回しになってしまい、進行状況は少し遅れ気味であった。
２．目標達成度
　出席状況は大変良好であったが、パソコンの種類・OSのバージョンの違いも影響して、開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。
３．授業評価
　前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は4.25から4.50に僅かながら向上した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問10（授業の妨げになる行為への対処）5.00、設問13（新しい技術や能力を得た)4.80等であり、評価が低いのは設問4(授業の構成や進行速度）4.00、設問8(教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたか）4.00であった。設問4の評価を改善するのは受講生のスキル差も有り難題ではあるが、設問8に関してはコロナ禍における音響に関する不具合を改善中である。
４．今後の抱負
　オンライン授業で得た可能性を追及し、デジタル教材を活用して授業の予習・復習のボリュームを最適化したい。次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、エドテックを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

経営学部 経営学科
宮元　忠敏　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学I1
授業コード	42B03-001
教員名	宮元　忠敏
教員コード	017293
登録人数	114
回答数	42
回答率	36.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



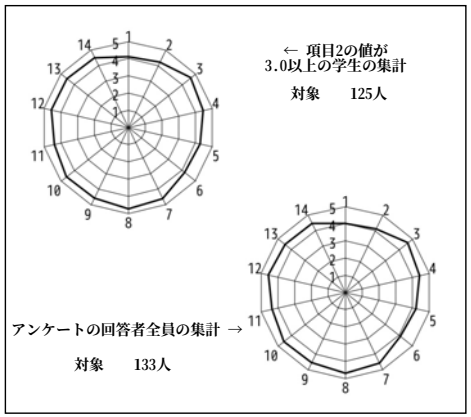
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達の程度：次の項目で学習した。行列の導入、行列の演算、連立一次方程式の拡大係数行列、掃出し法、行基本変形、階段行列、基本行列、行列式の導入、行列式の性質、余因子展開など。概ね目標は達成された。
総合的な自己点検・評価：授業は、復習のための演習、その回の内容解説の流れ、を繰り返した。ディスプレーと白板の両方を使用した。講義ノートのpdf fileは事前に、講義資料置き場に公開してある。復習のための時間をとったことを、よしとする意見（約5件）がよせられた。質問時に、スマホ画面を利用する、タブレットに直接書き込みをするなど、履修生の機器の使用の変化に、時代の流れを感じる。
今後の抱負・方針：授業の構成、PC画面の表示と白板の双方を利用する授業形態は、このまま継続してみる。持ち帰り小テスト2回に参加した履修生の割合が低くなっており、何がしか変化が起こっている傾向にあるように思われる。ただし、小テストは履修生ごとに異なる問題で出題してある。これも電子機器の使用によるわけだが、これにも時代の流れを感じる。この方針を定期テストでも採用するかどうかを検討中である。

経営学部 経営学科
余合　淳　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営労務論A
授業コード	42C05-001
教員名	余合　淳
教員コード	103585
登録人数	254
回答数	133
回答率	52.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



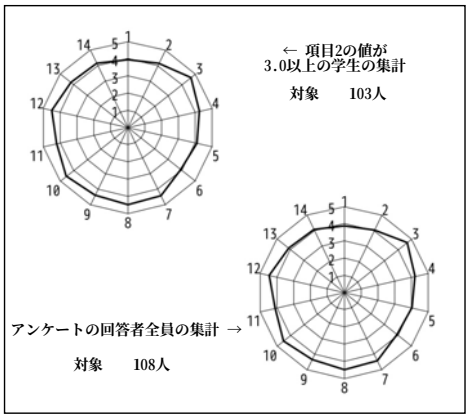
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講義の目標は，企業に代表される組織と人のかかわり方，特に組織側の視点に立ち，組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて，体系的に理解することにあった。講義では，通常消費者，あるいは労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて，特に人材マネジメントについて，企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは，概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は，経営学科平均値とほぼ同等である。項目７，８，１０，１４については高く，開始時間や音声，ネットワーク環境など，授業の円滑な実施についての環境整備については一定の評価がある。私語等，学修意欲に改善点ある学生に対しての指導も行っており，妨げとなる行為にも注意している。満足度を問う問１４に関しても，平均値より0.1程度高く良好である。特に項目８については高く，適切な声量で講義を行うことを心がけている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
経営学科平均と比較して数値の低いものが項目１，および１１である。１については，本講義を担当するのが初めてであったため，学生の中で講義内容を事前に知る機会が少なかったものと思われる。１１については，積極的な授業参加を促すため，Slidoというチャットツールを採用しており，学生からも好評である。ただし，質問時間等をとっても低調であることも多いため，今後はより質問しやすい環境づくりが必要となる。履修者数が多いことにも起因すると考えられ，履修者数に合わせた工夫が必要になると考えられる。

経営学部 経営学科
南川　和充　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	流通論A
授業コード	42C21-001
教員名	南川　和充
教員コード	100478
登録人数	247
回答数	108
回答率	43.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



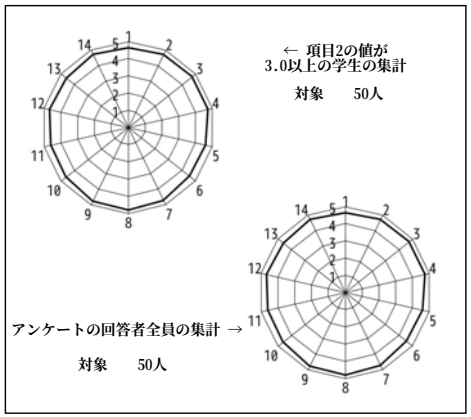
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全項目が経営学科科目での平均値を下回っており、毎回のごとく反省している。しかし、長年低迷していた本科目の授業評価結果は項目1を除く全項目で（前回2018年度Q2との比較で）改善をみた。これは、授業形態がオンラインとなったことにより、例年多くあった私語がなくなり、受講環境がよくなり、受講生が受講態度を改善してくれたことによるものではないかと考えている。到達目標は(1)(2)（シラバスを参照のこと）を設定した。これを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)について肯定的評価の自由記述（流通論という分野を詳しく学びたいと感じていたため、本講義を履修しました。分かりやすい講義によって一つ一つ理解を深めることができました。）があった。目標(2)についてはデータ分析の課題および中間試験（筆答）の出来が良好であったことから、概ね達成されたと判断できる。項目6に関連して、「中間試験結果の返却や提出課題のフィードバック」を実施できなかったので、力が身についていることを受講生に実感させることができなかったと思う。次学期は実施したい。自由記述欄「改善すべき点」には、「説明が詰まったり、たどたどしくて理解しづらかった」などが例年多くあったが今回は1件のみであった。授業中のチャットや授業後（昼休み）に質問の機会を作ったことにより、受講生の理解度を正しく把握することができた。一般にオンライン授業では受講生からの質問は活発になるが、今後対面になっても質問が促進されるような取り組みをしたい。

経営学部 経営学科
中尾　陽子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織心理学A
授業コード	42C25-001
教員名	中尾　陽子
教員コード	064188
登録人数	150
回答数	50
回答率	33.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、到達目標を「『組織』『集団』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、各分野の概要を理解している/基礎的な事項について説明できる/生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる」と設定し、進めてきました。結果は、どの項目も4.5以上で、参加者の方々に概ね受け入れていただけたものと安堵しています。

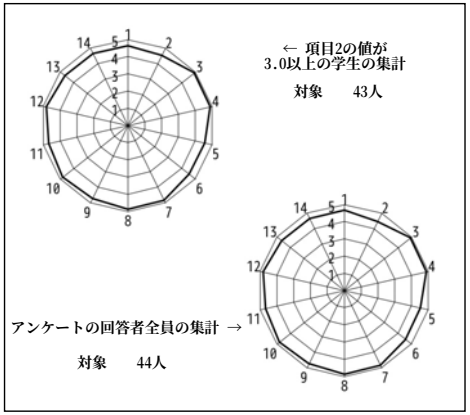
自由記述には、グループワークを歓迎する声が多く寄せられました。「コロナ禍でオンラインの授業が多かった中、実際に人と話し、交流をするということが新しい刺激でとても良かったです。」「全員が積極的にしゃべることによって、オンライン化で失われたコミュニケーション能力を取り戻すことができた。」というような、新型コロナウィルスの影響に関するものもありました。受講生は、入学と同時に新型コロナウィルスの影響をまともに受けた方々が中心でしたので、経験の少ない対面授業で、普段あまり関わりのない方々と一緒にGWをし続けることは、一定の困難があったことと思います。それを乗り越え、お互いに協力しながら一緒に授業を創りあげてくださったみなさんに、心から感謝申し上げます。

今後は、みなさんからのFBをふまえて、よりGWの質が高まるような働きかけをしていきたいと考えています。ガイダンス期間に繰り返しお願いしたことも影響したのか、今回の参加者の方々は、相当に参加意欲が高く、主体性を持って授業に取り組んでくださいました。とは言え、意欲や主体性には同然ながら違いもあるため、その違いをご自分たちで調整しながら取り組むことは厳しいと感じた方もいらっしゃるご様子です。GW中は、更に積極的に教室を巡回し、グループが必要としているサポートを素早くできるようにしていきたいと思います。

経営学部 経営学科
川北　眞紀子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング・コミュニケーションA
授業コード	42C36-001
教員名	川北　眞紀子
教員コード	102879
登録人数	148
回答数	44
回答率	29.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



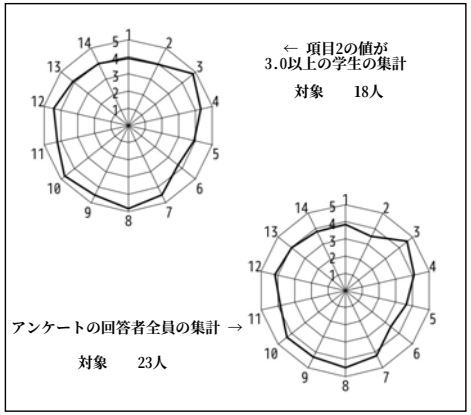
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は，「広告や広報など企業のマーケティング・コミュニケーションについて興味を持ち，体系的な知識を獲得し，さらに簡単にコミュニケーション計画が立てられる」ことである。理解が深まったかという設問13では，4.64と高い。また，「ハイブリッド型だったので、対面に来るのは意欲のある学生ばかりで発言がしやすい雰囲気だった。ゲスト講師による授業ももちろん面白かったが、特に普段の講義がとても面白く、履修して本当に良かったと思えた」とコメントがあった。ハイブリッドは準備や工夫が大変だが，良い面もあることがわかった。主体的に授業に参加したかという設問2について4.45という数字であり，150名規模の平均4.05と比べるとかなり高い。他の項目も4.45以上であり，全体的に高い評価である。コメントも好意的なものが多い。ネガティブな評価は1件あり教員の口調が学生をばかにしているというものであり，気をつけたいと思う。しかし，グループ別対面やハイブリッド，ゲスト講師など多様な工夫をしたおかげで本当に準備に時間がかかった。精神的にも気をつかうことが多かったため，今後は普通の授業で効率よく運営していきたい。

経営学部 経営学科
窪田　祐一　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	原価計算論
授業コード	42C45-001
教員名	窪田　祐一
教員コード	102901
登録人数	58
回答数	23
回答率	39.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



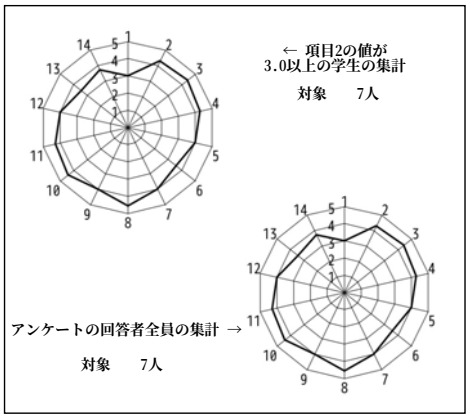
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達としては，受講生に「１．原価計算制度における基本的な原価概念、原価計算制度、ならびに理論を説明できる」「２．企業の原価管理の基礎を説明できる」の2点を習得させることであった。到達度としては，「新しい知識が身につき理解が深まった」「授業の全体の満足度」に約3割の受講生が5点をつけていたが，それ以外の受講生を含めると中央の3点は超えているものの総じて低い結果であった。理由の1つとして，基礎科目である工業簿記を履修していない学生が多いことが上げられるように感じた。会計科目は積み重ねの学問であるため，予習や復習が必須であるが，その設問に対する学生の回答は学科平均が4.2であるにも関わらず，この授業は3.4と著しく低かった。今後は予習・復習を課すことを検討したい。
また，会計科目は資格試験とも関係がある。しかし，本授業では資格試験のための演習などを取り上げていない。資格試験を目指す学生が本授業を履修していた場合は，期待にそっていないことになる。来年度以降，学生が新しい知識を身につけたと感じられるような授業内容を検討してみたい。

経営学部 経営学科
松井　宗也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営統計学
授業コード	42D05-001
教員名	松井　宗也
教員コード	102275
登録人数	16
回答数	7
回答率	43.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



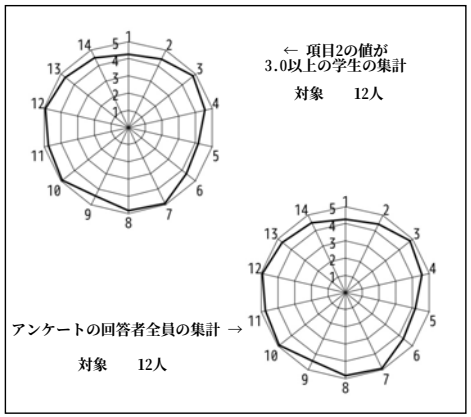
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では「経営学を学ぶ上で将来必要となるデータ解析方法を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は「統計学I・II」で学ぶ理論的知識を前提として、それをシミュレーションないし実データを用いて実践するというものである。無料の統計言語「R」のプログラミングを用いる。教科書はごく標準的なもので、プログラミングが一から学べるようになっている。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。もちろん卒業論文作成にも役立つ。
実際に学生のレポートを採点すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難い。しかし、最終レポート（データを見つけ、「R」と「Excel」で解析し、考察する。）から判断すると、学生の多くは実データの解析がきちんとできているようである。両ソフトウェアの結果もきちんと一致していた。それゆえ、授業目標の6割から7割程度は達成できたと判断する。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってくれれば良い。
以下に授業評価集計を踏まえた反省点を述べる。今学期の授業は全て対面で実施をした。内容は前年度のハイブリッド授業とほぼ同じものであり、１年時の統計学の復習も含めたものである。プログラミングの実習に関しては、学生の殆どが大学に来られる状況であったため、一人一人のパソコンを見回ってプログラミングを指導できた。さらに学生の質問には直接回答することができた。それにも関わらず、授業評価の平均値は、基準は十分にクリアしたものの、ハイブリッド授業であった前年度を下回っている。おそらく、前年度は大学に来れない学生用に動画をアップロードしていたため（内容は授業と同じ）、復習しやすい、自由な時間に授業が受けられる等の利点があったためと思われる。今後は、このようなオンラインのメリットも授業を取り入れることで、より一層授業の質を高めたい。

経営学部 経営学科
安藤　史江　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	意識調査法
授業コード	42D06-001
教員名	安藤　史江
教員コード	019554
登録人数	46
回答数	12
回答率	26.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



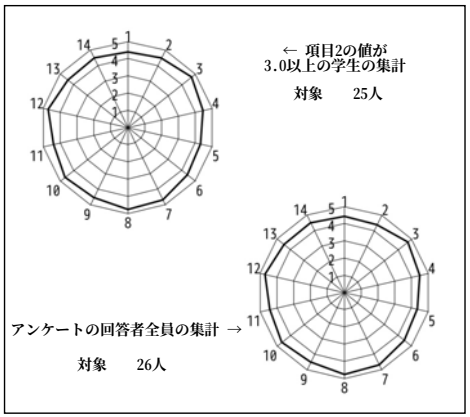
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、統計ソフトRを用いて、意識調査のデータを自分なりの仮説をたてて一通りの分析ができるようになることを目指した。初めて用いるソフトであることから当初は苦戦する学生も多かったように思うが、最終的にはレポートをまとめることができたため、当初の目標は一定の成果を得る結果となったと考える。実際、全体的な満足度も学部平均よりは高く、4.5であり、新たなスキルの獲得に関して尋ねている項目13に対しても、4.67と高い値を得ることができた。また、学習意欲に対しても、4.75と高い値を示している。そのほか、評価されたのは、十分な相談機会についてであり、これに対しては、4.92に達している。一方で、学部平均よりも低い値であったのは、理解度への配慮した進め方、という点で、0.04とわずかであるが、学部平均を下回っている。不慣れなソフトの操作と統計学という点で、受講生の間にも理解度のばらつきが大きかったことから、この点に関してはさらなる工夫が必要と考える。具体的には、まず全員が完全にRの操作ができるようになったのを確認してから、次に進む、という形で、最初でつまずくことを防止していきたい。以上の結果を踏まえて、次期からは、最初の足並みをそろえることに配慮しながら、今回評価された点に関しては引き続き、継続していきたい。

経営学部 経営学科
奥田　隆明　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析A
授業コード	42D09-001
教員名	奥田　隆明
教員コード	102600
登録人数	47
回答数	26
回答率	55.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



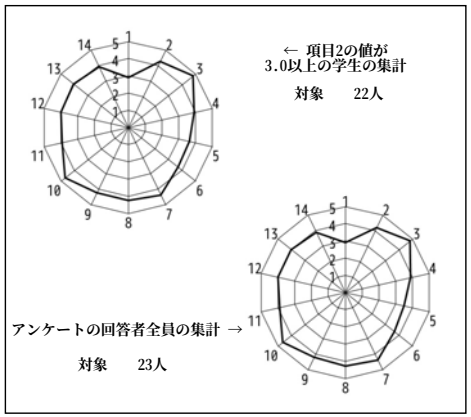
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、都市成長のメカニズムとそのマネージメントについて講義と演習を行った。数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習を行いながら授業を進めた。当初の目標は概ね達成することができたと考えている。実際、受講生の目標理解（設問６）については平均値4.46（学部平均4.15）、目標到達（設問７）については平均値4.69（学部平均4.15）と高い値を示している。また、受講生の知識・理解（設問13）については平均値4.46（学部平均4.38）、総合的な満足度（設問14）についても平均値4.50（学部平均4.36）と高い値を示している。自由回答欄を見ると「データ分析の力が身に付いた」という指摘がある反面、「プロジェクターの文字が小さかった」との指摘も見られる。来年度は、今年度の経験も活かしながら、数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にさらに理解できる内容にすることを心掛けたいと考えている。

経営学部 経営学科
薫　祥哲　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営環境論A
授業コード	42E05-001
教員名	薫　祥哲
教員コード	018168
登録人数	34
回答数	23
回答率	67.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

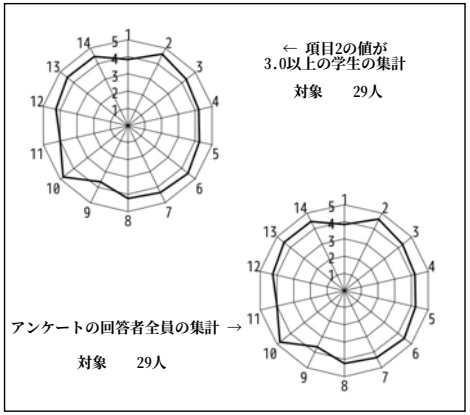
枯渇資源の最適利用、汚染問題、環境資源を公共財や共有資源として捉えた場合の最適な資源利用などについて、ミクロ経済学的なアプローチから講義を行った。また、環境税や排出権取引制度についても、その特徴やメカニズムを説明した。何ごとにも費用とメリットが発生し、これらを比較検討した費用便益分析から最適な環境政策が決定できることの重要性を理解することを目的とした。授業満足度を尋ねた設問14の平均値は3.87であったが、講義資料を適切に用いて学生の理解度に配慮した授業を進めていたかについては(設問9)平均値が4.17となり、全体的には概ねこの目的を達成できたと考える。

最初から31ページ分の全講義レジュメをサーバにアップし、学期中には練習問題課題を2回提出させてから授業で解答を説明した。自由記述欄には、「資料が見やすい」「課題をやることによって復習できた」「理論だけでなく計算を使った問題が良かった」という好意的なコメントがあった。その反面、「グラフを使ったり書いたりしながら考える授業だったので、前を見て話しを聞く時間とは別にメモを取る時間が欲しかった」「ペースが速いので休憩が欲しい」といった要望も見受けられた。今回はじめて、手書きiPadの画面を投影して講義する授業を行った。手書きのスライド画面が見にくいといった意見もあったので、今後、注意しながら授業方法を改善して行きたい。

経営学部 経営学科
姜　秉国　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	オペレーションズ・リサーチB
授業コード	42E16-001
教員名	姜　秉国
教員コード	019547
登録人数	41
回答数	29
回答率	70.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

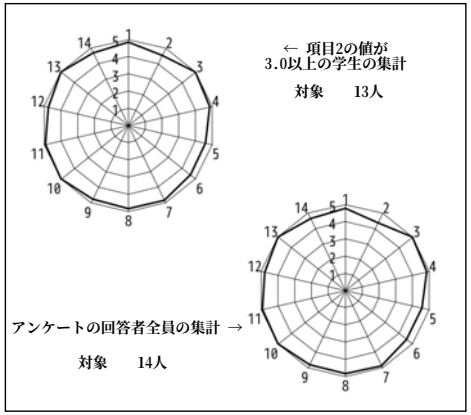
評価項目全般にわたり良い評価を得ている。出来るだけ数式を使わずに平易な言葉で説明し、定型的な問題の解答方法よりＯＲのモノの考え方を理解してもらうよう努力した.。そして身近な応用問題を多く取り入れたことへの評価と受けとめている。Excelに不慣れな生徒が多いのはいつものことだが今年は特に受講生の習熟度の差が大きかった。そのため、できる限り授業は学生の理解度に合わせて進めていった。その結果、授業目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式回答（評価できる点）には、以下のような回答があった。

”先生が優しかったです。難しくてもヒントをくれる点。刺激のある授業だった。質問したら教えてくれる。進むスピードがちょうど良かった。エクセルは苦手な人でも、なんとかついていけるようにスクリーンにやり方を映してくれたところ。先生がとてもやさしかったので、授業に毎回来るのが、楽しみでした。先生が分からない時にとまって分かるようにしてくれた。式をしっかり表示してくれたこと。”

経営学部 経営学科
BIERI, Thomas　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション2
授業コード	42G03-002
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	23
回答数	14
回答率	60.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



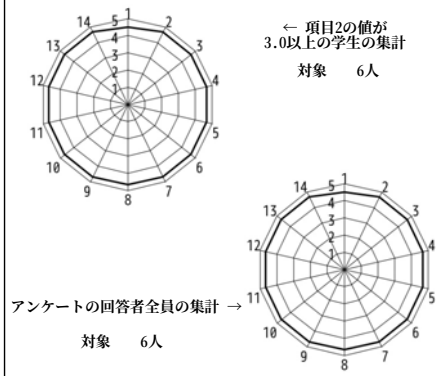
授業評価結果を踏まえた点検・評価

While there are still some lingering challenges to promoting classroom learning due to social distancing and COVID-related absences, I feel that largely the goals were achieved and in a few students well exceeded. Almost every student handled the final assessment smoothly, and even the weakest reached a passing level.
The survey results were very positive, with a 4.82 average across items 3 to 14 and no 1 or 2 responses to any item. There were only 3 responses of 3, and 2 of these were by the same student, as were 6 of the total of 21 responses of 4. However, this student left no comments to clarify, and no students left negative comments or suggestions.
All scores were higher than averages for similar size classes, departmental classes, and university classes as a whole. Understanding the goals, reaching them, and being completely satisfied were the lowest scores, but still all 4.57 or above. Having learned and gained new skills had a perfect 5.0. Several positive comments were left, focusing on the frequent opportunities for cooperative learning and actual use of English.
I will continue to look for ways to improve my teaching with these students and these classes in the future.

経営学部 経営学科
BREMER, Marc　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(ファイナンス)
授業コード	42G21-001
教員名	BREMER, Marc
教員コード	017913
登録人数	8
回答数	6
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This directed reading and lecture format course deals with current topics in business and financial management. The goal of the course is to introduce students to current business management issues while improving their English reading, writing and oral presentation skills.
Most classroom time was devoted to reading and discussing English language articles that appeared in The Financial Times, Wall Street Journal, Nihon Keizai Shinbun and The Economist. The main topics covered in this version of the course were: the Toshiba governance crisis; the impact of the pandemic on supply chains; bankruptcy; and, corporate governance. Students wrote long reports in English about their choice of either a current business topic or a management book.

The goals of the course were achieved. The students now have a good understanding of the several of the current issues in finance and Japanese management. Most responses by students were in the very good categories. The overall evaluation of the course was 4.67 which compares favorably with the average for Nanzan University.

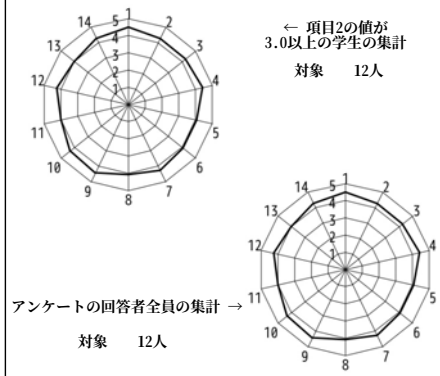
Future offerings of the class will focus on hostile mergers and direct foreign investment in developing countries.

This course was mainly taken by management major students. However, students from other departments, such as British and American Studies and Economics, might find the course interesting.

経営学部 経営学科
湯本　祐司　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(マーケティング)
授業コード	42G22-001
教員名	湯本　祐司
教員コード	017533
登録人数	44
回答数	12
回答率	27.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



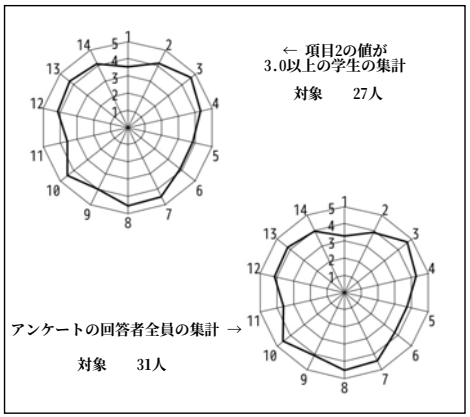
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は英語でプライシングの基本的な理論と考え方および事例とプライシングの理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択科目であり、44名の学生が履修した。今年度は他学部生の履修者はいなかった。学生の報告、授業毎の課題および期末レポートをみるかぎり、毎回きちんと出席して課題を提出した学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者44名のうち12名が回答し、項目１から14の平均と項目３から14の平均はそれぞれ4.23と4.20であり、昨年度より0.3程度低下した。回答者のなかの1名が特に低い回答をしている。自由記述欄には、良かった点・評価できる点として「全員に前で発表する機会が設けられていること」、「毎回授業内で課題を出されたので、学んだことを理解するのに役に立った」、「講義中に出てくる分からないようなものの写真を見せて説明してくれた」こと、改善した方が良かった点として「声が聞こえづらかった」ことが書かれていた。声が聞こえづらいのは、私の声なのか学生報告者の声なのかは不明であるが、音響機器・情報機器の操作をもっと注意してより聞こえやすくすることを次年度の改善点としたい。

法学部 法律学科
河合　正雄　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法2
授業コード	12C03-002
教員名	河合　正雄
教員コード	104426
登録人数	61
回答数	31
回答率	50.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数が31通にとどまるものの、項目1から14の平均、3から14の平均共に4点を超え、好意的なコメントも多かった。「日本国憲法」については、来年度以降も、講義の進行形式（レジュメに沿って講義を行い、適宜テキストや板書で補う）や難易度・内容の密度は現状を維持したい。但し、次の2点について、今後の課題としたい。

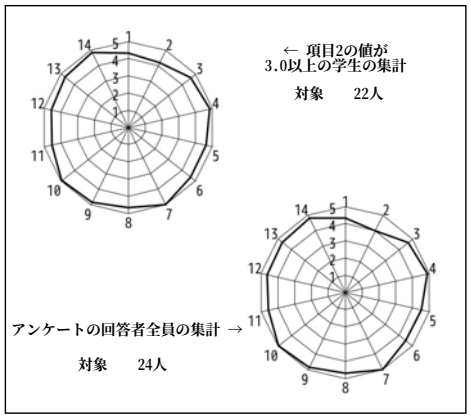
（1）余談について。「話の最中に関係の無い話を、独り言のように脈絡なく入れられると、混乱するのでやめて欲しい。」「脱線が多くなにが必要な事かわからなくなる」という指摘をいただいた。全く脈絡がない訳ではないとしても、私自身も「あっ、今余計なことを喋ってしまったな」と感じることが時々あり、反省しなければならない。適度な余談・雑談は重要だと思うものの、真面目な学生の受講意欲を削がないように、講義の展開や理解に資する方向での余談・雑談となるように心がけたい。

（2）中間テストについて。シラバスと初回の授業で予告した上で、第5回目から14回目（土曜日を除く）の間に抜き打ちで中間テストを実施した（2021年Q4と同様）。「‥いつ実施されるのか、何回実施されるのかが分からなかったため、毎回授業を受ける度にドキドキしていました。何回実施するのかだけでも前もって予告していただけると勉強もしやすく心の準備もできる‥」「‥抜きうちで行われるため、テスト対策がしづらい。」という指摘をいただいた。きちんと出席し、一定の緊張感を持たせる意図があったが、確かに酷な面もある。悩ましいところである。

法学部 法律学科
橋本　広大　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑法総論B
授業コード	44A11-001
教員名	橋本　広大
教員コード	104649
登録人数	45
回答数	24
回答率	53.3%
休講回数	2　回
補講回数	0　回



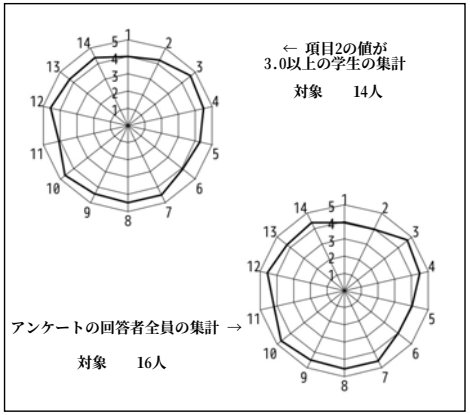
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
試験およびレポートの回答をみる限り、多くの学生が、本科目の目標として掲げていた点を達成できていた。また、一部には、特に優れた回答をしている学生もみられた。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
まず、複数みられた自由記述の内容として、「冷房によって教室が寒すぎた」という旨のものがあった。今後は学生の受講環境について、よりきめ細やかな配慮をすべきと反省した。それを除けば、数値データおよび自由記述等からみる限り、他の科目との比較においてもおおむね良い評価をいただけたものと考えている。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本科目「刑法総論B」は、本年度に限り、刑法総論の内容一通りを14回で説明するという変則的なものであった。今後は、それを、クォーター4つ分の28回で行うことになるため、より詳細に立ち入った内容の講義とする必要がある。本科目の試験およびレポートの回答をあらためて分析し、正解率が低かった問題を、学生が特に理解に困難を覚える点であると（ひとまず）とらえ、今後はその点をより詳しく説明するなどして、学生にとってわかりやすい講義となるよう心がけていきたい。
また、単なる知識の伝達にとどまらず、論理的思考力の涵養や、刑法、ひいては法律学全体の興味・関心を惹起するような講義となるよう努めていきたいと考えている。

法学部 法律学科
沢登　文治　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人権各論B
授業コード	44A20-001
教員名	沢登　文治
教員コード	017863
登録人数	31
回答数	16
回答率	51.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



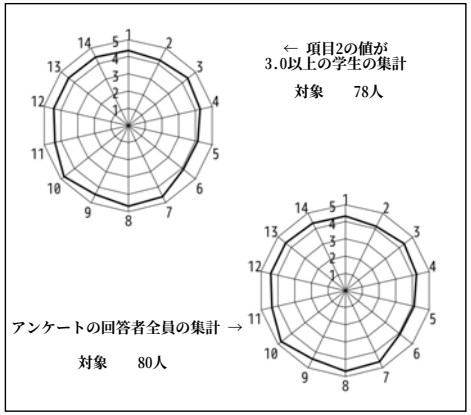
授業評価結果を踏まえた点検・評価

担当した授業は2年生以上が対象の、再履修生を多く含む科目である。
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
設問5は「到達目標を理解することができたか」、設問6は「到達目標に向けて力がついてきていると思うか」という問いだが、それぞれ4.06、4.00と設問1・2以外では低い数字である。シラバスの「到達目標」の再確認を適宜、途中で入れていくなど工夫を怠らないようにしたい。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
設問1・２の学生の興味、予習復習など主体的な勉強は3.94と低迷しているので、できるだけ興味を持たれるよう、外部ウェブサイトの検索など様々な工夫を通じて、教室内だけでなく社会とのつながりを意識させるようにしたい。その他、設問9の「学生の理解度に配慮」は4.50、設問12の「質問・相談の機会」は4.56、設問14の「全体の満足」は4.38と、心配していたより良い結果だったと思う。それに対して前述「到達目標への力」(設問6)、設問11「学習意欲を引き出す」はそれぞれ、4.06、4.19と相対的に低い結果である。また、設問16の改善点として、紙のレジュメを求める人が1人いた。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記踏まえ、紙レジュメの申込制創設や、到達目標の授業中における複数回明確化など工夫と努力を重ねていきたい。

法学部 法律学科
渡邉　泰子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法B
授業コード	44B26-001
教員名	渡邉　泰子
教員コード	101553
登録人数	184
回答数	80
回答率	43.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度「民事訴訟法B」はオンラインで実施した。授業評価の項目1～14の平均値は4.38、項目3～14の平均値は4.40であった。この授業では、「民事訴訟手続の基本構造を理解することができる」ことと、「民事訴訟法に関する体系的な知識を修得することができる」という到達目標を掲げていたが、授業評価アンケートの各設問の数値と自由記述の内容から、ほとんどの学生が概ね到達できたように思われる。

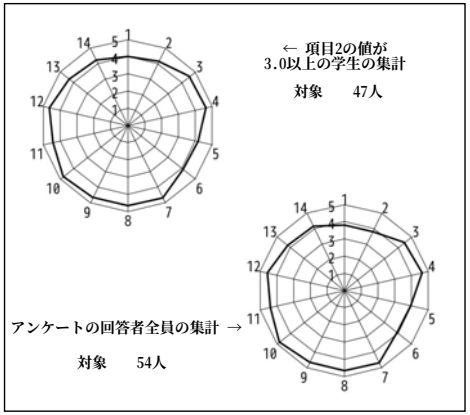
自由記述の内容としては、授業やレジュメの丁寧さ・わかりやすさの点で例年と同じく評価が高いものの、Q1の民事訴訟法A（対面で実施）に比べて難しかったという感想もあり、オンラインの共有画面上で図を書くなど、できる範囲で一層の工夫をしたい。

自由記述は小テストについてのコメントも多かった。対面授業であれば授業終了後の学生の質問などを踏まえて、次回授業で復習を兼ねて説明するなどの対応ができるが、オンライン授業では学生の理解度を把握することが難しいため、Webclass上で小テストを複数回実施したうえで、後日解答と解説を配布するなどした。中には負担増という意見もあったが、復習しながら自分の理解度を確認できたと、多くの学生に好意的に受け止められていることもわかった。学生全員の希望に対応することは難しいが、できるだけ学生の意見を尊重しながら、次年度もより良い内容の授業を提供したいと考えている。

法学部 法律学科
服部　寛　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法哲学A
授業コード　44B31-001
教員名　服部　寛
教員コード　103600
登録人数　182
回答数　54
回答率　29.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



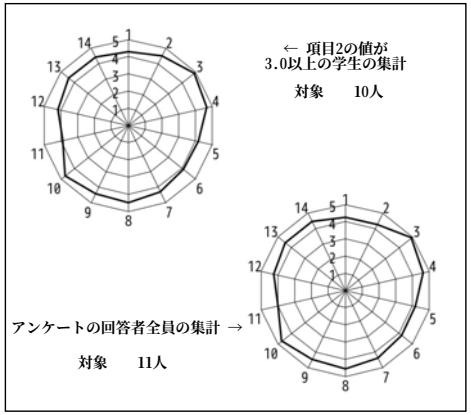
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度の同科目の評価と比較してよい数値が全体的に結果として出されており、安堵している。自己分析を踏まえ、以下の通り報告する。
①開講当初に設定した目標については、シラバスに記載の計画どおりに授業内容を概ね消化できたことに鑑みると、教員から授業で提供する知識の質量としては必要な度合いをクリアーしていると思われる。この点は、項目５・６の数値の昨年度比での向上においても確認することができるところであり、時間が足らず説明が十分でないところがあった昨年度よりも、充実した説明ができた。ただ、学生の試験結果を総じてみると、もう少し出来がよいことが期待されるところであり、授業の説明の複雑さと量の多さの点に照らして、改善の余地があるように思われた。②今年度は、オンラインのみでの開講となることから、開始時間および授業中の適宜の休憩のほか、オンラインでの受講に適した資料配付・授業運営・準備など、昨年度の反省を踏まえ、授業の進め方の点で改善をはかった。この点が、各数値、例えば項目７～１０の高評価ともいえる数値に表れており、率直に励みになる結果である。これに甘んじることなく、さらなる授業の改善をはかりたい。③西欧・西洋の古代～近代（以降）の世界史を駆け足で扱わざるを得ず、学生にとって骨の折れる内容である。世界史の知識と法思想（史）の諸問題とをもっとわかりやすく合理的に説明することができるよう努めたい。

法学部 法律学科
本部　勝大　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　租税法B
授業コード　44C06-001
教員名　本部　勝大
教員コード　104612
登録人数　33
回答数　11
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本授業は、学生が「（1）法人税、消費税、相続税、贈与税の基本的な仕組みを、法律の条文に即して説明することができる」、「（2）　法律が定める計算のルールに基づき、法人の所得額や税額を計算することができる」、「（3）租税法に関する法律問題に対して、自ら法的な解決策を提案することができる」の3点が可能となることを目標として設定した。このうち、（1）については概ね達成できたと考えられるが、（2）及び（3）については十分な成果が得られなかった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
本授業では、教員が一方的に話すだけにならないよう、WebClassを利用した小テストや掲示板による質問受付など、学生の自主的な学習を促す措置を講じた。しかし、アンケート結果によれば、学生の自主的な学習意欲を十分に引き出すには至らなかった考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
到達目標との関係で、今後は、本授業と密接にかかわる簿記会計についても授業中にフォローを行うなど、租税法の理解が深まるように講義内容を深化させる。また、アンケート結果との関係で、今後は、双方向のコミュニケーションを強化し、学生の自主学習を促すより一層の工夫を行う。

法学部 法律学科
青木　清　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読AII（英語）
授業コード	44K06-007
教員名	青木　清
教員コード	017855
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期は、この20年間ほど担当していなかった外書購読を担当したため、この授業が授業評価の対象科目となってしまった。通常であれば、科目選定の際に、いつも実施している講義科目（国際私法ＡまたはＢ）であることを確認するのであるが、今回は色々な事情が重なり、そうした機会がなく、授業コードの機械的な指定により当該科目が対象になった。5人の受講者のうち、4人が回答している。

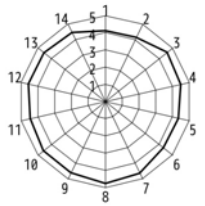
この授業の到達目標は、「法の中にある多様性を理解する」であった。外書を購読することによりこれを理解するというのはかなり高望みな目標であり、実現できたとは言いがたいが、学生たちの評価や自由記述は授業のわかりやすさや説明のわかりやすさを評価してくれており、授業としては成功したと感じている。

新しい知識を外国語を通じて手に入れることの大変さと面白さを実感してくれたと思われる。いずれにしろ、継続性のない授業担当でもあり、単発的な総括になっていることをお許し頂きたい。

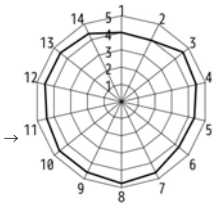
法学部 法律学科
水留　正流　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キャリア入門（法学部）B
授業コード	44L03-001
教員名	水留　正流
教員コード	101566
登録人数	288
回答数	112
回答率	38.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　104人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　112人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目では、法学部2年生にキャリアへの意欲・関心を高めるため、このたび、カリキュラム改正で新設されたものである。ゲストスピーカーを多く招いてオムニバス形式で講義を行った。とりわけ、樋口貴子氏（本学共通教育科目「インターンシップ研修」担当）には多大なご協力を賜った。科目担当者として法学部選出キャリア支援委員を宛て、法学部自己点検評価委員会のメンバーの助言を得つつ授業のコーディネートを行った。成績評価は学生の授業参加度をもとにPF評価を行った。

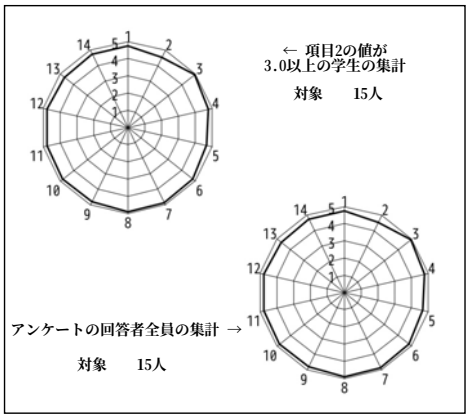
2. 今回の授業評価の平均値は4.43とかなりの高評価となったが、アンケートの回収率は38.9%にとどまるものであるためその評価は慎重に行う必要がある。この点、本科目では学生に対してリアクションペーパーの提出を毎回求めており、今回の授業評価の結果は各回のリアクションの自由記述とも一致する印象であった。したがって、概ね満足な結果を得られたとみるべきであろう。

3. 今年度の本科目は自動登録科目として履修を急遽義務づけたものであったが、学生からはこの点への批判は余りきかれず、むしろ、学部側が履修機会を強力に設定することを支持する意見が散見された。このようなキャリア支援の在り方が学生側からも求められていたことが、今回の授業実施により明らかになったと言えよう。今年度の経験を次の担当者に丁寧に引き継いで、よりよい授業実施が可能となるよう努めたい。

総合政策学部 総合政策学科
山口　和代　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策日本語I
授業コード	46F11-001
教員名	山口　和代
教員コード	049726
登録人数	15
回答数	15
回答率	100.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



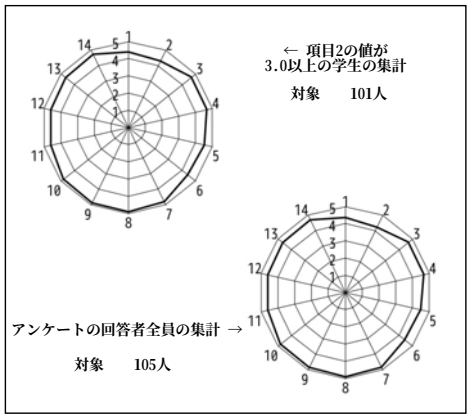
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、現在、世界・社会で起きている問題への理解を深め、具体的課題を取り上げ、問題解決に必要な資料（データ）収集と分析分析、議論を行い、合理的根拠に基づいた提言が行なえるようになることである。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.53から4.93という結果であった。授業への興味についての項目が4.73、到達目標への理解についての項目が4.67、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかという項目が4.80であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、積極的に授業に取り組んだことが伺われる。自由記述欄（授業の評価）への記入はいずれも肯定的なもので、多面的思考を行うためのグループディスカッションの効果をうかがわせる記述が複数あり、ゼミ（プロジェクト研究）の基礎となる知識と技術を学ぶという目標もある程度達成できたのではないかと考える。授業の作業配分に関して、グループ発表への準備時間をもう少し長く設けたほうがよかったのではと思うが、グループでの作業で今まで培った日本語を使用し取り組むことができたことをうかがわせる記述があったことから、授業目標をおおむね達成できたのではと考える。今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるようにしたいと思う。

総合政策学部 総合政策学科
久村　恵子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織行動論
授業コード	46K05-001
教員名	久村　恵子
教員コード	100026
登録人数	202
回答数	105
回答率	52.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、組織とそこで働く人々の行動や態度、またその関係についての理論や知見を理解すると共に、これらの理論や知見を用いて社会問題を考えることを目標とし、モティベーション、ストレス、リーダーシップ、組織開発といった組織行動論の主要トピックスについて、学術的理論や知見を社会問題や日常生活での様々な事象と関連づけながら説明し、組織行動論への理解を深めてもらえるよう努めた。

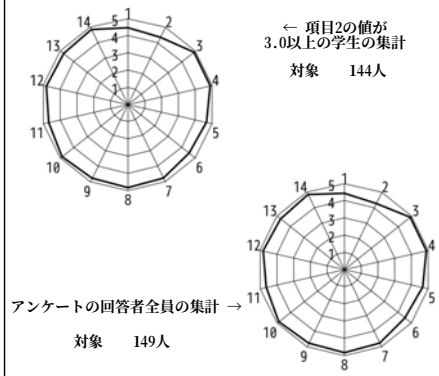
2年にわたりオンライン授業であったこの科目も、今年度は対面での授業となった。そのため、前年度と単純に比較することはできないが、設問1～設問14の平均値が4.63（2021年度4.70）、設問3～設問14の平均値は4.69（2021年度4.75）と若干低くなった。しかし、対面授業であった2019年度の結果（設問1～設問14の平均値は4.60、設問3～設問14の平均値は4.63）と比較すると若干上がっている。また、自由記述も多く寄せられ、「資料や説明が分かりやすい」、「内容が面白い」、「復習や課題のタイミングが適切」など肯定的な評価が得られたことより、例年と変わらず授業運営および全体として肯定的な評価が得られたと判断できよう。

一方、主体的な学習に関する項目（設問2）は今年度も項目全体で最低値（4.21）であったが、「書き込み式のレジュメ資料が予習・復習で役になった」、「トピックス単位での課題が授業内容の理解や復習に役立った」とするコメントが多く寄せられ、自主的な学習指導に関する項目（設問11）は4.60と決して低い値でないため、これらの取り組みが一定の評価を得ていると判断できる。ただ少数であるが「授業の進行速度が遅い」とするコメントも寄せられ、この点については次年度の履修生の反応などを見つつ検討し、授業内容と構成、運営についてさらに改善を図っていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
三輪　まどか　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人権政策論
授業コード	46K06-001
教員名	三輪　まどか
教員コード	102263
登録人数	335
回答数	149
回答率	44.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業においては、現代社会における制度的・法的な問題を発見できるようになる、それらの解決方法として、どのような法政策が考えられるか検討できるようになる、自ら、現代社会における問題を発見し、問題解決のための政策を考え、どのような社会が望ましいか、考えられるようになるということを目標としているが、毎回のリアクションペーパー、期末に課した課題を見ると、多くの学生が十分に到達できているものと思われる。

例年のごとく、設問2についてはやや低めの4.2となっているが、全体の満足度を示す設問14は4.82、項目3から14の平均が4.77とかなりの高評価をいただいたものと思う。これはひとえに、熱心に授業に取り組み、また300字以上という長文のリアクションペーパーを求め、それ以上の学びを深めてくれた学生の皆さんの真摯な姿によるものと思われる。ここに記して感謝申しあげる。

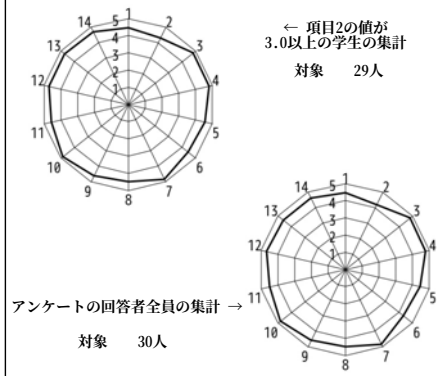
自由記述を見ても、まさに目標として掲げた現代社会における問題を発見し、より深く見ることができるようになったこと、また、そのために自分が何をすればよいかを考えられるようになったことの記述が散見され、十分な授業の効果を発揮できたものと、私としても大変うれしい限りである。

次期に向けて、やはり課題は事前の予習であり、この点をもう少し改善していきたいと思う。また、受講者数からマスプロ授業をせざるを得ないが、もう少しディスカッションのようなものを取り入れてもよいかもしれない。

総合政策学部 総合政策学科
POTTER, David M.　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	非営利組織論
授業コード	46L04-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	66
回答数	30
回答率	45.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

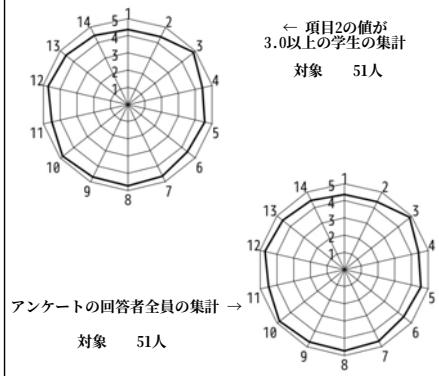
This was an in-class lecture course that surveyed basicaspects of nonprofit organizations and then applied them to eight countries in east and Southeast Asia. The class combined lectures with powerpoint presentations.

The survey results indicate that the students who took the course seriously enjoyed it and learned about the main course topics. I will continue to teach the course in this manner again.

総合政策学部 総合政策学科
鶴見　哲也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　経済政策論
授業コード　46M04-001
教員名　鶴見　哲也
教員コード　102265
登録人数　196
回答数　51
回答率　26.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



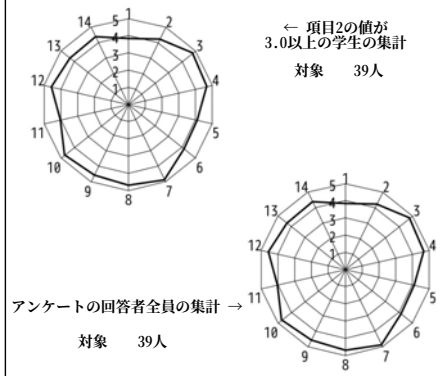
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目１から14の平均が4.58、項目3から14の平均が4.62であり、学部の平均を若干上回り、また登録人数別の平均は大きく上回っており、おおむね良好な評価を得たと考えている。開講当初に設定していた目標と到達の程度については、最終レポートの水準が想定していたよりもすぐれていたこと、自由記述の回答にフィンランドや日本の幸福度に関する学びがあったことが書かれていること、から目標は達成できたと考えている。自由記述の回答より、質問をする機会をオンラインで設けたことが良い評価につながったことが示唆される。授業中のチャットを用いた質問も随時受け付け、その内容について一つ一つ回答することが理解につながったと考えている。今後も学生とのやり取りを積極的に行うことで、理解度を把握し、必要に応じて授業内容を開講期間中に練り直すことで、より学生の理解につなげていくことを目指していきたい。オンラインによる授業も一定程度評価が高いため、今後も活用ができる場合には積極的に活用を考えていきたい。

総合政策学部 総合政策学科
野口　博史　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　政治行動論
授業コード　46N08-001
教員名　野口　博史
教員コード　100473
登録人数　108
回答数　39
回答率　36.1%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目的は、体系論にもとづく政治社会的法則および理論の理解であるが、定期試験受験者の全員が単位を取得し、このうち良好な成績を収めたものが44人、うち特にすぐれた成績を収めたものは６人であった。この数字は例年より明らかに高く、出題方針および採点基準に変更がないことを考慮すると、到達の程度は高かった。

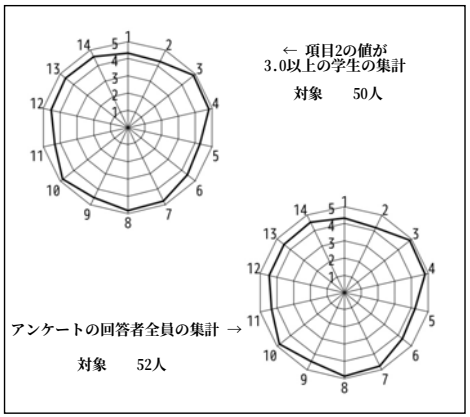
この結果は、本講義が３年ぶりに対面で実施されたことにも起因すると思われ、昨年度よりも各設問に対する回答の平均値は0.1ほど高くなっている。

自由記述欄の記入は「とくになし」などを除くと16件、うち改善点の指摘は５件であった。例年のように講義要旨と板書きの内容がかならずしも一致していないなど、意図的におこなっていることの説明不十分に起因する指摘があったが、この点は技術的問題であり、今後は十分な説明に努めたい。過年、最大の問題であり、５年ほど前に完全消滅にいたり、その後ふたたび指摘を受けるようになった「早口」に関する指摘は、今回１件であった。今後、この根絶をめざしてゆくべきと考える。

総合政策学部 総合政策学科
山田　哲也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	安全保障論
授業コード	46N19-001
教員名	山田　哲也
教員コード	100839
登録人数	97
回答数	52
回答率	53.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



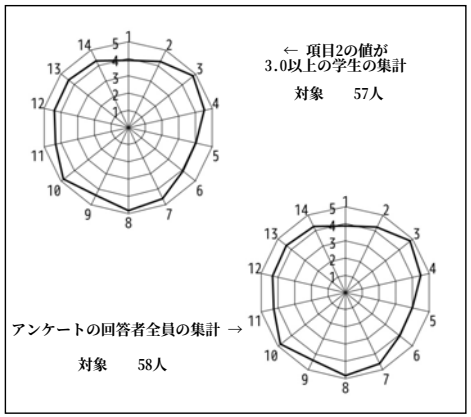
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
内容的に前年から大きく変えた点はないが、ロシアのウクライナ侵攻とも関連させることで、できる限り、学生の関心を高めるようにした。そのため、若干、後半部分の説明が予定通りとはならなかったがやむを得ないと考える。
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
講義そのものへの関心・評価が高かったことが、自由記述からは伺える。資料類を前日までにアップロードして欲しいという声が高かったのは、若干驚きである。高校までの日本史・世界史の基礎知識を確認した上で講義をすることで、学生の関心を高めることができる、ということは確認できた。パソコンだけでなく、タブレット端末を使ってメモを取る学生も増えてきたので、それに対する対応も必要かもしれない。
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
第4クォーターに初めて開講する講義科目があるので、今回のアンケートを踏まえて、読みやすい資料を早めに準備したい。

総合政策学部 総合政策学科
藤本　潔　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球環境論
授業コード	46N20-001
教員名	藤本　潔
教員コード	100100
登録人数	130
回答数	58
回答率	44.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



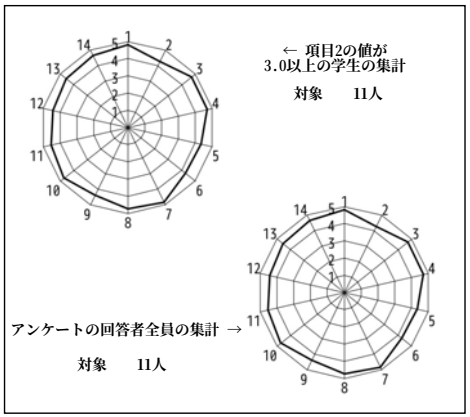
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は3年ぶりに対面で実施された。項目3～14の平均値は4.44で、直近5回の値（2021年4.66、2019年4.20、2018年4.40、2017年4.60）と比べると中間的な値となった。受講者数は、2017年243名、2018年440名、2019年310名、2020年191名、2021年105名、今年度130名と、昨年度よりはやや増えたものの2019年度以前と比べると大幅に減少している。本科目は環境政策および国際政策にコース指定されており、ここ数年最も選択者が多い公共政策コースが指定されていないことが受講者数減少の要因と考えられる。オンライン授業の場合は、最初の70分程度で集中して講義し、その後に30分程度の時間を確保してリアクションペーパーを書かせるとともに、質問を受け付ける時間としていたが、チャットで気軽に質問できるせいか質問も多く、設問12の値が昨年度は4.84と大きく向上したが、今年度は対面授業であった2019年の値（4.13）は上回っているものの、4.34に低下した。質問の時間はオンライン時同様に確保していたが、特定の学生を除き、リアクションペーパーを提出するとさっさと退出する学生がほとんどであった。自由記述欄を見ると、質問しづらい雰囲気だったと記載した学生もいたため、いかに質問しやすい雰囲気を作り出すかを検討したい。

総合政策学部 総合政策学科
大八木　英夫　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境科学
授業コード	46N24-001
教員名	大八木　英夫
教員コード	104123
登録人数	29
回答数	11
回答率	37.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



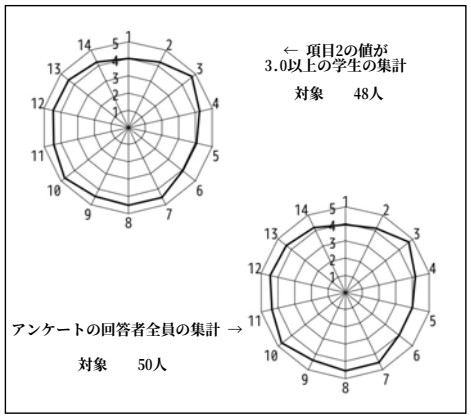
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では，環境科学に関する各専門分野の知識を横断し，自然環境と人間との関わりを科学的に探究し，現代社会で生じている地球環境問題についての理解を修得させ，多岐にわたる専門分野における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容ついては，常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れて，日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら，学生の意欲を引き出すことに努めた。アンケート結果からは，進行速度や構成についてはやや評価されなかった部分があるが，概ね学生からの対応は良好であり，授業への展開については良好であったと考えられる。また，配付資料の在り方など課題も指摘されており，改善するよう努力したい。今後に向けては，特に，時事ニュースは，常に変化していくものであり，今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら，環境科学や地球科学，自然地理学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し，環境科学の基本論理の講義を介して，環境について自分で考える能力を身につけさせることを目標としたい。

総合政策学部 総合政策学科
佐藤　創　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済学
授業コード	46N27-001
教員名	佐藤　創
教員コード	103882
登録人数	155
回答数	50
回答率	32.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及び試験結果の結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の項目1から14の平均は、4.333から14の平均は4.38である。なお、回答数は50でおよそ3割であり、最後の授業でアナウンスしたが、やや少ない。

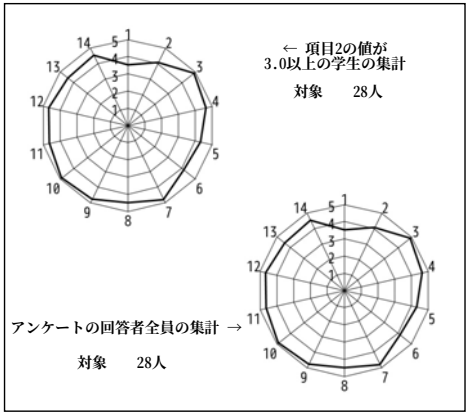
150人を超えるマスプロの対面授業ということで、本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせつつ授業を進める方法を採用した。国際経済学は統計などを使う項目もあり、図表等は必要な場合には繰り返し説明した。なお、学生の集中力を考慮し、おおよそ４0分ごとに、数分ほど見せたスライドを再投影して、復習兼リラックスの時間を設けた。また授業参加度１０％部分のリアクションペーパーは、次の時間の冒頭にそのなかから10点ほど選んで、前回の復習を兼ねて紹介し補足説明を行った。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。なお、感染防止のために休むがオンラインで受講したい受講生がいる場合には、ハイブリッドで講義を行った。

引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」を高めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

総合政策学部 総合政策学科
太田　和彦　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境思想論
授業コード	46N28-001
教員名	太田　和彦
教員コード	104469
登録人数	93
回答数	28
回答率	30.1%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



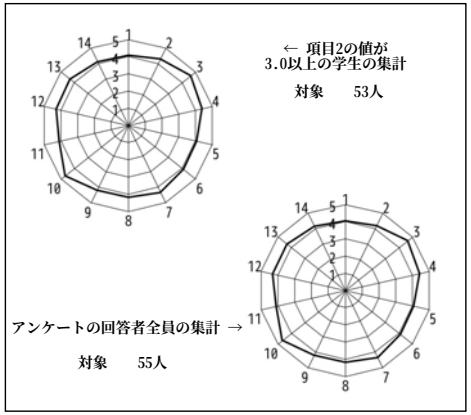
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①シラバスに書いた学習目標は概ね到達されていた。
②「環境思想論」では、配布資料をスライドではなく全部テキストにした。要領は下記の通り。・8,000-10,000文字/回くらい。・既存のスライドは図表として使用。・講義中に10分間、流し読みする時間を設定。・読み上げではなく、概説。
講義後のアンケートで利点としてよく挙げられていたコメントは下記のとおり：・時間を区切って、全体像を掴むために全体を流し読みするということをしたことがなかったので新鮮だった。・卒論などで論文や資料を読むトレーニングになった。早く読めるようになったと思う。・資料を見て講義内容を思い出しやすい。
③数値からは下記が読み取れる：「4　4.64　毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」「9　4.75　教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」これらから、資料を全てテキストにしても受講者がわりとついてきてくれている様子がうかがえる。受講生からの反応が良かったので、今後も継続する予定である。

理工学部 ソフトウェア工学科
蜂巣　吉成　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報モデリング
授業コード	52B06-001
教員名	蜂巣　吉成
教員コード	019448
登録人数	230
回答数	55
回答率	23.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は学部3年生を対象とした科目である．昨年度は全回オンライン授業であったが，今年度は対面授業で行なった．基本的に毎回授業の前半に講義をし，後半に演習問題を出題して，解答および質問の時間を設けた．授業の最初に前回の演習問題の解説を行なった．授業後，昨年度のオンライン授業を録画した動画を復習用に公開した．内容は全く同じではないが，体調不良等で授業を欠席した学生には役立ったようである．
毎回の演習問題とレポート3回で成績評価を行なった．開講当初に設定していた目標に，多くの学生は到達していたと考える．

授業中にアンケート回答の時間を設けたが，回答率は25%と高くない．全学共通の設問1～14について平均値は4点を超えている．自由記述欄の評価できる点として

毎回の演習問題のおかげで理解が深まった
説明がわかりやすかった．
演習問題の解答が充実してた点．

など，演習問題の解説や動画が好評だったようである．改善した方が良い点として，

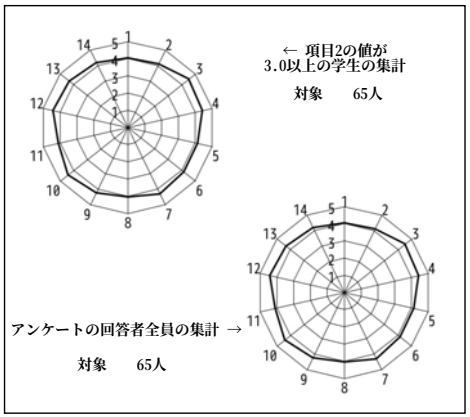
声が聞こえづらいことがあった
スライドが見えにくいことがあった

などの意見があった．
来年度はマイクの音量などに気をつけたい．

理工学部 ソフトウェア工学科
横森　励士　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アルゴリズムとデータ構造
授業コード	54A07-001
教員名	横森　励士
教員コード	101114
登録人数	226
回答数	65
回答率	28.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

過去2年，レポートによる成績評価を行っており，今年度は試験に戻すことも考えていた。最終的に，試験に代わって幅広く問題を解かせるレポート課題を新たに設定した。コピーへの対策として操作対象となるデータを学生によって異なるようにしたプログラムを作成，配布した。全15回やった内容を，できる限り広く捕捉した形で成績付けができるようになったので，この形式は悪くないのかなと思う。

その分，レポートの採点が２００通で２週間かかり，大変であったが，試験でやるよりは真に理解できていない部分が見えた気がする。例えば，バブルソートと選択法の区別がついていない学生が多かったり，開番地法の意味を理解していなかったりとかがあった。

来年度以降は，レポートの配点を増やして，もう少し課題数を増やし，理解度をより広く捕捉したい。また，もう少し指示だしを加えることで，レポート中でアルゴリズムの概要を説明させるようにし，採点を素早く判断できるようにしたい。

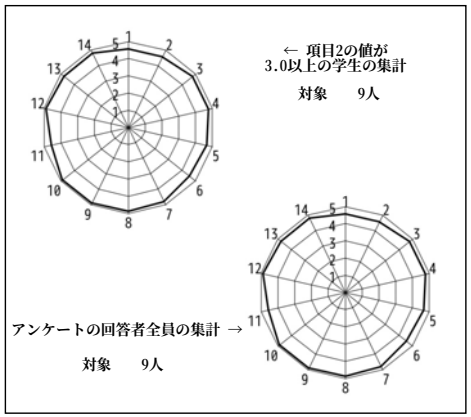
授業評価に関しては，平均評価が４を超えており，まずまずの内容であったと思われる。できる限り質問対応を行うことにしたことも効果的であったと思うので、今後も継続していきたい。個別の声からも，おおむね好意的な評価がなされていたと思う。

いくつかの批判点については，毎年指摘されており，気を付けていきたいと考えている。

理工学部 データサイエンス学科
小市　俊悟　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	PBL実践演習[SS]
授業コード	51B12-001
教員名	小市　俊悟
教員コード	101691
登録人数	19
回答数	9
回答率	47.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① この科目の特徴の一つとして、到達目標に「エンジニアデザイン能力を活用した自由度のある課題の解決法を知っている」というものがある。つまり、学生はグループを構成し、グループごとに解決したい課題を考え、協働して一つの課題を解決すことに取り組む。このような授業は、学生にとってもあまり経験のない授業形式だと思われるが、それを達成するために、はじめ数回をかけて、機械学習の各種手法をまずは各自で学び、授業計画中盤では、実践的ではあるが、ある程度用意された課題に取り組み、最後数回で、グループごとに具体的な自由課題に取り組むという方法を取った。これにより、およそ目標としていた水準には到達したと考える。

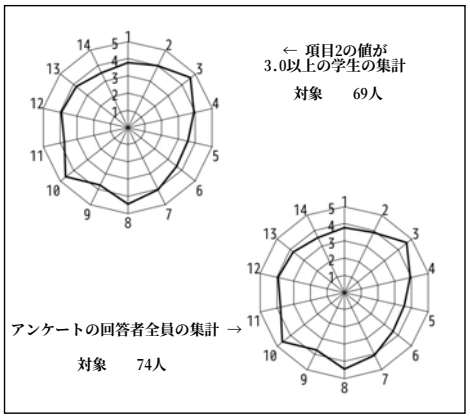
② 受講生が多くないこともあるが、回答された数値は、自身のこれまでの授業評価の中でも最も高いぐらいの数値となった。このような評価となった理由には、この2年間、新型コロナ対策のために、自主学習が可能となるような教材を充実されたことにもあると考える。機械学習の各種手法に関する解説資料だけでなく、プログラムについては、ビデオ解説を用意してあった。これらが、自分の学習ペースで学ぶことを可能し、各学生の理解度に合わせた学習を学生自らが行ってくれた結果として、評価が高くなったと考える。コメントにも、「主体的な授業展開であったため、自力で理解しようと努力することができた。」というものがあり、これはこの科目の目標でもあるので、それが達成されて喜ばしい。

③ この科目としての開講は今回で最後となる予定である。ただし、その内容の一部は、新理工学部のPBL実践演習に引き継がれると考える。新科目では、必修化のために、受講生の人数などが大幅増加すると思われるが、自主学習が可能などの、この科目の特徴を新科目でも活かしていきたい。

理工学部 データサイエンス学科
河野　浩之　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データベース[S]
授業コード	53B09-001
教員名	河野　浩之
教員コード	048595
登録人数	256
回答数	74
回答率	28.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

技術用語を中心とする部分については，おおよそ目標を達成できた．SQLの演習については，オンラインで問題を提示や解説はできても，オンライン講義中に，学生の問題解答を行う時間を確保することが難しかった．

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

SQLの記述ができることを目標としたが，2.34の評価となっており，あまり身についていない自己評価となった．これは，先に記述した通り，オンライン講義形式であたったため，SQLのプログラム記述時間を取ることが難しいことにあったと考えられる．なお，技術用語を含め，SQLの動作に関する選択肢による問題は，WebClassで毎回提出した．

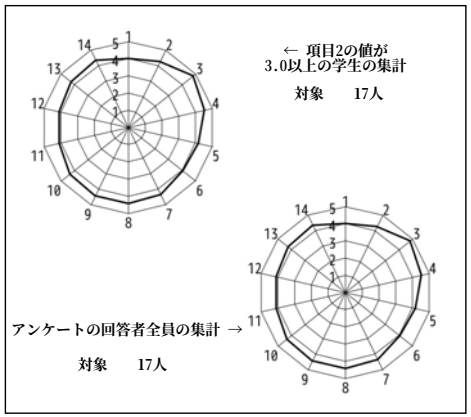
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

改組に伴い，当該科目の担当は，今年度までとなる．なお，次クォーター・学期以降は，新規担当科目であり，対面授業となることを考えて，自由記述欄にある通り「（オンラインで）100分間話し続ける講義ではなく、問題解答・休憩時間を確保し授業の構成に変化」が求められている．対面授業に伴い，演習時間を導入し，提示資料の枚数を絞りたい．

理工学部 データサイエンス学科
小藤　俊幸　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	微積分学II[TD]
授業コード	55A02-001
教員名	小藤　俊幸
教員コード	101907
登録人数	75
回答数	17
回答率	22.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



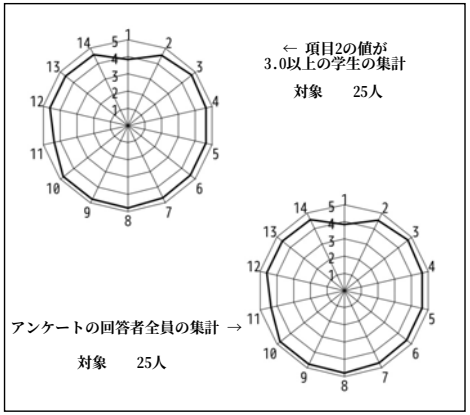
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターの「微積分学I」に引き続き，微積分学の初歩について学習する入門的な授業である．奇数回授業、偶数回演習と交互に行い、授業も，おおむね1時間を講義に，残り30分を学生が演習問題を解く時間にあてている．積分が中心で，基礎的な微分方程式の解法や広義積分が主な内容である．２年次の「統計学」での応用を意図して，広義積分では，正規分布を紹介している．そのように，２年次以降の勉強に役立つことを強調したことが功を奏したらしく，熱心に勉強に取り組んでくれた学生も多い．ただし，第1クォーターの「微積分学I」と比べると，成績はかなり見劣りする．不合格者もかなり出て、その多くは，高校までの学習に問題があるように思われる．近隣の私立大学（理系大学、理系学部）のように本学も，リメディアル教育を真剣に考えないといけない時期に来ているのではないかと思う．

理工学部 電子情報工学科
宮澤　元　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[B]2
授業コード	10C01-036
教員名	宮澤　元
教員コード	019422
登録人数	40
回答数	25
回答率	62.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

情報ネットワークを安全かつ有効に利用するためのモラル、関連する法律、自衛策、さらに、それらの理解に必要な最低限の技術的事項について、講義およびe-learning、グループディスカッション、発表を通じて理解を深めることを目標とした。アンケート項目の多くが4点台後半で、目標は達成できたと考える。

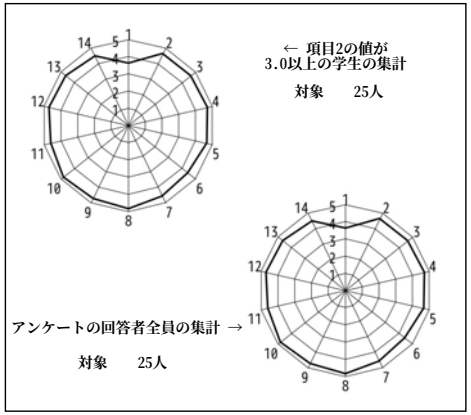
設問1の結果が低めで本科目への学生の期待はさほど高くなかったが、設問13・14の結果から科目で目標とする知識・技術は十分伝わったと考える。自由記述でも情報倫理について考えたり確認できたことを評価する意見があった。グループワークや発表動画作成も知識や技術を身に付けるのに役立った様子がうかがえる。改善点としてグループ構成に関する指摘が目立った。特に授業登録だけで受講しない学生が割り当てられて実質人数が少ないグループに不満があったようだ。グループ分けは事前公表の上、初回授業の欠席だけで受講意思なしと判断できず、拙速なグループ組替で混乱を招かないようにこのような扱いとなった。今後はこのような状況も考慮してグループを決定したい。

今年度が初めての担当である上に全学科開講の科目で、事前に担当教員間で共有した標準的な運営方法を踏襲するためにやや硬直的な運営になったのは反省点である。今後はクラスの様子を見た柔軟な対応を心がけたい。特にグループディスカッションを盛り上げるための適切な介入について検討したい。

理工学部 電子情報工学科
藤井　勝之　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[HC・B]2
授業コード	10C01-040
教員名	藤井　勝之
教員コード	101244
登録人数	35
回答数	25
回答率	71.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



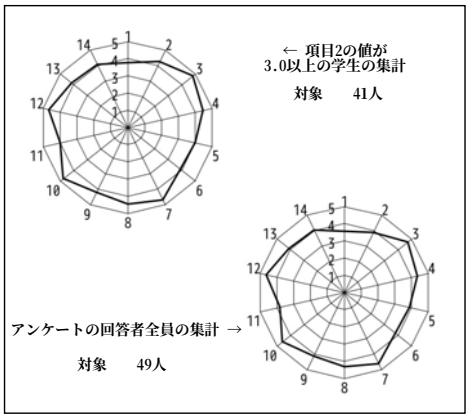
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度から初めて情報倫理を担当することになった．全学で同一の内容なので，あらかじめQ1の吉田先生の講義を毎回見学し，進め方や受講者達の反応を学ばせて頂いた．（吉田先生にはこの場を借りて御礼申し上げます．）レーダーチャートを見ると設問1が3.64であったのに対し，設問13が4.64，設問14が4.48と，良い評価は得られたと考えられる．この講義の内容を設計した桑原先生？の功績は大きく，とても良い教材だと感じた．反省点は，グループディスカッションで積極的に議論する学生が少なかったので，質疑応答に対するインセンティブが必要ではないかと感じた．自由記述欄：項目15：グループで協力して1つの問題に取り組むという機会が今まで少なかったので良かったです。先生が優しいところです。グループワークで全員が協働して動画を作成することで、コミュニティができたり、理解度を各々で深められること。スライドや動画の作成方法について理解を深めることが出来ました。レポート課題→グループ発表という流れがやりやすかったです。情報の危険に対して知識がついたので自分で自分を守れるようになったこと。先生の話が面白い。この講義を受け、インターネットの危険とも隣り合わせであることを深く学べたこと。発表動画を回を重ねるごとに良いものを作りたくなるような意欲を掻き立てる授業であった点。自分が用意したレポートに対して複数の人が評価をしてくれる点がとてもよかった。項目16：私のグループの分け方の問題かもしれませんが、プレゼン準備の負担が大きすぎました。動画の評価が生徒へゆだねられるという点でみんな内容よりも編集という観点で評価されてしまうことが多かったと思う。またみんなから良い評価をとるために編集に一番力を入れようという考えがみんなに見られた。項目17：動画を見ているとスピーカーで嫌な響き方をしているように感じた。

理工学部 電子情報工学科
佐々木　克巳　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	論理と集合2
授業コード	50A26-002
教員名	佐々木　克巳
教員コード	018051
登録人数	134
回答数	49
回答率	36.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



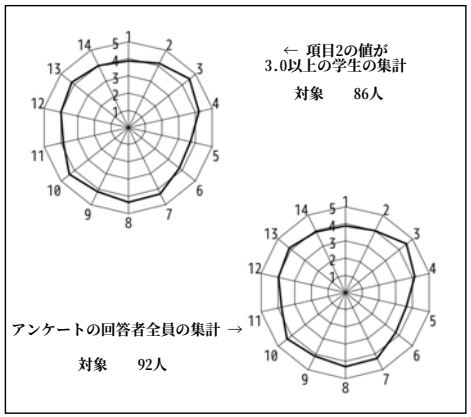
授業評価結果を踏まえた点検・評価

[目標]この授業の目標は，数学で用いられている基礎的な概念に対し，(1) それらの数学的表現を正しく読み取ること，(2) それらの概念を数学的に正しく表現すること，(3) それらの概念の性質を理解すること，(4) その性質の論証を定義に基づいて行うことである．運営面では，オンライン授業で，中間課題はレポート形式，定期試験は対面での筆答で行った．昨年度の経験から，練習問題の略解を含めた講義資料の事前配布，その資料に基づく解説を主とした進行，画面の切替時の内容の復習，質問時間と練習問題を解く時間を適宜設けることを継続した．課題は，webclassを利用した記号を入力するものを多く取り入れ，記述式のものは量を減らすことにした．
[評価] 設問3～14の平均は4.25で例年通りである．昨年と比べ回答数が半減している(2021年度105件，2022年度49件)ことには注意したい．設問15には，[目標]で述べた，説明・解説・配布資料の丁寧さやわかりやすさ，質問への対応，授業時間に適宜練習問題を解く時間を設けたことなどの肯定的なコメントがあり，[目標]で述べたことが反映されたと考える．一方，設問16では，手書きの文字については，否定的なコメントが9件あり，回答数も踏まえて，昨年の6件と比べると，とくに改善が必要と考える．利用するソフトウェアを2020年度に戻したのだが，今後オンラインで行う場合にはそれも含めて検討したい．昨年みられた，課題の締切を遅くしてほしい旨のコメントは，今回はなく，ここにも[目標]で述べたことが反映されたと考える．理工学部独自の設問では，設問21と設問22では，4割以上が3または4を選択，ほぼ全員が2～4を選択しており，達成度が確認できる．
[今後の計画] 今後，オンライン授業を行うことがあれば，利用するソフトウェアの検討も含め，手書き文字を見やすくできるようにしたい．画面の切替時の内容の復習，練習問題を解く時間と質問の時間を設けることは継続したい．Webclassを利用した入力式の課題もより適切な形に更新していきたい．

理工学部 電子情報工学科
奥村　康行　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	通信ネットワーク基礎2
授業コード	50A31-002
教員名	奥村　康行
教員コード	101219
登録人数	141
回答数	92
回答率	65.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



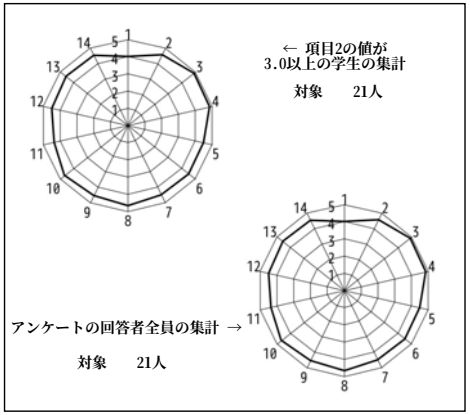
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1．開講当初に設定した授業目標:　通信システムの基礎知識を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2．目標達成度:　約80%の受講者が目標を達成した。
3．　担当科目についての授業評価:　　評定値は学部科目平均と同等だった。自由記述のうち改善を希望された項目は、板書・説明が早い(3) 、ホワイトボードの文字が見にくい(4) 、板書が多すぎる(1) 、板書は図面のみで解説が口頭ということがあったが文章も板書してほしい(2) 、解説を詳しくしてほしい(2) 、回答が返ってこない(1)であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として，進行が適切(2) 、説明がわかりやすい(12)、質問に対し適切に回答してくれた (2)、静かで聞きやすい(2) 、紙の資料が配布された(1)などがあり、これらは今後も継続する。
4．次年度の改善方針:　要望として返事が返ってこないという指摘があったが，これはwebclassでコロナ濃厚接触者となったというメールを受け，返事が遅れたということがあったので，これではないかと思う。特に感染症が増えている時期なのでwebclassは毎日チェックが必要と思っている。なお，講義内容についてメールでの質問は無かった。板書を消すタイミングが早すぎないように注意するが，教室の前面の大半がスクリーンであり，板書に使えるのが小さな２面しかなかったことにも問題があると感じている。

理工学部 機械システム工学科
大月　英明　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[B]3
授業コード	10C01-037
教員名	大月　英明
教員コード	047340
登録人数	45
回答数	21
回答率	46.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

各項目の傾向についてはほぼ例年と同様である。評価の平均値はおおむね4.5前後なので、授業運営も大きな改善の必要はないと思われる。

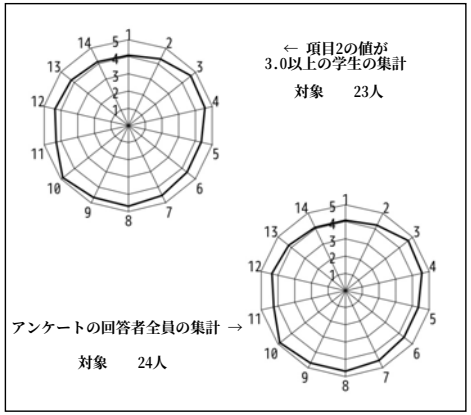
この科目はクォーターごとに4クラス以上担当しているが、クラスによって学生の授業の取り組み度合いに温度差があるのを強く感じる。また評価の回答者数に関して、授業中に複数回アナウンスしたにも関わらず回答数が少ない。取り組み度合いと回答者数に関連があるような気もするのだが、これは今後の検討課題にしたい。

このクラスでは、グループ分けに不満を持つ学生が発生し、初めての試みではあるが、当初グループの見直しを行った。不満の内容は、「グループ学習の作業量の不公平さ」であり、特定の学生に作業が集中することであった。これはどのクラスでも多少は発生している問題ではあると思われる。直接、教員に訴えてくる学生もいるが、あきらめている学生もいるかも知れない。学生それぞれの作業能力の差、例えばスライド作りに慣れているかどうか、プレゼンテーション能力の有無、などあるのは仕方ないことである。コロナ対策で、プレゼンテーションが動画作成になってしまったこともあり、学生一人一人の貢献度がわかりにくくなっている。この点に関しては、グループディスカッション時に積極的に介入することで改善していきたい。

理工学部 機械システム工学科
中島　明　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	機械工学基礎
授業コード	53B06-001
教員名	中島　明
教員コード	103140
登録人数	174
回答数	24
回答率	13.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



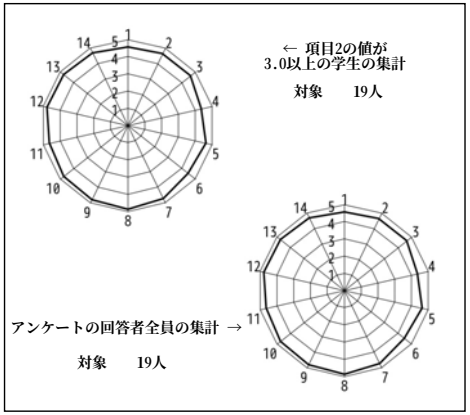
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目的は，線形代数，微分方程式，力学に関する基礎的な知識を理解で，振動工学における典型的な振動問題に関する定式化と解法を身に付けることである．後に詳細を述べるが，学生のレポートの解答内容から，大体の学生は十分な習熟レベルに達していると思われ，当初予定した目標に到達していると考えられる．
設問項目は概ね4点以上であり，また，自由記載欄においてもこちらが意図した内容（復習，サブレポートによる基礎知識の復習など）が学生に伝わっていることは良い点であると評価できる．一方で，設問21，22は3点未満と低スコアとなっており，少なくとも学生の実感としては本講義で扱った内容を習熟したとは実感できていないことが分かる．しかしながら，単位を取得した学生のレポート内容は概ね設問内容に適切に解答しており，前述したように，当初予定した習熟レベルに達していることが伺える．したがって次年度以降では，学生の実感と実際の習熟レベルのギャップを埋めることが課題として挙げられる．

理工学部 機械システム工学科
本田　晋也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	PBL実践演習[SC]
授業コード	53B11-001
教員名	本田　晋也
教員コード	104254
登録人数	20
回答数	19
回答率	95.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
項目21のアンケート結果は3.53となっており，さほど高い値となっていない．これは，2年生以降プログラミングを行っていない学生が多く，グループワークの前にプログラムの書き方に躓いている方が多かったためだと思われる．この問題に関しては，今後2年生以降でのプログラミングの機会を増やす必要があると考える．

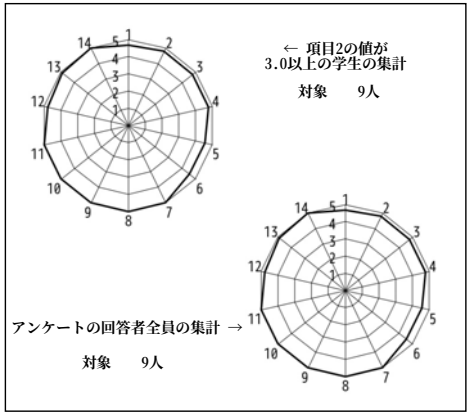
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
プロジェクトベースの開発でグループワークを学ぶという目的に関しては，3.5と普通であった．一方，項目19は4.79と取り組みに関しては，多くの学生が積極的に取り組んでいたという結果になった．実際演習風景を見ていても，ほぼすべての学生が積極的に取り組んでいた．項目14の満足度が4.68と高いことから，学生にとって有用な講義が実施できたと考える．

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本講義は今年度までであり，新学科では別の教員が新しいPBLを実施する．今回の講義の知見を新しいPBLに反映できるよう引き継ぎを行っていく．また，演習については，Q3の専門プログラミングの実施に反映させる．

国際教養学部 国際教養学科
YARDLEY, Gabriel　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G]1
授業コード	11A02-032
教員名	YARDLEY, Gabriel
教員コード	016998
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

There appeared to be general satisfaction with the course in terms of the style of class, the syllabus objectives and the materials used throughout the quarter. A few students seemed doubtful as to whether they understood the goals of the course or whether they were indeed working towards the course objectives. Although one-on-one feedback regarding each student's overall performance was provided during the course, a few students do appear to have been doubtful as to whether they understood the goals of the course or whether they were indeed working successfully towards the course objectives (Qs. 5 and 6). The instructor will more clearly try to ensure in Quarter 3 that such students are fully aware of the course objectives and of their progress if they should be in any doubt regarding this issue.As in Q1, these students worked conscientiously on their assignments and class materials and were a pleasure to work with.

国際教養学部 国際教養学科
永井　英治　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化と情報3
授業コード	13E09-003
教員名	永井　英治
教員コード	018861
登録人数	10
回答数	4
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

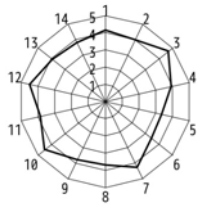
この授業については、回答者が少数のため集計が行なわれないことになった。昨年度までは司書課程の授業が乗り入れていたので、設定数（30）まで受講者があったが、今年度から乗り入れ状態を解消したところ、このような結果となった。単純に乗り入れ状態を解消しただけであればこのような事態になることはなかったと思われるので、受講者の少ない授業は学生に敬遠されることが窺える。これは授業を行なう側にもあてはまる。数人を相手にした授業は、応答も難しく思われた。以下は、それでも授業に出ていた学生の反応を思いだしながらの、自己点検である。

この授業は「アーカイブズ学入門」という標題を掲げているが、内容はアーカイブズ学の最新の動向を踏まえている。いずれ「アーカイブズ学とアーカイブズ実践」に変更すべきではないかと考えていた。しかし、専門性を強調すると受講生に敬遠されるかと思いためらっていたのであるが、今年度の受講生には専門的な内容について授業後に質問に来る学生がいて、専門性の強調は有効と考えるに至った。アーカイブズ学のある部分を概観する講義より、専門的な分析を行なった講義について質問されることが多く、受講生の関心はかなり高度であると判断された。またアーカイブズの現場の作業をシミュレートした回を意識した設問を試験に出したところ、関心を呼んでいたことが伝わってきた。今後は専門性を十分に意識することも心がけたい。

国際教養学部 国際教養学科
林　愼将　先生

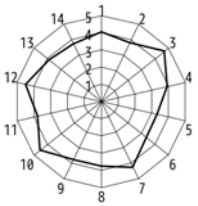
2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	言語論B / Linguistics B
授業コード	48C23-001
教員名	林　愼将
教員コード	104656
登録人数	153
回答数	59
回答率	38.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計

対象　53人



アンケートの回答者全員の集計 →

対象　59人

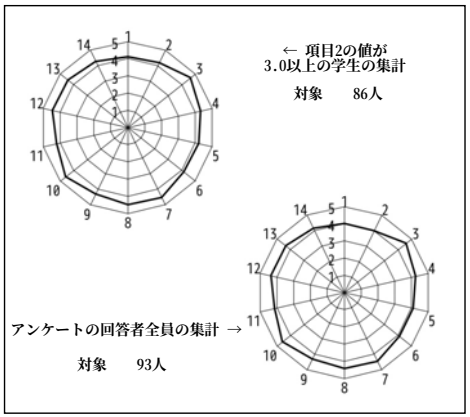
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1．言語理論の手法、内容を紹介し、仮説をデータによって修正していく考え方と、言語分析に必要な概念、基礎知識を提供することを開講当初の目標としていた。前者については、「なんのためにそういう考え方をしているのか分からない」と述べる学生や、実際のデータを無視して「自分はこう思う」と独自の考えを打ち出す学生もおり、今一つ経験科学の考え方を伝えられていないと感じた。後者についても、言語を分析する際の抽象的な概念の理解が不十分であるように見受けられる学生も散見された。より良い目標達成のため、人間にとって身近な言語を分析することの難しさや、日常的概念と学術的概念を区別する意識を持たせることが必要だと考える。
2．難易度に関して難しかったという記述が多く、このことは設問5、6の平均値が他の設問と比べて低かったことにも表れている。本科目は今年度が初めてであり、学生の理解度の事前予想が不十分だった。毎回の授業でのリアクションペーパーを通しできるだけ解消するように努めたが、クォーターの早い段階で難易度の修正をしておく必要があったと感じた。
3．毎回の授業で、学生のリアクションペーパーに回答していくことは学生のモチベーションにも繋がることが分かったので続けたい。一方で、授業の時間配分についての指摘もいくつかあった。これは、学生の疑問点に回答するために時間を使わざるを得なかったことが原因であるため、授業難易度や説明の方法を見直すことにより改善したい。

国際教養学部 国際教養学科
吉田　信　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と国際関係　/ Globalization and International Relations
授業コード	48E03-001
教員名	吉田　信
教員コード	104481
登録人数	162
回答数	93
回答率	57.4%
休講回数	1　回
補講回数	1　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.　開講当初の目標と到達程度
当該科目の基本的な知識を習得することを目標として講義を構成した。授業評価の結果からはある程度の到達度が確保されたことが推測できる。ただし，関連する授業を履修していない学生がほとんどであったことから，平易な説明を心がけたこともあり，結果として相当の労力を費やすこととなった。

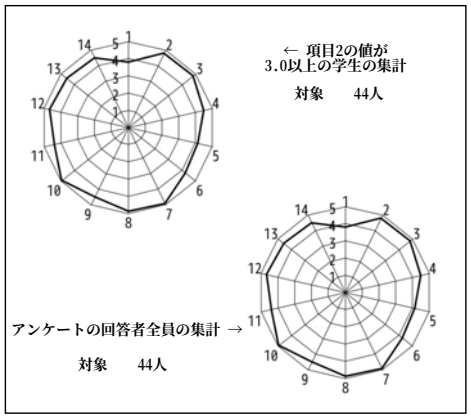
2.　担当科目の総合的な自己点検と評価
この科目については今回が南山大学での初めての講義となるため，受講生の前提となる知識・理解力を探りながら進めていかざるを得なかった。自己の理解できない内容については担当教員にその責を負わす傾向のある学生が散見される中，どのように専門科目の理解を深めてもらうか取り扱うテーマや教材の選択に腐心した。

3.　次クォーター・学期以降に向けての改善点・抱負など
自由記述の改善点については，施設面での改善以外は講義に適切に出席したうえでのコメントであるのか判断しかねるものもあるためそれらに対する対応はなかなか難しい点がある。また，基礎的な知識の習得を目標とした場合に，どういった形態での講義が最適であるかは毎回模索しており，講義支援に活用できるようなアプリ等の使用を含めて継続して検討していきたい。

国際教養学部 国際教養学科
森山　幹弘　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)<国際科目群>
授業コード	48E07-901
教員名	森山　幹弘
教員コード	100090
登録人数	55
回答数	44
回答率	80.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



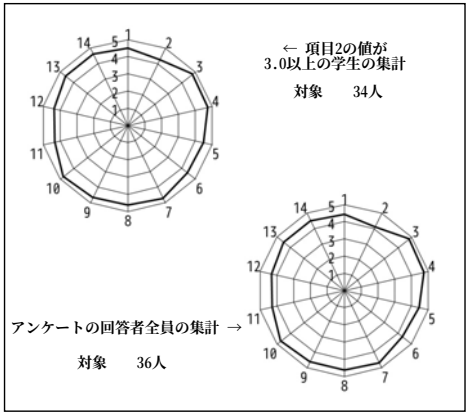
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目ではカルチュラル・スタディーズの鍵となる概念について理解すること、さらにはその概念や理論を我々が生きている社会に当てはめて考えることができることを目標とした。これについて、13番の設問「新しい知識を得たり、理解が深まったか」に対して4.57の平均値を得ていること、また自由記述から当初の目的は達成できたと考えられる。②受講者のうち、全く出席しなかった者を除いた49名のうちの44名がこの授業評価に回答してくれていることから、本授業に対して受講者が積極的に参加する姿勢を持っていたことが窺える。設問の14番の全体としての満足度(4.50）からも、3年目となるこの授業が概ね狙い通りに運営できていたと考えられる。特に、予習を義務付け、グループワークを授業時間の真ん中において受講者が相互にテキストの理解を深めた上で自らの問題としてグループで議論するという授業の運営形態が、受講者の勉学への意欲を高め問題の理解を深めるべく機能したことが自由記述から窺われた。③自由記述からもう少し簡略な説明が求められている一方で、丁寧な補足的な説明が評価されてもおり、次年度に向けてより適切な時間配分を検討したい。またグループワークをまとめる課題を遅らせて欲しいという要望やグループワークの評価が個人の評価となることの不公平性に対する意見があったが、これらの点について受講者の理解と納得が得られるように授業の開始時に丁寧な説明を行うよう改善したい。

国際教養学部 国際教養学科
塩寺　さとみ　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステイナビリティと国際問題 / Sustainability and International Issues
授業コード	48G04-001
教員名	塩寺　さとみ
教員コード	104489
登録人数	78
回答数	36
回答率	46.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



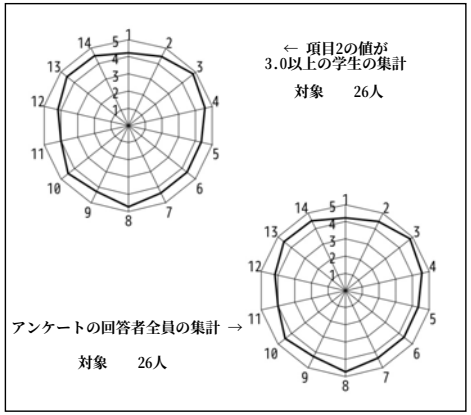
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は国際問題における地球環境問題の理解を目的としており、到達目標は以下の4点である。
1．地球環境問題の発生要因とその影響について列挙し、内容を説明することができる。
2．地球環境問題に関する様々な資料を読解し、整理することができる。
3．基礎的な知識を用いて地球環境問題の解決策について議論できる。
4．授業内容について自主学習により自ら理解を深めることができる。
本授業評価において、到達目標の理解（設問5）は4～5評価が76%台であった。また、定期試験では多くの学生が適切な回答を行っていたため、本授業の目標はおおむね達成されたと考えている。ただ、試験の回答を見ると、内容を理解しているにも関わらず、適切な専門用語を用いた回答ができていない学生が見られたため、この点について今後、授業の際に強調する必要性を感じた。一方、授業の構成や進行速度（設問4）は4～5評価が94%であった。昨年度はZoomでのオンライン授業であったため、今年度は全体的に授業内容の構成について見直しを行った。本授業では、環境問題に関するそれぞれのトピックに各2回分を割り当てており、2回目はグループディスカッションの時間を設けているが、これによって理解が深まったとの評価を得ている。また、昨年度から引き続き行っている「授業内容に関連した最新ニュースの紹介」についても好評であった。
本授業では、毎回、授業資料サーバーに講義資料をアップするとともに、授業後にレスポンスペーパーへの回答を課していたが、授業に出席せずに回答のみ行う学生がみられた。真面目に出席している学生からいくばくかの不満の声も聞こえてきたため、今後、改善していきたい。
次クォーターでは、引き続き良いところは取り入れつつ、学生の学習意欲と理解が高まるように改善していきたい。

国際教養学部 国際教養学科
神崎　宣次　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies B(Environment and Development Studies)<国際科目群>
授業コード	48G08-901
教員名	神崎　宣次
教員コード	103280
登録人数	59
回答数	26
回答率	44.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



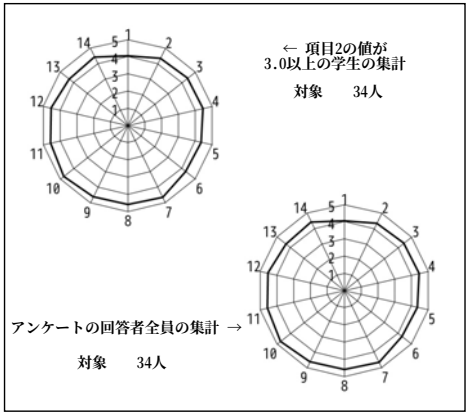
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1）開講当初に設定していた二つの目標、多くの報告書の内容をグループワークによって時間内に概観する、授業中に他人の報告を聞いているだけになる時間を発生させず全受講生に作業を行わせる、についてはおおよそ到達したと考えている。ただしグループ内でのディスカッションの時間をもう少し確保する必要性は残った。これについては割り当てる資料の分量の調整により対応可能と考える。
2）自由記述でも指摘があったように、各グループでの理解内容の授業時間内での確認および指導をどうするかという問題が生じた。
3）今年度は新しい授業スタイルを取り入れ、結果として成果もあったが、2）で述べた解消すべき点も明らかである。この問題の根本には、並行して同じ作業を行わせるグループの数、つまり受講者定員の多さがあるため、来年度までに何らかの工夫を考案しないとこの問題は解消できないと考える。

国際教養学部 国際教養学科
林　徳仁　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies D (Political and Economic Studies)
授業コード	48G10-001
教員名	林　徳仁
教員コード	104615
登録人数	56
回答数	34
回答率	60.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



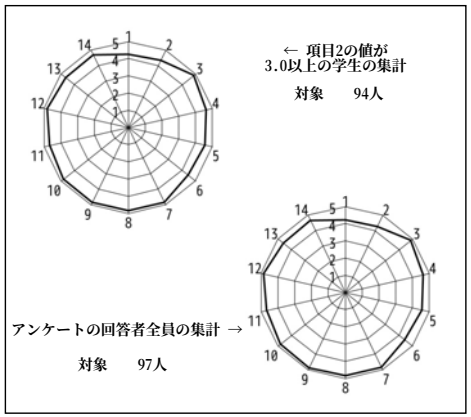
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 本授業は、講義、ディスカッション、映像、グループ・プレゼンテーション、ゲストスピーカーなど様々な方法を通じて、日本社会におけるエスニック・マイノリティの多様性と複雑性について理解を深め、議論できる能力を育成することを目標としていた。毎回の授業の後に提出されたコメントペーパーと、期末レポートから判断すると、多くの受講生は、開講当初に設定した目標に到達していたと考えられる。
② 全項目平均は4.46、項目3から18の平均は4.50であり、国際教養学部科目の平均（それぞれ4.38、4.42）より、やや高い評価を得ている。自由記述の回答からは、「様々な視点から移民に関する問題を知ることができた」、「資料が見やすかった」、「グループワークで全員が積極的に授業に参加できた」といった肯定的なコメントが記されていた。一方、数人の学生からは、「ディスカッションの時間が少ない」、「グループプレゼンテーションの準備をする時間がもっと欲しい」という授業内の時間配分に対する意見もあった。
③ 授業内での工夫により学生の興味を引き出せたと考える一方、授業全体の中での講義と学生間の議論の時間配分や授業の進行速度に関しては、改善することができると考えている。今後、講義と学生同士での議論とのバランスをより適切にとることで、学生の授業への参加度をより活発にさせ、理解を一層高めるための工夫を念頭において授業を進めていくことを目指していきたい。

国際教養学部 国際教養学科
篭橋　一輝　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステイナビリティと経済システム / Sustainability and Economic System
授業コード	48G13-001
教員名	篭橋　一輝
教員コード	102569
登録人数	218
回答数	97
回答率	44.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
　開講時に学びの目標として設定されていた事項は、概ね充分に達成できたと考えられる。

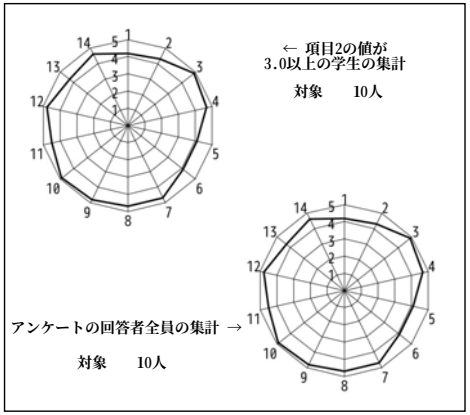
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
学生97名が回答し（うち項目2の値が3.0以上の学生は94名）、項目1から14の平均値は4.65、項目3から14の平均値は4.72であった。国際教養学部の平均値と比較して、前者は＋0.27ポイント、後者は＋0.30ポイントであり、学部平均よりも高い評価を得ている。自由記述の回答からは、講義と演習の組み合わせが良かったこと、授業資料が見やすかった、学生へのフォローアップが丁寧であった等、ポジティブな意見が41件寄せられた（項目15）。項目16では、Zoom授業に参加していない学生がいたことや、学生同士のディスカッションの機会がもっとあると良かった等のコメントが寄せられた。項目17は特に問題は報告されず、項目18では資料が見やすかった、授業前に資料がアップロードされたので受講しやすかった等の意見が寄せられた。授業全体の満足度の平均値は4.66であり、全体としては概ね授業の内容に関して好評価が得られたようである。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
オンライン授業での実施にもかかわらず、学生から好意的な評価をしてもらっていることが分かり、大きな励みとなった。今後も引き続き、丁寧な資料づくりと学生のフォローアップを図っていきたい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
平林　美紀　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	契約法B
授業コード	44B18-001
教員名	平林　美紀
教員コード	100773
登録人数	33
回答数	10
回答率	30.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この「契約法B」は，前年度まで「契約法（各論）」の名で法学部1年生向けに第3クォーターで開講されていた科目で、本年度（2022年度）からのカリキュラム変更に伴い，2年生以上を対象として第2クォーターに開講されるようになった。移行期のため、本年度に関しては履修登録者が極端に少なくならざるを得ないという特殊事情があった。そこで、講義でフォローする範囲は従来通りとするが、少人数（登録者は30余名であったが、出席者は常時20名程度）の授業になったことを活かし、出席者の授業中の取り組み姿勢に例年以上に留意しながら授業を進めることにした。シラバスには記載されていないが、民法に対する苦手意識を少しでも解消できるよう、条文を読めること，解釈できること、当てはめて答えを導けることを授業中に実感してもらえるような授業を展開することにした。

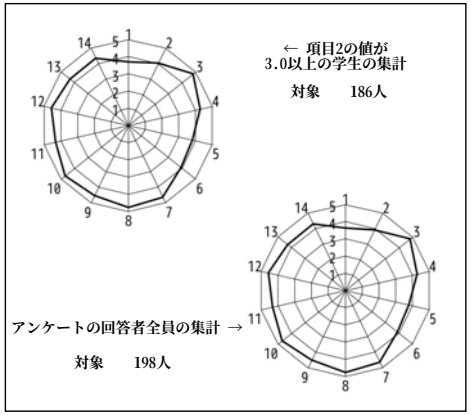
アンケートの回答数は少なく、自由記載も僅かに2件だけであったが、質問がしやすい環境があったことや、学生が理解できているかどうかを教員が気にしていることを評価する言葉があったことには手応えを感じた。しかし、設問項目5（到達目標に向けて力がついてきていると感じるか）や、同13（新しい知識の獲得や理解の深まり）についての数値は他の設問項目と比べて低く、学生自身の自己評価の低さを払拭しきれなかったのではないかと反省している。

次年度は再び、大講義の形式に戻るものと予想されるが、対面授業であることの強みを活かして、学生の理解度に配慮した授業を継続していきたい。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
深川　裕佳　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	担保法
授業コード	44B92-001
教員名	深川　裕佳
教員コード	104089
登録人数	343
回答数	198
回答率	57.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本講義では民法第2編「物権」（条文では民法175条から398条の22まで）のうち，講学上，担保物権としてまとめられる分野（295条以降）について，判例・学説を踏まえながら，その基礎理論および制度内容を理解し，具体的な事例問題を解決できるようになることを目的とし，(1)各制度の概要を理解し，具体的な例を挙げて，それを説明することができること，(2)用語の意味を理解し，具体的な例に即して，それを説明することができること，(3)適切な条文を適用して，具体的な事例問題を解決することができること，(4)判例および学説を踏まえて，自己の見解を述べることができることを到達目標として掲げていた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

全体としてこの授業に満足しましたとの評価を一定程度得られ（平均値：4.31），また，自由記述において，レジュメ資料の見やすさを指摘する意見が多く，期末試験も踏まえると，受講生はおおむね上記到達目標を達成できたものと考えられる。ただし，説明のスピードが速いという意見が散見され，今後の改善点と思われる。

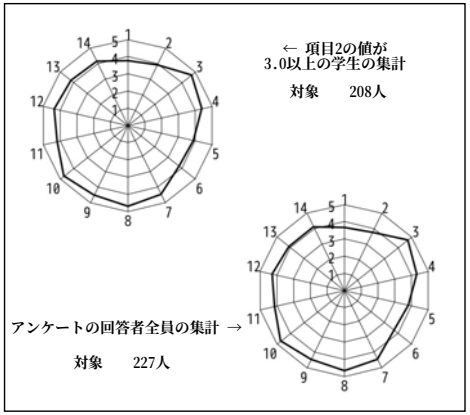
③次クォーター・学期以降に向けての改善点，今後の抱負，方針など

前述のアンケート結果を受けて，今後は，特に説明のスピードに留意しながら，引き続き，シラバスに沿った授業を展開する予定である。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
今泉　邦子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	有価証券法
授業コード	44C16-001
教員名	今泉　邦子
教員コード	019505
登録人数	548
回答数	227
回答率	41.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



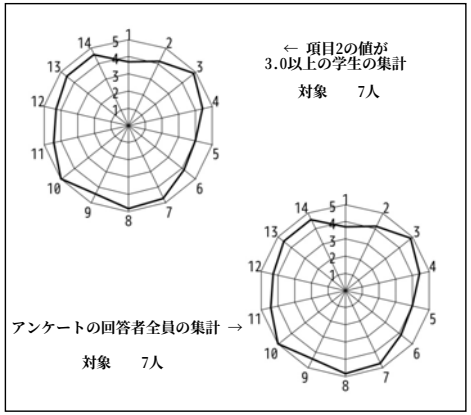
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①受講者が将来、企業間取引を手形で行う場合に、必要な知識を身に着けてもらうことを授業の目標としていましたが、授業で取り扱った範囲は、当初配付したレジュメ全般に及びませんでした。休憩中に受講者が質問をチャットで提示するので、休憩終了後にその質問に応答してから、授業を再開せざるを得なかったことも一因だと思います。ただし、授業評価アンケートの自由記述欄の意見には、授業の進行速度が遅すぎるという意見はなく、「適切」または「もっとゆっくりでもよい」との意見が寄せられていましたので、授業で取り扱う範囲については、17条の抗弁の解説までが限度だと思いました。
②③－1休憩時間について：2コマ連続の授業を、45分授業ー10分休憩ー45分授業ー15分休憩ー45分授業ー10分休憩ー45分授業として実施いたしましたが、休憩時間をとることについてはリフレッシュできる、復習できるといった肯定的な意見が多く、休憩時間のない方がよいとする意見はありませんでしたので、休憩時間を途中にとる方針を続けたいと思います。
②③－2期末試験問題について：短答問題を事前に開示したことについて、おおよそ肯定的な意見が多かったうえ、期末試験においても、短答問題の正解率が非常に高い結果となしました。授業と並行して、短答問題の形式で、自学自習していただくと学習効果が高いことが分かりましたので、今後も採用したいと思います。ただし、期末試験勉強は短答問題だけで精一杯だった人がほとんどだったようなので、短答問題の出題についてもさらなる工夫を要すると考えています。

法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）
豊島　明子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地方自治論
授業コード	46N14-001
教員名	豊島　明子
教員コード	101192
登録人数	18
回答数	7
回答率	38.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



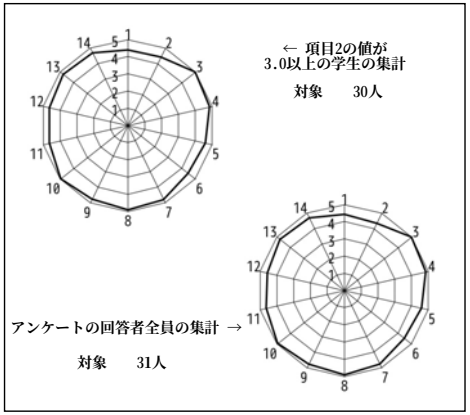
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、地方自治の意義・住民の権利・国と地方自治体の関係といったテーマについて、法制度の面から理解してもらうことを目指した。
今回の評価結果で何よりも特徴的だったのは、「設問１」の平均値が3.71であった点である。他の設問の平均値はいずれも4点台だったため、3.71がいかに低いものであったかがうかがわれる。ということは、履修者の多くが、この科目への興味や関心をあまり持たないまま、履修していたという事実がうかがわれる。じつは今年度のこの授業は、履修登録者が18名と極めて少なく、私自身、当初からこの現実に戸惑っていた。この事実からも、その理由は不明だが、もともと学生たちにとってこの科目は、あまり魅力のないものと捉えられていたようである。
しかしその一方で、「設問13」と「設問14」は、いずれも平均値が4.57で、両設問の開講主体別平均値（総合政策学科）の平均値4.55を、わずかに上回った。ここから見えてくるのは、当初は興味がなかったが、回を重ねるうちに興味を持つようになり、結果的に満足のいく学習ができたと感じた学生が、一定数に及んだ結果なのではないか、ということである。また、授業では地方自治における住民自治の重要性について度々述べる機会があったが、自由記述の回答として「選挙に参加することへの重要さ」を感じてくれた学生がいた。これはごく一部の学生の反応にすぎないが、担当者の意図がいくらか通じた結果であると思われ、非常に嬉しい反応だった。
とはいえ、次年度以降に向けては、学生の興味をより一層かきたてることができるような授業運営の工夫を、努力していきたい。

教職センター 教職センター
宇田　光　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　教育の方法・技術論2
授業コード　15A09-002
教員名　宇田　光
教員コード　100494
登録人数　40
回答数　31
回答率　77.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

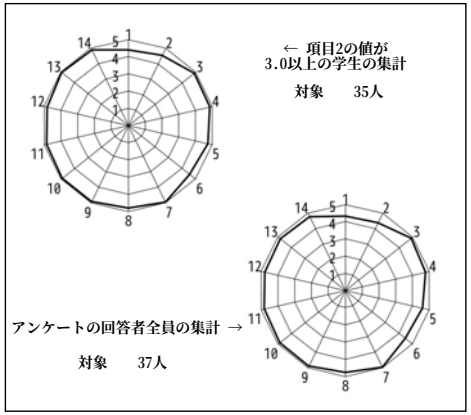
教職課程の必修科目で、回答数は31名。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。項目３から14の平均値は4.75である。レーダーチャートでも、大きな落ち込み部分はない。全体としては、まずまず満足であるという回答を得た。

個別の自由記述では、「良かった点」としてBRDが良いとの記述が数多くあった（原文のまま）。「BRD方式がとても良いと思います。毎回の授業内容をその場で振り返ることができるので、記憶にとても残りますし、後々それを見返すことで良く思い出すことができると思います。」「当日ブリーフレポート形式です。他授業と比べて、授業内容が格段に記憶に残っていると感じます。また、授業は講義だけでなく、グループワークで授業内容の実践を行うことができ、能動的に授業を受講することが出来た。個人的には、ブリーフレポート形式は他の先生の授業でも沢山取り入れられて欲しいと思うくらい好きです。」「 学んだことを実演する場面が多くて楽しかった。」など。一方、「改善すべき点」についても、やはりBRDについての記述がみられた。「理解が追いつけなかった際にレポートを書くのが難しく少し困った」「初めにレポートのテーマについてあまり説明がされないため、自分が書いていることが間違っていた時、最後の15分では書き終わらない場合がある。」などの回答があった。秋学期以降の授業では参考にしたい。

教職センター 教職センター
五島　敦子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　学校教育概論2
授業コード　15A18-002
教員名　五島　敦子
教員コード　101282
登録人数　40
回答数　37
回答率　92.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



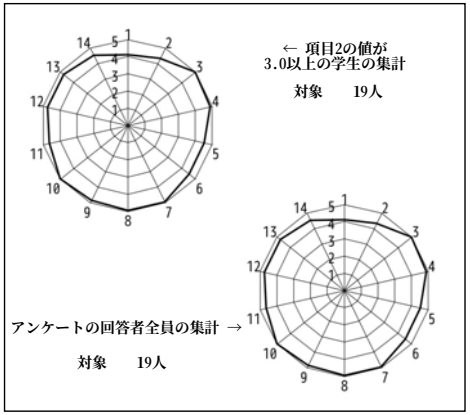
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.　授業目標の達成度・点検・評価
本科目は「教育思想・教育史」を主題とする教職科目である。項目１「事前の興味」は4. 32と低かったが、項目13「新しい知識、理解」が4.84、項目14「授業の満足度」が4.76であったことから、目標を充分に達成できたと考えられる。評価が高い項目として、項目7「教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ、真剣さ」が4.97、項目9「教員は学生の理解度に配慮し…適切に授業を進めましたか」が４.89、項目11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す適切な指導…」が4.81であったことから、教員の熱意と工夫が伝わったと考えられる。自由記述でも「どんな意見も掬い上げてくれた。授業説明がわかりやすく、かつ学生同士の話し合いの時間がしっかりと設けられておりバランスが良かった。」「とても楽しそうに順序立てて説明してくださったので理解しやすかった。」「生徒が参加する授業だった。授業後の小論文の課題は授業内容を復習し、さらにその内容を元に自分で考えないといけなかったため、理解度が深まった。」「800字以上も小論文を書くのは少し大変でしたが、文章力の強化及び内容の復習に役立ったので良かったです。また、歴史背景に沿って各時代の教育方針に注目していたので因果関係が明確で、今の教育方針がどういって理由で成り立っているのかについて学べた。」とあったように、学習を通じて力が付いたと実感できていることがうかがえる。
２．今後の改善点・抱負・方針
アンケートの得点及び自由記述の肯定的意見から、授業運営は適切だったと考えられる。改善すべき点は、「マイクが聞こえにくいときがあった」「冷房が効きすぎていたときがあった」という授業環境の問題である。階段教室のため、座席による温度差や音の伝わり方の差があるが、真夏のコロナ禍対策として、冷房をいれながら窓と扉を開けて授業を行ったため、その違いが大きかったと推察される。季節や時間帯による変化に注意して環境整備に注力したい。

教職センター 教職センター
大塚　弥生　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育相談3
授業コード	15A22-003
教員名	大塚　弥生
教員コード	000065
登録人数	30
回答数	19
回答率	63.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

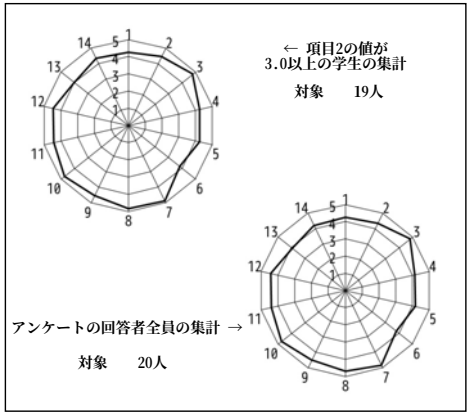
本授業は教職課程の必修授業である。教員として「教育相談」を行っていけるために、教員として必要な態度や姿勢を理解し、カウンセリングマインドを持って他者と関わる力を養うことを目指すものである。そのため授業では、毎回グループでの意見交換を行い、自身の体験を言語化する（ジャーナル作成）を行った。学生評価の結果は、設問13（理解の深まり）が4.74であり、設問14（全体の満足度）が4.53であったことから、本授業の目標はほぼ達成されたものと考える。自由記述においても、グループワークが多く、他の学生と交流が持てたことや、ジャーナルを記述していくことが良かったという反応が見られる。

しかし、「他者と関わる力」・「コミュニケーション能力の向上」と言っても、具体的に何を目指すかがあいまいな部分がある。次回の授業においては、グループワークとジャーナル記述は続けつつ、学生一人一人がなりたい自己像をイメージし、目標を設定できるような工夫をしていきたい。またグループの作り方についても、いつも同じメンバーにならないような工夫をしていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
CAPITIN-PRINCIPE, Abigail　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[FB]6
授業コード	11A02-006
教員名	CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード	102955
登録人数	22
回答数	20
回答率	90.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the quarter was, for the most part, achieved. I think using both in-class teaching methods and online resources helped encourage more student engagement. Learning goals such as conversation tasks, vocabulary use, and reading targets, were greatly helped with the use of online resources such as Flip, Quizlet, and Google classroom.

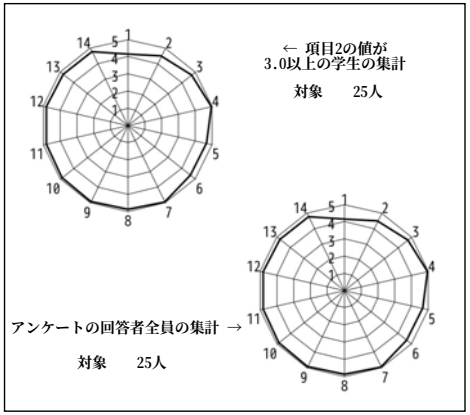
Students were given enough group activities to be able to use the target language in class. They were also given individual activities to encourage self-study and self-paced language development.

Looking toward Q3 and Q4, I plan to continue the methods that were effectively used in Q1 and Q2, such as classroom conversations, and recording of presentations. Students seemed to also respond well to vocabulary learning via Quizlet, and this will also be continued in Q3 and Q4.

外国語教育センター 外国語教育センター
都築　千絵　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]5
授業コード	11A02-012
教員名	都築　千絵
教員コード	103924
登録人数	26
回答数	25
回答率	96.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　久しぶりにオンライン授業に移行する心配をせずに対面授業ができ、開講当初に設定していた目標を到達するためにすべき課題も予定通り進めることができた。幸い、このクラスの学生はコロナに感染したり濃厚接触者になることがQ2中に一人もおらず、目標は達成された。

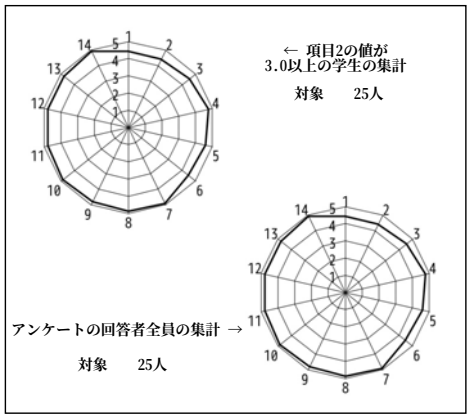
②数値データはどれも外国語教育科目の平均よりも高く、特に設問４と設問９は4.96と高く、授業の構成と進行速度、教員の姿勢は評価されていた。また、自由記述では、学生同士で英語でのコミュニケーションを取る機会が多かったことが良かった点として多数の学生が指摘しており、ペアワークとグループワークを楽しんでいたことがわかり嬉しく思う。また、理解できないまま進んでいくことなく、説明が丁寧だったとも書かれており、同じ科目を教えて5年目なので、経験が生きていると感じた。

③このクラスでは、宿題をグループで確認するような場面が多くあるが、自由記述で宿題をしてこない学生がしてきている学生の負担になっていることが指摘されていたので、その部分を今後改善していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
DAVANZO, Christopher　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]6
授業コード	11A02-013
教員名	DAVANZO, Christopher
教員コード	101653
登録人数	26
回答数	25
回答率	96.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



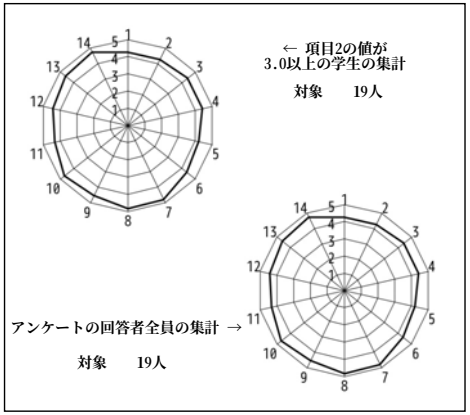
授業評価結果を踏まえた点検・評価

As a class, the students absolutely achieved the goals set for the class. In the first quarter most of them did very well in their two interview tests with the instructor. In Quarter 2, they were challenged with conversation tests with one another and again, the majority of the class performed at an above average level. They were required to engage first in everyday small talk, and then focus on a particular topic. They had to both comment on their partner's responses and also ask follow-up questions. In addition, the students were required to purchase a vocabulary textbook, and took quizzes every class; at first, it was a struggle for many of them, but they steadily improved and their scores were much better by the end of the quarter. I was quite pleased with both the numerical data and the individual comments students wrote. Most of them indicated that they enjoyed the pair work, the conversation practices, and the overall student-centered atmosphere of the class. In Quarters 3 and 4, I would like to build on the conversation skills the students have acquired and expand the variety of topics that they converse about. In addition, I would like to add some small group presentation activities.

外国語教育センター 外国語教育センター
KLUGE David E.　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]1
授業コード	11A10-001
教員名	KLUGE David E.
教員コード	100398
登録人数	24
回答数	19
回答率	79.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



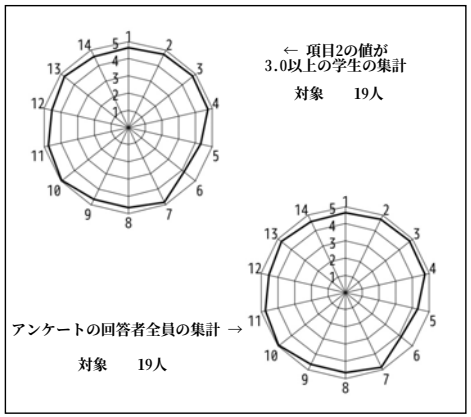
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The two goals of the Communication Skills course were for students to practice and improve speaking and reading in English. Questions 1 through 14 asked students to reflect on various aspects of the class and since the student scores were 4.21 to 4.84. with a total average of 4.49 I felt the students were happy with the class. In fact, for question 14 on overall satisfaction, students rated it 4.74. The one negative written comment was that the student wanted to know in more detail the goals and activities for each class, and question 5 on whether students understood the goal of the class, they rated it 4.21, the lowest of scores they awarded. This is an area that I feel I must improve. However, the written answers for question 15 on what students thought were the positive aspects of the class, students wrote such things such as "I was able to enjoy the class in a bright atmosphere. It was an atmosphere where it was easy to consult with the teacher." "There was a lot of practical content, such as group practical skills through performances and individual presentations, so I was able to get a sense of accomplishment."
"The point that there are many situations where the students send out messages, and they do not have to be passive." "There are many opportunities for performance tests and PowerPoint presentations, where you can feel that you can develop practical English skills." and "He kindly answered my questions." These comments showed me that students understood what I was doing in class.

外国語教育センター 外国語教育センター
KUMAI William N.　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]2
授業コード	11A10-016
教員名	KUMAI William N.
教員コード	000204
登録人数	21
回答数	19
回答率	90.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



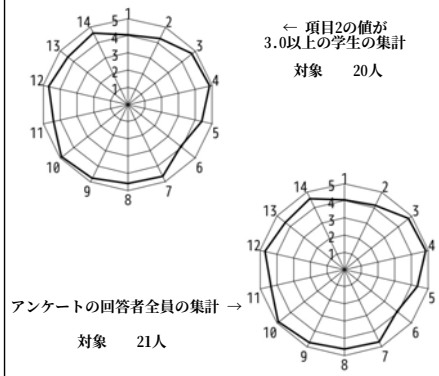
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Goals: improving intercultural communication; building expression skills. To accomplish these goals, the class participated in a discussion exploring the foundations of Japanese culture, learned how to give advice, joined an intercultural communication simulation, and gave a group presentation on giving foreigners advice about specific aspects of Japanese culture. Next they had timed presentations (PechaKucha) to improve their expression skills. Assessment: :Students had a vague understanding of these course goals at the beginning of Q1 because most of these lessons are experiential-based, not textbook-based. Hence, some of the lower evaluation scores dealt with this area. Otherwise, the evaluations reflected a high interest of the students in the class. One student commented on having too much homework, but this is a result of active learning where students must take direction from themselves. Improvements: the class had to forgo many activities to avoid close contact, and perhaps these can be reincorporated once restrictions are lifted.

外国語教育センター 外国語教育センター
丹羽　牧代　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリーディング＜全・T＞1
授業コード　11A24-001
教員名　丹羽　牧代
教員コード　055715
登録人数　24
回答数　21
回答率　87.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



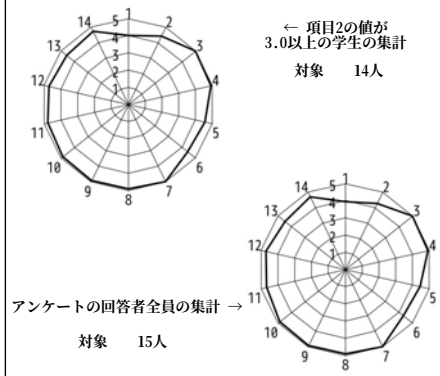
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の数値もおおむね平均以上を達成していることで、総合的にはまずまずの評価であった。今期の工夫のひとつは、授業での活動ごとに、それが到達目標のどれを達成するためのものであるかということを位置づけしたことと、その到達スキルが英語の読解にとってどういう意味を持つかを繰り返し指摘しながら授業を進めたことである。そのようにして、受講生に言語訓練の課題の位置づけを意識させながら授業進行をしたわけであるが、ある程度知的理解度の高い学生にとっては、「今それをしていることの意味」「全体の中での見取り図」を提示することは非常に意味が大きかったように思われる。最終レポートとして提出させた課題では、文章構造を理解しつつ批評的に英語を読むということに関しての応答がよくできていたことからもそのことが窺える。一方で、１年生から4年生までに広く開かれている選択科目であるという外的条件から来る授業運営の困難さは相変わらず課題として残り、ついてこられずドロップアウト気味になる学生をどう持続させるかについては、さらに努力が必要であることも感じている。現在までででも、いかなるレベルの学生であっても取り組める課題やスキルへの応答を授業内に散りばめながら授業はデザインしているが、それでもなお取り組み方や効果には差がみられるのは事実であり、次学期も試行錯誤は続けることになろうと考えている。

外国語教育センター 外国語教育センター
石崎　保明　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリーディング＜全・T＞5
授業コード　11A24-005
教員名　石崎　保明
教員コード　102444
登録人数　19
回答数　15
回答率　78.9%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回授業評価を受けた科目は、英語読解力を育成する選択必修外国語科目です。英文を楽しく読み他者に口頭・英文で伝えることを目標にした多読課題と、学術的文章の特徴を押さえて読み進めることを目標とした精読課題、を両輪とした授業を計画・運営しました。同科目は、受講生の所属学科も学年も異なり、学生によって授業に対する取り組み度合いもやや異なることから、個々の受講生に目を配りつつ、テキストの内容だけでなく英語や英文法の豆知識的な話題も交えながら、丁寧な説明を試みました。

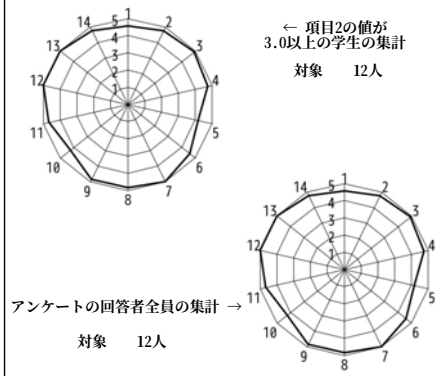
項目4-14のすべての項目で回答者の90%以上から5または4の評価を受け、かつ、当該項目で2以下の評価をつけた受講生がいなかったこともあり、おおむね受講生に受け容れられたと考えます。2021年度Q4で授業評価を受けた同趣旨の科目と比べると、項目6がわずかながら(0.07ポイント)下回ったことを除くすべての項目で前回の結果よりも改善されました。到達目標に対する受講生自身の実感が全体の評価項目の中では最も低い結果となっていることから、今後は毎回のスライドに掲げている到達目標の達成度合いを授業の最後に確認する機会を設けたいと考えています。

自由記述欄では、授業内でのペアワークの豊富さなどについて概ね好意的な意見があり、今後も積極的にペアワークを導入していくことを考えています。

外国語教育センター 外国語教育センター
KOISEGG, Karl 先生

2022年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語II＜E・B＞
授業コード 11C02-006
教員名 KOISEGG, Karl
教員コード 103972
登録人数 32
回答数 12
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



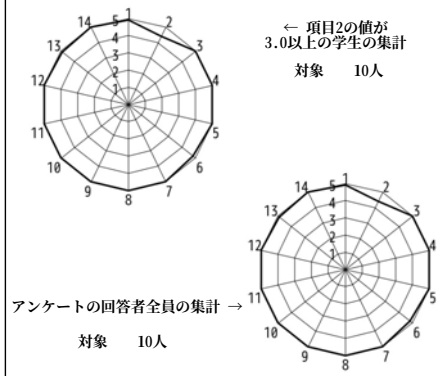
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is my first experience teaching economy and business students here at Nanzan. There were other new classes as well, so it was quite challenging for me. Each class has a different energy and I've tried as good as I could, to adjust to the students. I hope I could manage. I guess, my approach at first was surprising for the students. I've tried to teach dynamic lessons, where students could interact with each other and move around in order to practice what they had learned. My focus was to teach communicative, therefore I wanted to give students as many chances to speak as possible.
The result of the survey looks positive and I am happy that most of the students seem satisfied with my lessons. A challenge in any L2 classroom is to find the right balance between grammar and speaking. I found, that I need to work harder to find a way to connect both of these better, so that students can apply basic grammar, when they speak. I could see that some of my students are still confused with both speaking and using grammar.
In Q3 I want to continue to be teaching communicatively. I also want to create a meaningful speaking test with new ideas and ways to conduct it in the classroom. I hope we (the students and I) can reach a point, where students start to speak more freely and therefore stay motivated to continue learning German.

外国語教育センター 外国語教育センター
MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel 先生

2022年度Ｑ２ 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]2
授業コード 11D03-006
教員名 MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel
教員コード 104658
登録人数 10
回答数 10
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



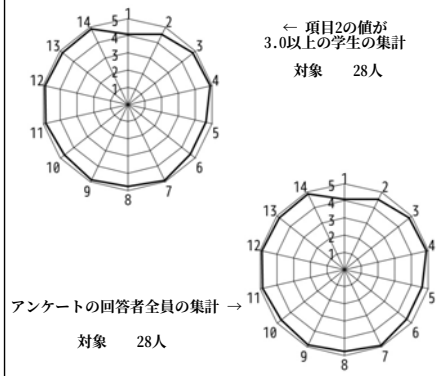
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この前期の目的はスペイン語をシラバス通り教えるだけでなく、クラスの中の雰囲気や授業のダイナミックを作ることを目指しました。
授業で先生が教えるじゃなくて、生徒たちは積極的に自分でなにを学んでいるか、今のところ何を学びたいか、自分のスペイン語の勉強のプロセスについてを考えないといけないと伝えてみました。
生徒がリラックスができる授業を作ってみました、私の授業じゃないし、あなたたちの学ぶチャンスの授業ですといつも伝えました。生徒から「授業が受けやすい」等のコメントからすれば、ある程度目的を果たしましたとおもいます。
まだ改善する範囲があります。例えば復習ための練習問題を増えた方がいいと思います。授業で学んだ新しい単語や表現などをもう少し練習させばいいと思いました。Q3からそれします。
Q3とQ4の目的といえば、生徒が今まで習ったすぺいん語を実際に自分の意見を伝えるために使って欲しいと思います。そういう練習と機会を作りたいと思います。

外国語教育センター 外国語教育センター
趙　偵宇　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　中国語II＜E・B＞4
授業コード　11F02-009
教員名　趙　偵宇
教員コード　104640
登録人数　30
回答数　28
回答率　93.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本授業の到達目標は、中国語検定準4級レベルの運用力を身につけること、つまり、中国語の基礎的な語学能力を身につけるということである。教員から見ると、おおむね達成できたと言えると思う。

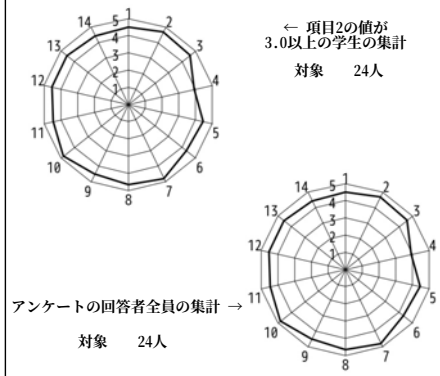
②　数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
第13項目「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」及び第14項目「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の平均得点は、それぞれ4.82と4.86である。よって、学生の視線から見ても、この授業の目標はおおむね達成できたと言えよう。なお、自由記述回答の「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」においては、「先生が質問に対してしっかりと丁寧に答えてくれたこと。発音など一人一人丁寧に教えてくれたこと」というような意見が多いため、親身になって授業を行うことがとても大事だと改めて認識できた。

③　次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
「もう少し厳しくてもいいと思います」という意見もあるため、今後はクラス毎の様子を見て適宜対応を変更したいと考える。

外国語教育センター 外国語教育センター
陸　心芬　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国朝鮮語II＜E・B＞1
授業コード　11G02-004
教員名　陸　心芬
教員コード　101225
登録人数　32
回答数　24
回答率　75.0%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2の授業目標であった基礎文法の習得や基礎会話ができることについてはおおむね達成したといえる。学生による授業の評価は設問項目の平均値4を超えており、評価にもそれが現れていると思われる。

「良かった点」を挙げると「発音する機会が多かった」「アクティビティが多かった」「実践的な練習が多い」「一つ一つ丁寧に教えてくれる。たくさん練習の機会を設けてくれたので頭に入りやすかった」「実践的な学習ができた」「発話をする機会が多く集中して取り組める」「初めて触れる言語だったが、理解しやすいように教えていただけた」「１つのことを教えてもらった時に、発展的なことまで教えてもらえるのがよかった」「分かりやすい」「韓国語の授業すごく楽しかった」などがある。

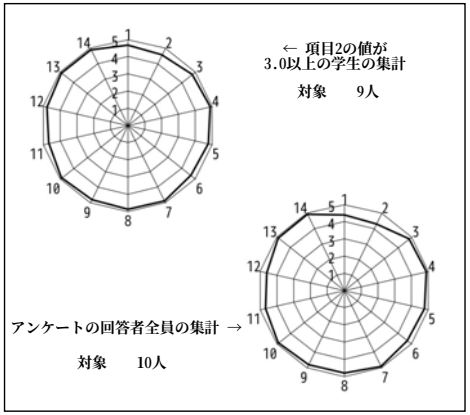
この授業で改善点や困ったことについては「授業のスピードが早くて追いつかない」「説明がわかりにくい」「スライドを切り替えるのが早く、書き取れない時が時々あった」「小テスト多くて対応しきれないことが多々あった」などがあった。

今年からは「話す」機能を多めに入れた教科書を作成し、それを始めて使っていたが学生からはいいコメントが多かったので安心した。またQ1の「文字と発音」の習得において昨年度と比べてより安定的に定着していた様子だった。ただ、項目④の「構成や進行速度」の設問については3.92で一番低い平均値を示しており、今後の課題としたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
山口　薫　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語I(読解)1
授業コード　11L17-001
教員名　山口　薫
教員コード　019406
登録人数　12
回答数　10
回答率　83.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



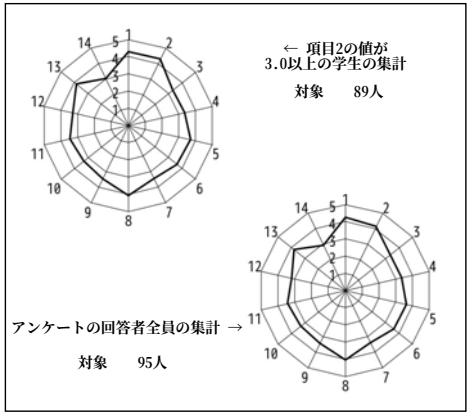
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、留学生が日本語で書かれた文章を読むことにより、文法の時間に習った文型の定着を図り、語彙を覚え、内容を正確につかめるようにすることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ（4.81）から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問4（授業の構成や進行速度）、設問7（担当教員の授業に取り組む姿勢）、設問9（学生の理解度への配慮、教材の適切さ）、設問13（新たな知識や技術の獲得）、設問14（全体的な満足度）などの項目で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメントを読んでも、「先生が親切、優しい」「わからないことを質問したら、PPTを作って教えてくれた」「日本語の文が読めるようになった」「新しい情報が得られた」「社会や文化についてわかるようになった」などの評価が多く、受講した学生たちの満足度の高かったことがうかがえる。ただ、設問2（予習、復習などの努力）だけは「4.30」と低めであった。受講生の予習を促すため、毎回前の週にプリントを配っていたが、それだけでは不十分だったかもしれない。来学期以降は、予習に当たってのポイントも伝えることにより、受講生が具体的な目標をもって予習に臨めるようにしたいと思っている。

外国語教育センター 外国語教育センター
佐々木　陽子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　異文化との接触5
授業コード　13A02-005
教員名　佐々木　陽子
教員コード　019695
登録人数　199
回答数　95
回答率　47.7%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



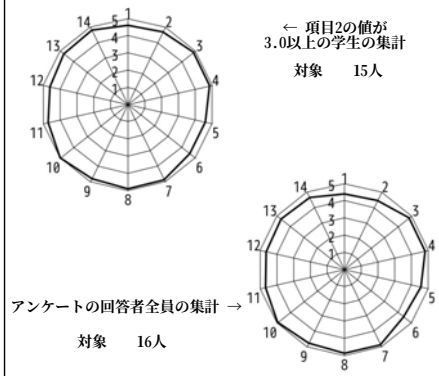
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達点の評価　協働ワークに毎回参加してきた学生については高い到達点が確認できたが、協働ワークに参加しなかった（講義資料のみに目を通してきた学生も含む）者は理解・到達点が低く、大きな差が出た。問いなき解をデータ対話型で探るという学習を、遠隔授業かつ配布物だけで習得することは困難であり、学習形式の違いが如術に現れたと考えられる。②今学期の数値データでの特色は「一律に１をマークする」という回答があったことである。これは個別の事項を精査したとはとても思えない。極端かつ客観とかけ離れたと明らかな回答もあることを前提にし、極論による誤差を適切に取り除く集計方法も今後は必要で、二つの集計方法を併記するなどの対策も考えられる。　自由記述では、講義資料の多彩さがとりわけ評価されていた点、SGやディスカッションといった対話的設営への評価が予想外に高かった点が特色である。後者はZ世代を意識しコロナ元年から特に工夫してきた点で、私情協（JUCE）でも実情報告をした。提示された資料から卒論のヒントを得たという記述もあり、今後とも充実させたい。③授業開始直前に、遠隔形式が指定されてしまい、シラバスや授業参加度の評価割合に変更があった。5月半ばには「遠隔に伴うシラバス変更が可能」と決まったというが、お知らせ文章のタイミングの手違いで授業開始時まで、公開シラバスは対面向け＝実施シラバスは遠隔向けとなっていて、授業内説明で対応することとなった。これについてシラバスではこうなっていたなどと納得しない学生もいて、授業中にも音声での抗議をやめない（質問の形をとる）学生には大きな波乱があった。登録抹消を希望する学生も約10名おり、遠隔の決定については早めに通達いただき、教員側も決定直後に対応して差し替を済ませることで、確定した情報で受講登録ができることが肝要と考える。

体育教育センター 体育教育センター
金　興烈　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(集団スポーツ)テニス
授業コード	14E02-002
教員名	金　興烈
教員コード	102721
登録人数	17
回答数	16
回答率	94.1%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.6点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないかと思う。今回は、開講当初に「①テニスに関する理論的背景(歴史と道具の進化によるプレースタイルの変化)を理解すること、②テニスを通じた生涯スポーツに向けた基礎体力の獲得と他人との対話能力や協調性などの社会的適応の基礎を獲得すること」という目標を設定させた。今回のような高い授業評価の結果には、とりわけ受講者らのモチベーションも一因であったと思われる。受講者らは学習意欲が非常に高く、毎回の授業に積極的に取り組んでいた。それによって、様々な知識がストレートに受け止められ、テニスの機能面でも高い目標に向かって自ら取り組んでいく姿勢が見受けられた。これは授業内容だけではなく、授業運営に関する取組も評価された結果であると判断される。一方、開講クォーターにおいては、7月から平年より猛暑が続く中、熱中症対策による授業時間(練習や試合)を十分取れなかったことは、今後の改善すべき点である。次年度の授業においては、開講クォーター(Q1またはQ3)を変更するなど熱中症の対策について考えていきたい。これからもテニスの学習意欲が高まるような授業展開と指導法を工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

人文学部 キリスト教学科
DANCAR, Aleksander　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織神学(三位一体論)
授業コード	21C38-001
教員名	DANCAR, Aleksander
教員コード	104655
登録人数	16
回答数	4
回答率	25.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

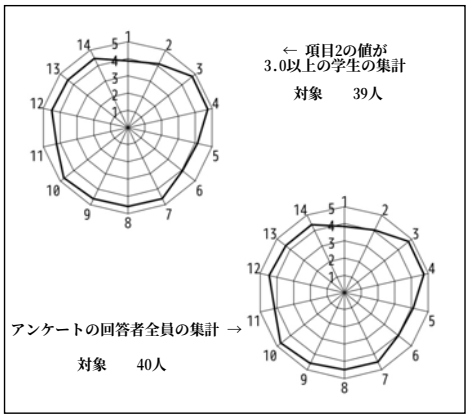
授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 三位一体論の目標は三つあります。１）三位一体論の人類基礎を理解する、２）キリスト教の信仰と神学における三位一体の意味をわかる、と　３）今日の人間の生活のために三位一体の理論の重要性と関連性を身に着ける。学生がリアクションペーパーと期末レポートの両方に書いたことに基づいて、一般的に策定された目標は達成されたと評価できます.それが実現できるのは、学生が全体の講義プロセスに積極的に関与しているからだと思います。日本では、学生は一般的に質問をするのをためらうとよく耳にします。 私自身の経験から、言われていることは完全に真実ではないと思います。 三位一体論のクラスの学生は通常、書面ではありますが、質問をします。
(2) 私はまだ日本語が非常に限られていると感じています。 ですから、この言語を上手にマスターできれば、この講義をよりうまく行うことができるのではないかと考えました。このコースの学生がクリスチャンではないことを認識しています。 したがって、教える必要があるのはキリスト教の神の知識です。 それにもかかわらず、反応論文とその論文を読んだとき、驚きと喜びを感じました. 学生たちは私が教えていることに従うことができるだけでなく、人生において三位一体論から何か価値のあることを学ぶことができる学生もいます。
(3) 日本語をもっと上手にマスターできるように頑張ります。 さらに、三位一体論や他の多くのキリスト教の神学的テーマは、日本人の精神生活に関連していると私は信じています。 ですから、この三位一体論の教材が、次世代の日本人の生きがいの源となるように発展させていきたいと考えています。

人文学部 人類文化学科
加藤　英明　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代の文化人類学
授業コード	22C10-002
教員名	加藤　英明
教員コード	151456
登録人数	113
回答数	40
回答率	35.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業は、現代工業の技術の特徴について、人類学の知見と、教員が収集した具体的なデータや映像をもとに説明する内容となっている。ただ、到達目標に関わる設問5と6が、それぞれ、4.10、4.03と全体のなかでもやや低かった。前回に比べて、内容のバリエーションを増やしたことで、授業全体の目標との結びつきがぼやけてしまった可能性がある。毎回の授業や最終レポートと、到達目標との関連づけをあらためて見直していきたい。

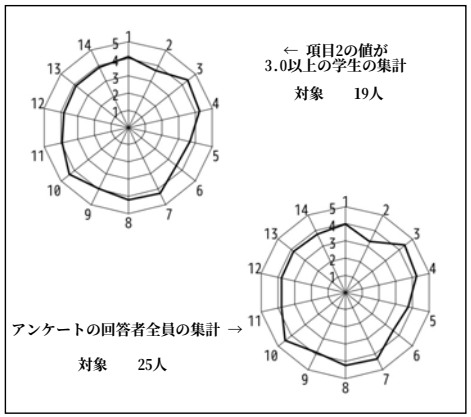
②数値データや自由記述では、「話し方や進行速度がちょうどよかった」、「リアクションペーパーへの丁寧な対応」、「現場レベルの技術を人類学の観点から学べた」などがあり、個別の授業への理解度を高めるという意味では、十分に達成できたのではないかと考える。Webclassのアンケートでも、この点の評価が多くあった。一方で、改善点として、「スライドの文字が多いこと」や「淡々と説明する」という指摘があった。民族誌的データを意識的に載せ、読み上げることで、理論との結びつきをはっきりさせる意図があったが、マイナスに働いた可能性がある。この点は、事例のディティールを崩さずに提示する方法を他に検討する必要があると感じた。

③個別の授業については、学生たちの助けを借りながらではあるが、つつがなく進行できた。今後は、個別の授業や課題と、全体の達成目標を有機的に結びつけることに力を入れて、学生たちの学習意欲をさらに高めていきたい。

人文学部 人類文化学科
木村　有作　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代の考古学
授業コード	22C12-001
教員名	木村　有作
教員コード	104607
登録人数	51
回答数	25
回答率	49.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



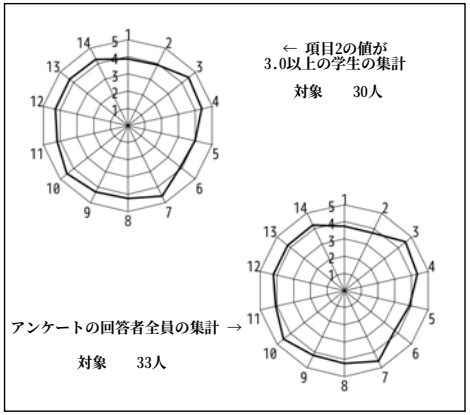
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　今回の目標については、まず南山大学の学生に、名古屋における埋蔵文化財の実態を知ってもらいたい。そのために、とにかく続けて受講してもらいたということであった。授業の構成としては、時間的な変遷を主に組み立てた。ただ、途中から聞いたとしてもどこかの遺跡が印象に残るような構成にしたつもりであった。出席確認として書いてもらったカードから、ある程度の手応えが感じられた。
②　数値データからは、授業に対しての準備が十分にできなかった思いから、項目９の評価について厳しいものを感じている。また、項目５・６の数値の低さが、今回の授業の出来を示していると思う。自分の経験をぶつけるだけだけではなく、学生に授業の意図を浸透させるだけの工夫が足りなかったように思う。大学の学生に対する講義としてのレベルに達していなかったのではないかと反省する。ただ、項目7について、ある程度の熱意と自らの仕事へのリスペクトを感じてもらえたのは嬉しいと思う。
③　次の機会に向けては、課題が少なくないように思う。準備を十全にした上で資料の提示を早めに行うことや、学生に講義の意図がしっかりと伝わるように資料や講義の構成に工夫をしていきたいと思う。その上で、少しでも考古学を学ぶことや文化財の保護を意識することが、現代社会に必要であることを伝えられるよう努力したい。

人文学部 人類文化学科
伊藤　正人　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	東アジア考古学C
授業コード	22C40-001
教員名	伊藤　正人
教員コード	104262
登録人数	74
回答数	33
回答率	44.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



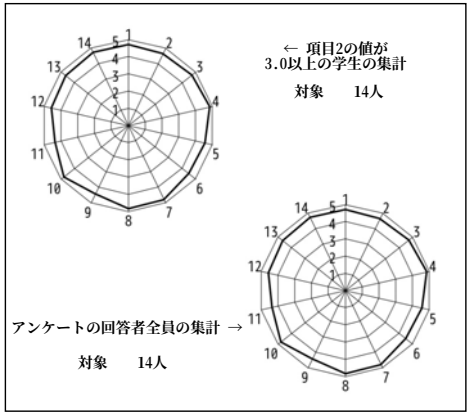
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①縄文時代・縄文文化に関する基礎的な知識を確認し、その内容を現在の社会・生活と対比することで各自が興味を深めて欲しいと考えた。人類文化学科の学生が多いが、考古学の専攻生は限られ、他学部・学科生も2割近いことから、考古学の基礎的・一般的情報も混えるよう努めた。表題（縄文土器・土偶論）が掲げる専門的情報とのバランスを欠いた面がある。一律な達成度・具体的目標を設定してはいないので、各自の問題意識のあり方を最終課題の記述意識・内容によって評価した。
②アンケートの回答者が受講者の半数に満たず、学科平均を下回る状況は、批判的・否定的評価が相当数を占めることを予測させる。構成や進行速度に大きな不満が示されなかったことも、未回答者より総じて肯定的であろうが、大きく見直す必要はないものと考える。ただし、到達目標の理解やその修得に対する評価が低いと思われる。学問的成果への接近と実生活との関わりをわかりやすく盛り込んで紹介したい。
③講義は14回全体での構成を基本としているが、各回の内容において完結的な結論を理解できるように各論的構成も意識したい。考古学の基礎知識を踏まえての理解が必要となる部分については、受講者総体の知識や理解力を早めに把握して、補足説明などを行っていきたい。

人文学部 人類文化学科
菅沼　文乃　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義（アジア・日本の人類学）
授業コード	22C76-002
教員名	菅沼　文乃
教員コード	150333
登録人数	74
回答数	14
回答率	18.9%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた到達目標は、沖縄地域の歴史・文化・現代的状況を学ぶことを通して文化人類学および民俗学の学術的アプローチを身につけること、また沖縄地域についての受講生の関心を深めさせることであった。このために、各回の講義について要点をつかみやすく振り返りやすい構成を工夫し、映像資料等を積極的に用いることで講義の理解を促した。

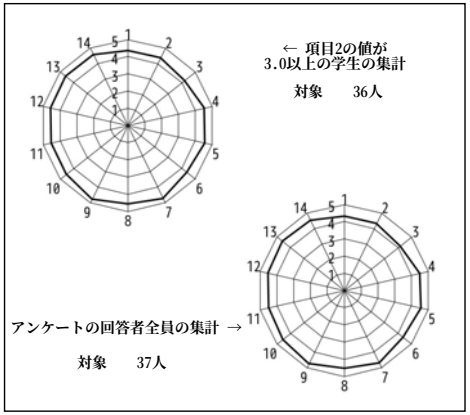
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
上記の目的・狙いについて、おおむね達成することができた。改善の余地としては、学生の関心をより高めるための情報提供、資料・参考文献の提示方法の模索があげられる（アンケート設問11、16（自由記述回答））。また教室の設備の適切な活用についても対応の余地がある（アンケート質問項目17（自由記述回答））。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など講義の概要・目的・ねらい
講義資料の適切な提示・配布を工夫する。講義への反応を積極的にひろい、内容の深化・洗練、さらなる情報提供を行うことで、講義への興味関心を高める。以上をとおして学生がそれぞれの関心・目的に応じて積極的に参加できるような講義内容をめざす。

人文学部 心理人間学科
井坂　泰成　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域開発と人間関係I
授業コード	23C64-001
教員名	井坂　泰成
教員コード	104429
登録人数	87
回答数	37
回答率	42.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業はシラバスの通りに実施した。ほとんどの学生が授業の趣旨を理解し、毎回のふりかえりで的確なリポートを書いていた。また、授業評価の特にNo.6の項目で37人中の34人が4以上の点数をつけていることから、当初の目標はほぼ到達できたと考える。

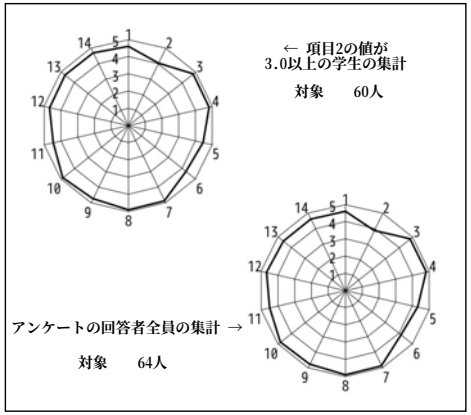
②自由記述にあるように「グループワークによる他の学生との対話」「講師の体験談」「コミュニケーションスキル」等が高評価を受け、学生の満足度は平均的に高かったと思われる。また、項目７、９等の教員の姿勢や進め方に関する点の評価が高かったことは、自分自身心掛けた部分なので正当な評価を受けていると嬉しく感じる。ただし、項目３の点数が低い点は改善課題である。これは自由記述にもあるようにD51という教室の条件と、８０人という大人数ながらグループワークを実施する授業方針の齟齬による問題で、教員としては４５分前から設営を始め、学生に協力をお願いするという努力はしたが、限界があった。教員としては、机・椅子の設置を学生に手伝わせることにそもそも抵抗があり、また、時間もかかるため、大学側（心理人間学科の事務室）に準備を打診したが、「学生に協力してもらえばいい」「準備にかかる時間も授業時間に含めていい」という回答であったため、開始時刻通りには始められなかった。

③授業の内容や進め方は維持向上しつつ、教室を変更して物理的な環境の改善を図りたい。教室のキャパシティに制約があるなら定員を制限したい。それによって開始時刻通りに始められるようにしたい。

人文学部 心理人間学科
谷口　まち子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	臨床心理学(臨床心理学概論)
授業コード	23C67-001
教員名	谷口　まち子
教員コード	104476
登録人数	100
回答数	64
回答率	64.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

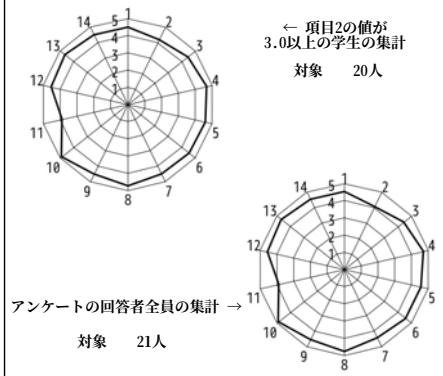
①開講当初設定していた目標については、昨年度到達目標がわかり辛かった可能性があったため、本年度はシラバスで到達目標をより明確に記述し、授業中に繰り返し身に着けて欲しいことについて話したことで、5番、6番の数値が昨年度の値、本年度の全体の平均値より高くなり、改善されたことがわかる。また、自由記述では、ワークがあったことや具体例があったことで、概念的な話がわかりやすくなったという記述がいくつかあったことから、当初掲げていた自らの臨床実践からの具体例と学術的な内容を結び付けてわかりやすく伝えたいという点でも概ね達成されていたと言えるであろう。②総合的にみると、概ね平均値よりも高い評価が多く、現場経験者枠の非常勤講師2年目としては、比較的よくできていた方ではないだろうか。

③反省としては、2番目の値のみ全体、学科の平均よりも低く、改善が必要な点であると思われた。これには、多学科の受講生も多く、事前の理解度に差があったため、予習復習に関して、授業内で参考資料などを提示はしたが、学生の主体性にまかせていた点が影響していると思われる。次年度以降はもう少し強調をして予習復習内容を提示していきたい。また、自由記述で、ワークでのグループ分けや座席指定などの希望があったことから、今後検討の必要があると思われる。

人文学部 心理人間学科
相馬　信子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　公認心理師関係行政論(関係行政論)
授業コード　23C80-001
教員名　相馬　信子
教員コード　104432
登録人数　21
回答数　21
回答率　100.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



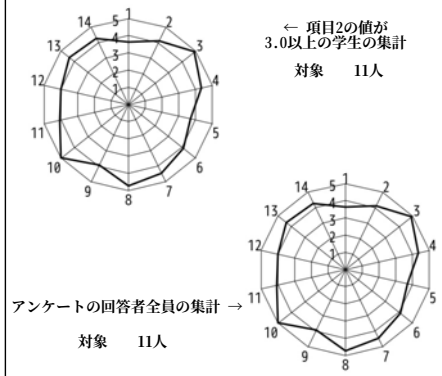
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①　シラバスに記載の目標については、全体として一定程度の達成が認められた。もっとも、学習範囲が広い上、学生にとってこれまで触れたことがない分野がほとんどであったため、基本的知識の修得にとどまっていると思われ、もう少し深く踏み込んだ講義を行うことが課題と考える。また、分野ごとに理解度の差が出ており、正確な知識を定着させていく必要を感じている。
②　学生にとってなじみの薄い分野であるため、レジュメを配布しての講義は効果的であったと考えている。講義内容の性質上、座学が多くなることは避けられないが、学生自身が意欲をもって取り組める工夫が必要であったと感じた。
③　レジュメのブラッシュアップはもちろんのこと、知識の定着のための繰り返しやディスカッションなど、講義内容の改善を図る。評価の一環として小テストを行っているが、講義内容と一体として学習効果がより上がるよう、実施内容や回数について再検討を行う。

人文学部 日本文化学科
土谷　薫　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　からだとことばII
授業コード　24C07-001
教員名　土谷　薫
教員コード　064352
登録人数　22
回答数　11
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



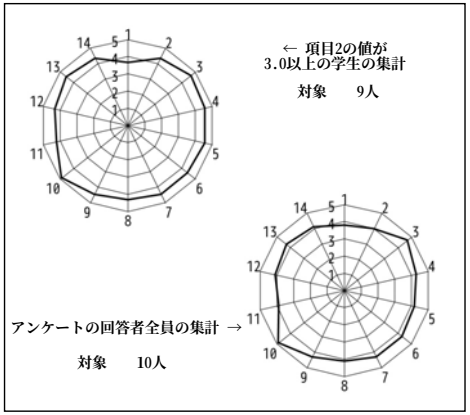
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今年度もかなり制約のある中での授業であったが、どうにか目標としていたところまではいけたのではないかと思う。
②自由記述から、学生たちが楽しんで授業に参加していたことが感じられた。コロナの影響を受けてから３年目の授業であるが、今年は特に学生の雰囲気が明らかにコロナ前と変わってきていることを感じた。同じ空間に集まり、顔を合わせて共に活動をするということ自体に新鮮さや楽しさを感じているようであった。それと同時に、人と「じかに」関わることの戸惑いや表現に対しての臆病さも感じられた。マスク生活での呼吸の浅さや「からだ」の硬さなども非常に気になった。そんな中でも学生たちは、関わりを求め表現に向かっていった。
　コロナ対策をしながらも人と人とが「じか」に向き合い、表現に向かっていくためにこれからも模索が続くと思われる。
③コロナ対策をした上で、どう授業の質を上げていくかが課題である。現在の状況の中での「からだ」とどう向き合うか・・既存のレッスンだけではなく、新しく生み出していきたい。

人文学部 日本文化学科
北田　雄一　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文章表現法2
授業コード　24C08-002
教員名　北田　雄一
教員コード　104314
登録人数　31
回答数　10
回答率　32.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については十分な水準に達することができたと思う。

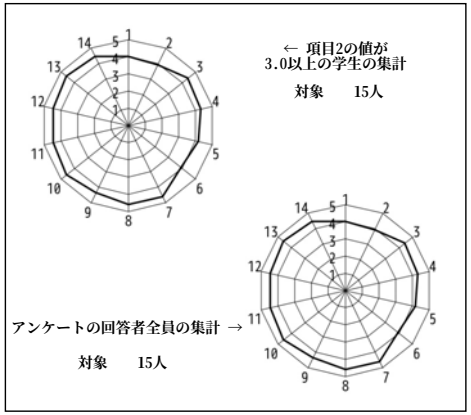
数値データや自由記述を踏まえて言えるのは、ポジティブな意見の方が多かったが「文章添削があまりにも少なく、講義もレジュメを読み上げるだけで出席する意義を感じられない」という意見があったのは見過ごせなかった。むやみに添削するよりは、数を絞って添削した方が文章力の向上には効果的なのだが、添削が少ないという意見は昨年度も見られていたので多く添削した方が満足のいくものになるのであろう。

今後の方針だが課題の提出先をGmailからWebclassに変更したほうが受信不良などが起きにくいので変更する予定である。講義に出席する意義が感じられないという意見に対する改善策だが、これは今後の課題として、文章添削はもっと積極的に添削を行っていきたい。それが学生の満足度を高めることにつながるように思われるため。

人文学部 日本文化学科
四辻　秀紀　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本美術史
授業コード　24C27-001
教員名　四辻　秀紀
教員コード　100351
登録人数　66
回答数　15
回答率　22.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の開講当初に設定していた目標については概ね達成できたと考えている。

徳川美術館への見学会については、受講生の反応も良く、写真やスライドではなく、本物のに触れ親しむ機会がいかに大切であるかを改めて痛感した。

レジュメは、毎回の授業で配信し、必要に応じて作品の写真も添付しておいたが、シラバスにも記述しておいたように、版権などの問題で流失しては困る写真資料を講義内では投影しているが、これらの写真については資料として配布できないので承知おき頂きたい。

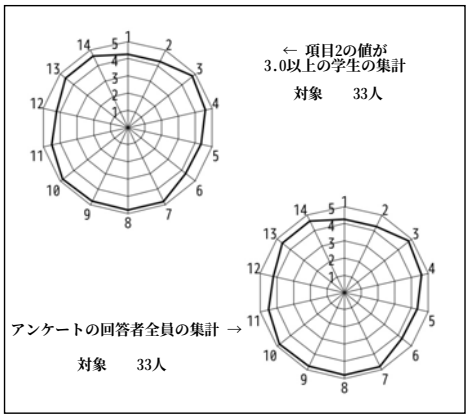
また講義の最終回で、もし来年度の授業では同じような観点での内容で良いか、または日本屈指の東洋古美術のコレクションを誇る地元にある徳川美術館の収蔵品について絵画・書跡・工芸（金工・陶芸・漆工・染織）などの内容にした方が良いかを聞いたところ、現状の内容の方が良いという意見が大多数であった。

今後も、より受講生の皆さんにとって、興味がわく内容の授業運営を目指したい。

人文学部 日本文化学科
酒井　敏　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　女性と近現代文学
授業コード　24C38-001
教員名　酒井　敏
教員コード　101869
登録人数　43
回答数　33
回答率　76.7%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

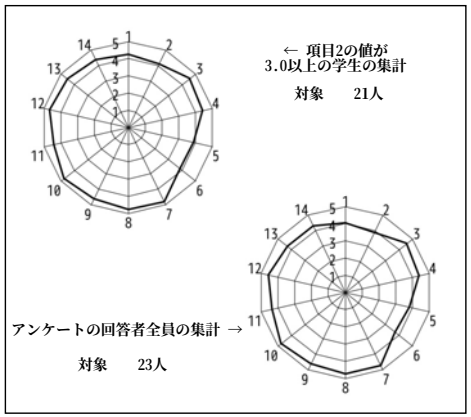
ほぼ昨年と同様の評価が得られたが、全て対面授業で学生の理解度を確認しながら授業が進められた結果、オンライン授業に比べて進度が少々遅くなり、提供する情報量が全体として昨年より減ってしまった印象がある。「９」の評価が目立って高くなった代わりに、昨年に比べて講義内容に言及した自由記述が減ってしまった。当初予定した目標に到達するために、説明が要点のみで痩せ、関連する話題や周辺情報から引例して理解を深めてもらうことや、自身が講義で用いているのとは違う研究方法の提示などに使える時間が減ったせいだと思う。対面授業を大事にしたいので、工夫したい。

昨年度同様「12」の評価が低かった。非常勤なので専任の先生方に比べて質問の機会が少ないのは仕方がないとして、「レジュメを用意してくれた方がわかりやすい」「試験についての情報はアップロードしてほしい」などのコメントがあったように、Webclassなどを有効に活用すべきなのだろう。対面授業の良さは、パソコンに向かうことに慣れた世代からすると「面倒くさい」としか思えず、しかし、社会に出ると意外に必要になる日常的能力（例：人の話を聞いてメモを取る・記憶する）を養える点にあると考えるので、個人的には微妙な課題だが、「より理解しやすく・興味を喚起できる授業」を目指して出来る限り応えたいと考えている。

人文学部 日本文化学科
宮内　佐夜香　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語史I
授業コード　24C47-001
教員名　宮内　佐夜香
教員コード　104443
登録人数　52
回答数　23
回答率　44.2%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業到達目標としていたのは「日本語史における重要な文法変化について理解する」「日本語史における語彙変化の傾向を理解する」「日本語史研究における資料の特徴を理解する」であるが、学生の最終レポートや毎回のリアクションペーパーの内容からは、大きな問題は感じなかった。しかしながら、到達目標に関連する学生の評価（設問2，5，6）は平均4を下回っており、到達の状況を受講生が把握できていない様子がうかがえる。トピックごとに理解状況を個々に確認できるような確認課題を課すなどの改善が考えられる。

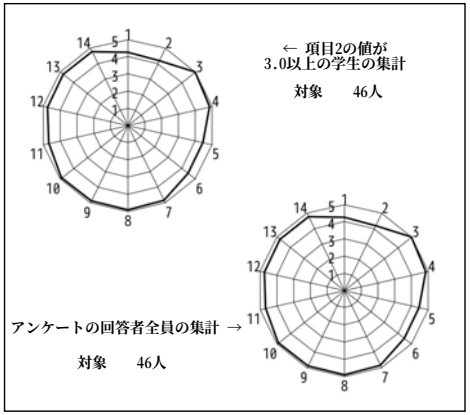
毎回提出される質問や意見については、毎回講義内で時間を取って回答をするという方法を実施した。これについては自由回答ではおおむね好評であったが、講義内のコメントではもう少し短くという意見も得た。理論重視の科目内容であることもあり、疑問点や関連事項についての受講生の気づきこそ取り上げていくべきであると考えるためこの方法は今後も続けるが、シラバスにそのことを明記するなど受講生への説明を徹底するとともに、講義内の話題の分量のバランスも再検討したい。

昨年に引き続き講義資料はオンラインでの配付に限っていたが、紙での配付の要望が自由記述に見られた。タブレット等の利用者のためにオンライン配付も継続すべきであると考えるが、対面主体になってきているため（また紙への書き込みの学習効果も排しがたいため）、次年度は紙での配付も検討したい。

人文学部 日本文化学科
有薗　智美　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　言語分析B
授業コード　24C51-001
教員名　有薗　智美
教員コード　104603
登録人数　61
回答数　46
回答率　75.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



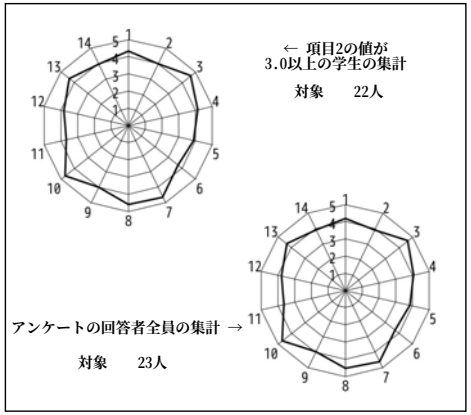
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、「異なる言語間の普遍性と相対性に関心を持っている」、「授業を通して得た知識に基づき日本語と英語の言語現象を考察できる」、「日本語を客観的に観察し、英語と比較してそれらの背後にある話者の捉え方の特徴を説明できる」の三点である。本講義ではこれらの目標到達のために、毎時、テーマに関する講義の後に、学習内容に基づき分析を行うタスクを受講生に課し、その翌週に良い回答と不備がある回答を取り上げフィードバックを行い、受講生が分析のプロセスを振り返り次に生かせるよう授業を進めた。またこれとは別に、コメントにて出された質問も全体にシェアして回答することで、受講生の理解を深め知識の定着を図った。アンケートの自由記述ではこの授業構成やフィードバックに関するプラス評価が多くみられた。数値データを見ると、項目全体の平均は4.69、項目3－14の平均は4.77であり、おおむね良好であった。上述の到達目標に関しては、「5．到達目標の理解」が4.48、「6．到達目標に対する自己評価」が4.46と相対的にポイントが低かったものの、「13．新しい知識の獲得・理解の深化」は4.78であったため、実際には(6)の目標に対する自己評価よりも、到達の程度は高いと思われる。おそらく受講生の到達目標への意識が薄かったことが理由として考えられるため、今後、授業初回に目標を明示的に説明するなどして、受講生の意識を高めたい。また、12項目中最もポイントが低かったのは「2．予習・復習」に関する項目で、4.17であった。これについては今後、授業で得た知識を発展的に応用する例などを示すことによって、自学自習を促していきたい。

外国語学部 英米学科
SHILLAW, John　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　第二言語習得論
授業コード　31E14-001
教員名　SHILLAW, John
教員コード　100560
登録人数　59
回答数　23
回答率　39.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



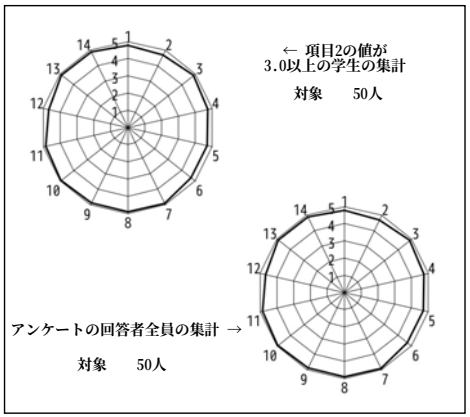
授業評価結果を踏まえた点検・評価

In the past, about 90% of the class were students from the Department of British & American Studies, this time the number was only around 50%. Within the whole group there was considerable variation in English skills and knowledge of the topic. Since the classes were conducted in English and course materials were written in English, some students struggled to fully comprehend the content. Furthermore, too many students did not take the time to read the textbook before each class and therefore could not understand some of the basic principles and theories of SLA. This was an essential requirement because very few students had even the most basic background knowledge in Second Language Acquisition which meant they struggled to come to terms with the course content. This was revealed through the scores on the quizzes I introduced for the first time during this course which demonstrated clearly that most students had made little effort to study. For future classes I plan to schedule more quizzes to ensure that students do the reading they are supposed to do. I will also change the course information to stress that students must have adequate language English skills to take the course.

外国語学部 英米学科
中郷　慶　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語音声学
授業コード	31E17-001
教員名	中郷　慶
教員コード	104472
登録人数	60
回答数	50
回答率	83.3%
休講回数	2　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業当初に設定していた目標と到達の程度」については、当初の予定通りに到達できたと考えています。

設問1から設問14への回答の平均値は4.81で、設問ごとの平均値は、最少が4.68（設問2、設問6、設問12）、最大は4.94（設問10）でしたので、特に大きな問題もなく授業を運営できたと認識しています。

自由記述では、英語音声への理解が深まったこと、実践的な練習の機会が多かったこと、説明がわかりやすかったことなどの意見が多く寄せられていました。わたし自身の授業の意図や目標が、学生に肯定的に受け入れられ、よかったと思っています。

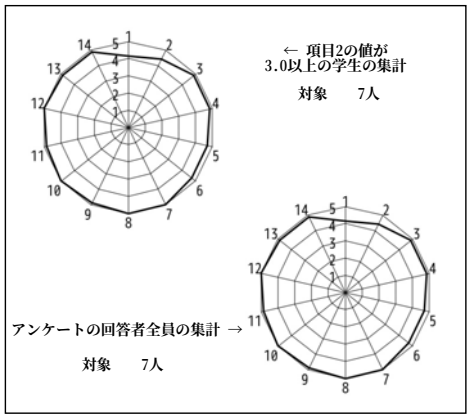
授業期間中、新型コロナウイルスの影響により、どうしても休講をせざるを得なかったことがありました。このため、教務課からいただいていた『教務事務についての案内』というマニュアルに従い、授業の２日前に教務に休講の連絡を入れ、学生には教務から、教務課WebページとPORTAで休講に関する案内をしていただくこととしました。わたしとしては、学生への連絡はそれで十分だという認識だったのですが、「あなたの都合で補講にする際は、生徒に連絡をするのが礼儀だと思います」や「休講の時に、webclassのメッセージ機能でも連絡して欲しかった」（いずれも原文ママ）などの意見が寄せられていました。わたし自身、授業ではWebClassはほとんど利用しませんでしたし、教務課からの教務課WebページとPORTAによる休講案内で十分だと思っていたので、学生からこういう反応があることに驚きました。非常勤ということもあり、南山学生のみなさんが日常、どのように情報を入手しているかについての認識が足らなかったことによる意見の相違だと考えています。

授業中に学生に発音をさせて、その学生への発音指導を通して、履修生全体が発音に対する理解を深めるという授業の意図については、来年度以降、一層の説明が必要だと感じます。

外国語学部 英米学科
栗原　裕　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済学
授業コード	31E21-001
教員名	栗原　裕
教員コード	104294
登録人数	22
回答数	7
回答率	31.8%
休講回数	2　回
補講回数	2　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
到達目標は、下記でした。
１．国際経済・国際経済学、金融に関する知識、基礎的な考え方や理論を修得し、それらについて説明することができるようになる。
２．上記に関わる国際経済や国内経済の諸問題が理論的に説明できるようになる。
概ね達成できたのではないかと思われます。時間が限られていましたが、英語で表現することもできていました。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
過分な評価をいただいたように思います。
小テスト、定期試験ではほとんど感じませんでしたが、レポートについては、やや不満足な内容でした。

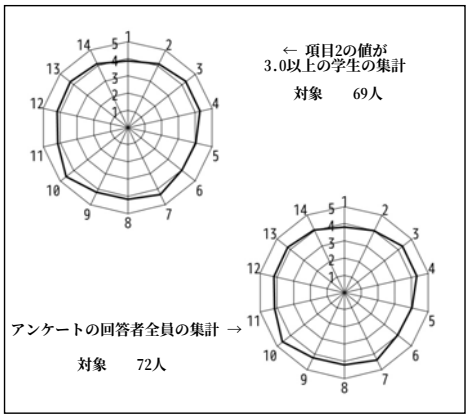
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
新型コロナウイルス蔓延の懸念が一掃され、学びの環境が一層よくなることを期待しています。厳しい環境の中で、協力と支援をいただきました。感謝しています。授業の雰囲気がとてもよかったように感じました。これは皆さんによるものです。

レポートと定期試験のコメントをWebClassに掲載しています。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
中沢　知史　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカ史A
授業コード	32C20-001
教員名	中沢　知史
教員コード	104348
登録人数	209
回答数	72
回答率	34.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



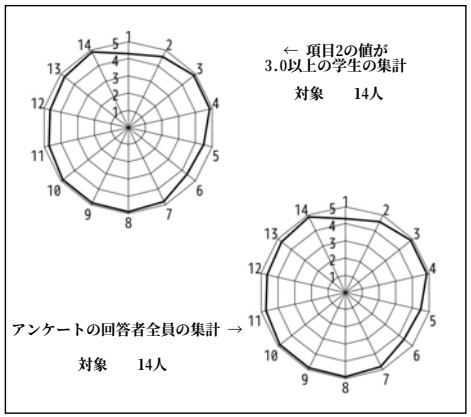
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①おおむね達成できた。授業進度は早すぎず遅すぎず進めることができたが、想定より詰め込み過ぎて受講者の理解が追いつかないと思われる場面もあり、何をどこまで盛り込むかについて、今後に課題が残った。
②学生の興味関心を喚起できたという点で、まずまずの成果があったと自己評価する。ラテンアメリカの歴史という、受講者の前提知識や事前の興味を期待しづらい分野で、「最初は関心がなかったけれど講義を聞くうちに面白いと思うようになった」という意見があったことは、本講義を開講する意義があったと受け止められる。
③講義のモダリティ、特に映像と音声について、パワーポイントの配色がよくない、画質が悪い、音声が聞き取りづらいなどの意見があり、反省点が残った。また、少数意見ではあるものの、私語への対処が厳しすぎるとの声があり、伝え方に工夫が必要と受け止めた。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科
安藤　真次郎　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語圏思想特殊研究A
授業コード	32C39-001
教員名	安藤　真次郎
教員コード	104611
登録人数	24
回答数	14
回答率	58.3%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



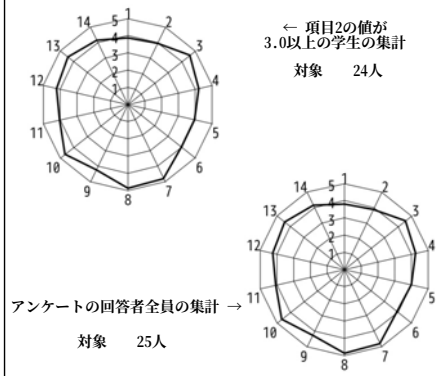
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 概ねシラバス通り授業を進めることができた。また到達目標として三つのテーマを掲げたが、学生から提出された最終レポートを採点したところ、出席していたすべての学生が合格レベルまで到達していたことが確認できた。
② 設問項目とレーダーチャートを確認したところ、最も低かった平均点が項目番号1の4.29で、それ以外の項目は4.36～4.93であったことから、学生の評価は概ね良好であったと考えている。自由記述欄の項目番号15では、パワーポイントや映像資料を多く利用したことで、時代背景などの理解の助けになったとのコメントが複数見られた。また項目番号16の改善すべき点は、Web Classをあまり確認していなかったため、学生からのコロナ感染の連絡に対し即座に返答できなかった点が指摘されていた。「スペイン語圏思想研究」というやや難解なイメージで捉えられがちな科目であるため、できるだけわかりやすくするよう視覚的にもイメージできるように心がけたので、その点は効果的であったと考えている。アンケートに関しては、授業時間中に回答時間を確保したが、回答率がやや低かったことが反省点である。
③ 「スペイン語圏思想研究」という科目の特徴を踏まえ、各時代における出来事の背景や代表的な知識人・思想家についてよく理解してもらえるよう、今後もパワーポイントや映像資料・画像を使用することを心掛けたい。また今後はWeb Classをもう少しうまく活用してきたい。

外国語学部 フランス学科
大嶋　えり子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの政治
授業コード	33A08-001
教員名	大嶋　えり子
教員コード	104502
登録人数	40
回答数	25
回答率	62.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初設定した目標を達成できたと思う。試験の結果を見る限り、論述問題の回答が弱点であり、内容の問題というよりも、記述する際の構成が弱かった。どのような構成で解答するのがよいのかを授業内で示せればよかったと反省している。

授業については、おおむね学生からの評価がよかったと考える。学生に発言を求めることについては学生によって感じ方が異なるので、なんとも言えない。

進めるスピードが少々早かった点と資料のアップロードのタイミングを改善したい。
また、2コマ連続の授業で、学生にも大きな負担がかかるため、1コマ目と2コマ目の間に長めの休憩をとり、その間簡単な課題を提出してもらっていたが、それでは休まらないとの意見があり、尤もだと思う。この点は要改善。200分はとても長いため、もっとこまめに休憩をとる必要がある。

空調についての意見があったが、教員としても空調の効きが気になった。（操作に不慣れなためか、温度設定を変更しようとしてもうまくできず、暑い日や寒い日があった。暑い日はマスクをして2コマ話し続けるのは大変だった）

外国語学部 アジア学科
張　静萱　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語III会話1
授業コード	35C05-001
教員名	張　静萱
教員コード	048047
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

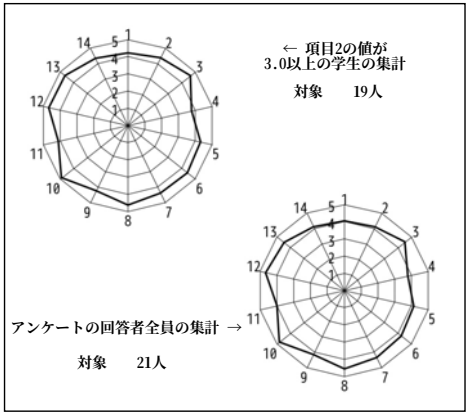
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、中級中国語Ⅲ会話ということで、例年ですと中国本土から留学し終え、帰ってきた履修者もいます。今年度はコロナでそういう受講生がいませんが、留学が決まってこれから中国へ行く学生がいて、授業では、いかにその積極的で活発な姿勢を留学に行かない受講生にもいい影響を与え、皆さん全員の勉強意欲と積極性を引き出し、バランスの取れるようにするかをいろいろと工夫して進めてきました。その結果、学生から次の評価をいただきました。
「…その日学習するテキストのトピックに関して、実体験や歴史的経緯などを交えて説明を加えていたため、中国語の表現だけではなく、背景知識も学ぶことができ、楽しかった。また、一回の授業の中で、生徒一人一人に対して中国語で複数回質問を投げかけていたため、中国語で答える練習をしっかりすることができた。」
今後、評価されたところを引き続き努力し、さらに学生一人一人の勉強意欲を引き出し、またみなさんの状況に合わせ、もっと興味のわくような
内容の充実した授業を進めていきたいと思います。

経済学部 経済学科
西　一夫　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　データ処理入門5
授業コード　40B03-005
教員名　西　一夫
教員コード　103655
登録人数　48
回答数　21
回答率　43.8%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



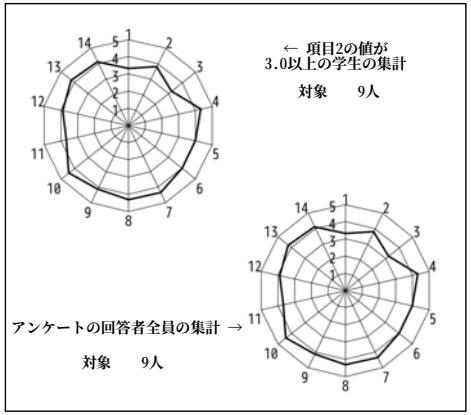
授業評価結果を踏まえた点検・評価

データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』
この目標に対しては、授業評価項目番号５（この授業の到達目標を理解することができましたか。）は４．１４。６（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）において４．２４の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。
　これに対して、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」の評価が４．００と１４項目中最低であった。今年度はExcelの関数、条件付き書式の使用方法も案内したが、今後は講義資料以外のデータ分析なども紹介したい。
また、自由記述の項目１６（授業の改善点）において「PCの使用方法などは各自確認でよいのではないか」との指摘があったが、この辺りは学生によってPCスキルもばらつきがあるため、一応の解説と質問は行ってゆきたい。

経済学部 経済学科
園田　正　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　農業経済論B
授業コード　40D53-001
教員名　園田　正
教員コード　102233
登録人数　30
回答数　9
回答率　30.0%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



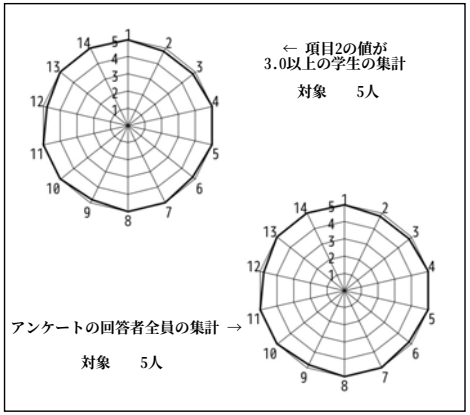
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は，①中国の農業を取り巻く問題の変遷を，経済発展と関連づけて理解できるようになる，②これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようになる，③中国と日本の農業問題の類似点，相違点について理解できるようになる，というものであった。①と②については，中国が経済発展を進める中で，農業生産体制を地主制，私有制，合作社・人民公社制，農家生産責任制と変遷させてきたこと，その中で農民がどのような生活水準にあったかを学び，試験の成績から，相応の理解が得られたものと考える。③については，講義での質問などから，各学生が中国の農業に関心をもつようになり，日本の農業との比較もある程度できるようになったことがうかがえた。授業評価集計とレーダーチャートから，全体としてこの講義に満足したかどうかが4.11であることから，おおむね良好な評価が得られていると考えられる。学生の学習意欲を引き出し，積極的な授業参加や自主的な学習を促すための，適切な指導や情報提供があったかについて3.67，質問や相談の機会が十分設けられていたかが3.89とやや低い評価となっているため，これらの点に今後注意する必要があるが，基本的には現在の講義方法を継続していけばよいと考える。

経済学部 経済学科
MOORE, Jonathan　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語A2
授業コード	40E04-002
教員名	MOORE, Jonathan
教員コード	101410
登録人数	28
回答数	5
回答率	17.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



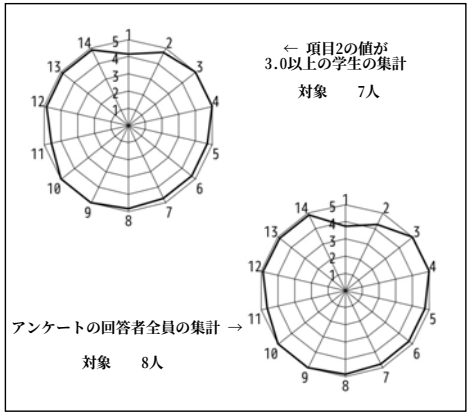
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions was very positive. Students were engaged in the lessons. Most students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques, and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

経済学部 経済学科
森川　信子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語A2
授業コード	40E06-002
教員名	森川　信子
教員コード	100136
登録人数	9
回答数	8
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者8名（登録のみで出席がなかった1名を除く）の少人数のクラスで、手を抜きにくい授業だったことと思いますが、皆、不満を言うこともなく、興味を持って、熱心に取り組んでくれました。通常、シラバスで予定していた範囲すべてを終われることはあまりないのですが、今学期はほぼ終わることができました。開講当初に設定していた目標については、個人差はありますが、おおむね達成できたのではないかと思います。設問項目16での要望（文章の和訳を配布してほしい）については、弊害の方が大きいと思うので、授業中や授業後にそのつど対応したいと考えます。以下、授業最終回で書いてもらった感想を抜粋します。「知らなかった単語や文法を知れてよかった。英字新聞の定期購読も始めました」「自分でも英語学習を進めているが、この授業では今まで自分では進んで触れてこなかったような難しい文章に触れることができてうれしかった。英語の勉強をこれからもがんばろうというモチベーションにもなりました」「大学に入ってから英文を読み込む英語の授業を受けていなかったので、受講して良かった。受験から年数が経つと、英文解釈や文法の知識がほとんど忘れられた状態になっていたのでびっくりした。TOEICの勉強頑張ります」「ちょうど良い進行スピードだったと思う」「思ったより取っつきやすい記事ばかりで、訳していて苦痛になることは少なかった。この講義を契機に、外国の新聞やニュースも見てみようと思った」

経済学部 経済学科
NORTH Cameron　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語A4
授業コード	40E06-004
教員名	NORTH Cameron
教員コード	100400
登録人数	11
回答数	1
回答率	9.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course and the extent to which They were achieved.

The goals of the class were achieved. In order to improve Engllish communication skills, students must participate in the classroom. In addition, students must do the applicable homework. In most csses, the students did participate, and they did their homework. Also, students seemed to appreciate the class as their efforts allowed them to increase English abilities.

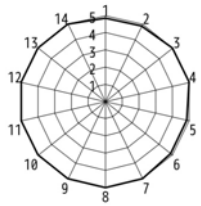
An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc.

Thank you to all students for practicing and studying English. The majority of students tried to improve their English in class and by doing homework. A few students put in less effort. I think the pairwork system and homework study style greatly helps students that put in the effort. Overall, I am happy with the class results.

経済学部 経済学科
太田　幸治　先生

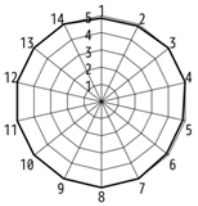
2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学総論B
授業コード	40F02-001
教員名	太田　幸治
教員コード	103267
登録人数	12
回答数	7
回答率	58.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　7人

アンケートの回答者全員の集計 →
対象　7人



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた目標は以下2つである。

1.経営戦略の考え方を理解できるようになる。
2.マーケティングの考え方を理解できるようになる。

学生の期末試験を採点する限り、かかる2つの目標は概ね達成できたと感じている。

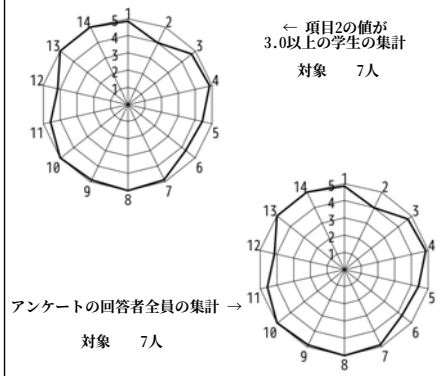
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今回も大変高いスコアの評価を頂いた。講義は教員だけで作り上げるものではなく、学生とともに作り上げるものである。講義に積極的に参加した学生諸君に感謝したい。
今回も履修者が少なく学生の理解度を確認しながら講義を展開したいため、かようなスコアをいただけたと思っている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今期の反省は、各学生との対話の量の偏りにある。非常に積極的に質問をしてくる学生が1人いたため、その学生中心の対応になってしまい、他の学生からの質問を促す余裕がない講義になっていた。積極的な学生がいることは大変嬉しいことであるが、少人数でも学生全体に目が届かなかったことを大いに反省している。次期は、もっと学生同士の対話や議論を増やした講義を展開したいと考える。

経営学部 経営学科
岡田　昌也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　内部監査論
授業コード　42C38-001
教員名　岡田　昌也
教員コード　101623
登録人数　8
回答数　7
回答率　87.5%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



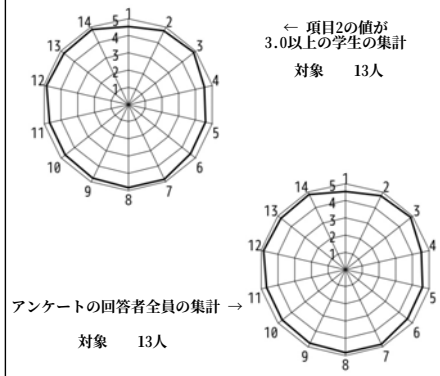
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、現在の内部統制の標準モデルであるCOSOモデルの理解とそれを利用した内部監査制度の理解である。学生は会社業務に携わっているわけではないため、内部監査というものに馴染みがないため、まずは「監査」の意味を理解してもらってから、監査手法について説明した。
授業は、主として講義形式であるが、発言を求めても反応がないのは相変わらずであった。
授業評価としては項目１から14までの平均が4.68、項目３から14までの平均が4.73であり、内部監査という全く馴染みのない科目としては、十分な結果かと思っている。前年のコロナによるリモート時よりもよくなっており、やはり対面授業のほうが学習効果は高い。
今後の改善点としては、学生からの発言が出やすい環境を作りたいとは思う。特に内部監査は、明確な回答があるものではないため、理解を深めるためにもディスカッション形式が適していると思われるが、コロナ禍でありディスカッション自体憚られることもあり、難題である。

経営学部 経営学科
小澤　和弘　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　情報基礎2
授業コード　42D01-002
教員名　小澤　和弘
教員コード　103586
登録人数　50
回答数　13
回答率　26.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



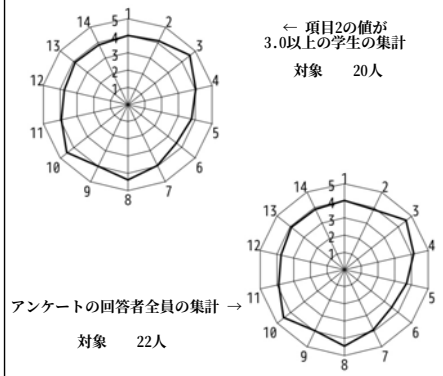
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の習得を主な目標とし、コンピュータによるMicrosoft WordやExcelの演習を中心に授業を実施した。
学生による授業評価は、概ね高評価であり、授業目標もほぼ達成できたようである。自由記述には、「他の授業ではなかなか教えてもらえないWordやExcelの知識を教えてくれた」「パソコンの操作で知らなかったことを練習できた」「初めての私でも理解しやすかった」等のコメントがみられ、授業内容や進行も概ね良好だったようである。
次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、主体的にコンピュータ操作の特徴や利点をより深く理解し、実用的な技術が身につけられる授業を展開できるよう努力していきたい。

法学部 法律学科
三上　佳佑　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法律学概論
授業コード　44A13-001
教員名　三上　佳佑
教員コード　103637
登録人数　92
回答数　22
回答率　23.9%
休講回数　2　回
補講回数　2　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の質量に関しては、かなり高度のものを設定したつもりであるが、結果として、全ての設問項目を通じて、3.55を下回る評価が無かったこと、4を上回る項目が多くあることを考えると、教学の実を相当程度に挙げたことを意味していると考えている。講義目標の到達の程度に関しては相当に高いと考える。

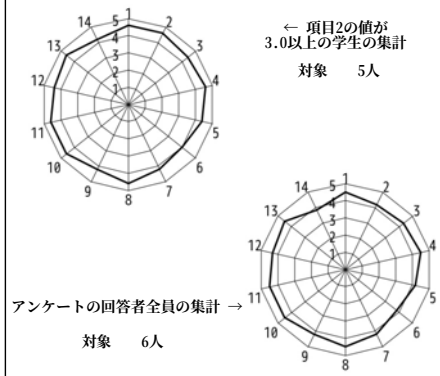
数値データを踏まえて考えると、現状の自己点検において問題は見当たらない。自由記述欄を踏まえても、現状の程度、主題に関する講義担当者の価値判断を前景化させることは適切であると評価している（もっとも、可能な限りの価値中立性に腐心していることが、学生に伝わった結果であると言う風にも評価し得る訳であるが）。

数値データ上は何等問題は見当たらないが、他方で、若干、「図式化した形での解説が見づらい」などの指摘があったのも事実であり、この点、今後の改善目標として検討を要すると考えている。講義の質量に関しては、公法私法横断的なもので相当程度に「（ベーシックではない）発展的」なものであるが、学生は「学びを深められた」という実感の声を寄せてくれているので、今後も、「学びたい学生の学習意欲」に合わせて、講義内容を組み、実施していきたいと考えている。

法学部 法律学科
藤本　亮　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　法社会学
授業コード　44B33-001
教員名　藤本　亮
教員コード　047829
登録人数　31
回答数　6
回答率　19.4%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



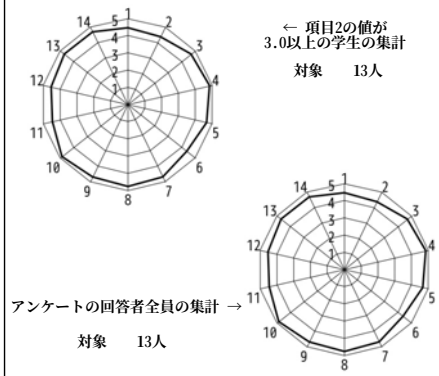
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①講義科目ではあるが、多方向性とアクティブラーニングのためWebclassの会議室での毎週の受講生相互のディスカッションと形成的評価のためにレポート課題を授業期間中にレポート完成までの段階ごとに中間提出物も含めて評価と指導を行った。最後まで授業に出席し、継続的に課題に取り組んで単位取得した者は受講登録者31名中名中11名であり、受講放棄者が20人と多くなった点は課題である。しかし、この11名のうち6名がA以上の評価を受けており、また期末試験だけをとっても平均で6割以上の得点である。したがって、きちんと継続的に学習した者については教育目標は達成できていると考える。
②回答者が6名と少なく数値評価に不適であるためコメントはできない。自由回答欄への記入はなかった。
③継続して、多方向、アクティブラーニング、形成的評価に留意した授業を実施する。受講放棄者が多くならないようにWebclassを活用し、授業初期の個別コミュニケーションを増やし、適切なフォローを行う。

法学部 法律学科
尋木　真也　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国際法各論B
授業コード　44C10-001
教員名　尋木　真也
教員コード　104091
登録人数　53
回答数　13
回答率　24.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業目標
　一方では、領土問題や慰安婦・徴用工問題のような日本の外交課題について、他方では、COVID-19やSDGsのような身近な問題について、国際法の観点から評価できる能力を涵養することが、本授業の主たる目的でした。
　この点、授業時は月曜日1, 2限という時間にもかかわらず熱心に聞いてくれる学生が多く、また試験の答案を見る限り、他の問題に敷衍できる目を養ってくれたものと思っています。

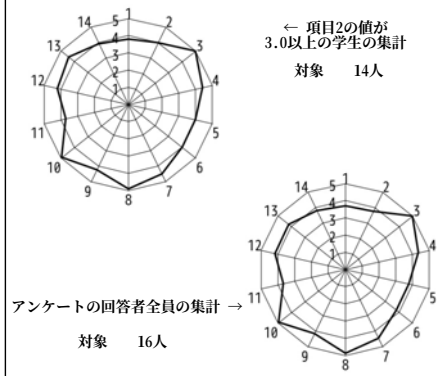
②アンケート結果
　アンケートにご協力いただいた受講生のみなさん、ありがとうございました。概ねよい評価をいただけました。学生自身の姿勢に関するものを除いた、教員に対する評価については、すべて4.5以上の評価でした。
　自由回答では、授業内容の深さ、パワーポイントの有効活用、休憩や旅行談によるリフレッシュ等について、肯定的な声をいただきました。いただいたご意見は、今後の糧にしていきます。

③今後の抱負
　時事問題を多く扱うため、可能な限り新聞やニュースを渉猟するとともに、パワーポイント等の資料の作成能力の向上に努めていきます。また難しい問題をわかりやすく伝えられるよう、学生の声に耳を傾けつつ、内容面と手続面双方の改善を重ねていきます。

総合政策学部 総合政策学科
中島　靖次　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　公共政策と倫理
授業コード　46J01-001
教員名　中島　靖次
教員コード　000246
登録人数　30
回答数　16
回答率　53.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



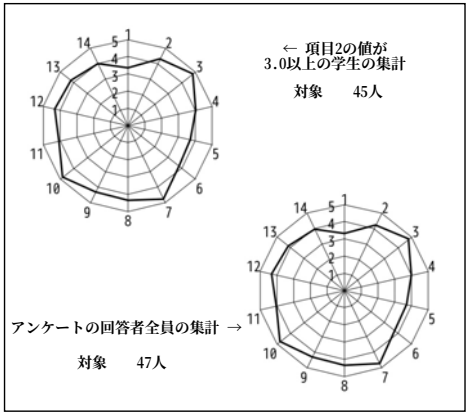
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均値に対して少々低い評価になり、授業で受けていた実感とずいぶん異なった結果で、とりわけ、１４の質問が３ポイント代であったのは、非常に残念に思う。しかし、１の質問から、そもそもの関心の低さがうかがえるので、そうした姿勢にどのように対処していくのが適切なのかが、いまだに難しい問題と感じる。自由記述の内容も、まったく逆の感想が書かれており、どのように理解するべきか悩ましい。たとえば、「難しい授業内容にもかかわらず、ニュースや事例による説明によって理解ができた」、という感想があるかと思えば、「難しい内容なので、工夫をしてほしい」、などというものがある。授業の内容上、現実と学説との間を行き来できるようになるような理解をすることが目標として掲げられているが、授業では、その関係をつねにイメージできるよう配慮して、かなり多面・多層的なアプローチを試みている（この試みの一部が、実際に起きた事件やニュースの事例や時代の変遷にともなう諸現象の例示など）わけだが、こちらのそうした狙いがかなりの程度届いている学生もいれば、試みの意味が理解されない学生もいるというわけで、焦点の絞りをつねにより念入りに行うよう取り組まねばならないと思う。

国際教養学部 国際教養学科
斎藤　衛　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies A (Linguistics)
授業コード	48E06-001
教員名	斎藤　衛
教員コード	018333
登録人数	68
回答数	47
回答率	69.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

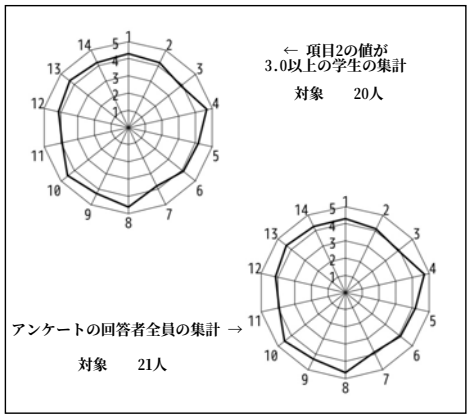
設問14（満足度）の平均値は 3.94 と決して高くはないが、80% 近くが 4 ないし 5 であり、それなりに工夫の成果があったものと思っている。(1) 英語を使用言語とする科目であるが、数年前から、受講生の英語力に鑑みて、英語による講義の後で、日本語によるまとめを行うようにしている。(2) 言語学の専門科目であり、講義を「聞き流して」いるだけでは充分な理解は難しい。一方で、家で復習をする受講生が明確に減少してきている。対策として、２コマ続きの授業の最後の20分で、その日の授業に関する練習問題を解いてもらい、翌週に解答例を説明して、その後に答案を WebClass に再提出してもよいこととした。(3) 最終課題については、事前に類似する問題の解答例を配布して、英語で論理的に結論を説明する方法を重ねて教えた。

特に (2) と (3) の成果は、最終課題に顕著に見られた。毎週の課題の答案を再提出した受講生（約30%）や最終課題の答案を書くにあたって、類似問題の解答例について考え、参考にした受講生は高得点を得ている。今後については、課題が難しすぎるとのコメントが 6,7 件あり、課題の内容を修正することも考えたい。同時に、大学の授業は、「聞き流して」その場で理解できるものとは限らず、配布物を読み返して考えることが必要である場合もあることをより徹底して周知するつもりである。

共通教育 仏語
中島　潤　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語II＜H＞2
授業コード	11B02-002
教員名	中島　潤
教員コード	100883
登録人数	23
回答数	21
回答率	91.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．　良かった点

ある程度の学生に関して満足が得られたことについて、良かったと思います。しかし、若干数の学生に関して評価が得られなかったことは、今後の反省材料にしたいと思います。一年次の第二外国語としてフランス語を選択する学生に、どのような教育的ニーズが持たれているのかということが、今回ある程度（アンケート結果や授業自体において）明確になりましたので、次回以降に生かしたいと思います。

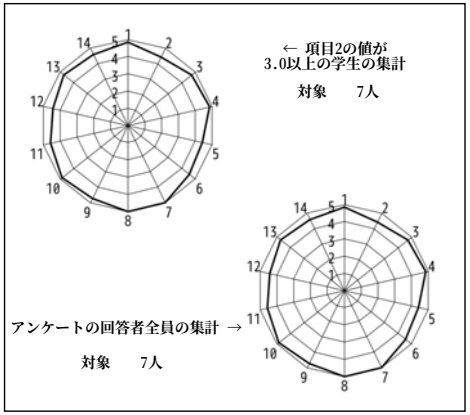
２．　今後の改善点

一年生を主な対象にした授業でしたが、今年度から教科書が変更され、その内容も以前のものと傾向の違うものとなりました。毎回、教材研究をして授業に臨みましたがいまだなれないとこともあり、ややわかりにくいものになったのではないかと反省をしています。その中で、学生すべてが満足できる授業を行うにはいっそうの模索が必要であると考えています。

共通教育 仏語
村田　ひで子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語VI＜全＞
授業コード　11B06-001
教員名　村田　ひで子
教員コード　100665
登録人数　10
回答数　7
回答率　70.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



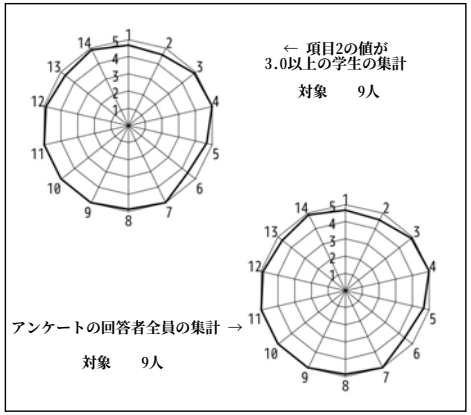
授業評価結果を踏まえた点検・評価

第二外国語の２年目のクラスなので学生の習熟度にバラつきがあり、また今年度は一年次のテキストとは別のシリーズのテキストを使用することになったので、スムーズに移行できるよう先ずは復習に力を入れた。二年次は、文法、内容ともに難しくなってきているが、皆、意欲的に取り組んでくれていると思う。学んだことが定着するように合格するまで再テスト、の小テストは概ね好評のようである。少人数のクラスなので、こちらの声やフランス語の音声は届きやすいと思われる。テキストの内容がかなり盛りだくさんなので、授業で全てを消化することはできないが、会話部分と文法部分、発音練習に力を入れ、学生同士のコミュニケーションを図りながら、フランス語の基礎力の養成を目指していきたいと思っている。なるべく分かりやすく効率的な授業を心掛けているつもりであるが、分からないところ、知りたいことがあったらどんどん質問に来てください。

共通教育 仏語
七條　めぐみ　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　フランス語アトリエA
授業コード　33C07-001
教員名　七條　めぐみ
教員コード　103896
登録人数　15
回答数　9
回答率　60.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



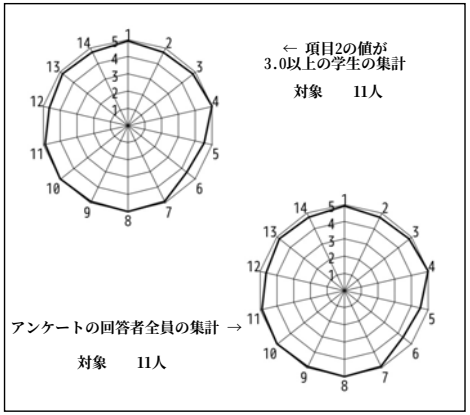
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、１．17～18世紀フランスのオペラに関して、時代背景や歴史を理解すること、２．バロックオペラに含まれる声楽・舞曲作品に関して、基本的な理論を習得すること、３．声楽・舞曲作品の実践を通じて、フランス語と芸術作品との結びつきを体感することを目標とした。これらを達成するために、授業全体を2部構成にし、前半ではフランス・オペラの特徴を、作品鑑賞を通じて学習し、後半ではオペラに含まれる声楽曲や舞曲を取り上げ、それらの音楽的特徴を簡単な実践を通じて体験した。そうすることで、オペラにおけるさまざまな芸術分野の結びつきを理解し、身体を使って表現するというこの授業の目的はおおむね果たせたといえる。
アンケートでは、質問全体の平均が4.83、質問1，2を除いた平均が4.86であった。この数値は、学科平均（4.53/4.59）および全体平均（4.42/4.47）と比べても高いといえる。記述式の問いでは「実践を通じて作品を身近に感じられた」、「フィードバックが丁寧に行われた」などの回答が見られ、授業内容の工夫や受講生への対応が好意的に評価されたといえる。
一方で、講師の事情により急遽休講にせざるを得ない回があったが、その際の周知が十分だったとは言い難い。また、授業の後半でオンライン参加の申し出があったが、Webclassを確認するのが遅れたため対応できないことがあった。今後は、休講やオンライン開催の可能性を念頭に置き、授業初回で対応について周知するなどの手法を取りたい。

共通教育 西語
JAIME　LAZO, Alan　Christian　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語III[FS]4
授業コード	11D03-008
教員名	JAIME　LAZO, Alan　Christian
教員コード	103654
登録人数	12
回答数	11
回答率	91.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



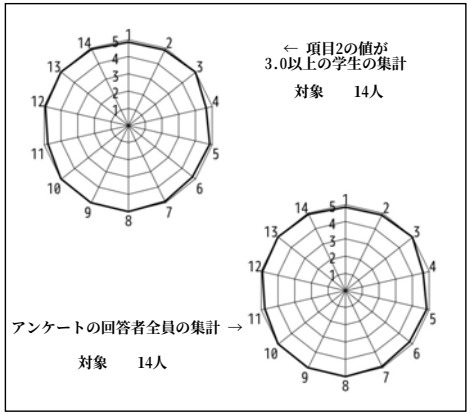
授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回教え方にとても気を使っています。シラバスの目標に関しては学生たちが自ら言葉を発し、会話に参加し、お互いに刺激しあえるような授業を展開している感じです。学生たちがソーシャルネットワーク等を使い、スペイン語文化に参加していくと良いと思う。授業内ではコミュニケーションでの遊びを取り入れています。このクラスの人数は12人のでおそらくスペイン語の勉強は初めての生徒ばかりなので、日本語との違いを理解することは難しいと思います。
授業中はなるべく沢山スペイン語の練習をするようにして、頭でっかちのスペイン語ではなく、使えるスペイン語を習得してもらいたいです。そのため、何度も繰り返し声に出し、練習するよう指導します。クリエイティブな授業を常に心がけています。

共通教育 中国語
李　香善　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II＜全・T＞
授業コード	11F02-028
教員名	李　香善
教員コード	103871
登録人数	40
回答数	14
回答率	35.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



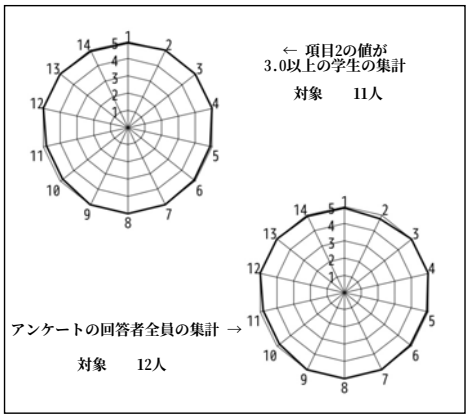
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標にほぼ到達したと思います。
各課の学習を修了後、必ず確認テストを行う事で、学生の授業理解度を再確認できました。
毎回一人に少なくとも一度ほど音読してもらう機会を設けながら発音練習を繰り返した結果、ほとんどの学生が大変正確に読めるようになりました。
学生の受講態度はとてもよくて、出席率も良かったです。
Q３において、続けて発音練習の強化を行いたいと思います。

共通教育 日本語
鈴木　照　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語II(読解)1
授業コード　11L09-001
教員名　鈴木　照
教員コード　103293
登録人数　12
回答数　12
回答率　100.0%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。

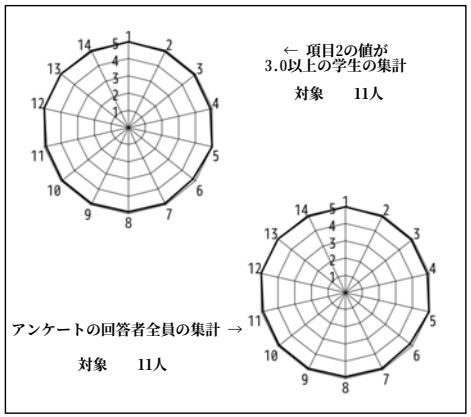
履修者の多くが今学期開始前に入国しており、日本での生活や日本語使用に不慣れな中、初級とは異なる日本語学習に苦労する様子が見られた。しかし、後半に掛けて日本語能力の向上が見られ、コース終了時には学習した文法等を概ね正確に使用し、読解文等を理解して適切に要約することができるまでになった。回答者の多くも日本語力の向上を感じていたようである。（設問6平均値4.92、設問13同5.00）その中で、自由記述には「毎回の学習内容が多い」という声もあり、負担を感じていた学生がいたことも窺える。

次学期は、今学期の授業内容を中心に、学生がより興味を持てるような内容を組み込み、学生の理解度や様子に配慮しながら、授業を運営していきたい。

共通教育 日本語
三輪　志保　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語II(表現技術B)1
授業コード　11L11-001
教員名　三輪　志保
教員コード　103665
登録人数　13
回答数　11
回答率　84.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



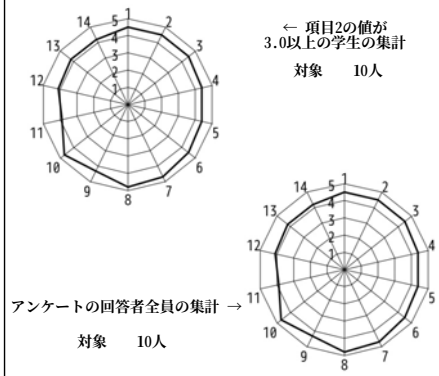
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目では、レポート作成の基礎知識を理解し、正しい文で書くこと、報告型レポートの作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、今後レポート・論文の先行研究の執筆に役立てられるような報告型レポートの作成とした。日本語初級を終えたばかりの学生に対し、先学期より少々難易度を上げてレポート執筆の基礎力を高める演習を取り入れたが、受講したほとんどの学生がレポートの基礎知識を理解し、当初の目標の１つである、出典を明らかにして客観的な表現でレポートを執筆するということに関しては、ほぼ達成できたように思われる。しかし、期末課題である報告型レポート作成にあたり、実質的な文章表現の運用やレポートの構成、内容に関しては、個人差が顕著に表れ、7名もの不合格者を排出した。②学生からの授業評価平均値が全て４ポイント台後半であり、出席率も平均95%強と高く、授業内容に関しては評価できると考えられる。説明がわかりやすいという回答が複数あり、高評価だったが、不合格者を多く出したことから、更にわかりやすく定着率の高い授業への改善を試みたい。③今学期は完全対面授業であり、学生の体調に配慮した環境作りが必須であったが、全員出席で無事に予定通り期末試験が実施できた。来学期も学生の安心できる環境作りに配慮しつつ、活発な教室活動に努めたい。

共通教育 日本語
蒔田　雅子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語III(表現技術A)1
授業コード　11L14-001
教員名　蒔田　雅子
教員コード　102042
登録人数　12
回答数　10
回答率　83.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



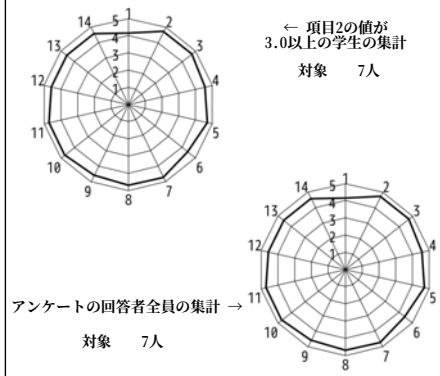
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は内容理解のための聴解力向上と発表の表現力向上の2点である。聴解時にはタイトルと図表を手掛かりにどのような発表がされるのか予測を立て聞くべき点を意識すること、1度の聴解で分かったことを自分の言葉で表現することを求めた。次に同じ素材を用いて聞き取りを重ねることで、構成を意識することに加え、図表の説明や解釈・結論の提示など、発表時に必要となる表現を学んだ。開講当初は正確な聴解にこだわり、後半部分が理解できない学生がほとんどだったが、回を重ねるごとに聞き取りの範囲が広がっていった。発表の表現については、定着を図るために、毎回の課題として提出させた発表原稿や発表音声にＦＢをしたが、学生のアンケートを見ると、複数考えられる表現を教員から提示されることを期待する声があった。この点に関しては、全体ＦＢとして課題返却時に説明はしたのだが、学生には認識されなかったようだ。教員に答えを求めるだけでなく、自律的に学習する姿勢を促すよう気を付けていきたい。

共通教育 日本語
牧野　由美　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　日本語III(表現技術B)1
授業コード　11L15-001
教員名　牧野　由美
教員コード　100727
登録人数　14
回答数　7
回答率　50.0%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得である。正確な文法表現に意識が向かず不合格になった学生もいたものの、全体的には多くの文章表現を身につけて、まとまった内容のレポートを書くことができるようになった。

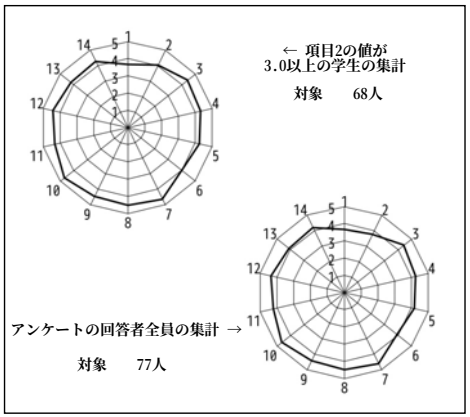
② 授業の到達目標は学期を通して学生に意識させるように努めたことから、大半の学生が授業の目標を理解し、到達度の判断をすることができていたとようである。予習用・授業用のプリントを準備することにより、テキストを用いた自学の習慣をつけるように工夫し、「今何を学習しているのか」を意識させるようにしたが、自由記述でも予習のしやすさは評価された。さらに、自分の文章を見直すことの重要性も強調し、各課題に対して早めのフィードバックを心掛けた。フィードバックを踏まえた書き直しは、学生の力を高めたと思われるが、「なぜ書き直すのか」が理解できないと文法や表現の正確さに意識ができないと感じられた。

③ オンライン授業で留学が始まった履修生の中には、手で書くことに慣れていない学生も多い。授業中の小テストでも定期試験（作文試験）でも、書くのが遅い学生は不利になりがちなので、来学期は授業の中で手書きの課題を増やし、対応したい。

共通教育 共通
浅野　幸治　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　宗教に見る人間の尊厳4
授業コード　10D01-004
教員名　浅野　幸治
教員コード　100779
登録人数　188
回答数　77
回答率　41.0%
休講回数　1 回
補講回数　1 回



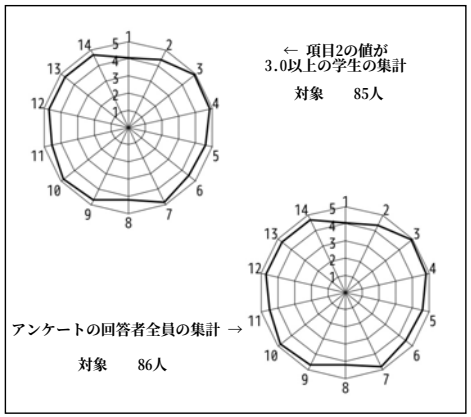
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業科目の目標については、学生はよく考え、理解を深めてくれたと思う。数値データの点では、全体的に昨年度よりも向上している。自由記述の項目15は、良い評価が多かった。項目16については、さまざまな意見があった。
１、特に今回大きな混乱を招いたのは、課題図書が学期途中で売り切れになったことであった。これは予期しなかったことで、学生に申し訳なかった。ただし、この問題は、出版社に増刷してもらったので、解決した。
２、もう１つは、課題図書の著者に性的虐待のあったことが最近発覚したことであり、この点に不満を覚える学生がいた。これは大変残念なことであるけれども、著作が素晴らしい内容であることは変わらないので、その部分を学生には学んでほしい。
３、最終レポートが手書きであることに不満を覚える学生もいた。今回はオンライン提出だったので、特に違和感があったのだと思う。しかし、手書きにしているのはコピー＆ペーストによる不正を防止するという意味もある。提出が教室での手渡しに戻れば、違和感が緩和されると見込まれる。
　来学期は教室で授業を行える予定なので、学生と直接対話しながら授業ができると期待している。

共通教育 共通
三谷　竜彦　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　性と生命における人間の尊厳4
授業コード　10D06-004
教員名　三谷　竜彦
教員コード　102441
登録人数　182
回答数　86
回答率　47.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



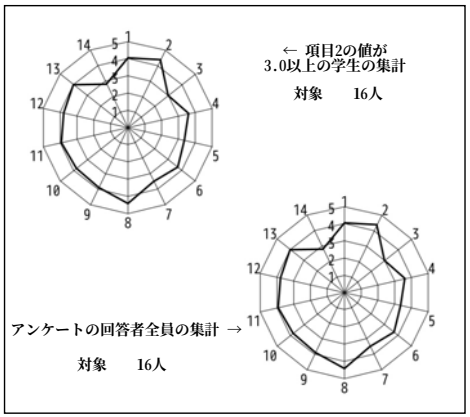
授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は182名で、回答者数は86名（回答率47%）でした。設問3～14の平均値は4.67で、全体の平均（4.47）をだいぶ上回りました。いつも個人的に最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、4.69および4.67で、全体の平均（4.43および4.38）をやはりだいぶ上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していってよいのだろうと思っています。ただし、学生からの改善要望として、動画の音声の聞き取りにくさという点が、多く指摘されていました。それは、設問3～14の中でも設問8（「…音声機器の音…」）だけが取り立てて低かった（4.21）ことにも表れています。このオンライン授業方式になってから毎度指摘されている点ですが、私のDVDディスクが南山大学のパソコンの動画プレイヤーと対応していないため（稀にディスクによっては対応している場合もあるのですが）、現状では、パソコンから直接的に動画を流すことができません。どうかご理解・ご了承いただければと思います。また、板書部分のスライドを後から学生の要望に応じて見せることに対して不公平との声がありましたが、何らかのやむを得ない事情（公欠だったとか、通信状態が悪かったとか、私も気象病に苦しんでいるということは授業時にお伝えしましたが、何らかの病気などで少し体を動かすだけでも目眩がして意識を失いそうになるとか、その他諸々）で板書できていなかった可能性もありますので、いわゆる「疑わしきは罰せず」とでも言いましょうか、基本的には今後も、その方針を継続していこうと思っています。どうかご理解・ご了承いただければと思います。

共通教育 共通
星　揚一郎　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学B2
授業コード	12A02-002
教員名	星　揚一郎
教員コード	100986
登録人数	44
回答数	16
回答率	36.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



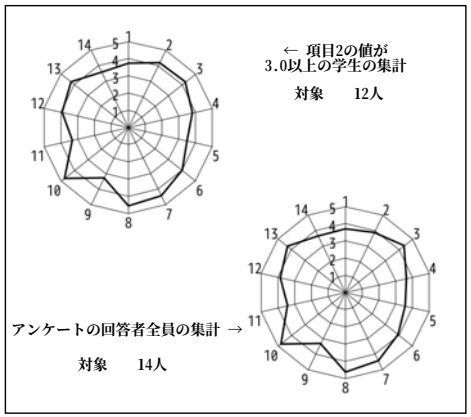
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスのとおり、20世紀以降の哲学者の言説をヒントに、現代の身近な問題を具体的に考えました。その結果、最終的にはレポートで受講者一人ひとりに、自ら哲学してもらうことができました。つまり、学術的なレポートの書き方のルールに則ってレポートを作成してもらい、提出されたものは、どれも十分に思索の跡のあるレポートでした。また、各回の授業後に、毎回、全員に授業内レポートをwebclassで提出してもらうことで、その翌週の授業内での議論を活発に行うことができ、具体的な応用哲学の問題に対して、ひとりひとりのご意見を伺うことができました。コロナ禍で困難ななか、対面授業に参加してくださった方々に感謝申しあげます。「他の授業では、先生の聞いているばかりで発言の機会がなかったが、哲学の授業では、学生同士の意見の交換ができてよかった」と、好意的に受け取っていただけた方もいました。次期以降も、闊達な意見交換ができる哲学の授業を継続してまいります。出欠について、健康上の理由がある欠席は、そのつど連絡をいただき配慮しました。大学の申し合わせに基づいて授業をしており、再度、教務課に確認済みです。

共通教育 共通
海川　能理子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学A2
授業コード	12C04-002
教員名	海川　能理子
教員コード	104654
登録人数	26
回答数	14
回答率	53.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



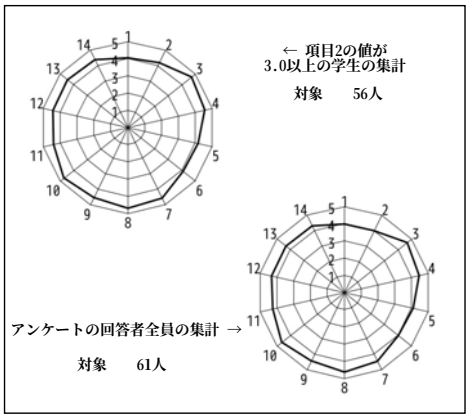
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①シラバスに提示した目標と到達の程度について、政治学の概念、理論の理解が難しいため、何度も繰り返し授業で説明した結果、期末テストでは目標がほぼ達成されたと感じた。また、現実の政治現象を論理的に考え、自らの言葉で説明できるようになった学生が多かった。毎回提出するレポートが回数を重ねるごとに上達し、期末テストでは、論理的に述べることができるようになったと感じる。また期末テストの結果から、日本の福祉国家化を説明できるようになるという目標の達成度は高いと評価できる。現代政治の状況や課題を理解するという目標については、15回の授業を通してほぼ達成できたと考える。②数値データの結果や自由記述等から、授業に対する姿勢、内容の質については総合的に評価されたと考える。政治学に興味を持ったと答えた学生や、新たな知識や気づきを得たと回答した学生がいたことは教員として嬉しく思う。また、毎回準備を整えて講義できたことは自己評価できる点である。③自由記述から、授業のスピードが速いと感じる学生が何名かいたことから、次クォーターにおいては、分量的に内容をやや少なくして、より説明に時間をかけて受講生に広く理解を促したいと考える。スマホやパソコンの使用を禁止しているのは、授業内容を自分で整理してノートを作成して欲しいからであり、そのノートは期末テストで持ち込みを許可している。趣旨を丁寧に説明し、学生の理解を促したいと思う。

共通教育 共通
三野　義尚　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学A1
授業コード	12D06-001
教員名	三野　義尚
教員コード	102236
登録人数	226
回答数	61
回答率	27.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



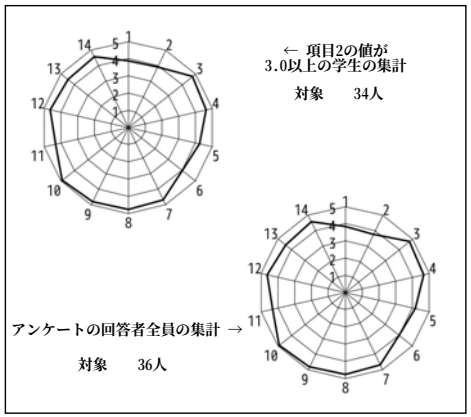
授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計11回実施した。項目3-14の平均値は4.38であり、基盤科目の平均を上回ったが、全ての開講科目の平均には届かなった。相対的にスコアが低かったのは、設問#5、6だった。これらは到達目標の理解と目標への実感に関する評価であり、前年度の評価も同様だった。目標設定をもう少し具体的に（分かりやすく）変更する、また習得した知識をアウトプットできる場を新たに講義中に設ける、といった方向で改善していこうと思う。授業の進め方に関する設問#4，7，9はそれなりに評価されており、これは設問#15の回答にもあるように、映像資料・講義・小テストを組み合わせるスタイルが学生さんに受け入れられたのだと思う。文系であるが内容を理解できた、というコメントはこの授業評価以外でもいただいた。引き続き、この形式をうまく活用していく予定である。

共通教育 共通
金森　大成　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B2
授業コード	12D07-002
教員名	金森　大成
教員コード	103294
登録人数	87
回答数	36
回答率	41.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



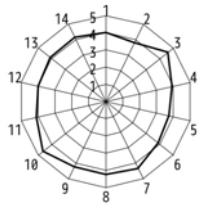
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1．今年度シラバスに記載した内容については全て行うことができた。
2．この講義に興味を持たずに履修した学生もいたようだが、講義を通して講義内容に満足し、新しい知識が身についたと考えている受講生が多く見られたことは良かった点であると言える。この講義は教科書を指定せず、講義に用いるスライドを講義資料として配布し、それに受講生が講義中に書き込むことによりオリジナルのノートを作成できるようにしているが、概ねうまく行っているように考えている。講義資料には講義に関連する先行研究からグラフや図を多く引用しわかりやすく工夫しているが好評だったと言える。また、わかりにくい箇所についてはイラストを作成し補足していることが内容理解につながっていると考えている。さらに講義の最初に前回の復習をすることにより、つながりをもって講義に参加できたようである。
3．本講義は全講義終了後にレポートを課題として出しているが、受講生が復習しやすいように講義期間中に複数回のレポートを課すなどの工夫をし、知識が身につきやすいようにする必要があると感じた。講義内容によってはスピードが早く理解が追いつかない箇所があるように見受けられたので、講義全体のバランスや内容について、今後再検討したい。教室の空調や設備等についての記述がいくつかあったが、中々対応が難しい点もあるが対応できる点は対応していきたいと考えている。また、履修時にどのような知識が身につくのかや講義内容のイメージが付きやすいようシラバスの内容を工夫していきたい。

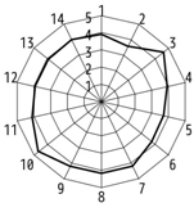
共通教育 共通
成田　靖子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　生物学A2
授業コード　12D12-002
教員名　成田　靖子
教員コード　100250
登録人数　61
回答数　21
回答率　34.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　19人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　21人

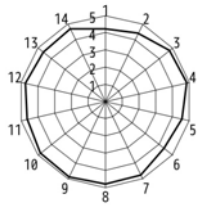
授業評価結果を踏まえた点検・評価

副科目名「生命自然史」として、地球上に生存する生物を構成する元素のうちで重要度の高い元素数種について生物学・医学・化学的見地から説いた。
教科書『宇宙生物学で読み解く人体の不思議』を軸にし、記述内容を理解しやすくするために、モノクロではなくカラーの図や画像が多い配付資料を作成し、また関連する視聴覚資料を多く用いた。これらの工夫に関しての質問9（学生の理解度への配慮、教科書、配布資料、視聴覚教材などの効果的使用）での回答は4.10。自由記述においても、「動画だからこそ分かる内容がいくつもあった」、「映像資料があると体内で起こる仕組みがイメージしやすかった」といった声が複数あった。
「新しい知識を得、理解が深まったか」という質問13に対しては3.95。質問14（授業への満足）への回答は4.00であった。受講生のほとんどが文系学部生であり、高校生物の履修にも幅があることを考慮して授業をプログラムした。自由表記では、「説明も資料も丁寧で、文系でも理解しやすかった」などという評を得た。
授業全体に対する評価(質問3～14)は4.08、レーダーチャート全体がほぼ丸いのを見ると授業進行や内容に大きな偏りや問題はなかったと考える。予定していた到達目標を達成したと考える。
反省点としては、補足説明に力を入れすぎてその日の準備した分がこなせず、次回に繰り越すことがあった。来年度は授業時間配分に注意を払い、学生の集中力が途切れる事態を招かないように配慮する必要を痛感している。

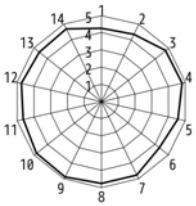
共通教育 共通
山田　幸代　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　文化の比較1
授業コード　13A01-001
教員名　山田　幸代
教員コード　101367
登録人数　196
回答数　54
回答率　27.6%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



← 項目2の値が
3.0以上の学生の集計
対象　53人



アンケートの回答者全員の集計 →
対象　54人

授業評価結果を踏まえた点検・評価

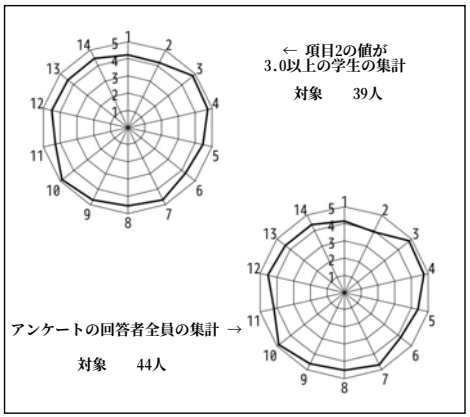
「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。特に映画・ドキュメンタリ映像・音楽などを使用したことで「映画を見たり音楽を聴いたりしたことにより、アイルランド文化や歴史に対する意欲が引き出された」「映像もあったので分かりやすく学ぶことができた」といった好意的なコメントが自由記述欄に寄せられていた。

また今クォーターもZoomによるオンライン授業であったが、対面よりも肯定的に捉えたコメントが見られた。たとえば「対面よりもオンラインの方が、より多くの時間を学びに費やせるし、より学びの質が上がるので、優れていると思いました」「授業の録画を掲載していただけたため、後から復習しやすかった」といった利点は、オンライン授業ならではであると感じた。改善点としては、毎回授業後に出していたWebClassでのクイズ課題について「自分で正答率を確認すること」ができるよう設定を変更してほしいという要望があった。選択式の解答だけでなく、記述式の解答があると自動採点システムでは対応できないため難しいところもあるが、前向きに検討したい。

共通教育 共通
小沢　優子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　芸術をめぐって3
授業コード　13A04-003
教員名　小沢　優子
教員コード　101168
登録人数　135
回答数　44
回答率　32.6%
休講回数　2 回
補講回数　2 回



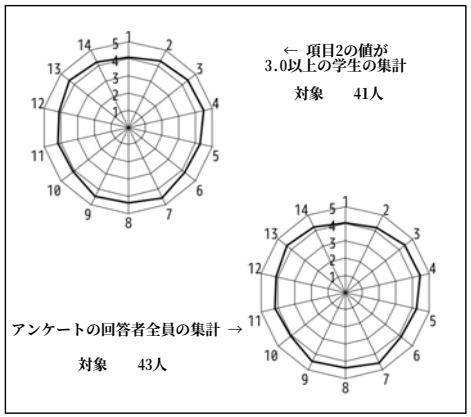
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回もzoomによるオンライン授業である。自由記述には「各々の作曲家の特徴を丁寧に説明してくれてわかりやすかった」「資料を使ったり、実際に曲を聴いたりすることで内容が理解しやすかった」「音楽の歴史について理解を深めることができた」などのほかに、「zoomのチャットに要点を打ち込んでくれたので理解しやすかった」「丁寧な説明で、補足部分は声だけでなくzoomのチャットで文字でも現してくれた」という感想があり、レジメに基づきながら授業を進めていく中で補足のキーワードやキーセンテンスなどをチャットで伝えたのが効果をあげていたようである。アンケートの数値データについては、項目1～14の平均が4.46、項目3～14の平均が4.53だったので、特に何も問題なく授業は遂行できたのではないかと思う。各項目を見てみると、項目2、6、11の数値がほかの項目より少し低く、依然として学生の主体的な授業参加や自主的な学習が十分にはできていないことがわかる。西洋音楽の歴史を諸芸術の潮流と照らし合わせながら概観するという授業の性格上、一方通行の講義になりがちであるが、学生の積極的な意欲を引き出すためにどうすればよいのか改めて考えてみたい。

共通教育 共通
山田　亮子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　ヨーロッパとの出会い3
授業コード　13B04-003
教員名　山田　亮子
教員コード　104283
登録人数　95
回答数　43
回答率　45.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

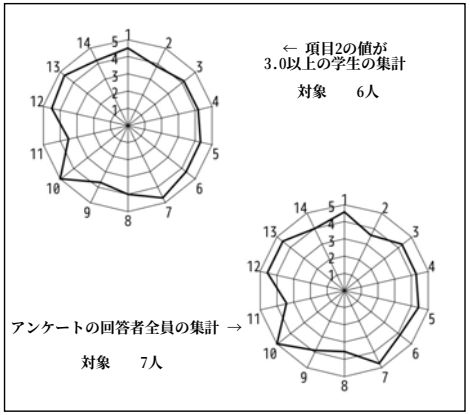
到達目標に対する学生の認識を高めるため、授業の中で適宜、到達目標の達成度を各自でチェックしてもらうと共に、期末レポートにおいて到達目標達成をアピールするよう指示した。結果、大半のレポートで到達目標についての記述があり、目標達成の手応えを感じている。前半7回までの授業で現在のＥＵが直面する諸問題を取り上げ、後半でＥＵの理念、成り立ち、諸制度を解説した。レポートのテーマとして「イギリスのＥＵ離脱」「難民問題」「ポピュリズム」に関心が集中しがちではあるが、ヨーロッパ統合の理念やＥＵの制度と、現在ＥＵが直面する諸問題との間にどのような繋がりがあるかを考える時間を設けた結果、レポートで前者と後者の繋がりについて考えた記述が多く見受けられた。前半の諸問題だけでなく、後半のヨーロッパ統合の成り立ちについての関心も高いことが窺える。

南山での授業は過去２回オンラインだったため、今回初めて南山での対面授業に取り組んだ。学生の私語が気になったが、集中してくると静かになったので、集中するまでは仕方がないのかと注意することをためらった。授業評価の自由記述回答に、授業中の私語に対して注意してほしかったという意見が多数あり、やはり注意するべきだったと後悔した。「真面目な学生が損をしている」という意見を重く受け止め、今後は私語に対して厳しく注意すると気持ちを改めた。しかし、私語が気になった時「意見のある人は手を挙げて言ってください」と諌めたことがあるが、誰も何も発言しなかった。後日自由記述の中で学生の本音を知ることができて良かったと思う。

共通教育 共通
岡田　宏太郎　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　歴史の諸相3
授業コード　13B06-003
教員名　岡田　宏太郎
教員コード　102261
登録人数　22
回答数　7
回答率　31.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

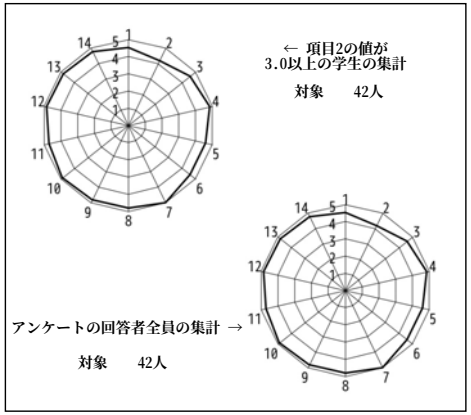
今期の授業、期末試験を終え、概ね授業の目標は達成されたのではないかと考えられますが、アンケートの結果等から、反省点も明らかになったと思われます。試験で示された授業内容理解の度合いは、かなり高く、熱心に興味をもって聴講してくれた受講生もいましたが、一方的に講義していく形になっていたことが、特に２、９、１１の、やや低い数字に表れていると思われます。授業中、質問を回収して答える機会を設けましたが、受講生とのキャッチボールのようなやりとりにはなっておらず、工夫を要するところです。

さらに、改善を要する点として、昨今政治の情況は大きく動いていることから、今日的問題と歴史的事象との関連について、より時間をかけて考察すること、また、より的確な参考文献の選定、紹介に注力する必要性を感じています。アンケート結果からは、自学自習の促進の必要性も示されていますが、これに関しては、特に試験に向けての学習促進のため、授業序盤の時点で、試験で問われること、学習の課題について提起、説明する等（設問自体も）、さらに工夫できると考えています。

共通教育 共通
山口　佐和子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　社会の諸相2
授業コード　13C04-002
教員名　山口　佐和子
教員コード　103067
登録人数　52
回答数　42
回答率　80.8%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



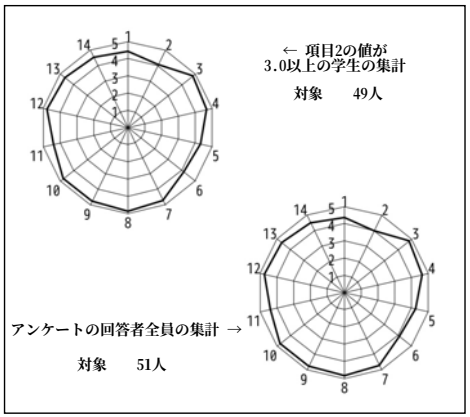
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①設問５「到達目標を理解した」及び設問６「到達目標に向けて力が付いた」において平均ポイントは4.60であった。この数値は大学全体及び学際科目平均も上回っており、期待する学習結果を得られたと考える。
②全設問において、大学全体平均および学際科目平均をすべて上回ることができた。特に「教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じた」(4.98)「授業の妨げになる行為に適切に対処した」(4.90)「質問や相談の機会が十分にあった」(4.86)「毎回の授業の構成や速度が適切だった」(4.86)のポイントが高かった。自由記述欄では「事例及び適切な資料や写真を使用しわかりやすい」「映画など身近なツール利用がよい」「質問時間をとってくれる」「学生への気遣いがある」「学外講師を招いた」「法律内容も知識でなく実例からの説明に興味がわく」等のコメントがあった。
③今後も学生の期待に応えられる授業をめざす。

共通教育 共通
武山　卓史　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	税金と社会
授業コード	13C07-001
教員名	武山　卓史
教員コード	104455
登録人数	128
回答数	51
回答率	39.8%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



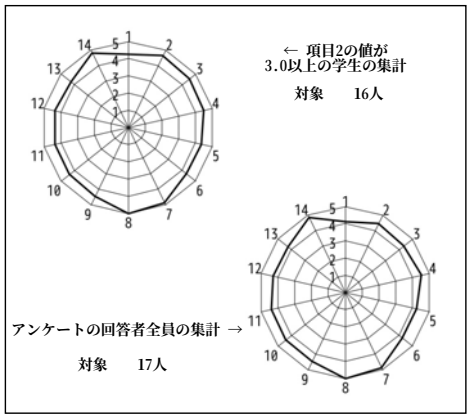
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
・毎回さまざまな税理士が担当し、自身が税理士を志した理由や経歴についても話すことで、税理士という職業の使命・業務内容を理解するという目標については達成したと思う。
・一般的に固くて難しいと言われる税金の話を全学部対象になるべくわかりやすく伝えることが出来るようにスライドや体験談を交えて話すことで、日本の税制のしくみや意義、役割を理解するという目標もある程度は達成したのではと思う。
② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
・設問７・８の教員の講義に対する姿勢や授業の進め方についての評価が高かったことは良かったと思う。これに対し設問２や５の授業に対する学生の姿勢や理解度についての評価が低かった点については次回以降改善していきたいと思う。
③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負・方針など。
・毎回講師が変わるということで、講義によって内容や時間配分にバラつきがあった点は否めなかったため、次回以降は事前に内容をすり合わせることが必要であると思った。
・パワーポイントのグラフ等の数字が細かくて見えないという声が多く聞こえたので、グラフ等数字の入った資料については紙等で配布したほうがいいと思った。
・空調が寒いという声は講義中も確かに多く聞かれたので毎回空調の調節等、学生の学ぶ環境についての配慮をしていきたい。

共通教育 共通
成瀬　翔　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ことばとは2
授業コード	13E02-002
教員名	成瀬　翔
教員コード	103262
登録人数	56
回答数	17
回答率	30.4%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

シラバスには以下の2点を目標として設定しました。

1．19世紀末から現代にいたる哲学者たちが議論してきた言語についての哲学的議論の内容を理解することができる。
2．人間の言語活動の多様性に対する興味関心を深めることができる。

授業を通じて、これらの目標はおおむね達成できたと考えております。

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

いずれのアンケート結果を踏まえると、ほぼ当初の計画通りの円滑な授業運営ができたのではないかと考えております。

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

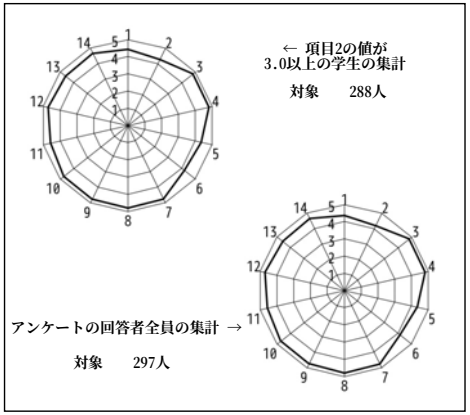
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来学期に向けて、より学生の主体的な学びが得られる授業運営を行っていきたいと考えております。

共通教育 共通
井上　寛雄　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報社会の構造1
授業コード	13E06-001
教員名	井上　寛雄
教員コード	102683
登録人数	798
回答数	297
回答率	37.2%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



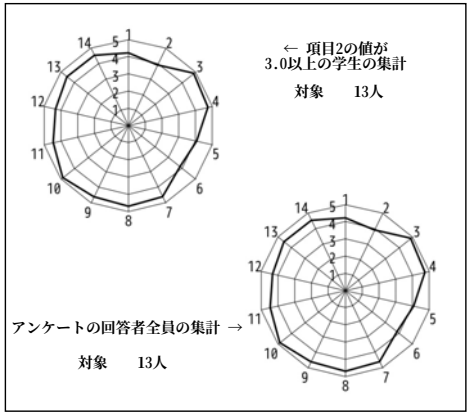
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生が多かったことから、直前でのオンライン講義への変更があったが、先の経験のおかげで、講義の進行やスライドの作成を円滑に進めることができた。受講生が多いなか、zoomを通してのやりとりの方が学生とのコミュニケーションが取りやすかったように思う。システム上のトラブルもなく、おおむね順調に進めることができたが、若干の通信障害や音量調節に問題があったとの報告がこの評価アンケートであったので、講義の最中に確認を取るようにしたい。総じて学生からの講義の満足度は高く、内容や進め方についての不満はなかったのであるが、到達目標の達成や理解度といった肝心な項目での評価が伸び悩んだ。これについて、毎回学生からの質問や感想をレポートで受けつけ、それに答えていたのだが、レポートに対するこちらからの評価というものをあまりしていなかったので、学生自身に具体的な達成感を産むことができなかったと考えられる。質問や感想だけでなく、こちらから具体的な設問を提示し、それに答えられているという経験を増やす必要がある。来年度以降も、オンラインのメリットを引き継ぎ、対面講義の新たな方法を試していきたい。

共通教育 共通
大野　波矢登　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	科学の諸相2
授業コード	13E08-002
教員名	大野　波矢登
教員コード	100625
登録人数	47
回答数	13
回答率	27.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



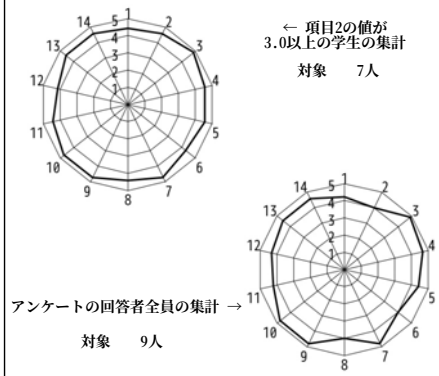
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業の目標は、西欧科学革命期の世界観・人間観、科学と宗教の関係、科学知識と科学者の活動の特徴、科学技術が社会に及ぼす影響等を知り、近代科学の成立とその思想的背景について理解を深めることであった。目標達成度は、2回の小テストおよび定期試験の合計の平均が80.6点であったことから、80%程度であると思われる。
②アンケート結果については、項目番号1、2、5、6、12の設問の値が学際科目の平均値と比較して低く、いくつかの部分で改善が必要であることが分かる。特に、設問2が3.92、設問6が3.85となっており、予習や復習を含めた主体的な学習を促すための指示、授業の到達目標に向けて力がついてきているかを学生自らが確認する方法の工夫といった点で、今後改善すべき点があることが分かる。
③今後の改善点として次のことを実行していこうと考えている。第一に、予習として行うべきことをより具体的に指示すること。予め読んでおくべき資料を配布し、その要点をノート等にまとめるよう指示する。第二に、毎授業回、授業内容に関する簡単なクイズを出題し、その解答をリアクションペーパーに書いて提出してもらうこと。そして、学生の解答を確認し、理解度等について次回の授業時に学生に伝える。

共通教育 共通
成田　朱美　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　博物館学B
授業コード　15M02-001
教員名　成田　朱美
教員コード　104648
登録人数　27
回答数　9
回答率　33.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



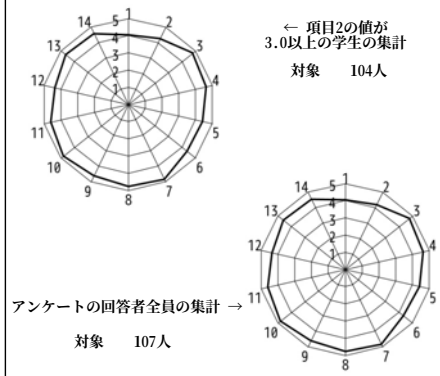
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標は概ね達したと言える。授業に無欠席で参加していた者と欠席の多かったものとの理解度の差が大きく、有意義に授業を遂行できていたとの実感を得た。ただし、コロナ禍で欠席が多くとも不可とできないことから、理解度が低い者に単位を与えていいものか、学芸員資格を与えるという単位を担っている授業で、このまま送り出していいものか葛藤があった。授業に出ていないものにも配布資料だけで充分理解ができるものとすべきなのか。そうではない気がしており、③にも関わることだが、次回の進め方を考え直すべきか悩んでいる。
②凡そ好評をいただけたが、授業内容に必要ではあるが詰め込みすぎて、早口になってしまったコマもあり、改善が必要と感じた。また、具体例が多く良かったという意見もあったが、それでも教科書通りな側面も多分にあり、現場の状況をさらに取り入れたいと感じた。
③コメントシートを取り入れて欲しいという意見があり、コロナ禍であること。人数が多く、コミュニケーションがとりづらいということを踏まえると、導入を検討している。

共通教育 共通
青木　文美　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　児童サービス論
授業コード　15P09-001
教員名　青木　文美
教員コード　104273
登録人数　142
回答数　107
回答率　75.4%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



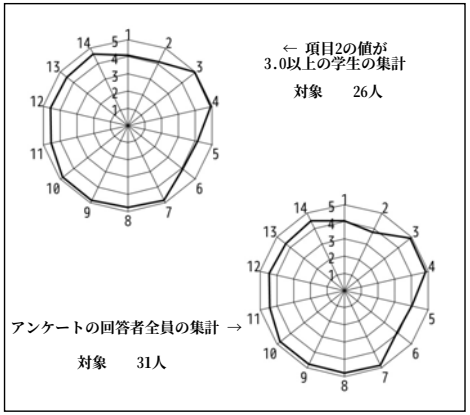
授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナ禍での対面授業であり、また、受講者が100名を超えたこともあり、当初予定していた演習をすべて実施することができなかった。しかしながら、当初設定していた授業目標に向けた授業を構成し、一定程度の到達を見ることができたと考えている。授業内容や進め方、方法については、好意的に受け止めている学生や懐疑的に受け止めている学生がいることが分かった。児童サービスは、子どもを対象としているため、講義と演習とを組み合わせつつ、体験的に試行錯誤しながら「児童サービス」の意図をつかんでほしいというねらいを持っている。コロナ禍での演習は、非常に気を使うことではあったが、オンラインで実施することの難しさや学びの皮相性を前年度に経験したため、できる限りの感染防止対策のもとで、子どもが体感的に学ぶ感覚を受講者も感じられるように構成した。結果的に、授業担当者が経験したことや、考えていることを積極的に授業に取り入れた授業をしたため、教科書の位置づけが不明確と感じた受講者がいた。また、図書館への課題図書の依頼が完了していないことを受講者からの指摘で分かった。上記２点は、次年度に向けた改善点とし、テキストに関しては、授業内容との対照表以外に、各授業でテキスト内容を実践的に考えた場合の解説をしていると伝えること、図書館への課題図書の依頼方法を開講前に再度確認すること、で改善したいと考えた。

共通教育 共通
吉田　文　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	典礼音楽II
授業コード	21C81-001
教員名	吉田　文
教員コード	102447
登録人数	52
回答数	31
回答率	59.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①
設問１と２に関しては、履修登録の動機として内容への興味は低く、授業も受動的に受けたと感じている学生の割合が多いと解釈する。設問５と６ではやや低めの平均値の結果が出たが、設問13、14に於いては比較的良い結果となっていることから考察すると、学生による評価の結果は、おおむね授業に対して肯定的なものであると思われる。
授業ごとに行っている振り返り用紙の記入事項からも、学生の授業への理解度と経験値は深まっている。内容自体がこれまで大半の学生が接したことのない分野についてであるため、学生本人の学びに対する自覚が感じられないのかも知れない。今後、毎回の授業でリアクションペーパーへの肯定的な声がけをするなどして、学生の自信へともつなげていきたい。

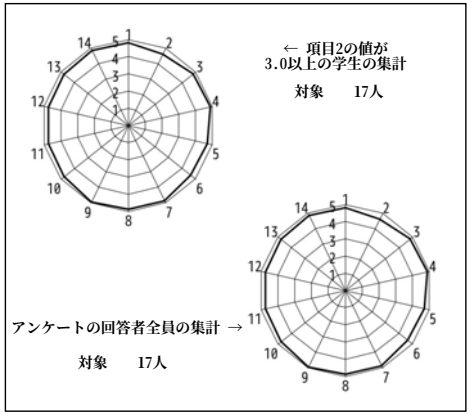
②
評価の中で比較的値の低い２の項目に関しては、シラバスに記載されているように、常に講義の内容は各自で予習復習し、また演習する作品とその他の作品も積極的に親しむようにすることとしている。特に決まった予習・復習の課題は与えていないが、個々の専門性や興味へとつながる事項について考察や研究をするように声がけはしている。今後は授業内でもさらに意識的に積極性を促していきたい。

③
今後グレゴリオ聖歌の歌唱演習が再度可能になってきた場合に講義内容を再構築することとなるが、これまでの講義形式のみの授業内容を踏まえた上で、学生の最善の利益を考慮し進めていきたい。

共通教育 韓国朝鮮語
李　芝賢　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語II＜全・T＞
授業コード	11G02-007
教員名	李　芝賢
教員コード	104621
登録人数	28
回答数	17
回答率	60.7%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



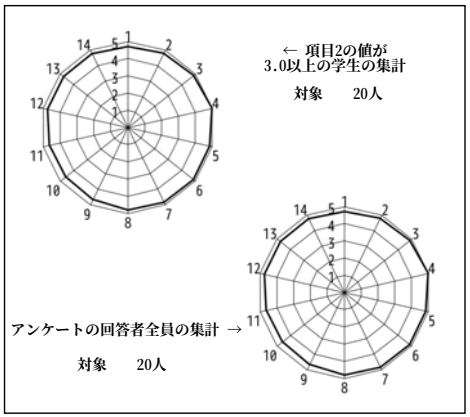
授業評価結果を踏まえた点検・評価

小テスト等が多く、慌ただしい授業運用ではあったが、受講者の頑張りもあり、ほとんどの受講者は当初の目標 1と2は達成できたと判断される。
3についてはカリキュラムの最後のほうに導入されたこともあり、もう少し練習が必要かと思われる。当授業はテキストの未習部分については継続講義が行われないが、せっかく購入したわけだから、各自自主的に学習に励んでほしいところである。なお、4については、個人の興味に比例して達成度にばらつきがみられた。
アンケート結果のチャートにおいては特に落ち込んだ部分がなく、外枠に近い形が表示されており、バランスが取れた運用ができたようである。ただ、初めてのカリキュラムで、運用中に思わぬことに出くわすことが多々あった。今期の経験を糧により効率的な授業運用に向けて精進したい。

共通教育 韓国朝鮮語
白　明学　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国朝鮮語II＜E・B＞2
授業コード 11G02-008
教員名　白　明学
教員コード 103287
登録人数　32
回答数　20
回答率　62.5%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度第2クォーターの授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初の授業の時にQ2の目標値をきっちり示し，設定したスケジュールに合わせ，初級会話に必須の名詞述語文、動詞文、形容詞文の作り方および助詞の使い方をマスターした。授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.78で、学生の満足度も高いと言える。

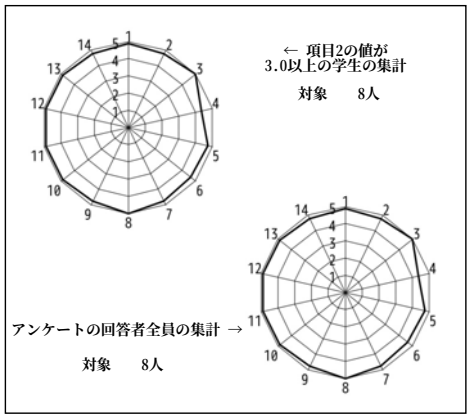
Q2はQ1同様，学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないかと思われる。また，これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し，繰り返し，声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ，語学の学習にリピートは必須だと思う。自由記述で「例文が流れてきて時間内に読むのが自然な早さで読む練習になってよかった」「一つ一つ丁寧に説明して下さったので，わかりやすかった」等と評価を得たところは，素直に嬉しかった。

ただし，一部の学生にとっては進度が少しはやかったようなので，そういった学生をケアできるツートラック・アプローチを工夫していかなければならない。来学期の課題である。

共通教育 韓国朝鮮語
金　由那　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　韓国・朝鮮の言語と文化IV
授業コード 35C29-001
教員名　金　由那
教員コード 101171
登録人数　24
回答数　8
回答率　33.3%
休講回数　0　回
補講回数　0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

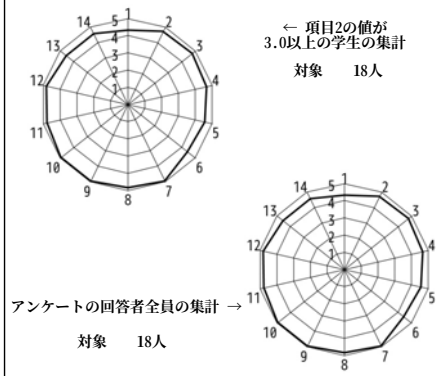
その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「韓国語に興味関心が深まりました。」など楽しく学べるように工夫して授業を行ったことがいい評価を得たと思う。

改善点としては、アンケートのアナウンスをしたにもかかわらず参加率が少なかったので、次回からは授業中にアンケートを実施するように工夫が必要だと思う。又、進むのが早いなどのコメントがあった。次学期以降の授業でも、今学期の授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

教職センター 教職センター
上野　裕章　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　国語科指導法B
授業コード　15B54-001
教員名　上野　裕章
教員コード　103859
登録人数　31
回答数　18
回答率　58.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



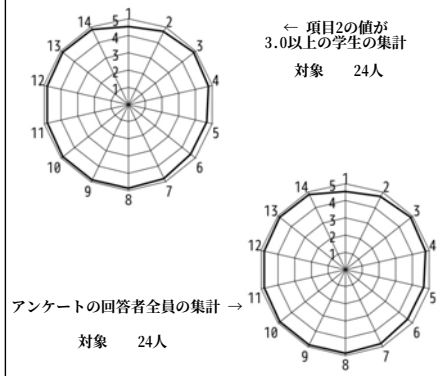
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講座の目標と到達度について次のように設定した。「１　高等学校学習指導要領の内容を踏まえ、具体的な授業場面を想定した学習指導案を
　作成することができる」「２　模擬授業とその相互評価を通して、授業の工夫改善を行い、授業設計の向上に取り組むことができる」
②項目１から14の平均が4.71、３から24の平均が4.74であった。最も高い評価は、「７授業に取り組む誠実さ・真剣さ」・「9理解度に拝領した
　授業進行」・「妨げに対する適切な対処」の4.97であった。最も低い評価は、「6力がついてきていると思うか」の4.44であった。受講生31名
　全員が１人20分の模擬授業を行い、授業者以外の学生がその授業を評価する相互評価と、担当教員による評価を授業の中で行った。模擬授業の
　実施と評価により、手ごたえを感じる学生と逆に自信を失う学生がいた。自由記述には模擬授業について良かった点として「他の人からの評
　価が見られたこと」、「どこが良かったのか（先生が）伝えてくれたこと」、「教員からフィードバックがあって、反省点が見えてくること」
　とあった。受講生全員が、模擬事業をやり自信がついた、と思えるような授業をしていきたい。
③「国語科指導法C・D」は中学校課程の内容になる。学生が「分かりやすい授業」を自信をもって行うことができるよう配慮していきたい。

教職センター 教職センター
浅野　享三　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語科指導法D1
授業コード　15B60-001
教員名　浅野　享三
教員コード　070912
登録人数　26
回答数　24
回答率　92.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



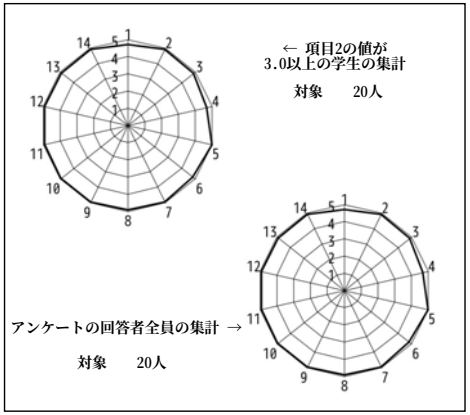
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達度の程度について、概ね達成できたと考えている。この授業評価のみならず、最終レポートからもそのように判断して差し支えない。
②数値データは、これまでに記憶がないほどの高さを示している。そのことは、対象24名中、20名が肯定的な自由記述をしたことからも証明できる。しかしここから浮かぶ疑問は、なぜそれほどに「高い」評価につながったのか、である。本授業自体は過去数年にわたり継続して担当しているものであり、今年からの新たな取り組みではない。その理由解明のヒントとして浮かぶのが、複数学生が繰り返し自由記述に書いている次のようなキーフレーズである。「ペアワークやグループワーク」「フィードバックやコメント」「発表の機会」「考える機会」などである。ここから類推できるのは、今回の学生らは、教員による解説だけの「一方的な」授業を好まず、自分たちがより参加できるような仕掛けー ペアワークやグループワーク ーを評価し、さらに自分たちの行動に対する「振り返り」は教員と学生の両方から求めていることが分かる。かつ知識の押しつけより、考えさせる時間を意識したことも要因かもしれないが、現時点では証明できない。
③以上を踏まえて、第3クオータでは、可能な限り本授業と同じことを継続しつつ、新たな学生がどのような評価を下すのか、今回だけのことなのかどうか、さらに点検したいと思う。

外国語教育センター 外国語教育センター
岩城　奈巳　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]2
授業コード	11A02-009
教員名	岩城　奈巳
教員コード	049601
登録人数	26
回答数	20
回答率	76.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



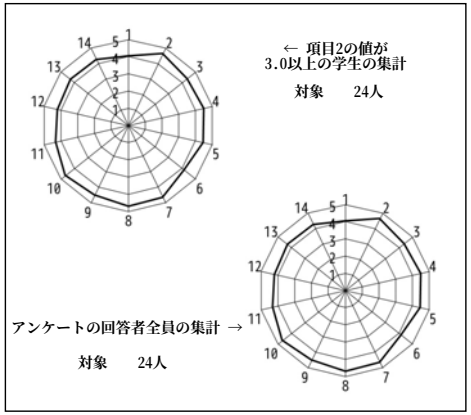
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1冊の教科書を柱に、サプリメントとして発音・リスニング教材、TOEIC問題集を取り入れ講義を実施した。教科書に沿ったテーマを基に、授業内での目標、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の高い満足度として現れたと感じる。授業中は、複数名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。学生からの自由記述でも「ペアワークの時間が十分とられており、自分達で考え話し合うことができた」、「TOEIC対策、みんなに考えさせる時間を設けてくれるのが良い」などグループで相談しながら問題に取り組みことが多くあげられていた。その他、発音・リスニングのサプリメント教材に関しても、「英会話力、リスニング力がついた」、「色々な会話表現を学ぶことができたのでネイティブの人と話す時に役にたつと感じた」、などがあり、プラスの教材も思った以上に学生から高評価であった。Q3、4でもしっかりと学生の興味、やる気を引き出しながら授業を実施していきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
HERSCHLER, Brian　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]4
授業コード	11A02-011
教員名	HERSCHLER, Brian
教員コード	100552
登録人数	25
回答数	24
回答率	96.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



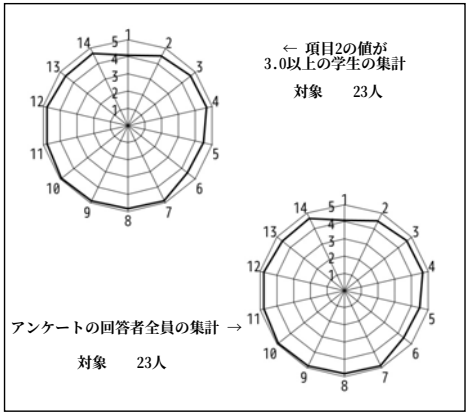
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class was a success. I gave oral assessments every week, and students saw benefit in this. Many students made comments and all comments were positive. They were happy with the class and in each lesson they showed enthusiasm and they largely spoke English as required. It's a very cohesive group and I expect their progress will continue into the third and fourth quarters.

外国語教育センター 外国語教育センター
佐藤　ゆかり　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]10
授業コード	11A02-017
教員名	佐藤　ゆかり
教員コード	047605
登録人数	27
回答数	23
回答率	85.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



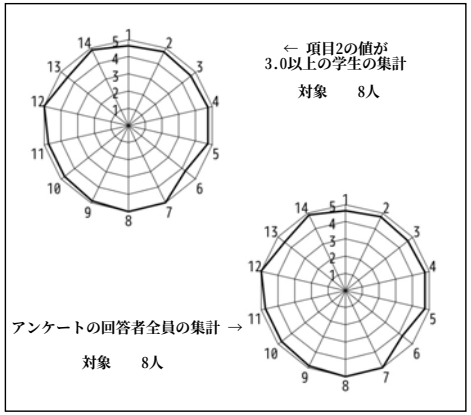
授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナの中、ようやくフルに対面授業ができた年で、それでもあれこれコミュニケーションクラスとしては、制限のある中で、基本的に学生たちの満足度が高かったことに安堵している。とくに、「友だちとたくさん英語でコミュニケーションできたことが楽しかった」と記述コメントしている学生の多さがうれしかった。飽きないように目先を変え、手法、トピックをかえ毎週工夫したことが実った。あとは、常に、習ったことを、その日習っただけで終わらせずに、次の授業で使うと言うことをいつも心がけ、それが、スキルアップやスキルアップの実感につながったと思う。温かい雰囲気を大事にしながら、次のクオーターは、いよいよ、プレゼンテーションスキルを磨きつつ、より社会性の高いトピックで、大学生らしい、年齢相応のトピックで英語を使う、自己表現することにトライさせて行きたい。コロナ対策の環境つくりには引き続き、細心の注意を払ってクラス運営をしていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
MILLER, Adam Lee　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G]2
授業コード	11A02-033
教員名	MILLER, Adam Lee
教員コード	104449
登録人数	24
回答数	8
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



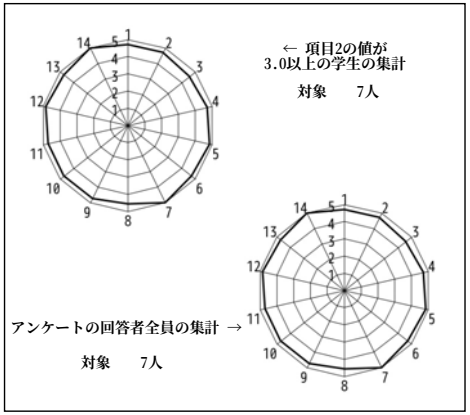
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2 went very well, in large part due to the enthusiasm of the students, who tackled all of the activities very well. Due to COVID restrictions, they could not move around the class freely, and were asked to stay in groups/pairs. This narrowed the opportunity to discuss topics and share ideas; although done out of necessity, it will obviously improve the class once students are given the opportunity to share their thoughts with a larger group of their peers.
The textbook raises some interesting topics, but it seems heavily reliant on reading; I could not really decide if it was better to read the text together as a class (which would improve clarity) or ask the students to read the text in their free time (which would open up more teaching time); I tried both methods and the students were not enamoured with either. I also tried audio and video recordings of me reading these texts, but again, I was not sure how effective this method was. Figuring out how to make these sections more engaging would help further improve the course.

外国語教育センター 外国語教育センター
高野　洋子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G]7
授業コード	11A02-038
教員名	高野　洋子
教員コード	104147
登録人数	19
回答数	7
回答率	36.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



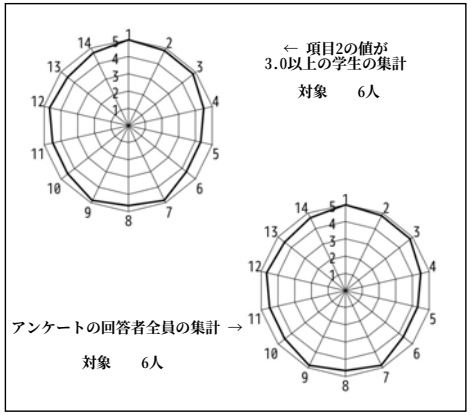
授業評価結果を踏まえた点検・評価

１．開講当初に設定していた目標は南山大学に入学して２か月経過したQ2に教科書、資料を通じて得た知識に加えて自身の見解を英語でクラスメイトに伝えることに対して躊躇せず、自信をもって遂行する力をつけることでした。この目標達成のために日本人が英語を使用する際に前もって身に着けておくとよいと想定される会話のストラテジーや困ったときに問題解決できるように伝達の具体例を指導した。この結果、生徒は批判的思考をした結果を英語で伝える際に積極的に習得したストラテジーを使用することができるようになった。数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検については、予想していた部分と意外な部分があり、生徒に寄り添い、授業中に沢山質問を受けた際に、丁寧に答えた結果であるように思う。しかしながら、意思疎通において完璧な場合とそうでない場合があったかもしれないので、結果として評価されなかった点もあると自己点検をした。次クォーター・学期以降に向けての改善点については、質問をより丁寧に聞き、回答したいので生徒の反応を観察し、WEBCLASSを通じてアンケートをとり、生徒の希望などを綿密に知る必要があると思う。そのため、個人面談を今回も行い、直面している困難なことなどを解決する方法をアドバイスしていこうと思う。今後の抱負については講義内容をいち早く理解できる生徒への対応と繰り返し伝えて理解してもらう必要のある生徒への対応を今まで以上に注意することである。そのための」方針は英語対話中、生徒の、学習進捗状況を鑑みて、各生徒に合わせた指導をすることである。

外国語教育センター 外国語教育センター
木下　薫　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G]8
授業コード	11A02-039
教員名	木下　薫
教員コード	104328
登録人数	22
回答数	6
回答率	27.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)
Oral proficiency required at CEFR B1-B2 level: Students presented clear, detailed descriptions of a wide range of subjects related to their field of interest.
Critical exploration and analysis of thought-provoking content: Students engaged in group and class discussions sharing summaries, opinions, and critiques of class materials.
Expressing views coherently, rationally, and with appropriate discourse: Students practiced reporting their thoughts in a focused and structured manner.
Reporting considered opinions and perspectives on various issues: Students learned to speak open-mindedly and listen to their colleagues non-judgmentally.
Guided preparation for TOEFL or IELTS test-taking: Students exposed themselves to lessons on test-taking skills.

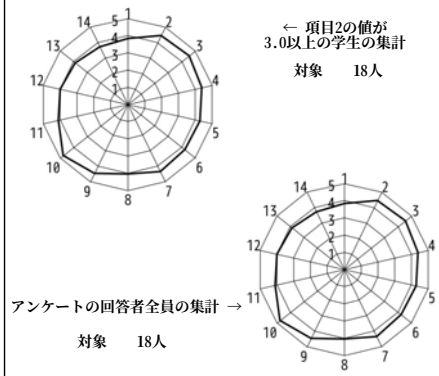
(2) Generally, the class content, delivery, and engagement were effective for students learning. Students commented positively on class materials, activities, and the instructor's attention to individual students.

(3) In the future, I will explore how I could promote a healthier and more positive classroom by reminding students of time management and disciplined study habits.

外国語教育センター 外国語教育センター
松岡　光治　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[B]4
授業コード　11A06-011
教員名　松岡　光治
教員コード　044636
登録人数　23
回答数　18
回答率　78.3%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



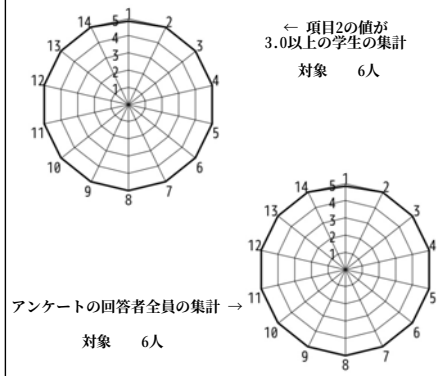
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業は週2回で、リーディングはTOEFL問題と各国の奇妙な法律に関するエッセイを精読し、ライティングは英文法、英作文、パラグラフ・ライティングに基づく英語エッセイを教えた。この授業では速読と精読のバランスをとるように努め、基礎的な文法や単語の覚え方も指導したが、自由回答では「英単語を細かく教えてくれる」、「補足説明がわかりやすい」、「本当の英語に触れられる」など好意的なものが多かった。ただし、アンケートの結果は、設問1，13，14 が4を切っていた。設問1に関しては来年度のシラバス執筆時に工夫したい。設問13と14は連動しているが、自由回答にもあったように「難易度が高め」で「予習や課題の量が多い」のが関係していると思う。ただし、英語力が伸びるのは予習時に考えている時と授業での解説で理解できた時であり、楽しいだけで時間が過ぎる授業では学生のためにならない。とはいえ、リーディングの各国の奇妙な法律などは日本のそれと対し、もっと知的な雑学を紹介しておれば、もっと興味を持たせることができたであろう。これは反省材料であり、後期はその点を注意して、さらに工夫を施しながら授業を進めていきたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
BONDOC, Jeffree　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名　英語IIリテラシー[B]6
授業コード　11A06-013
教員名　BONDOC, Jeffree
教員コード　103469
登録人数　23
回答数　6
回答率　26.1%
休講回数　0 回
補講回数　0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This term went very well. Most of the goals set out were achieved.

For writing. Most of the goals were achieved. The students could write an email properly. All of the elements are present in a email. Students understand the composition of paragraphs and short essay. The students understand topic sentences and supporting sentences. Further, they understand the differences between a paragraph and short essay. Also, students are able to understand the format of written works when submitting their assignments.

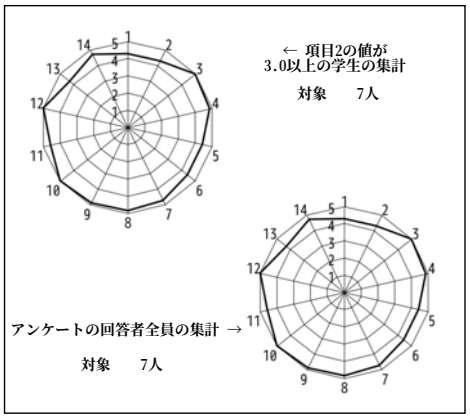
For reading. Many of the goals were achieved. Students were able to study a large number of vocabulary involving a variety of topics. Students could practice a number of reading techniques. However, the class reader that was assigned was a little too difficult for the students. This lead to students feeling discouraged to do the comprehension questions after the readings. To fix this, I need to lower the difficulty of the comprehension questions after the readings. Furthermore, I will give the students more time to finish the assignments.

As for the students attitudes, I have developed a very good rapport with the students. The students enjoy the class and have a good attitude towards the classes and myself.

外国語教育センター 外国語教育センター
MOORE, Douglas　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[B]8
授業コード	11A06-015
教員名	MOORE, Douglas
教員コード	100954
登録人数	23
回答数	7
回答率	30.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



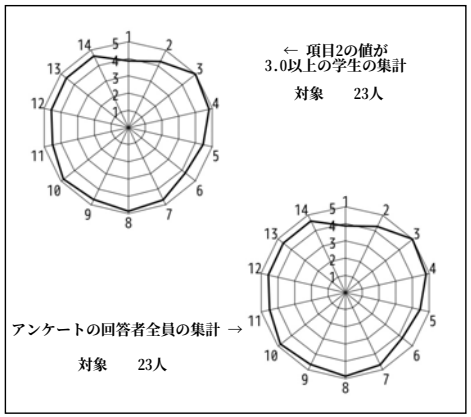
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This has been the first year in a while where all classes were taught in class, live with the majority of students, though a few did take classes online for a variety of reasons for a limited time. No students had university permission to take the entire semester online. This made for a smoother experience, and more opportunities for one to one contact with the students. While using the same reading text as last semester, the writing content was lightly different, focusing on short paragraph/essay writing, where students used their own ideas and experiences to discuss their own topics with fairly rigid types of essays being explored, for example argumentative. Overall the course content went well this last quarter.

外国語教育センター 外国語教育センター
橋爪　真理　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[B]10
授業コード	11A06-017
教員名	橋爪　真理
教員コード	104272
登録人数	24
回答数	23
回答率	95.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



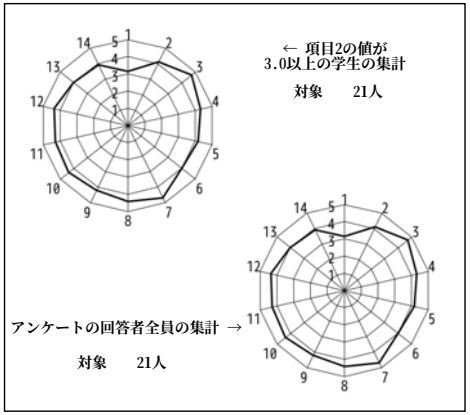
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2はQ1に引き続き、paragraph reading およびparagraph writingの基本を理解することを目標に定め、授業展開をした。Readingでは、paragraphの構成に注目しreading skillを一つ一つ紹介し、skillを意識しながら読み進める活動を行ったが、「正しい英語の使い方が学べた」、「英文を読むときポイントを明確に教えてくださったのでわかりやすかった。」というような感想があり、当初の目標はおおむね達成できた。Writingではparagraph writingの基礎を学ぶことを目標とし、academicな文章を書く技術をQ1から小さな課題をこなしながら理解を深めたが、「アカデミックな書き方を学べてよかった」、「英文のパラグラフや接続詞など、様々な書き方について深く学べてよかった」という感想があり、想定した目標には90%の学生が到達できた。協同学習を授業活動にできるだけ取り入れたかったが、パンデミックの影響で十分実践していくことが困難ではあったが、生徒間での交流に工夫したことで、生徒たちの理解も深まり楽しく受講したという感想があった。できるだけ個別に指導する時間を工夫したことも効果があった。Q3,Q4ではこれまでの基礎知識を生かし、学生が自らparagraphを意識したreading,writing を実践できるよう授業展開を行っていく。

外国語教育センター 外国語教育センター
平出　優子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[B]11
授業コード	11A06-018
教員名	平出　優子
教員コード	102521
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

English II: LiteracyはReading とWritingで構成される。Readingでは、幅広くVocabularyを学ぶ、多読活動を行う、新しいReading Strategyを使えるようになる、の3点を目標に授業を行った。授業内に行うReading Strategyの習得については、多くの学生は積極的に学ぼうとしていたが、自主的に学習するvocabularyと多読活動については全く取り組まなかった学生がいた為、特定の学生の学習意欲の低さに驚く結果となった。この授業はレポート課題での評価であるが、提出された課題から複数の学生が他の学生の課題を複写したことも判明し、非常に残念に思うと共にこのような行いを繰り返さないよう指導する必要性を痛切に感じている。

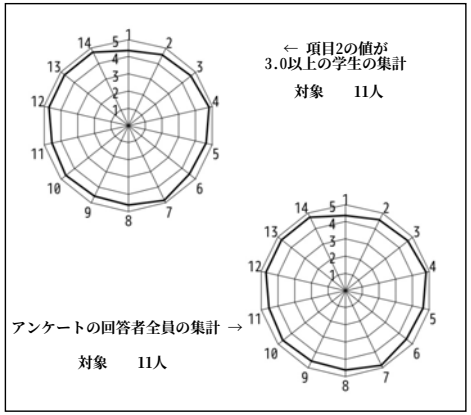
Writingにおいては基本的Essayの書き方についてトピックを変えて繰り返し取り組んだ。また、パラグラフの構造についても紹介し、それを各自のWritingに取り入れられるよう指導した。しかし一部の学生は、講義内容を理解しようとせず、提出されたWritingも目標に届いていないものが多々見られた。授業はオンラインで行った為、学習態度への指導には限界があった。

クラスの3割程度の学生の学習に対するモチベーションが非常に低く、学習態度に問題があると言わざるを得ない。Q3では今一度Literacyの授業の必要性を説き、忍耐強く少しでも設定目標に近づけるよう努めようと思う。

外国語教育センター 外国語教育センター
島　禎子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[B]12
授業コード	11A06-019
教員名	島　禎子
教員コード	045559
登録人数	22
回答数	11
回答率	50.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



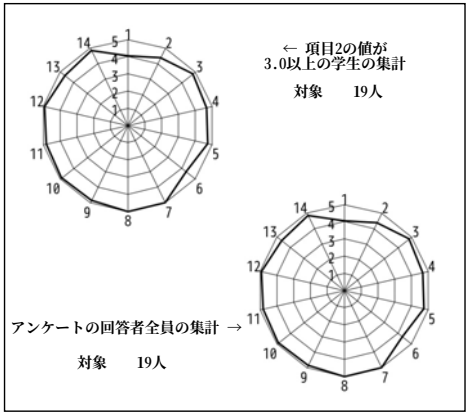
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Literacyの授業目標は概ね達成され、特に授業の構成や進行速度については80%を超える学生が「はい」と答えていることから、内容、進度が適切であったと思われ、ひとまずほっとしている。というのも、英語が苦手で最初から授業に消極的な学生が多い中、もしこれではついていけないという印象を与えることは、即、最初の大切な足掛かりを失うことに繋がりかねない。今後改善する点としては、如何に到達目標に向けて力がついてきていることを学生一人一人に実感させ、やる気に結び付けていくかだ。いったん消えた炎に再び火をともすのは容易ではない。学生に寄り添い、どんな小さな進歩も見逃すことなく積極的にほめ、「…は基準に達していない」等の表現を改め、「ここをこうしたらもっと良くなる」等の積極的なアドバイスに変えていくことが、学生のやる気を引き出す事につながるだろうか？Q3以降、writingのコメントを書く際に早速試してみようと思っている。「引き出す」というまさに教育の初心を忘れずに、これからもよりよい授業づくりに努めていきたい。
最後は学生からのコメントで締めくくりたい:「余裕をもって課題や問題を解くのを進められてよかった」「教室の雰囲気が変にピリピリしていないところ」「意見交流できる」「学生のレベルに合わせて、授業を薦めてくれたので内容がわかりやすく困ることはなかった」

外国語教育センター 外国語教育センター
水野　眞紀　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]3
授業コード	11A06-034
教員名	水野　眞紀
教員コード	101981
登録人数	23
回答数	19
回答率	82.6%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



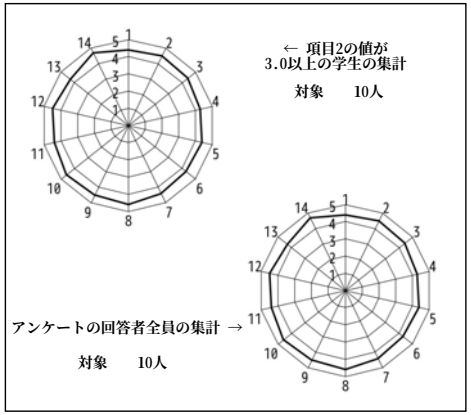
授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標は概ね達成できた。リーディングとライティングを同一テーマでコンテントと言語を指導できた。リーディングでインプットした内容と語彙・表現でフリーライティング、ドラフト、ファイナルとプロセスライティングを経て、様々な構成でエッセイを書けるようになった。教員やクラスメートのフィードバックから、コミュニケーション手段として書けるようになった。
② 数値データから当初は履修内容に興味を持てなかったが、次第に理解し、積極的に取り組めたことがうかがえる。主体的に授業に参加し理解しようとした項目と標到達に向けて力がついたかとの問いの数値が他と比べて低いのは、ライティング課題が多い中、自分の意見をまだ十分に英語で表現できないことに原因があると考えられる。自由記述には、自分では気づいていない間違った点を気づくことができ、様々な表現を学び、書き方が身についてより良いエッセイを書くことができるようになったとのコメントが多数みられる。引き続き一人一人に懇切丁寧な指導を心がけたい。
③ 依然としてリーディングとライティングの抱き合わせ授業を週2回で実施する負担は大きい。特に添削は時間と労力がかかり、学生に個別に対応でき高評価を得ているが、もっと効率的なフィードバックを実現することが大きな課題である。次期はtimed-writingや補助リーディング教材を使って各種英語テスト対策をする機会も増やしたい。

外国語教育センター 外国語教育センター
石田　理可　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]4
授業コード	11A06-035
教員名	石田　理可
教員コード	104495
登録人数	25
回答数	10
回答率	40.0%
休講回数	0　回
補講回数	0　回



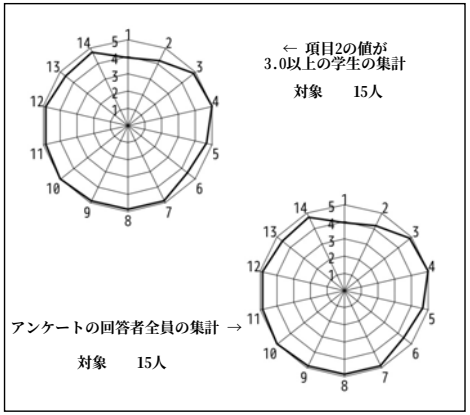
授業評価結果を踏まえた点検・評価

エッセイを書くという目標に向かって進めてきたが、テキストは日本人学生のためのものでなく。世界各地の英語学習者むけであったため、学生にとっては今まで考えてもみなかったトピックが多かったようだ。ゆえに、トピックによっては「自分一人では何を書いていいのかわからない。」、「意見もアイデアもさっぱり浮かばない。」、「文字がうまらない」という学生が見うけられた。これではとうてい最終目標まであまりにもゴールが遠すぎると思い、「英語はコミュニケーションをとるためのツールである。」といいうことを最大限にいかし、クラスでディスカッションの機会を多くもうけた。また、同じ環境で育った者達だけでは視野が限られているかもしれないと映画を使用して今まで興味をもったことのなかったかもしれない事柄や登場人物の言動、そしてその世界観を味わってもらった。結果、国際教養部にふさわしく日本国内だけでなく、世界への興味や考え、知識がより深くなり、それらに対する意見や考えをお互いに話し合い交換することによって今まで目を向けなかった事柄にも積極的に接するようになってくれたと思う。それらを自分なりに消化し自らの言葉、表現で書き表したものがエッセイとして作成できたのではないかと思う。
いろいろな材料を与えることによって、学生それぞれがお互いに刺激しあい、自発的に発言し行動するという積極的な、いい意味で日本人離れ化した人たちになりつつあるように思う。彼らの国際的な活躍が楽しみである。
次回も同じように楽しみながら学べる環境を与えられたらいいと思う。

外国語教育センター 外国語教育センター
LANDSBERRY, Lauren　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]11
授業コード	11A10-011
教員名	LANDSBERRY, Lauren
教員コード	103626
登録人数	24
回答数	15
回答率	62.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



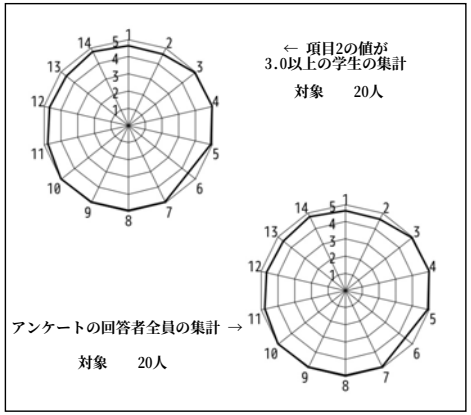
授業評価結果を踏まえた点検・評価

It is nice to be back in the classroom and return to some normalicy but it is still a little difficult as I don't encourage the students to move around. Under these circumstances we did our best to fulfill the goals of the course and I think the students did their best. I used a number of apps, such as Flipgrid for presentations online as we couldn’t do these in the classroom.
Reflecting on the comments, I am glad to see that the students seem to be enjoying the class and the atmosphere as well as having a break from their regular studies. I am not sure what to do about the student who says it is like "junior highschool level and it isn't study for them". I think creating an atmosphere where they are comfortable speaking English is imperative and at times that may be a challenge when improving their level. This class is a good group with a positive attitude to studying and I look forward to their class in Q3 and Q4.

外国語教育センター 外国語教育センター
KENNY, Thomas　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]4
授業コード	11A10-018
教員名	KENNY, Thomas
教員コード	102984
登録人数	21
回答数	20
回答率	95.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Please allow me to comment on the timing of this evaluation. At the end of Q2 is a fine time to ask students to evaluate because after 15 weeks, students have a better picture of what the course is, who the teacher is, and how they should proceed. Students have been give time to build a rapport with the teacher, get familiar with the material and feel the comfort of interacting with classmates.

The end of Q1, on the other hand, is the worst. 1st yr students are still trying to fathom what they are doing -- there are many diff styles of class, methodologies, professors, campus buildings and Zoom URLs to visit. Asking students to evaluate a class after their first quarter is asking for trouble. They haven't had the time yet to come to a reasonable conclusion. I hope that Nanzan will end calling for teacher evaluations in Q1.

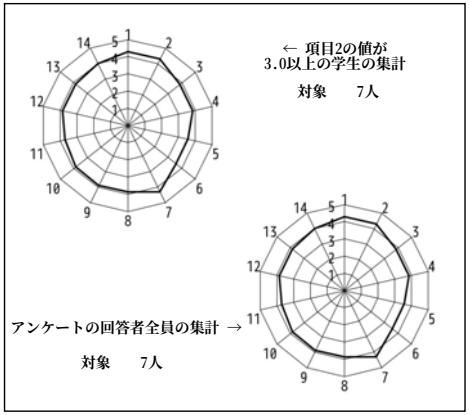
I am delighted by the data found in these evaluations. The students are clearly satisfied with the course.
However, I must bear in mind that My 20 respondents constitute a little less than half the total 47 respondents in our department, so the numbers are not deeply meaningful.

Furthermore, judging by the grades I gave to them, the course was a bit too easy for their level, so I will be adding extra activities to be sure that they are properly challenged in Q3 & Q4. I'll be pushing this group a little harder.

外国語教育センター 外国語教育センター
KHONDAKER, Taslima　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]9
授業コード	11A10-023
教員名	KHONDAKER, Taslima
教員コード	103598
登録人数	20
回答数	7
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



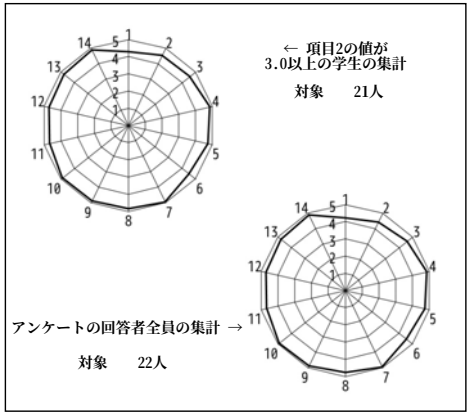
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend their reading proficiency. or improving the students skills in surveying, predicting, skimming, scanning, inferring, and making connections with the readings . As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.30 and 4.49 for the courses in the band of 11A01-001～111.16-999, the scores of this course were 4.29 and 4.29. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.72, 4.71, 4.54, 4.39, and 4.80 for all courses, the scores for this course were 3.86, 3.86, 3.57, 3.57, and 4.29. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.78, 4.73, 4.79, 4.59, and 4.65 for all courses, the scores of this course were 3.86, 3.86, 3.86, 3.71, and 3.86. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.58 and 4.63 for all courses, the scores of this course were 3.86 and 4.00.. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students gave a lot of good comments, which I find profoundly encouraging.

外国語教育センター 外国語教育センター
LANGER Daniel　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E]4
授業コード	11A10-028
教員名	LANGER Daniel
教員コード	101438
登録人数	24
回答数	22
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think we did a fairly good job of meeting the class objectives. I would like to have more reading done outside class, so I will probably assign more reading work in the fall. I am pleased with the number of activities provided by the speaking textbook, and feel that students have responded well to the structure and variety provided.

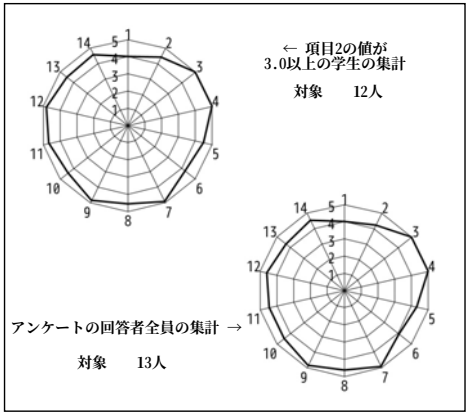
The evaluations were very positive in tone. There were a number of comments that indicated the students felt comfortable in class. I will try to maintain classroom harmony going into the next quarter.

In the future, I will probably try to use a similar lesson plan, with the inclusion of some stronger encouragement for after-class reading.

外国語教育センター 外国語教育センター
BRADFORD, Chris　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E]5
授業コード	11A10-029
教員名	BRADFORD, Chris
教員コード	104685
登録人数	24
回答数	13
回答率	54.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students were asked to complete some important goals of being able to expression opinions, use conversation strategies, and be able to speak for 3-7 minutes on a topic. Students were able to meet this goal easily with 4-5 minute conversations.

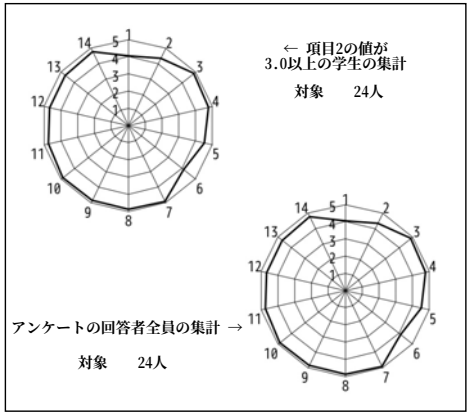
Other tasks were completing a presentation, understanding a writers tone and purpose, and identifying main ideas in a listening exercise. To accomplish these goals students were asked to present on the implied or stated purpose of graded readers as well as write on the meaning of songs that they listened to on lyrics training. This provided them with the ability to think deeper about what a writer or singer is trying to convey to the reader or listener and broaden their understanding of English through leaning meaning from context as opposed to translation. To further their understanding students were given ample time during class to discuss their reading and listening assignments and share what they had learned.

With the feedback received from in class surveys and this survey I will continue to provide students with time to communicate in class about the topics presented and further improve the materials and assignments given to students.

外国語教育センター 外国語教育センター
LANGLEY, Patrick　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J]6
授業コード	11A10-042
教員名	LANGLEY, Patrick
教員コード	104288
登録人数	24
回答数	24
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



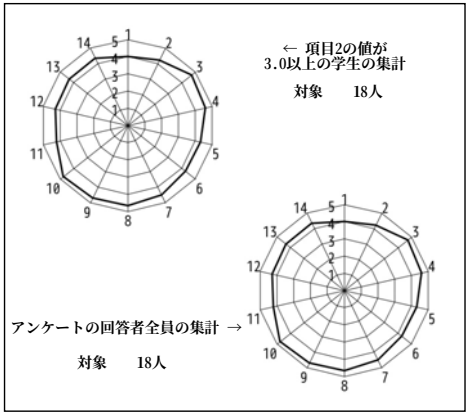
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think that the scores for this class are mostly above average. The students feedback was positive and I am happy with the style and methodology of this class. I think in the next two quarters I will focus on goal setting and ensure that the students clearly understand the goals of this class. Also, I will continue with the mixture of pair, small group and group work to help with their communicative ability.

外国語教育センター 外国語教育センター
PENDELL, Patrice　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリスニング＜全・T＞3
授業コード	11A26-016
教員名	PENDELL, Patrice
教員コード	104625
登録人数	21
回答数	18
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



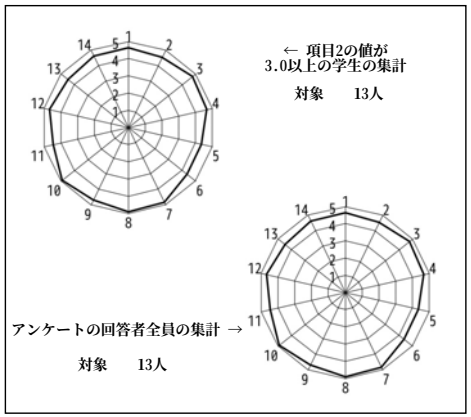
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) Goals
Students improved listening skills through the text book, conversation activities and homework. Text book (Academic Listening) was a listening, note-taking and summarizing activity. Typically the text book was for the Monday class, and on Thursday students had conversation/ listening prompts and scenarios (Conversation Tools) including pair or group rotations. Homework, mid-term and final all used short presentations from TED Talks (2-4 minutes with a variety of topics) focused on listening, note-taking and summarizing. These skills were new challenges and acquired skills as reported by students. Student responses were very positive.
2) Self Assessment
Response to class challenges were positive and goals achieved. Students were positive about their accomplishments. The class was fun and yet asked a lot of students. This was especially evident in improvements demonstrated by students to achieve goals in the homework assignments, mid-term and final: all of which followed the same format of listening, note-taking and summarizing. The conversation/ listening activity gave confidence, and adding skills in listening and communicating with peers. Additionally, this allowed communication for all students to meet classmates.
3) Improvements
Continue to provide a positive class culture, clear class plans and set high expectations.

外国語教育センター 外国語教育センター
加藤　普由子　先生

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語II翻訳＜全・T＞1
授業コード	14A06-001
教員名	加藤　普由子
教員コード	101654
登録人数	15
回答数	13
回答率	86.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

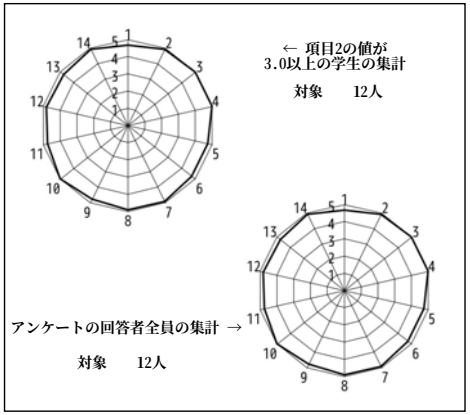


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数15名のうち回答者数は13名であり、9割弱の評価である。項目1—14の平均が4.64、項目3—14の平均が4.65であり、深刻な問題はなかったと理解している。大部分の学生が主体的に授業に参加し、理解しようと努力したと自己評価している。とはいえ、自身の姿勢を評価「３」とした学生については、他の項目についても「３」評価が目立ち、質問や相談の機会、事前・事後指導、知識獲得、授業への満足度も「３」評価であり不満が残ったようだ。コメントを残しておらず、具体的には不明である。その反対に、履修前の興味について「３」の評価をした学生が、他の項目については「４もしくは５」の評価を出しており、知識と運用能力の向上に少しでも役立っていれば幸いだ。『他の人と英訳について話すことができたこと』をよかった点として述べている。その他に『考えて書くようになった』『文法の確認と練習、語彙のニュアンスの違いへの気づき』『日英間の比較』に関するコメントが寄せられた。最後に今後への課題として、ペアの作り方やボードへの文字の大きさに注意したい。

2022年度Ｑ２　「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Contemporary Japan C2
授業コード	31C23-002
教員名	IWASKOW, Roman
教員コード	104145
登録人数	25
回答数	12
回答率	48.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the beginning of the course were to teach students in an interesting way using video and worksheets, aspects of their own culture which they have little or limited awareness of, with the set purpose to enable them to answer with confidence questions about Japan when studying abroad. The topics of Japanese culture covered were geography, especially regions and cities, food, drink, and other unique aspects such as festivals, hotsprings and Japanese traditional hotels. As an intensive syllabus covering many topics, it proved a challenging course for the students. Based on the evaluations submitted by the students, they completed the course with a greater awareness, knowledge and appreciation of their own culture.
The Covid epidemic continued to affect classes requiring me to still cater for individual students posting worksheets online while the rest attended class. The first week was disrupted by many Year 4 students being absent because of job hunting requirements. Considering the obstacles to holding the regular class, the students showed enthusiasm for the topics covered. In particular they appeared to enjoy the two poster presentations which gave them the opportunity to present topics they had to research.
I intend to continue the course in a similar format with some adjustments to the worksheets provided.